

- ¹ sšennaᵛ kijal / anu ka mqqidil kijal /
男 一人の 或る (結) 女 一人の
- ² mejah gupu hiṅi / mejah mueppah / ha-
来る ホーゴ社 此處 来る 鳥を作る、耕作する
- ³ batraᵛ laqqi na / haba:raᵛ kanna seediq /
多数 子(は) 彼等の 多数 すべての 人(は)

3. kari seedeq wada mugəruppai
事、話 人(の) 既に 猿になる

- ⁴ mussa kumueppah mubašer:ruh / se:
行く 耕作(に) 怠惰 挿
- ⁵ deqqi pušsu puṅu tsakkul pa:leh / kiḍa
入する 根元(に) 尾(の) 把手(を) 鎌(の) 其様に
- ⁶ puṅu / maha ku mugəruppai / wada
尾 いざ行 私 猿になる 既に
- ⁷ mdakkil kahuni muekkaṅ ku he:ḍi qahu:
登る 樹(に) 食ふ 私(は) 實(を) 樹
- ⁸ ni /
(の)

4. kari idaᵛ mugəpurut
話 飯 プルト鳥になる

- ⁹ purai idaᵛ rudan tsuhe:ḍaᵛ / munu-
炊く 飯(を) 老人 昔の ぶくぶくと
- ¹⁰ buwa qəšitja pussaan be:tras mæ: / mussa
泡立つ 水 入れられぬ 煮(る) 湯(を) (間投詞) 行く
- ¹¹ pa:put / mussa mita idaᵛ / idaᵛ na ukka
外(へ) 行く 見(に) 飯(を) 飯 其 欠く
- ¹² idaᵛ / wada māgəpurt idaᵛ mukudoh /
飯(を) 既に 「プルト」になる 飯(は) 堅粥の
- ¹³ wada mu:wes idaᵛ wada messə pit pit /
既に 鳴く 飯(は) 既に 云ふ
- ¹⁴ ja adaᵛ nə idaᵛ tsube:ḍaᵛ han ja kiḍa
その故に 其 飯 昔 (動) 其様に
- ¹⁵ səekkan na matsu /
食物とせられ 其 粟は

2. gupu 「ホーゴ」社。「山の尾」に部落あれば、gupu「尾」より出でし名なりと彼等は説明す。若しこの説を信ずれば gupu > gugu の音の異化 (dissimilation) と解し得べし。

採録期：昭和二年八月。

口授者：paran 社, aoi sama (當時推定年齢45歳)。

説明者：gupu 社, dakkis nobin (花園一郎) 及び dakkis naui (花園二郎)。

5. muguruppai <ruppai> 猿。

から出た、こののホーゴ社に来た、鳥作りに来た、その子は多く[なつた]、人々は多く[なつた]。

3. 人が猿になつた話

耕作に行つたが仕事が嫌になつた、お尻の穴に鎌の柄を挿し込んだ、尾のやうになつた、「私は猿になるよ、木に登つてしまつた、私は木の實を食べる。」

4. 飯がプルト鳥となつた話

大昔の人が飯を炊いた、湯がたぎつたから搗いた粟を入れた、外に出た、飯を見に行つた、その飯はなかつた、堅粥の飯はすでにプルト鳥になつてしまつた、飯は鳴くやうになつたビョビョと云つた、昔は飯であつたから粟を食物としてゐる。

7. pušsu puṅu 耳門は普通 belin koti 「養の穴」と云ふ。
9. muekkaṅ <muekkan n>ṅ は ku の同化。
he:ḍi (動物の)肉、(動物の)實。

12. mugəpurut <purut> 鳥の名。

13. rudan tsube:ḍaᵛ 「大昔の人」「祖先」rudan は「老人」の外に「兩親」の意もあり。

17. mu:wes <u:wes> 歌。

19. səekkan <mekkan> 食ふ、類例。sə-ekkan su buṅa 「汝は實を食物とす」。

5. kari Kumabil ubal
話 抜き取る 毛(を)

- ¹ mukumekkan waqamᵛ / mu:wes re-
食べたい 鹿(を) 鳴く 戸
- ² heṅṅon / Kubi:lan ubal pusaᵛn tubal
(の)迄にて 抜き取るもの 毛は 入れられしもの 毛は
- ³ tokki / Kumukkan tokki / wada waqam-
鬘(に) 蓋なせられた 鬘は 既に 鹿
- ⁴ ᵛh / rowa:han tokki / he:ḍi tsə:mat me:
開かれる場所 鬘(は) 肉(は) 獸の 存
- ⁵ nak /
在する
- ⁶ mukumekkan mi:rits / Kumabil ubal
食べたい 山羊(を) 抜き取る 毛(を)
- ⁷ mi:rits / wada mi:rits / pusaᵛn tokki
山羊の 既に 山羊 入れられたもの 鬘(に)
- ⁸ doppal / he:ḍi mi:rits me:nak / ruḍan
再び 肉 山羊の 存在する 老人の
- ⁹ mu:qə:dil sumeelaqqa balai / mukumek-
女 我儘な 眞の 食べたし
- ¹⁰ kan waqamᵛ / me:ḍah waqamᵛ / musa
鹿 来る 鹿 行く
- ¹¹ kumerut he:ḍi bu:te:raq / səməhitti kari
切る 肉 鬘 残す 話
- ¹² waqamᵛ / aši namo ma:ṅal malᵛ sišsil /
鹿 若し 汝等 取る 良い 占鳥(を)
- ¹³ mu-ekkan namo /
食ふ 汝等

5. 毛を抜き取る話

鹿が食べたい、戸の處で鳴いてゐる、毛を引き抜いて毛を鬘に入れる、鬘の蓋をする、鹿が去る、鬘が開けられる、獸の肉がある。
山羊が食べたい、山羊の毛を抜き取る、山羊が去る、鬘に又入れる、山羊の肉がある、昔本當に我儘な女があつて、鹿を食べたいと思ふ、鹿が来る、腿肉を切りに行く、鹿は言葉を残す、もし汝等は良いシッシリシの鳴聲を聴けば汝等は食べられる。」

6. puššo kari məšigəga:ḍa
(2) = 昔談 犯罪の

- ¹ kijal bu:bu tenelaqe laqe rišsennaᵛ /
一人の 母(は) (子(を))有す 子(を) 男(の)
- ² tenelaqe laqe məqə:dil / malᵛ ba:lai /
(子(を))有す 子(を) 女(の) 良 實(に)
- ³ rišsaᵛ laqe rišsennaᵛ / wa:ewa laqe mæ-
青年 子(は) 男(の) 娘 子(は)

3. 罪を犯した昔話

一人の母が男の子を生んだ、女の子を生んだ、二人は仲が良い、男の子は青年になり、女の子は娘になつた、寝橋を

本篇は原文の「歴史的現在」の直譯により反譯を試みたり、太古の世人間は獸を殺し肉を取る必要なく、早に毛を取り鬘に入れ肉に變ぜしといふ説話を述べしものなり。

1. Kumabil ~gumabil 頭音 g > k は aoi sama, 個人的變音歟。

2. mukumekkan <mekkan> 食す, muku-「飲す」【例】muku-mimah 「飲むを飲す」。

3. Kubi:lan Kubi:lan <K-um-abil> 語根は u/gabil なるも a は非鼻音音節なるが故に >u に弱音化せり、母

音の弱音化につき文法 II. 7 参照。

13. ma:ṅal malᵛ sišsil 出獵は sišsil 占鳥の鳴聲の如何により決す。

16. məšigəga:ḍa <ga:ḍa> 祭事並に慣習法を一にする團體、その ga:ḍa の慣習法に反する行為は məšigəga:ḍa。

17. tenelaqce tene-laqce <laqce> 子。【類例】tene-balun 玉子を生む。

- qə:di/ səməma:ɕ pa:ga taqə:an/ pa:ga
女(の) 作る 橋(な) 寝所 橋の
- ² ba:raɕ musa taqə laqə rissennaɕ musa
上(へ) 行く 寝る 子(は) 男(の) 行く
- ³ taqə laqə məqə:di/ bu:ɕjan musa taqə /
寝(に) 子(は) 女(の) 夕(日暮) 行く 寝(に)
- ⁴ məgəre:bu tsaman pu:rai bu:bu na /
早朝(夜明) 朝 炊く 母は 彼等の
- ⁵ ginno laqə ma dijan bala/ taji tsəme:bu
何處 子(は) (間投詞) 晝 眞 見よ 射る(な)
- ⁶ hi:daɕ/ te:jal ba:rai taqə:ɕun laqə/ saji
太陽(の) (間投詞) 眞に 寝る 子は 行け
- ⁷ təmttu ma-ekkan ham pu:rai/ dijan
起し(に) 食べる (助) 炊く 晝
- ⁸ ba:rai/ maha:ta nə-əppah/ musa di ta-
眞の (行く)我々は 島(へ) 行く (助)
- ⁹ mttu di/ moa namo ini tttu dijan/
起す (助) 何故に 汝等は ない 起き 晝
- ¹⁰ ini kili gə:lo te:ɕun ni/ hamɕwa laqə ni/
(否定)能(?) 動く 起きる 此 何故に 子 此
- ¹¹ hamɕwa laqə taqə/ mowa ini tttu/
何故に 子は 寝る 何故に ない 起き
- ¹² ɖa:hai mita tikkoh/ laqə han/ mowa
来れ 見(に) 少し 子(な) (助) どんな
- ¹³ ba:rai ɕikko/ ma/ tsa:ða laqə/ saan
眞の (間投詞) (間投詞) (間投詞) 子 行くところ
- ¹⁴ demoo ba:ga təmttu/ ni skappah be-
握りに 手(な) 起す 此 附著する 腹
- ¹⁵ rah/ soku:ða mla:wa təlamawai ta tikkoh
其故に 呼ぶ 試みん 我々は 少し
- ¹⁶ kəme:ɾut laqə ni/ ma/ ni mkakappah
切り割るな 子を 此 (間投詞) 此 附著する
- ¹⁷ dessaini tikkoh jajɕ/ lu:pa:gai ta han/
持ち来れ 小 刀(な) 依頼する 我々は (助)
- ¹⁸ tikkoh han/ hamɕwa namɕ di/ ini
少し (助) 如何なるや 汝等 ない
- ¹⁹ reppaɕ/ ma tsa:ða di ɕiko/ taləp kəme-
返事し (間投詞) (間投詞) (助) (間投詞) 試みる 切り割
- ²⁰ ru: ja?ana ɕhha: pku:ɕdas/ laqə nakkah
るな 恐らくない(否定) 息を吹き返さ 子 悪い

1. pa:ga 橋型の小屋(地上3-4米の高さ)、「青年集會所」の
一形式、未婚青年の寝所 (taqə?an) なり。
taqə?an taqə-an <taqə 寝る, -an 「場所」。
5. taji ta-i <mita 見る -i 「命令法」。
6. saji ta-i <musa 行く。
9. moa =hamoa
10. kili kila?
te:ɕun <təttu 起る。

作った、橋の上へ男の子は寝に行つた
女の子は寝に行つた、夕方寝に行つた、
夜明に母は御飯を炊いた、御天道様か
出てゐるのにまア子供は何處にゐる
んだらう、陽が射して来たぢやないか、
オヤオヤ子供はまだ寝てゐるよ、起し
て御飯を食べる事にしよう、晝になつ
ちやつた、私達は島へ行かなくちや、起
しに行きませう、明るくなつたのに御
前さん達はどうして起きないのかい、
起きようとて身動きもしなんだね、此
の子はどうしたんだい、どうして寝て
ゐるの、なぜ起きないの、一寸と子供を
見に行くことにしよう、どうしたこと
なんでせう、まア、驚いたね御前さん達
は、手を取つて起させよう、お腹がくつ
ゝいてゐるわ、それぢや[人]を呼んで此
の子を切り離すやうに一寸やつてみ
ませう、まア、くつゝいてますから小刀
を持つて来て下さい、お願いします、一

12. ɖa:hai <me:ðah 来る, -ai 「命令法」。
13. saan sa-an <musa 行く。
14. skappah 比較, mkakappah。
17. dessai?ni <madis 持参す, des-an 「場所」 -i 「命令」。
19. reppaɕ 「言ふ」, mreppaɕ ini の時は語根を用ふ。
taləp <talam。
20. pku:ɕdas <ɕdas 息。

- ¹ da/ kərettun ki:ða di/ mahe:ɕu kəme:ɾut/
(助) 切られるし(の) 共 (助) 終る 切りな
- ² hoqqəl kanna di/
死ぬ すべて (助)

寸、お前さん達はどうしたの、返事しな
いわ、まア驚いたね、切つて見ませう多
分命がありますまい、仕様のない子供
達だ、切つてゐた、切り終つた、二人共死
んだ。

1. kərettun <k-əm-erut 切る。

VIII

ブヌン語

語法概説

及び本文

ブスン語語法概説

I. 分 布

ブスン語は主として臺中州, 其他高雄州, 花蓮港廳, 臺東廳下に住するブスン族 [sunun] 族 (17,926 人昭和五年調) の用語にして, 臺中州下のブスン族は干卓萬蕃, 卓社, 達啓, 竟加蕃 (或は卡社蕃), 丹蕃, 轆蕃, 郡蕃に分類せらる (蕃族調査報告書等), 言語地理的に見れば北部方言 (カントバン蕃, 卓社蕃, 卡社蕃), 中部方言 (丹蕃, 轆蕃), 南部方言 (郡蕃) の三類に分つを妥當とす。高雄州, 臺東廳のブスン族 (所謂高山蕃或はシブクン蕃) の言語は南部方言系統にして花蓮港廳のブスン族には中部方言南部方言錯綜す, 三方言の別は音韻變化に明瞭に現はる。

北部方言	中部方言	南部方言
q	q	x/ɣ
k	k	k
h	h	(消失)
ts	s/ʃ	s/ʃ [註]
ʃ	ʃ	ʃ [註]
l	l	l

[註] s と ʃ との區別は中部方言に於て若干混亂す, 南部方言に於て其混亂更に甚しく, 北部方言の如く明瞭に二者を辨別する語意識無きが如し (參照南部方言イバホ社)

調査は臺中州下ブスン族に於てなせしものにして, 北部方言は卡社蕃タマロソ [tamadowan] 社, 中部方言は轆蕃人倫 [landun] 社, カトグラン [katopulan] 社, 丹蕃丹大社 [asapdepad], 南部方言は郡蕃イバホ [ivaxo] 社, 郡大社 [asapdeppad] に於て資料採録せり。

II. 音 韻

1. 母音, [i], [ɪ], [e], [a], [o], [ɔ], [u], [ə], [u].
 1. [i], [ɪ], [e] 及び [o], [ɔ], [u] の相換することあり, [i], [u] は各々基本母音第一號及び第八號より可なり廣し。
2. 弱音化, 人倫方言, 南部方言は a > ə の弱音化あり。s/ʃ の後の u は u に中音化することあり。(人倫方言)
3. 重母音, [ai], [aū], [ei], [ou], 重母音の相互同化及び更に進み單音化すること

あり。ai>aē>æē>e aū>aū>o eī>ī

4. 子音, 兩唇音 [p], [b], [w], [p], [b], [m]; 唇齒音 [v]; 齒音 [θ], [ð], [d]; 齒齶音 [t], [d], [s], [z], [l], [l], [r], [ɹ], [ɹ], [ts], [ts], [n]; 硬口蓋音 [j]; 軟口蓋 [k], [g], [ŋ]; 懸壘垂音 [ʔ]; 聲門音 [h], [ʔ].

- [b], [d], ブヌンの b, d, は各調音部の閉鎖と共に聲門を閉ち開放と共に聲門を開く二重調音なり。[d]は反轉音傾向あり(特に轉蕃に於て甚しく[d]と記載するを妥當とす)。
- [d], 舌端は齒裏に當り, 舌尖は齒の先に出づ, 舌端と齒と接觸の壓力の差により [t], [l], [ð] の三種の響を生ず。接觸甚しく密着するときは [t] となり, 一部間隔生ずるときは側音的となり [l], 緩き時は [ð], 轉蕃には [t], [l] の響比較的の多く 轉蕃には [ð] の響比較的の多し, 此音は音節の終音のみに存在す。
- [v], [β], 話者に依り [β] を用ふれども, 注として兩唇的 [v], 然れども摩擦少く始音に於て母音的 [u] に近きことあり。vale > uale (命令, 願望) の助辭は aβ となること多し(イバホ社)。
- [F], [o], [u] の前の [h], [x] は始音に於て [F] 下に變ずることあり。Futton 猿(人倫社), Fomma 『高』(イバホ社)。
- [l], 北部方言中部方言 [q] は南部方言に於て [x] に變化す。而して [x] は音節の終音に於て共調音部位を後退せしむ。(適當なる實驗をせざれば共部位の認定困難なれども恐らく懸壘垂音ならん。今假りに [ʔ] にて記號す)。
- [s], 中部南部方言 [s] は, 缺齒のため氣息側方よりも漏洩し, 擦音的效果多くなり, [s] の響に近き一種特別の音を作る。
- 終破裂音, 終音の破裂音は無破裂的(但し原文には表音せず)。
- 音節切斷, 音節の切目甚しき場合あり, [ʔ] 或は [ʔ] を以て示せり。tinu-un, paʔav, niʔav.
- 揚音, A, 最後の音節に来ること多し: dābos 酒, sakūt 美仔, bananāl 男, B, 最後より第二の音節に来るものあり: dānum 水, xolibo 毛, C, 最後或は最後より第二の音節に来るものあり: bunun / būnun 人, kana (toppin / kana (toppin 終了せり(上例はイバホ社方言)。

III. 形態

- 反覆, mudadaan 歩く < daan 道, tutuāda 極めて眞實なる < tuāda 眞實, atitikkis

極少 < atikkis 少。

- 接頭辭, ma-, mi-, min-, mu-, moʔ-, maī-, ta- taī-, ti- (tin-), tunu-, tana-, pa-, pin-, i-, iši-, la- (la- 南部方言), matsi-, patši-, ka-, mit-, take-, malan-, mako-, maki-, pat-, sale-, mal-, kal-, tal-, kau- (ko-), sau- (so-) 等。

上記の接頭辭中語原上複合接辭に屬す疑あるものあれども今假りに接頭辭に分類す。

kau-, sau- は前置詞と見るも可なり。

- 挿入辭, -in-
- 接尾辭, -an, -un, -in.
- 複合接辭, mapa- (ma+pa), maka- (ma+ka), mini- (m-in-i), mais- (ma+iši), miš- (mi+iši), piš- (pi+iši), pini- (pi-in), pina- (pi-na “處”), pana- (pa+na), paš- (pa-iši), paka- (pa+ka), (i)šin- (iši-in), tiš- (ta+iši), -anin (an+in), -unin (un+in) 等。

IV. 品詞

- 動詞, 「分詞形」接尾辭は -an 及び -un にして, 述語動詞として用ひらる。例 šiāun a boʔpo 「頭は取ルモノ即ち頭を取る」。「過去」は挿入辭 -in- 或は接尾辭 -in を以て示す。「未來」を示す助辭として na あり。
- 冠詞, ブヌン語の接續詞の結辭は又冠詞的結辭として用ひらる, 本質的には a (南部方言 xaī), e は純粹の結辭にして, as, is は冠詞なりしならん。然し現今のブヌン語に於て兩者の區別明瞭ならず, 又名詞に常に冠詞を附せず可なり任意的なれば, 純粹の冠詞と稱し難し, 故に茲には冠詞的結辭として分類することにせり。冠詞的用法を舉れば,
 - 主格を示す: tsaivanin a take atso 「犬糞は與へられし物」(タマロソソ原文10第644頁10行), minuʔunin višviš as qolbo 「髪は尾に成れり」(タマロソソ原文11第645頁13行), maðav aš binanawad 「女は恥かし」(丹大原文19大632頁20行), tuppa aš bowan 「月は云ふ」(イバホ原文3第655頁16行)。
 - 與格, 對格等を示す: kombojen iš taššo 「茅原へ入れり」(タマロソソ原文12第646頁10行), pindaue e poklav 「芋蟲を起せよ」(タマロソソ原文1第638頁2行), maasik es boqðavan 「庭を掃く」(タマロソソ原文10第644頁9行), tanuʔale ke saðoʔso 「サソノを招待す」(カトグラン原文6第599頁7行), kalat iš tunuhilan 「腰巻に喰附く」(丹大原文19第633頁1行), su:lan buppo mas iŋxalidapan 「頭は木

豆汁を以て注がる](イバホ原文8第663頁5行),

	北部方言	中部方言	南部方言
1. 主格:	as (a) (at)	as	aş
2. 與格對格其他: (e) is		is (e/ke) ¹⁾	maş ²⁾

[註] ① 母音の後に於て ke. 他の方言に於ても同様の現象あり得べき筈なれども集められたる原文にかゝる ke の例未だなし。

② 高雄州のシアクン蕃には is の形あり。

3. 代名詞, 代名詞には方言的差異可なりあり。中部方言カトグラン社の代名詞を主體として其主なるものを畧記す。

1. 人稱代名詞

	第一人稱	第二人稱	第三人稱
單數 主格	1. ðakko	şoo / soo	sija { ~te 此處
	2. ðakkup	soowap	{ ~ta 其處
	3. saak	aşo	{ ~daiða 遠方
頭格	1. naak	şoo	nija
	2. inaak (私のもの)	işoo	

複數

	(對話者を除く)		多數の場合
主格	1. ðammi	moo	maņke 此處 (maņkon 其處)
	2. ðammip	moowap	{ maņka 遠方
	3. saam	saamo	
頭格	1. naam	mo	inaite (inaiton inaita)
	2. inaam	imo	inaimaņke (inaimaņkon, inaimaņka)

(對話者を含む)

主格	1. ata
	2. itaap
	3. ata / atta

頭格	1. mitta
	2. imita

2. 指示代名詞

此	dike	其	dikon
---	------	---	-------

[處]の副詞は指示代名詞として用ひらるゝ。

ite (南部方言 saentsin) 此處, 此. ita (南部方言 saentsa) 其處, 其. daiða あすこ, あすこにあるもの。

4. 接辭 to, 修飾語と被修飾語は結辭なしに結合し得. tave lumaq [家の屋根], 修飾語は後置せらることもあれば又前置せらることもあり, mađaiņ lumaq [大なる家] 結辭 to を以て結合すること多し, fantaş to tanuđo [足の指] (イバホ原文3第654頁17行), atitikkiş to bunun [極少の人] (カトグラン原文6第598頁15行), 修飾語は先行することもあれば, 後に來ることもあり (多くの例は先行), obon to tomađ [熊の體] (イバホ原文6第660頁18行), lumaq to atikkis [小なる家] (カトグラン原文6第598頁16行)。

to は代名詞と共に用ひらるることあり, isija to bananađ [其の男] (イバホ原文4第658頁3行), ni [否定], ka [禁止]と共に用ふ, ni to antala [受けず] (イバホ原文4第658頁3行), ka to maun [食す勿れ], tuppa [云ふ]と「云ひし事柄」を結ぶ爲めに用ふ, tuppa bunun to [人は何々と云ふ] (カトグラン原文11第624頁19行)。

5. 接續詞的接辭, 接辭 a (ka), xai, at, e は接續詞として用ひらる。

1. 「主題」[條件]を示す, sija binana²ađ a maqaijo sija pinainok bunun [其女は其男の上衣を盗む] (丹大原文3第618頁7行), maze maşaşoq²hođap a [若し貧乏なれば] (丹大原文5第620頁11行), maşa lanip²avanin xai [洪水になりし時] (イバホ原文2第652頁2行), muşauxen niq²av at [洪水の退きし時] (イバホ原文2第652頁12行)。

2. 「理由」を示す, lapat e haıða lato [皮衣ある故に都合良し] (タマロフン原文9第643頁10行), matalişkaņ e atikkis [小なる故に速し] (丹大社原文6第621頁15行), ka²aun e ukka xabis [女陰無き故に不要] (丹大社原文2第668頁10行)。

南部方言は xai at と xai 及び at を結合して用ふことあり, 冠詞的接辭は總て接續詞的に用ひられ, 冠詞か接續詞か判別し難き場合あり。蒐集せる資料中に現はる接續詞的接辭を挙げれば,

	北部方言	中部方言	南部方言
1. 「主題」	a / ka ¹⁾	a / ka	xai
	at	?	at (aş)
2. 「理由」	e	e / ke ¹⁾	e

註 1) 母音の後に於て ka, ke,

6. 接尾辭的助辭,

1. 北部方言タマロワン社に於ける調査に依れば, a, e, -au/-au¹⁾の三種の[命令]を示す助辭あり, 各々其意味を異にし, aは對照物の「遠く」にある時, eは對照物の「近き」にある時, -auは「一般的」[未來]の場合に用ひらる, -a > itta 其處, e < itte 此處より發生せるものと考へらる。

- {sadoa (其處を)見よ
- {sadoe (此處を)見よ
- {sadoau 見張をせよ
- kauna (自己の食器にある物を勧め)食べよ
- {kaune (相手の手に食物を入れ)食べよ
- {pakauna (留守中家畜に飼料を與へることを頼む時)食せよ
- {tapqaiā (近くに無き品物を)盗め
- {tapqaiē (現に目前にある品物を)盗め
- {tanua?e (現に話しつつある事を)聞け
- {tanu-au (これより話す事を)聞け

註1) タマロワン -au/-au > 丹大社 -ar, イバ主社 -ar/ab.

2. -ap [繼續]を示す, 三方言共此助辭屢々用ひらる。

7. 助辭 dau 物語中に屢々現る助辭にして, 正確なる意義未だ不明なれども自己の直接經驗にあらざる事を述ぶる時, 或は聞きし事を再び話し傳ふ時に dau を用ふものの如し。

1. 中部方言

1. 辯蕃(カトグラン社) (katoḡulan)

1. lanip²avan
洪水

6. ma:q nam maɖafɛŋɖad a / maɖnahaan
(註) 我々の 先祖は (結) より
7. lamogpan munuhaan taɖsimmok ta /
(地名) 社寮 まで (地名) 辯蕃社附近地 其處の
8. lakowan ɖau ihaan ilokaŋ ta / haɖda
ある時に (助) に於て (地名) 其處 存在する
9. maɖaiŋ ivɔt / sɖjata laqkut ɖanɔm / oppa
大きな 蛇 彼れは 止める 水 其故に
10. lanip²avanin / ukka²in ɖadowan ɖalaq /
洪水になつた なくなつた 見えること 土地
11. ma:q aɖam a muɖbaje munuhaan sav-
我々は 逃げる に 新高
12. jeq ɖin binoqadān ta / ukka tilas kaunun
山 及び 卓社大山 なし 穀物 食物である
13. a / taltaɖa titte ma²on / haɖda ɖau haan
許り 肉 食ふ 存する 於て
14. savjeq ta ɖappod / sɖja takehaan binoqa-
新高山 其處 火 彼等 の人々 卓社大
15. ɖan ta maskalun e kulpa / paɖiɖa ɖappod
山 其處 命ず (結) 藁に 取らす 火

1. 洪水

私達の先祖が, ラモガンから タンシ
モツクに移つた頃の事です, 大蛇が
イロコンに住んで居て, (河の)水を堰止
めたので, 洪水になつて, 地面が見えな
なくなつてしまつた。
私達は新高山と卓社大山に逃難し
たが, 食べる穀物がなくて, 肉許りを食
べてゐた。新高山に火があつた。卓
社大山の人々は藁に命じて, 新高山に
火を取らせにやつたが, 水を漕つたの

採録期: 昭和五年八月。

口授者: カトグラン社 (katoḡulan) pajan tannapimma
(男, 當時推定 65 歳)

覆誦及説明者: パラサゴン社 (palasaḡon) bijon sokul-
man (男, 當時 29 歳) pajan 原口授を bijon の覆
誦に依り記録す, 説明者は可なり進歩したる日本
語の智識を有し彼の説明は信頼し得。

6. ma:q 物語の初めの詞, 「さて」「…の事ありき」
maɖafɛŋɖad 比較. ɖɛŋɖad 大 > maɖɛŋɖad 成人, 老
人, 親。

a 結合辭, 參照. 文法 IV. 5. 主題を示す。

maɖnahaan < haan 於て。

7. munuhaan < haan 於て。

ta- < ita 其處, 「處」を示す接頭辭 i- ta 目前に無き
地の地名にす ta を添加す。

8. lakowan 595頁 16行. lakowan 原文 4, 第596頁 8行
等. lakowan は本來の形にして d の同化に依り齒音
n になりしものか, -ap 參照. 594頁, 註17.

ɖau 「想像」「不明瞭」の意的助辭 物語等の自己の經
験せざることを述べる時に屢々用ひらる。『たそうだ』

ihaan i-haan i- 「處」を示す接頭辭。

9. sɖjata sɖja-ta (其處) 目前に居らざる人, 比較. sɖjate
(te 此處の) 目前に居る人。

oppa 接頭辭, 比較. moppa.

10. lanip²avanin la-nip²av-an in < nip²av 海, 湖. 接頭辭
la- 「彼處」 參照. イバ原文 2, 第652頁, 註1.

ukka²in ukka-in < ukka 欠く。

ɖadowan ɖado-an < ɖado 見る。

11. muɖbaje i²ɖbaje.

13. a ukka tilas kaunun と taltaɖa titte ma²on を結
合す, 「而して」位の輕き意味に譯して宜し。

taltaɖa < taɖa

14. takehaan take-haan 接頭辭 take- 「の地の人々」比
較. taketudo 卓社蕃人, takeisaaq 何地の人。

15. e 結合詞, 參照. 文法 IV. 5. この用法は冠詞 前
置詞に類し, 「藁に對し火を取ることを命ず」。

kulpa 藁は電力を有するものと「アヌン」は信ず, 暴風
雨を止むる呪文を唱ふ際に藁を燒く。

paɖiɖa pa-ɖiɖa < ɖiɖa 取る. ja- 「彼役」接頭辭。

- ¹ haan savjeq ta / musqo şappod kulpa e /
に於て 新高山 其處 消ゆ 火 墓 (結)故に
- ² latboq haan danum / şin salinuttad işika-
洗む に 水 而して (鳥の名) 命ぜられ
- ³ lunan şida şappod / musqo dau şappod
た 取る 火を 消えた 火は
- ⁴ e paswaji / şin kaipis işikalunan şida
故に 未完 途中で止む 而して (鳥の名) 命ぜられる 取る
- ⁵ şappod / şin kaipis şida / mouppa adam
火を 而して (鳥の名) 取る その故に 我々は
- ⁶ maşamo mapattad kaipis şin kulpa /
禁忌 殺す (鳥の名) 及び 墓を

- ⁸ haida dau taş'a kalaş / masalpo dau
有る 一 蟹 心配する
- ⁹ kalaş e bunun e lanip'avan / tuppa
蟹 (結)に對し人 (結)のため 洪水 云ふ
- ¹⁰ dau kalaş to / aša mapakahau ivut /
蟹は (結)と 飲する 開ふを 蛇と
- ¹¹ tuppa kalaş to / soo (w)a ivut tappuş
云ふ 蟹は と 汝は 蛇は 始めに
- ¹² kalat đakko / kalatun dau ivut kalaş a /
咬め 私を 咬まれたもの 蛇は 蟹に
- ¹³ ni to matađ e maqaitqait / şin kalaş
なし (結) 死ぬ (結)故に 堅き 而して 蟹は
- ¹⁴ maqaltis ivut a / pinduşa'un maqaltis a
鈍で切る 蛇を 二個にせられたもの 鈍で切り
- ¹⁵ matađin / mattađin ivut a / musauqin
死んだ 死んだ 蛇 引いた
- ¹⁶ danum / oka muqnin haida đalaq /
水 再び ある 土地
- ¹⁷ maq adam a muşoqaisin tansimok ta /
我々は 歸つた (地名) 其處の
- ¹⁸ ukka'in amin tilas e maqannojen /
無くなつた 總ての 穀物は 故に 流れた

1. musqo /sqo 變化形: musqon, isqoje, sqoje.
2. salinuttad 喘赤色, 火を運びし説話の發生せし原因か.
işikalunan işi-kalun-an < /s/ * kalun, maskalun 命
ず, 接頭辭 işi-
4. paswaji 比較. maswaji 不足す. munu'ivaqo ka
paswaji haan daan イハホ社へ行かんとせしも途中
にて中止す.
6. maşamo 慣習法により禁止せらるる行爲. 廣義の tabu.
mapattad ma-pa-ttad 殺す, mattad 死す.
kaipis 喘赤色.
9. to tuppa to ...と云ふ.

で、墓の火が消えた。次にシリスツタ
ル鳥が火を取つて来るように命ぜら
れたが途中で火が消えた。次にカイ
ビン鳥が火を取つて来るように命ぜ
られた。カイビン鳥は取つて来た。
それ故に私達はカイビン鳥と墓を殺
してはいけないことになつてゐる。

一匹の蟹が居た。人々が洪水に逢
つてゐるので[蟹が]心配して、云ふやう
には、「蛇と闘つてみたい」[蛇君が]さき
に私を咬み給へと蟹が[蛇に]云つた。
蛇は蟹を咬んだが、堅いので死なない。
次に蟹が蛇を鈍で切つたところが二
つに切れて死んだ。蛇が死んだので
水が退いた。再び陸地が出て来た。

さて私達はタンシモクに歸つたが、
すべての穀物は流されたため無くな

10. mapakahau ma-paka-hau? < mahaü 怒る?
12. kalatun kalat-un.
13. ni to matađ 動詞と其否定詞 ni の中に結合辭 to 來
る。
14. pinduşa'un p-in-duşa-un < duşa 二, p-「使役」-in-
過去, -un 分詞。
15. matađin matad-in, -in 過去。
musa:uqin musa:uq-in < musa:uq 退水す。
16. muqnin muqn-in 再び(過去) < muqna 再び。
17. muşoqaisin mu-soqais-in.
18. maqannojen maqanno (流る) -in

- ¹ taş'in naşsa mađoq đao şikaka ha:n
一 房 粟 掛る 於て
- ² tabikunnad / mouppa maşamo malabut
(一種の粟草) その故に 禁忌 引抜く
- ³ tabikunnad e minnaş mađoq / mouppa
(一種の粟草) (結)に當り 播種 粟の その故に
- ⁴ minuva:đin bantalaş / şin minuva:đ
分離した 花蓮港下の「ブヌ」族 而して 分離する
- ⁵ takeşaka / şin minuva:đ takevatan /
卡社蕃 而して 分離する 丹蕃

つてゐた。一房の粟がタビクナズ草
に引掛つてゐた。それで粟を播く時
にタビクナズ草を引抜くことは禁忌
となつてゐる。そういふ譯で[即ち食
物が缺乏したから]花蓮港廳下の[ブヌ
ン族が私達から分れた。それから卡
社蕃と丹蕃が分れた。

2. tuppa to kana'asaş vale
話 射る 太陽

2. 太陽征伐の話

- ¹⁰ kanaqtoşpin lanip'avan / haan adam
終つた 洪水 に於て 我々
- ¹¹ tansimmok ta mal'asaş / maq tuđeep a
(地名) 部落を作る 其の時
- ¹² duşaan vale / muqqaiv taşa vale / moqna
二個 太陽 洗む 一 太陽 再び
- ¹³ minşomma taşa maşmuwaw mabaqqais
現れる 一 甚しく 熱い
- ¹⁴ vale /
太陽
- ¹⁵ haan işikalmuttan ta mattađ ovađ'ad /
に於て (地名) 死ぬ 子
- ¹⁶ moppa maşmuwaw mabaqqais vale ka
その故に 甚だ 熱い 太陽
- ¹⁷ mattađin / maha:u tama muđaan kanaşan
死んだ 怒る 父 行く 後つ
- ¹⁸ vale / mađas tatine ovađ'ad / tama aqqos
太陽 連れて行く 一人の 子 携帯する
- ¹⁹ bussul / mađas tilas / pa:it naşsa matmuđ
弓 持つて行く 穀物 四 房 入レル
- ²⁰ kuskus tilas / ki:ib masowađ idok / mala-
爪 穀物 後に 植う 蜜柑 粟を引つた

洪水が終つて私達はタンシモクに
住んだ。その時代には太陽が二つあ
つて、一つが洗むと、一つが再び出て非
常に熱かつた。

イシカルムツタンで子供が死んだ。
太陽が大へんに熱かつたため死んだ
のです。父は怒つて太陽を征伐に出
掛けた。一人の子を連れ、弓を携帯し、
四房の粟を爪の間に入れて行つた。
蜜柑の木を植ふた後で、太陽の出る處

1. taş'in taş'a-in.
3. tabikunnad 粟草の類. 播種前に鳥より引抜くことは禁
忌. 但し播種後は差支なし.
10. kanaqtoşpin kanaqtoş-in (過去).

11. mal'asaş < asaş. 蕃社村.
12. duşaan duşa(=)-an
16. ka 結辭, a に同じ. 但し子音の後に a の母音の後に
ka.
18. tatine 人数を示す數詞.

- 1¹ *şon haan inşommaan vale / minşomma*
 出 處で 出る處 太陽 出る
- 2² *şija mapatađ ovad'ad vale ka panaqon*
 其の 殺す 子を 太陽 (結)時 打たれた
- 3³ *tama / sandoon matta vale / oppa san-*
 父に 當てられた 日 太陽 その故に 當て
- 4⁴ *doon matta vale ka neeş mabaqqais /*
 られた 日 太陽 なし 熱く
- 5⁵ *oppa minuunin dowan /*
 その故に 成つた 月
- 6⁶ *şinapun howan bunun / punuhaan*
 後を追はれた 月に 人は 迄
- 7⁷ *şipađan ta / itta dau đamo:n howan*
 (地名) 其處 捕へられた 月に
- 8⁸ *đunun / maaqaşjok haan jimma / oppa*
 人は 抜け出る 處で 手 その故に
- 9⁹ *atikis bununa / ni: to maqto đamo:n*
 小さい 人 なし 出來得 捕へられた
- 10¹⁰ *howan / şija howan makosija tanuđoq*
 月 彼等 月 な以て 指
- 11¹¹ *matonippaq mađamo /*
 唾を吐く 捕へる
- 12¹² *haan haban ta palikansi:ap howan e*
 に於て (地名) 相談する 月 と
- 13¹³ *bunun / tuppa howan to / asa qailis*
 人 云ふ 月 欲す 常に
- 14¹⁴ *luş'an koppa howan minşumma / şija*
 祭 毎に 月 出る 彼等
- 15¹⁵ *bunun masaaive buwan tappaha e tolkok*
 人 與へる 月 織物 雞
- 16¹⁶ *a babo şide aso / kusajan dau tappaha*
 豚 山羊 犬 な以て 織物
- 17¹⁷ *ta mahimma mata buwan / şađowanap*
 拭ふ 目 月 見られた
- 18¹⁸ *amin loppako tappaha ta /*
 皆 今 織物
- 19¹⁹ *ma:q to nijaş panaqon vale ka / taşa*
 未だ…ない 撃たれた 太陽

1. inşommaan inşomma-an <minşomma 出る, -an 「場所」.
 2. panaqon panaq-on <manaq 撃つ.
 3. sandoon sande-on <sando 命中す.
 4. neeş ne-eg, ne (否定)の過去, -in >-eg, なるも neeş と發音す, 現論上 neen / nein.
 5. minuunin 現在 minuuni 成る.
 6. şinapun şinap-un <şinap 追ふ.

で隠れて待つてゐた。彼の子を殺した太陽が出た時に父が射た。太陽の目に當つた。太陽の目に當つたから、熱くなくなった。それでその太陽は月になつた。

月は人をシバザンまで追ひ掛け、そこで月は人を捕へたが、手の[指の]間から抜け出た。人は小さいので、月は[人]を捕へられなかつた。月は指に唾を附けて捕へた。

ババンで月と人が相談した。月が云ふやうには「月が出る毎に常に祭を行つて欲しい」。その人は月に織物雞豚山羊犬を與へた。月は目を布で拭つた。其の布を今でも皆が見る。

太陽がまだ撃たれなかつた時代に

punuhaan punu-haan.
 7. đamo:n đamo-on <mađamo 捕ふ.
 11. matonippaq <nippaq 唾, mato- 比較, mato-qowa 人を吐く.
 12. palikansi:ap 比較, makansi:ap 上手なる.
 17. mahimma <jimma 手, j- >h.
 şađowanap şado-an-aş -aş 「將來への繼續」.
 19. nijaş ne-aş, -aş 註 17.

- 1¹ *tilaş pitijawun / maqto papija bunun*
 穀物 炊かれた: 出来る 可なりの 人
- 2² *ma'un / haiða bunun* minu'uni huttoş /*
 食ふ ある 人 變る 猿
- 3³ *mađija mimpakaliva / oppa ma:q adam*
 多く 奇蹟 その故に 我々は
- 4⁴ *luş'an e maku'is buwan şiru mouşu bu-*
 祭 新 月 及び 満
- 5⁵ *wan / moppa maşihalin adam bunun /*
 月 その故に 良くなつた 我々は 人

は、一粒の粟が炊かれると、可なり澤山の人が食べる事が出来た。猿になつた人もあつた。奇蹟が澤山あつた。私達が新月や満月の際に祭をするやうになつてから、私達の状態が良くなつた。

3. bitaqol
 瓢箪

- 9⁹ *ma:qo qa:baş ukkaaş tilaş a / şija ta-*
 昔 未だ無い 穀物
- 10¹⁰ *qqol pili'uni tilaş / şija akke e pinilumaq*
 瓢箪 代理す 穀物 その 男 嫁(男に對して)
- 11¹¹ *minanuwađ / muşkun maqoşba taqqol /*
 女 一所に 除草する 瓢箪
- 12¹² *maşu:đ'ak taqqol a / labanaqan akke*
 密生する 瓢箪 間引せられた
- 13¹³ *malabut / pişitaba:un işimu:t a / mişhamu*
 抜く(地から草を) 焼かれた: 草 加へる
- 14¹⁴ *bitaqol mişitaba / şija binanuwađ taşkun*
 瓢箪 焼く その 女 共に
- 15¹⁵ *qoş'uł mundadaan deqanin /*
 燭 登る 天
- 16¹⁶ *lakowan dau ma haiða atikis bitaqqol*
 ある時 ある 瓢箪
- 17¹⁷ *minuhaan deqanin munasito işikusan*
 天 下へ 吊された
- 18¹⁸ *turme / paşqailaş ovad'ad / alkokusan*
 糸 玩で 子 手にとられた

3. 瓢 箪

昔穀物が無かつた頃は、瓢箪が穀物の代りになつてゐた。男と嫁が一緒に瓢箪(高)の除草をした。瓢箪が密生してゐたので、男は間引をした。草を焼く時に、瓢箪も一緒に焼いた。するとその女は煙と共に昇天した。

ある時天から下界へ小さな瓢箪が糸にぶらさがつて降りて來た。彼女の子供は玩んだ。子供は瓢箪を手に

1. pitijawun pitija (炊く)-un.
 papija 若干, 可なりの數の pija 「幾何」の反覆形.
 5. maşihalin maşihal 「良き」の過去.
 9. ma:qo ~ ma:q ukkaaş ukka-aş, ukka 欠く, -aş 参照, 594頁, 註17.
 10. pinilumaq p in-i-lumaq 家に入れられし者 <lumaq 家.
 11. minanuwađ ~ binanuwađ, binanuwađ.
 12. labanaqan labanaq-an 間引する處, labanaq 間引す.
 13. pişitaba:un <mişitaba 焼く.
 mişhamu , / * hamu, 比較, hamu-un şo 汝を (仲間 に) 入れる.
 15. mundadaan mun-đada-an, đada 上.
 17. işikusan işi-kuş-an, işi- 具格を示す, işikusan turme 糸は吊下ぐ道具, 糸を以て吊下げらる. 比較, maşai-kuş (糸にて) 吊下ぐ.
 18. alkokusan 比較, aqkoş.

- ¹ ovaɖʔad taqqol a ɖaʃun taqqol mundaɖa
子 瓢箪 連れられた: 瓢箪 上る
- ² deqanin /
天

把ると瓢箪に連れられて昇天した。

4. maɖaɖeɖɖaɖ tanapima
先祖 タナビマ

- ⁵ maɖɔ dao / maɖaɖeɖɖaɖ tanapima duʃa
先祖 二
- ⁶ dao to binanowaɖ e bananaɖ / maɖasaɖ
女 男 住む
- ⁷ ha:n ilokoɖ ta / talmaɖi:ja ukkaaɖ ova-
に於て (地名) 永き間 無 子
- ⁸ ɖʔad / laqowaɖ sanavan mataiʃaɖ / tuppa
或る時 夜 夢みる 云ふ
- ⁹ dao to / asa luɖaqqon haqqil ivut a na
欲す 敵かれた 抜殻 蛇 (未来)
- ¹⁰ toʃʔovaɖʔaɖin / laqbiɖin a kusajan haqqil
(子供が) 生れた 翌日になる を以て 抜殻
- ¹¹ idut maluɖaɖ / tu:ɖa to haɖin uvadʔad /
蛇 敵く 本當に あつた 子供
- ¹² ɖuɖaɖ dao haɖin ovaɖʔaɖa haɖimmaɖin /
段々と あつた 子供 五人になつた
- ¹³ tau ʔbananaɖ / duʃa binanuwaɖ / moppa
三 男 二 女 新様にして
- ¹⁴ minpapijin tanapima /
増加した

4. タナビマ姓の先祖

さて、タナビマ姓の先祖は男女の二人であつて、イロコンに住んでゐるが、永い間子供がなかつた。ある晩蛇の抜殻で[細君を]敵けば子供が生れるといふ夢をみた。翌日蛇の抜殻で敵くと本當に子供が生れた。段々と子供が生れて五人になつた。三人は男、二人は女であつた。そのやうにしてタナビマ姓が増加した。

5. ikulon
イクルン

- ¹⁷ haɖa qa:baʃ naʃito dalaq te / tuppawun
有る 昔 下 地 此 云はれた
- ¹⁸ to ikulon / maʃiɖa:n ɖammu bunun / o:ka
同じ 我々 人間

昔地下に イクルン と呼ばれた者が住んでゐた。我々人間と同じであつ

- 1. ɖaʃun maɖaʃ mundaɖa mun ɖaɖa (上), mun-, mun-ivaqo イバホ社へ行く。
- 4. 「アヌ」族は氏族制度を有す、各氏族(clan)は名稱を有す。
- 5. ɖusa to 比較 tu:ɖa to (11行), ni to (594頁, 9行)。
- 6. e binanowaɖ e bananaɖ 女と男。
- 7. ilokoɖ 海に近き地なりと傳ふ。
- 8. talmaɖi:ja <maɖi:ja 多。
- 9. luɖaqqon luɖaɖ-on 敵かるもの <maluɖaɖ 敵く, na 「未来」を示す助辭。
- 10. toʃʔovaɖʔaɖin toʃʔovaɖʔaɖ-in <ovaɖʔad 子。

- 12. haɖimmaɖin ha himma-(j)in 五人になれり <jimma 五, ha-himma 五人, 反覆せられし音節の母音は a なるに注意せよ, papitu 七人, 類例 pa-pi:ja <pi:ja (595頁, 註1), jimma の j は中音に於て i>h 類例 mahimma <jimma (594頁, 註17)。
- 14. minpapijin min-pap-(j)in <pi:ja 幾何。
- 16. ikulon <ikul 尾?
- 17. te <itte 此處, 語者に近き處, 比較 itta 其處, tuppawun tuppa-un <tuppa 云ふ。
- 18. to maɖoqʔlas to bunun 白色の人, 形容詞と被修飾語を結ぶ用法。

- ¹ maɖoqʔlas to bunun / haɖa ikul / haɖa
白色 の 人 有る 尾 有る
- ² ha:n ʃinabal ta laqaɖban muɖqombo /
に於て (地名) 通路 入る
- ³ mutiunin bunun mundijep tantoggo /
三回した 人 赴く 訪問
- ⁴ laq-viʃan ikulun a asa dau taʃʔa palaɖan
遠い 要す 一 籠
- ⁵ saɖɖ palsoqqon / haɖa bunun tantoggo
松明 火の付けられたる 有る 人 訪問
- ⁶ saan ikulun / maʃihal dau ɖaɖijan iku-
良い 居る處
- ⁷ lun / piʃiha:lun pakaʔun qaiʃin / piʃihalun
良くせられたる(もて) 食はせる 飯 良くせられた
- ⁸ pakaʔun titte / musoqqaiʃin dau ka /
食はせる 肉 歸つた
- ⁹ tuppaun ikulun to / ma:qe muqnin mun-
云はれた 若し 再び 此處
- ¹⁰ ʔitte(j)a / asa tupuɖo / asa aɖam maqabɖin
に來る 要す 呼聲を出す 要す 我々 隠す
- ¹¹ ha:n nusog ikul /
に於て 白 尾
- ¹² moɖqin bunun tantoggo ni tu tupuɖo /
再び 人 訪問 呼聲を出す
- ¹³ tiɖqo:ɖa ikulun kavava: munʔhaan nusog /
慌てる 早く 赴く 白
- ¹⁴ maqabɖin ikul / oppa mupisqoʃin ikul /
隠す 尾 その故に 折れた 尾
- ¹⁵ moɖqin bunun tantoggo / tupuɖo:jin dau
再び 人 訪問 合圖をした
- ¹⁶ ka / matusqoɖ ovaɖʔad ikulon mapakaʔun
いたづらにする 子 食はせられた
- ¹⁷ titte / masaqbitin tijaan mattaɖin ovaɖʔad /
肉 痛くなつた 腹 死んだ 子供
- ¹⁸ oppa ikuluna ni to maʔun qaiʃin / mowaɖ
何となれば 飯 のみ
- ¹⁹ maʔun tahun / oppa ni tu mutake(j)a /
湯氣 その故に 大便をする
- ²⁰ moppin leʃʔasan laqaɖban musila / maha:u
似た 針にてさしたるの 入口 脱糞 怒る

たが、色が白く、尾があつた。シナバル [地名]に入口があつた。

三回我々は遊びに行つた。イクルンは遠い處にゐるから一籠の松明を燵かねばならなかつた。イクルンに遊びに行つた人があつた。イクルンの居る處は良ろしい。御飯を御馳走してくれた。肉も御馳走してくれた。歸る際に、イクルンが云ふやうには、「今度此處に來る時には、合圖をして下さい、私達は尻尾を白に隠さねばならない」。

再び人間が遊びに行つたが合圖をしなかつた。イクルンは慌てゝ一目散に白のところに行つた。そして尻尾を隠した。それで尾が折れてしまつた。又人間が遊びに行つた。合圖はしたが、イクルンの子にいたづらをして肉を食はせた。腹が痛くなつて子供は死んでしまつた。イクルンは御飯を食べずに、(御飯の湯氣ばかりを食

- 2. laqaɖban laqaɖban 通路 <laqai 歩く, 通る? -b- は好音 (euphony) のために發生せしものか。
- 3. mutiunin ma-tijn-un-in 三回なせり <tiju 三, munjijep mun-dijep <dijep 其處。
- 5. palsoqon <malsoq 松明に點火す。
- 6. saan 〃 haan 於。

- 7. pakaʔun pa-kaʔun <kaʔun 食す pa- 「使役」。
- 18. masaqbitin manaqbit 「痛し」の過去。
- 20. mutake mu-take <take 糞。
- 21. leʃʔasan 比較 as 針, lasʔas 針にてさす, munsila mun-sila 島の端へ行く <sila 島の端, mutake 脱糞す。

- ¹ ikulun tuppā to / ka:in bunun mun²itte /
云ふ 勿れ 人 此處に来る
- ² jaqluttan nuson ne maqto laqqaiban /
塞がれた 臼にて 不 可能 入る
- ³ paışkatd ijepin adam ni to muḡqombo /
其以後 我々 行く
- ⁴ haan ikulun tantoppo /
に於て 訪問

べてゐるから。それ故に彼等は大便
をしない、肛門は針でさした穴のやう
である。イクルンイクルンは怒つて云ふやう
には、「人間は此處に来てはいけない」。
穴が塞がれて入ることが出来なくな
つた。それ以後我々はイクルンの處
へ遊びに行かない。

6. saḡo²so
サゾソ

- ¹⁰ hinaida dau / qa:baş / tuppawun to
或る處 昔 云はれたもの
- ¹¹ saḡo²so e qabiḡan / ma:q dau ka / sa-
と
- ¹² ḡo²so(w)a ha:n tuppawun to tilapaton ta
に於て云はれたもの (地名)
- ¹³ mal²asaḡ / ma:q dau ka / tuppawun to
住む 云はれたもの
- ¹⁴ qabiḡan a ha:n ilito ta mal²asaḡ / ma:q
に於て (地名) 住む
- ¹⁵ dau saḡo²so (w)a / moppin ovaḡ²aḡ to ati-
似た 子供 種
- ¹⁶ tikkiş to bunun / moppa amin dau lumaq
小 人 それ故 皆 家
- ¹⁷ to atikkis / ma²on dao qaişiq / pinḡabos
小 食ふ 飯 酒を作る
- ¹⁸ amin qoḡ dau nai / nai saḡo²so taḡḡuş
皆 飲む 彼等 初めに
- ¹⁹ tanu²ale / ke tuppawun to qabiḡan / ma:q
(酒宴に招待する)
- ²⁰ dau ka pelişija ḡabos a / matmod tahamiş
代りに 酒 充滿 饗

6. サゾソ

昔、サゾソとカビザンといふ(種族が)
居た。サゾソはテラバトンといふ
地に住み、カビザンはイリトに住んで
ゐた。サゾソは子供のやうに極めて
小さい人間であつた。それで家はど
れもこれも小さいもの許りであつた。
飯も食べたし、酒を造つて飲みもした。
サゾソの方が始めにカビザンといふ
者共を招待した。酒の代りに蜂を饗
一杯に入れて置いた。カビザンが家
に入ると、サゾソは蓋を開け、戸外に出

2. ka²in 現在 ka「禁止」過去 ka-in, ka:n は單なる過
去にあらずして「決定」を示す。ka mun-itte 来る勿
れ。ka-in mun-itte 来ることを禁止せり、今後断然來
る勿れ。

12. tilapaton ホアン、パチモアン附近の地。

15. atitikkis <atikkis 小の反覆形。
16. lumaq to atikkis 小なる家、to を以て結合せらる形
容詞は被修飾語の後に來るを通例とすれども、此例は
前に來る。
17. pinḡabos pin-ḡabos <ḡabos 酒。比喩 min-ḡabos
酒になる。

- ¹ a / baqosad / tonalumaq dau qabiḡan a /
蜂 家に入る
- ² tumbakun toqolo ka / muḡaan munata a
開けられた 蓋 行く 戸外に出る
- ³ saḡo²so a sukud an saḡo²so hilav / o:ka /
閉ぢられた 戸
- ⁴ kalatun amin baqişaiḡa / qabiḡan a mat-
刺された 皆
- ⁵ taḡ dau amin / na qabiḡan a tatinin dao /
皆 一人になつた
- ⁶ ka qabiḡan a miqomis /
生きる
- ⁷ mouppa mimba:şin / qabiḡan a tanu²ale
その故に 復讐した 酒宴に招待する
- ⁸ ke saḡo²so / to taşkun dao nai saḡo²so a /
共に
- ⁹ tunuhundul a işiqamişqaḡ amin nai /
橋に乗る 中央まで 皆
- ¹⁰ saḡo²so a nai qabiḡan şippal te tatine /
側 こちら 一人
- ¹¹ ka şippal ta tatine matuktuk hundul / ta
側 あちら 一人 切る 橋
- ¹² oppa / mḡalqalin hundul a / ni: ḡao /
その故に 落ちた 橋 なし
- ¹³ saḡo²so a laktan e hundul ta / maḡqanno /
放す 橋 流れる
- ¹⁴ patnaşilan dao / haan tamba:q şiqişi ta /
陸に打ち上げられた に於て 下 山の下の方
- ¹⁵ auppa itta²in naişka mal²asaḡ /
その故に 其處に居た 彼等 住む

て、戸を閉ちてしまつた。カビザンは
だれもかれも蜂に刺されて、みんな死
んで、一人だけが生き残つた。

それ故にカビザンカビザンはかたきをとつ
た。カビザンカビザンはサゾソサゾソを招待した。
サゾソサゾソは一緒になつて行つた。皆が
橋を渡つて中央まで行つた時に、カビ
ザンカビザンが橋のこちら側に一人、向側に一
人ゐて、橋を切つた。橋が落ちたが、サ
ゾソサゾソは橋から手を放さずサゾソにゐるので、
流れて、シイシシイシの下方に漂着した。彼
等は其地に行つて住んだ。

7. vaniş
猪

- ¹⁸ haida qabaş bşinanowad / qaişu battal
有る 昔 女 小島を乗る 乗
- ¹⁹ ha:n qomma / laqbişin a tuppā bananaḡ
於て 島 翌日になつた 云ふ 男
- ²⁰ to / na ḡakkuḡ saşi qaişo / tuppā bina-
(未來) 私 交代する 小島を乗る 云ふ

7. 猪

昔女があつた。島で黍の鳥追をし
てゐた。翌日夫が云ふやうには、「今度
はわしが鳥追をしよう」。妻が云うや

1. tonalumaq <lumaq 家。
2. tumbakun tumbak-un <tumbak 開く。
munata >nata 外庭、家の前方の踏石せる場所。
3. sukud an sukud-an <masukud 閉ぢ。
4. kalatun kalat-un <kalat 刺す。
5. tatinin tatinin-in <tatinin 一人。
9. tunu-hundul <hundul 橋。

işiqamişqaḡ 比喩 mişqaḡ 中央。
12. mḡalqalin m(a)ḡalqal-in <maḡalqal 落下す。
14. şiqişi 西側大山の下方の地。

20. na 「未來」助辭、『今後は』『今度は…せん』

- ¹ nowad to / ðakkon e qauḡaan kaunan /
女 私 置き忘れられた 烟管
- ² oppa sija binanowad qaipo / laqbiḡin
その故に 女 ^{鳥を鳥} 翌日になつた
- ³ tuppa bananad to / na ðakkon qaipo /
云ふ 男 私 ^{鳥を鳥}
- ⁴ tuppa binanowad to / ðakkon e qauḡaan
云ふ 女 私 置き忘れられた
- ⁵ hulus / tuppa bananad to / soo (w)a
着物 云ふ 男 汝
- ⁶ qaipo / mudaanin binanowad a / kinu-
^{鳥を鳥} 行つた 女 跡をつ
- ⁷ kinud bananad / kamijij sadō / kahaanin
ける 男 身を隠して 見る 到着した
- ⁸ qomma binanowad a minḡomma vaniḡ /
鳥 女 出る 猪
- ⁹ paqowit binanowad / o:ka sadōan bana-
交接す 女 見られたもの 男
- ¹⁰ nad ta / muḡoqaiḡin bananad /
歸つた 男
- ¹² sanavanin a / haiḡin binanowad a /
夕方になつた 来れり 女
- ¹³ mukumutin masaḡbaqain binanowad a /
夜になつた 寝た 女
- ¹⁴ kamijij bananad mudaan munhaan qom-
隠れて 男 赴く 鳥
- ¹⁵ ma / matas'e pittu painsul / muḡoqaiḡin
作る 七 石積 歸つた
- ¹⁶ bananad mulumaq maḡabaq / laqbiḡin
男 家に入る 寝る 翌日になつた
- ¹⁷ a / tuppawun bananad to / ðakko hajep
云はれた 男 私 今日
- ¹⁸ qaipo / tuppa binanowad to / ne: na ðak-
^{鳥を鳥} 云ふ 女 私
- ¹⁹ kon e / kauḡaan pattus / tuppa bananad
置き忘れられた 燐火木 云ふ 男
- ²⁰ to / ni to makwa soo qaipo / o:ka mu-
なし 邪賢をする 汝 ^{鳥を鳥}
- ²¹ daanin binanowad qaipo a / kinukinud
行つた 女 ^{鳥を鳥} 跡をつける

1. ðakkon 此の場合 ðakko としても宜しと説明は云ふ。
参考: soon, namoon, ðammen 等。
qauḡaan qauḡa-an <maqauḡa 置き忘る。
12. sanavanin <sanavan 夕。

うには「烟管を忘れて来ましたから妻がしませう」。それで女が鳥追をした。あくる日夫が云ふやうには「わしが鳥追をしよう」。妻が云ふやうには「著物を忘れて来ましたから妻がしませう」。夫が云うやうには「お前が鳥追をおやり」。妻は行つたので、夫は見えないやうに隠れて跡をつけた。女が鳥に着すると、猪が現れました。女は(その猪と)戯れた。男は[其有様を]見たので、歸つた。

夕方妻が歸宅した。夜になつて妻が寝ると、夫は秘かに鳥に行つた。七個の石積を作つた。夫は歸宅して寝た。翌日になつて夫が云うやうには、「わしは今日鳥追をする」。妻が云うやうには「いけません、マツチを忘れて来ましたから、妻がしませう」。夫が云ふやうには「お前が鳥追をしても構はない」。妻が鳥追に行くと、夫は跡をつけて行つて見た。弓を持って行つた。

13. mukumutin <makumut 夜。
maḡabaqain <maḡabaq 寝る。
15. painsul 鳥を圍撃する時に、地の石を鳥の一隅に積重ねられたもの。

- ¹ bananad saḡo / ankos bussol / haiḡin
男 見る 弓を持つて行く 弓 有り
- ² vaniḡ / paqowit binanowad a / mahaḡu
猪 交接する 女 怒る
- ³ bananad / šiḡa bananad bussul / mundaḡa
男 取る 男 弓 登る
- ⁴ ha:n painsul / manaq vaniḡ / mahaḡu ðaniḡ
於て 石積 (弓で)打つ 猪 怒る 猪
- ⁵ a / asa kalat bananad / musḡbaje bana-
欲する 咬む 男 逃げる 男
- ⁶ nad / munhaan painsul taḡa / moḡna
赴く 石積 一つ 又
- ⁷ manaq vaniḡ / mahaḡu vaniḡ / mudaan
(弓で)打つ 猪 怒る 猪
- ⁸ bananad / munhaan taḡa painsul / manaq
男 赴く 一つ 石積 (弓で)打つ
- ⁹ vaniḡ / mahaḡu vaniḡ a / moḡna bananad /
猪 怒る 猪 男
- ¹⁰ mundaan munhaan painsul taḡa / manaq
(赴く) 石積 一つ (弓で)打つ
- ¹¹ vaniḡ a / mattaḡin vaniḡ a / amaḡun
猪 死んだ 猪 背負はれた
- ¹² bananav / mulumaq /
男 家に歸る
- ¹³ tukaunin dau ka tagḡusaḡ makulut laḡ
解剖せられた 先きに 切る 實(み)
- ¹⁴ titte / paqosilun a / ne: binanowad antasa /
肉 分配せられた 不 女 受取る
- ¹⁵ ḡilaluwan to / qoḡulan / ha:moqae tagḡis
虚言する 煙い 出す 涙
- ¹⁶ e pataḡunin vaniḡ a / moḡnan bananad /
殺された 猪 再び 男
- ¹⁷ šiḡa qattad / ha:nun viḡa / masaaiḡ ova-
取る 體(キモ) に載せる 番刀 與へる 子
- ¹⁸ dḡad a ši:n tama ka kinukinud in tina /
供 それより 父 後にせられた
- ¹⁹ mahaḡu tama e ni tu kavava šiḡa / as-
怒る 父 早く 取る 癪に
- ²⁰ qaḡun tama / kuḡija viḡa / maluppa / tijan
隠はつた 父 を以て 番力 突く 腹

猪が現れた。妻は姦したので、夫は怒り、弓を取り、石積の上に登つて猪を撃つた。猪は怒つて、男を咬まうとした。男は逃げて、一つの石積まで行つて、又猪を射た。猪は怒つた。男はも一つの石積まで行つて射た。猪は怒つたので、又男は、一つの石積まで行つて、猪を射ると、猪は死んでしまつた。それで男は(猪を)背負つて、家に歸つた。

割いて赤身を最初に載つて、分けたが妻は受取らなかつた。猪が殺されたから涙が出たのを、煙いと嘘をついた。夫は又膽を取つて番刀に載せ、子供に與へその後で母に與へた。早く取らないから父は怒つた。刀で妻の腹を突いたので、死んでしまつた。腹から、猪子が出た。四匹出た。奥へ行

11. amaḡun ama-un 背負はる物 <mama 背負ふ。
12. mulumaq mu-lumaq 家、「歸宅す」。
13. tukaunin tuka-un-in <matuka 解剖す。(動物を)料理す。
tagḡusaḡ tagḡusaḡ
laḡ titte titte 肉全體, laḡ は果物、肉の赤身、自身(腸肉)は ḡimmal.

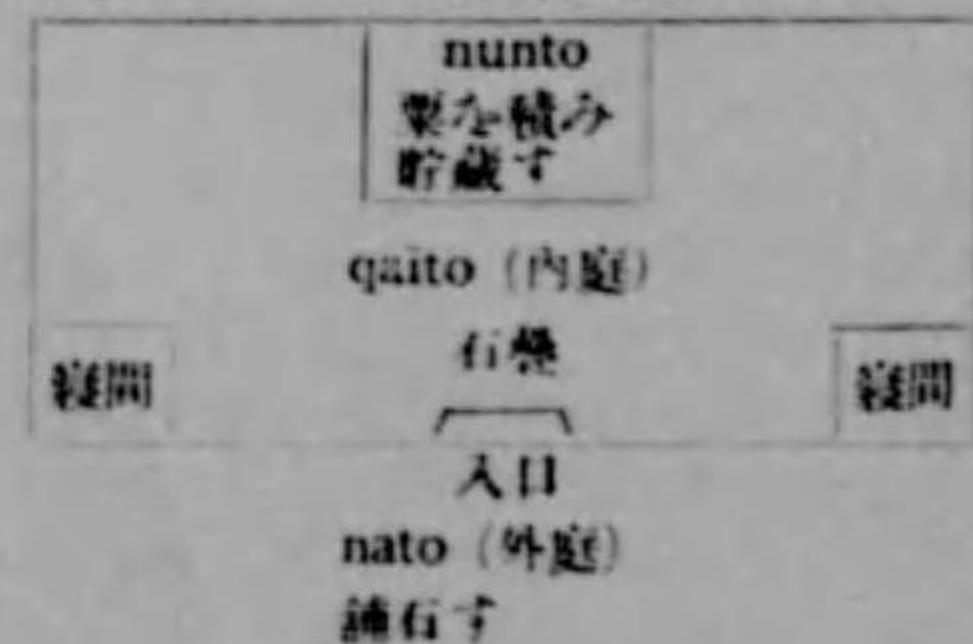
14. paqosilun <maqosil 分配す。
15. qoḡulan qoḡul-an 煙に包まれたる處、煙き状態 <qoḡul 煙。
16. pataḡunin pa-taḡ-un-in <ma-taḡ 死す。
17. ha:nun ha:n-un 置くもの <haan 於て。
18. kinukinud kinud-kinud-in <kinud 後。
19. asqaḡun asqaḡ-un <masqaḡ.

- ¹ binanowad a / mattaðin / o:ka minšomma
女 出る
- ² oqqad / mišnaha:n tijan / minšomma pat /
猪の仔 腹 出る 四
- ³ duša soppa nunto a / minu?uni vanis /
二 の方へ 家の奥 なる 猪
- ⁴ duša munha:n taqçaito / minu?uni babo /
二 赴く 内庭に行く なる 豚
- ⁵ pababhad auqqad a dau to / tuppa ha:n
相談する 猪の仔 云ふ 於て
- ⁶ nuntu to / ma:q amu ka / na tal?uni
家の奥 汝等 許り(食ふ)
- ⁷ maqaišun / tuppa ha:n qaito to / ma:q
腐敗物 云ふ に於て 内庭
- ⁸ amu ka na tal?uni ekulav / paqpun
汝等 許り(食ふ) 濁酒 其のために
- ⁹ vannis / tuppawun to tal?uni ekula:v e /
猪 云はれた 許り(食ふ) 濁酒
- ¹⁰ na patviššan e / pataðunin bunun a /
呪文 殺されたもの 人
- ¹¹ soppa nunto muðaanan / ma:q a soppa
の方に 家の奥 行つたもの の方に
- ¹² qaito muðaanan a / tuppawun to tal?uni
内庭 行つた 云はれた 許り(食ふ)
- ¹³ maqaišun e / na pakaunan e / maqaišun /
腐敗物 食ふ可きである 腐敗物

8. papatuši
ババトウシ

- ¹⁴ haiða qaabaš pakatušidaj / mašmowav
有る 昔 夫婦 大變に
- ¹⁵ pakadikla pakatušidaj / šija binanowad
仲が悪い 夫婦 彼 女
- ¹⁶ maqanšijap matin?un / ma: bananad a
巧み 織る 男
- ¹⁷ maqanšijap manaq tummad / šija binano-
巧み 射る 熊 彼 女

3. nunto, qaito. 「アヌ」家屋間取の一例.



つた二匹は、猪となり、内庭^{ヌント}に行つた二匹は豚になつた。仔共が相談した。奥へ行つた者が云ふやうには「お前達は腐つたものばかり食べる事にしたらいゝんだよ」。外庭に行つた者が云ふやうには「お前達は濁酒だけを食べる事にしたらいゝんだよ」。奥へ行つたもの〔子孫である〕猪は、殺されて、呪文を唱へられる時に、濁酒だけを食べてると言はれてゐる。内庭に行つたものは、腐敗物を食へといはれたから、腐敗物だけを食ふと言はれてゐる。

8. ババト。シ鳥

昔夫婦があつて、大變仲が悪かつた。妻は織物が上手で、夫は熊を撃ち獲ることが上手だつた。妻は十枚の織布を持つてゐた。夫は十枚の熊の毛皮

4. taqçaito taq-qaito. taq-「方へ行く」

6. tal?uni 例, tal?uni huttan 善のみを食す。

10. patviššan 猪を獲て屠殺する時に唱ふ呪文、<patviš 狩獵の獲物を豊富にする。

17. pakadikla paka-dikla < d'ikla, madikla 性質の悪き、接頭辭 paka-「相互」。

- ¹ wad hajða maš'an qabañ / šija bananad
有る 十 布 彼 男
- ² haiða maš'an sappa tummad / šija bina-
有る 十 毛皮 熊 彼
- ³ nowad maštaan madikla ni to masa'aiv
女 非常に 悪い 無 興へる
- ⁴ bananad hulus / daðuša pakniv to / ši
男 上衣 二人 自慢す 誰
- ⁵ maq a pinvai?un makaðhav / duša nai
負く 寒い に 彼等
- ⁶ munha:n savjeq ta / sanavanin a / vaive-
行く 新高山 夕方になる 別々
- ⁷ vaive mašabaq / šija bananad himma
に 寝る 彼 男 五
- ⁸ sappa tummad sappalan / himma sappa
毛皮 熊 敷かれた 五 毛皮
- ⁹ hilhilun / šija binanowad himma qabañ
掛けられた 彼 女 五 夜具
- ¹⁰ sappalan / himma qabañ hilhilun / maq-
敷かれた 五 夜具 掛けられた 夜中
- ¹¹ mutin a duðav makaðhavin / šija bina-
になる 段々と 寒くなった 彼 女
- ¹² nowad ni to maqto šitmañ makaðhav a /
出来る 我慢する 寒い
- ¹³ tuppa bananad to / mapatus / mapatus /
云ふ 男 發火する 發火す
- ¹⁴ ne bananad mapatus a / mo:qnañ bina-
男 發火する 再び
- ¹⁵ nowad tuppa to / patuš / papattus / ehe
女 云
- ¹⁶ he hi: / tuppa ka / minu?unin qaðam
云ふ なつた 鳥
- ¹⁷ qusbañ / tuppawun dammi nai pa qaðam
飛ぶ 云はれた 我々 其の 鳥
- ¹⁸ to papatu:ši /

を持つてゐた。妻は大變意地が悪く夫に上衣を興へなかつた。二人は互ひに自慢し合つて、どちらが寒さに負けるかと云つた。彼等二人は新高山に赴いた。夕方になると、別々に寝た。夫は五枚の熊の毛皮を敷き、五枚の熊の毛皮を掛けた。妻は五枚の夜具を敷き、五枚の夜具を掛けた。夜中になると段々と寒くなつて来た。妻は寒さに我慢出来なかつた。夫に云ふやうには「火を起して下さい、火を起して下さい」。夫は火を作らなかつたので、再び妻が云ふやうには、「火、火、を起して下さいよ！エへ、ヒ、ヒ」。そう云ふた時に、鳥に成つて飛んで行つた。我々はその鳥を「ババトウシ」と云ふ。

9. salpoš'aj e
サルボシアン 及び

9. サルボシアン鳥と

- 5. pinvai?un p-in-(a)vai-un, mavai 不足す, p-in-avai 勝つ, p-in-avai-un 負く。
- 6. vaivevaive vaive 「異なる」の反覆。
- 8. sappalan sappal-an, pa-sapal (數物を)敷く, ma-sappal (f)。
- 9. hilhilun hilhil-un, mahilhil 掛ける。
- 10. maqmutin < maqmut 夜中。

- 11. makaðhavin < makaðhav 寒き。
- 16. minu?unin minu?un(i)-in < minu?uni なる。
- 18. papatu:ši 褐色の鳥、嘴の先端は黄色、鳴聲は「ババトウシ、エへ、ヒ、ヒ」と聞ゆと舊人は云ふ、patuš (摩訶して火を造る木製の發火器、現在は「マッチ」に意義變遷せり)による民間語原 (Volksetymologie) より發生せる説話。

- qoqaişmatad
コカイシマタズ
- ² haıda qařbaş duřa pakatuřıđaŋ / ma:q
有る 昔 二 夫婦
- ³ tatine pakatuřıđaŋ a matad bananad /
一 夫婦 死ぬ 夫
- ⁴ ma:q tatine pakatuřıđaŋ a puđanun ha-
一 夫婦 行かされた
- ⁵ nanad / nai đadıřa řinanowad nito
夫 其の 二人 婦 なし
- ⁶ mařabaq tařa jaqmuř masalpo / ma:q
寝る 一 夜 悲歎する
- ⁷ paitađan bananad / řoppa luđun muđaan /
死別した者 夫 の方に 山 行く
- ⁸ ma:q laktanan bananad a / řoppa tařul
捨てられたもの 夫 の方に 谷
- ⁹ muđaan / đadıřa amin minu?unin qađam
行く 二人 皆 成る, 變る 鳥
- ¹⁰ tu?ija / malsalpo đau ana?anaq bananad /
鳴く 悲歎する 自己の 夫
- ¹¹ ma:q tati:ne řoppa luđan a tuppa to
一 の方に 山 云ふ
- ¹² qoqaişmatad / tati:ne řoppa taul tuppa to
一 の方に 谷 云ふ
- ¹³ salpořaŋ / loppako amin ha:n tařa lu-
今 昔 居る處 一
- ¹⁴ đun / ha:n tařa taul tu?ija /
山 居る處 谷 鳴く

10. minu?uni qanuvaŋ takesmot
成る 牛或は鹿 草のある處

- ¹⁷ haıda qařbaş sařıpat tařan / řija tatine
有る 昔 四人 兄弟 其の 一人
- ¹⁸ mařmowav maqaijo / paqoit iřitinna qa-
非常 好色 交接する 牝

2. ma:q ma:q は話の切と出しの助辭, ma:q —, ma:q
となる時には、『一方は—, 一方は』といふ用法にな
ることあり。
4. puđanun pu-đan-un <đaan 道。
7. paitađan pai-tađ-an 或は pa-i-tađ-an か <(ma-)tađ
死す, paitađan bananad 後家, paitađan binanowad
男やもめ。
8. laktanan laktan-an, malaktan (所有せしものか) 不
要になる。
10. ana?anaq ana?anak? 比較. 南部方言 ana?anak.
12. qoqaişmatad 其鳥の鳴聲は qoqaişmatad と聞ゆと云

コカイシマタズ鳥

昔二夫婦があつた。一夫婦はその
夫が死に、他の夫婦は夫が[妻を]追出し
た。その二人の女は一晩中寝ないで
歎き悲しんだ。夫に死に別れた女は
山に行き、離縁になつた女は谷に行つ
た。二人共鳥になつて鳴いて、自分の
夫のことで悲しんだ。山に行つた一
人はコカイシマタズ[意味:夫は死んだ
が仕方がない]と云ひ、谷に行つた一人
はサルボシアン[意味:心が悲しい]と云
つた。今も山にゐるその鳥も、谷にゐ
るその鳥も[そのやうに]鳴いてゐる。

10. 鹿

昔四人の兄弟があつた。一人は大
變好色であつて、牝鹿を姦した。いつ

- ふ, qoqaiş 「仕方なし」 matad 「死す」
13. salpořaŋ 其鳥の鳴聲は salpořaŋ と聞ゆと云ふ,
(ma)salpo 「悲しむ」 (i)řaŋ 「心」
ha:n 「居る處」と名詞に使用せらる, ha:n tařa luđun
「一の居る處は山」。
17. sařıpat sa-řıpat, řıpat 「四」 反覆。
tařan tařa — ?
18. iřitinna iři-tinna 母たる役目をする, 牝 <tinna 母,
接頭辭 iři- 「道具」。

- ¹ nuvaŋ takesmot / qailiř haan đañjan
鹿 草のある處 常に に 居る處
- ² qanuvaŋ tantoppo / tuppawun tina to /
鹿 訪問する 云はれた 母
- ³ muřoqaiřja ka / ni: to řıtala / tuppa tinna
歸りなきい なし 服従する 云ふ 母
- ⁴ miřiřikin to / ma:qe piřitabaan kukun le:ř
考へる 若し 焼かれた 皮 麻
- ⁵ a / na muřbaje qanuvaŋ takesmot / đo:
逃げる 鹿 草のある處 恐ら
- ⁶ qna sokđun ovađpađ / piřitabaanin kukun
く 殘る 子 焼かれた 皮
- ⁷ le:řva / muřbatjen qanuvaŋ / malave amin
麻 逃げた 鹿 従つて行く 又
- ⁸ ovađpađ muřbaje / min?unin ovađpađ qa-
子 なつた 子
- ⁹ nuvaŋ takesmot /
鹿 草のある處
- ¹⁰ mađija qařbaş ha:n totol ta qanuvaŋ
多く 昔 に (地名) 鹿
- ¹¹ a / piřitabaan tinna kukun le:ř a muř-
母 皮 麻
- ¹² řajin amin / ukkajen amin lořpaako to
皆 無くなつた 皆 今
- ¹³ tařa totol ta qanuvaŋ takesmot /
一 (地名) 鹿 草のある處

も鹿の居る處へ遊びに行つてゐた。
「お歸りなきい」と母が云つたが、聴き
入れなかつた。母が考へるやうには
麻の皮を焼けば、鹿は逃げて行つて、多
分息子が残るだらう。麻の皮を焼い
たが、息子も[鹿に]従つて逃げ去つた。
そしてその息子は鹿になつてしまつ
た。

昔はトトルに鹿が澤山ゐるたが、その
母が麻の皮を焼いたので皆逃げ去つ
た。今でもトトルには鹿は一匹も居
ない。

11. a:q e qalom
鳥及び穿山甲

- ¹⁶ haıda qařbaş řunun e qalom / duřa
有る 昔 人 及び 穿山甲 二
- ¹⁷ munhaan mařo?iřimur / paintataiv ma-
行く 草原 競争する
- ¹⁸ sařıpođ pađan / tuppa qalom to / suowaŋ
焼く 茅 云ふ 穿山甲 汝
- ¹⁹ řunun taŋpoř masaspođ / na đakko haan
人 始めに 私 於て

11. 鳥と穿山甲

昔人間と穿山甲がゐた。二人は草
原に行つて、茅を焼く競争をした。穿
山甲曰く「あなたがさきに焼いて下さ
い、私は茅原にゐますから」。人間が焼

2. qanuvaŋ takesmot qanuvaŋ 鹿或は牛, ... takesmot
鹿, take-iřimur 接頭辭 take- 「住む者」 iřimur 草。
3. muřoqaiřja muřoqaiři (歸る)-a, -a 命令法, 其外に
命令法語尾に -e あり。
řıtala 比較 antala 受ける。
4. ma:qe — a 若し。
piřitabaan miřitaba (白) 燃ゆる, piřitaba 焼く,
piřitaba-an 焼く處。
12. amin 氣息を強く發音すれば「總て」氣息を弱く發音
すれば「亦」。

13. totol カヲボツ社カヲボツ社の東北方の山。
17. mařořimur <iřimur 草, 類例. mařopađan 茅原
<pađan 茅。
paintataiv 比較 mintaiř 優越す。
masaspođ (草原の草を) 焼く, iřimur-e 焼く,
iřimuran 焼く處, 焼かるもの, masaspođ は「未來」
の意味ある如く説明者は説明す, ma-sa-řıpođ と分解
し -sa- は řıpođ の ři の反覆と解すべきか。
18. suowaŋ <řo řoŋ の形もあり。

- ¹ padan ta / isiqudaanin bunun a kavava: いたので穿山甲はすばやく地面を掘
茅 焼かれた 人 早く
- ² qalom / makadkađ dalaq toqgavin qalom / 穿山甲 掘る 地 隠れる 穿山甲
つて隠れた。人間が云ふやう「今度は
- ³ kanaqtoŋnin şappođ a / minsummajin 私だ。穿山甲によつて焼かれると、人
終つた 火 出た
- ⁴ qalom / toppa bunun to / na đakkuŋ / 穿山甲 云ふ 人 私
間は焼かれてしまつて、鳥になつた。
- ⁵ o:ka pişitabaun qalom a / mistabin bunun それで鳥は焼けて黒くなつてゐる。
焼かれる 穿山甲 焼かれた 人
- ⁶ a / minu²unin a:q / paqpun a:q mata- なつた 鳥 その故 鳥 黒く
- ⁷ qduppin minişitaba / なる 焼かれたもの

12. minu²uni huttoŋ
なる 猿

- ¹⁰ panahijav moŋqomma / mulumaq pi- 人を雇つて耕作をした。[ある男が
手傳に頼む 耕作する 歸宅する
- ¹¹ t'ija tajje / o:ka mulumaq bunun / ma²un 一足先きに歸つて里芋を炊いた。人
炊く 里芋 歸宅する 人 食ふ
- ¹² tajje / mina²un tajje / o:ka mat²aqqaŋ 々が歸宅すると[その男は]里芋を食べ
里芋 食べられた 里芋 生産になつた
- ¹³ tajje / maqamqam tajje / o:ka şijata ma- てるた。[その男は]里芋を食べ終へて
里芋 いごい 里芋 彼、その 咳
- ¹⁴ palaq / qo / qo / qo / o:ka mundaða ha:n しまつた。里芋は生煮であつたから、
なする 登る に
- ¹⁵ toqo / o:ka şijata tappa a minu²uni ikul / いごかつた。彼はコ、コ、コと咳をした。
切株 彼、その 鎌 なる 尾
- ¹⁶ o:ka şijata minu²uni huttoŋ / 木の切株に登つた。鎌は尾となり、其
彼、その なる 猿
の男は猿になつた。

II. 丹 蕃 (丹大社)
(asaŋ deŋŋađ)

6. mataqduŋnin mataqduŋ-in 黒くなれり、mataqfo 黒色。
7. minişitaba m-in-işitaba 焼かれたもの、mişitaba 焼く。
10. panahijav manahijav (自)手傳に来る(人)、panahijav (他)手傳に頼む。
moŋqomma <qomma 島。
12. mina²un m-in-a²un 食せしもの、<mavn 食す。
- mat²aqqaŋ <mat²q 生。
- 採集期：昭和五年八月。
口授者：丹大社 (asaŋ deŋŋađ) itteki soheqqaŋ (男、當時推定45歳)
補助口授者：lumaū maŋqoqo (男、當時推定53歳)
説明者：sippal maŋqoqo (男、當時推定22歳) sippal の復讐を筆録、説明者、日本語は未だ完全ならず。

1. 創 生 記

1. muŋa miqomiş qabaş 始め 生れる 昔
- ² sija mađaiŋađ qa:baş a / nano naşito 先祖[の話を云ふと]平地のラモガン
彼、其 老人、先祖 昔 下
- ³ te saan lamonaŋ ta ad²ađ binanowađ a / 此の於て (地名) 其の 許り、女
に女許りがゐるたが、七人だけだつた。
- ⁴ mowađ papitto dao / sija bananađ a ha- 男は五人で、天から[来たものです]、先
許り 七人 彼、其 男
- ⁵ himma / maişnasaan deqanin ta / nano 祖は、交合の道を知らなかつた。先祖
五人 から 天
- ⁶ mađaiŋađ qabaşan / ne nijap pahose / sija が交合を欲したが、交合を知らなかつ
先祖 なし 知る 交接 其
- ⁷ mađaiŋađ đau ka / asa pahose ka / ne たから耳に入れた。快くなかつた。
先祖 欲する 交接 なし
- ⁸ nijap pahuse đau ka / sanun tajiŋa ta / 快くなかつたから、鼻に入れた、それか
知る 交接 入れられた 耳
- ⁹ nito masi²hal / nano ne masi²hal / sanun ら口に、腋の下に腔門に、快くなかつた、
良好 良好
- ¹⁰ ŋuttu a / si:n ŋulus a / saan kus²an a [交合の道を]知らないからです。馬鹿
鼻 及び 口 腋の下
- ¹¹ haan patakejan a / ni to masi²hal e / ni 者が云ふやうには[からだ中を突きさ
に 腔門 良好 なし
- ¹² nijap / tuppa mataula to / mimmaq a:ş して交合しようとしたが、交合できな
知る 云ふ 低能(者) 何になる 汝
- ¹³ ni nijap pahuse / musqa laqaiban amin いのではお前達は何の役にも立たな
なし 知る 交接 知れず 貫通された 總ての
- ¹⁴ huboŋ mahuse / tuppa mataula to / na いちやないか。馬鹿者が[又]云ふやう
身體 云ふ 低能(者)
- ¹⁵ tanamon đakko mahuse / sja mataula には、「私が交合をやつてみよう。その
試みられた 私 其 低能
- ¹⁶ tanamun sam puşoq a / ni: to masi²hal / 馬鹿者が臍の所を試みたが、良くない。
試みられた 臍 良好
- ¹⁷ şoppaun tambaqa ta a / đupðav munsaan 下の方へ向けると、次第に陰門には入
向けられたる 下の部分 入る
- ¹⁸ kutte / sija mataula sihalun şa tuttuða った。その馬鹿者は本當に良い氣持
其 低能 良くなつた 本當に
- ¹⁹ a / a:ş a:ş masi²hal tuttuða / luqlas になつた。「アー、アー、本當に良
良好 本當に 呼ぶ

2. mađaiŋađ カトグラン、イハボ mađaŋeŋađ.
3. saan ~ haan
lamonaŋ 社寮附近。
7. asa 北方方言 asa 丹蕃は比較的良く s と s (北方方言の s と ts 参照文法 I. 分布) の區別を保つ。音韻比較上 asa なるべきもの、sippal は asa と發音す。
8. sanun saan-un 居る物、saan-an 居る處、saan に於て。
tajiŋa 北方方言、中部方言 tajiŋa、南方方言 tajiŋa metathesis の例。

11. patakejan pa-take-(j)an 脱糞する處 <take 糞。
12. mimmaq mi-maaq 何になる <maq 何。
a:ş 丹蕃特有の代名詞。
15. tanamon tanam-on <tanam 試む。
sja sija.
16. sam puşoq のため同化し saan > sam.
17. şoppaun şoppa-un, maşauppa に向す、şoppa の方に。
18. si²halun si²hal-un <(ma-)si²hal 良き。
tuttuða <tuða 本當に。

- ¹ mattaula 低能 外の(人) 此處 良好 此處 ittē masi'hal / itte masi'hal / itte
- ² masi'hal / itte masi'hal / sija manaiṅal a / 良好 此處 良好 其の 伶俐な(者)
- ³ tanamon a tuituḍa to masoḥa sija / 試みられた 本當に 痒い
- ⁴ duṅḍavin 彼等 nae / minsummajen 出た 子 ovad'ad
- ⁵ a / nano 二人 daduṣa 子 ovad'ad / ad'ad のみ 男
- ⁶ nad /
- ⁷ sija masitoqqaṣ 年上の 男 bananad a / tilukkis 薪を取る
- ⁸ dau ka / sija masino'ba 年下の 男 bananad a /
- ⁹ ilumaq / 在宅
- ¹⁰ sija 天 dau deqanin a / mqaqal a pat- 落す 紋様
- ¹¹ tasan a / nano sija 文字 masinoba 年下の 男 bananad
- ¹² a / muṣoo 直ぐに saqqaḥ 知る pataṣan / haḍin 文字 居た、来た dao
- ¹³ masitoqqa sja / tупpa 云ふ dao / masinoba to / 年下の
- ¹⁴ qalqalan 落された pataṣan dijee ka / saqal aṣ / 文字 此の 知る 汝
- ¹⁵ tупpa 云ふ masitoqqaṣ to / ne saak saqaal / 年上の 私 知る
- ¹⁶ nano 彼等 nae pataṣan a / paduṣawun 文字 二分された dao
- ¹⁷ ka / tупpa 云ふ masinoba to / ite saak matas'e 年下の 私の
- ¹⁸ doqdoq e / na 泥 iṣikalunan 使はれた moṅqomma / 耕作する
- ¹⁹ tупpa 云ふ masitoqqaṣ to / na saan saak luḍun 年上の 私 山
- ²⁰ ta / muṅqoqomma ke / ne 知る saqaal pataṣan / 文字

い！)。馬鹿者が外の人に呼んで云ふやうには、此處が良い、此處が良い、此處が良い。利口者も、やつてみせると本當に痒くなつた。次第次第に子供が生れ出た。子供は二人だつたが、男だけだつた。

兄は薪採りに行つたが、弟は家に居た。

天が、文字を落した。弟は、直ぐに文字を覺えた。兄が歸つて来た。弟が、云ふやうには、此の文字が落ちて来た。覺えて下さい。兄が云ふやうには、『私は覺えられない。その文字が、二分せられた時に、弟が云ふやうには、『これで私は泥を作つて、耕作に使ひませう。』兄が云ふやうには、『文字は覺えられないから、開墾しに、山へ行きます。』兄は行つた。山に行きました。二分した文字をラモガンで(河に)流してしま

4. duṅḍavin <duṅḍav 段々。
 7. tilukkis ti-lukkis 採薪す <lukkis 薪。
 9. ilumaq i-lumaq 在宅 <lumaq 家。
 10. pataṣan pataṣan <pataṣa 紋様を置く、字を書く、pataṣan の原義は「紋様」にして「文字」文字にて書かれたる「番人旅行證明書」文字を教へる「番童教育所」と意義進展す。

12. haḍin haḍa-in 在る様になれり、來れり <haida 在り。
 14. qalqalan <maqalqal。
 16. paduṣawun pa-duṣa-(w)un <duṣa に。
 18. moṅqomma moṅ-qomma <qomma 島。
 20. muṅqoqomma moṅqomma の反覆。
 ke e に同じ、前行音母音なる時は ke。

- ¹ mudaanin 行つた ?dau 年上の masitoqqaṣ / munluḍun 山に行く
- ² a / paṅqanuun (水に)流された dau / paduṣa 二分した pataṣan 文字 saan
- ³ lamoṅan ta /
- ⁴ nano 行つた saanin dau asaṅ (地名)辯 banuwad 大 社
- ⁵ ta / laniṅ'avan a / 洪水 musbajen 逃げた dau duma 外の(一帯)
- ⁶ munsaan 行く savjeq ta / sija 新高山 duma 外の tunaasaan に行く
- ⁷ loṅqaḍan ta / nano 卓社大山 ukka 缺る ṣappod / e 火 ukkan 存在せず
- ⁸ qabasāṅ マツチ pattus / ṣadfoo 見る dao bunun 人 saan
- ⁹ savjeq a / haḍa 新高山 dao titifo 煙 saan loṅqaḍan / 卓社大山
- ¹⁰ tупpa 云ふ dau bunun 人 saan savjeq ta / koko- 新高山 墓
- ¹¹ lpa 取る ṣiḍa ṣappod / mudaanin 行つた dau kokolpa 墓
- ¹² ṣiḍa 取る musqon dau ṣappod e / tomkombo 消された 火 潜る
- ¹³ saan 水 d'anum / tупpa 云ふ dao to / leqqoleqqo (一種の鳥)
- ¹⁴ ṣo'ojin 汝に似た ṣaes ṣiḍa / tупpa 交代 dau leqqoleqqo 取る 云ふ (一種の鳥)
- ¹⁵ to / ne なし saak maqto e 出來う masakbit 痛い buṅṅo / 頭
- ¹⁶ moppa その故に pinahiva 口實にした leqqoleqqo maḍoqqolas (一種の鳥) 白い
- ¹⁷ boṅṅo ka / moppa その故に maḍoqlasin 白くなれり duṅṅo 頭
- ¹⁸ dau / si:n (鳥の名) dau qaipes tuppaun a / tudje- 云はれた 其の時
- ¹⁹ epen 以後 dau / haḍin 有つた ṣappod / tudjeep 火 dau 其の時
- ²⁰ saanan 居る savjeq ta / malluṣikon 新高山 dau titte / 一所に住む 獸

つた。

辯大社に居た時に、洪水が出た。新高山に逃げた人もあれば、卓社大山に逃げた人もあつた。昔はマツチが無いかから火がなかつた。新高山の人々が見ると、卓社大山に煙があつた。新高山の人々が云ふやうには、『墓よ火を取つて來い。』墓は火を取りに行つたが消えてしまつた。水に潜つたからです。[人々が]云ふやうには、『レツコレツコよ、お前が代つて取つて來い。』レツコレツコが云ふやうには、『頭が痛いから私は出來ない。』レツコレツコ鳥は頭を白くして遁辭を設けたから、頭が白くなつてしまつた。次にカイビシ鳥が命ぜられた。その時から火があるやうになつた。新高山に居た時には、獸類と一緒にあつた。鹿も山羊

1. munluḍun mun-luḍun <luḍun 山。
 2. paṅqanuun 比較. paṅqannu 流る。
 6. tunaasaan tuna-saan? 接頭辭. tuna-「赴く」比較. tuna-lumaq 家に入る。
 7. loṅqaḍan カトダラン, binoqaḍan。
 14. ṣo'ojin ṣo'o-(j)in <ṣo'o 汝、類例. ṣo'ojin tilukkis

「薪採は君だぞ」-in は「過去」より寧ろ「決定せり」の意。「汝に爲さすことにせり」。
 16. pinahiva p-in-a-hiva <(ma-)hiva だます。
 17. maḍoqlasin maḍoqlas-in。
 20. malluṣikon 比較. muṣikon 共に。

- ¹ nano madija dao sja qanuvaj / side /
多く 鹿 山羊
- ² sin vanis / tanam makulut dau ka /
猪 試む 切る
- ³ nejaj pataun e / ukkan simmad / sija
未だ-しない 殺された 未だ-ない 脂
- ⁴ haiða simmad a / pattaunin / nano sija
脂 殺された
- ⁵ dao saan silani²av ta / leq²utan dau
河口 止められた
- ⁶ ivut a / min²somma dao / madai² kakala² /
蛇 大きな 蟹
- ⁷ maqaktis ivut a / moppa mu²owaqain
はさむ 蛇 その故に 流出した
- ⁸ dao ni²av / moppa ukkin dau ni²av
洪水 湖 その故に 無くなった 洪水
- ⁹ asa² te / ma: dao qaba²sa² a / ma²sihala²
- ¹⁰ asa² te e / ma²bok²ava² dao / moppa min-
村 平ら その故に 悪く
- ¹¹ dikilajen dalaq e / lanin²avan qab²as /
なつた 土地 洪水 昔
- ¹² moppa ukkin ni²av a / mu²oqaisin dao /
その故に 洪水 流出せり
- ¹³ minusba²je bunun saan savjeq ta / sin
逃げた 人 新高山
- ¹⁴ saan do²qada²n ta munsaan asa² de²ppad
行く (地名) 辯 大
- ¹⁵ danuwa² ta / saanin dao asa² de²ppad
社 (地名) 辯 大
- ¹⁶ banuwa² ta /
社
- ¹⁷ sija dao madai²pad a / ko²akoda ka /
先祖 仕事
- ¹⁸ laqtan dao ova²d²ad / moppa antabanun
残された 子 それ故に 奪ひ取られた
- ¹⁹ dao / madu²skav kusbaje panasaan / ta-
壘 飛ぶ まで 大主
- ²⁰ moqo ta / kantuluna²n dao / tama sija
公山 後方から(見たり), 跡をつけた 父

5. silani²av (i)si-lani²av 海にする處「河口」<lanin²av
海, isi- は早き發音に於て>si- となることあり, isi-
は「道具」を示すと共に「場所」も示す。
10. mindikilajen min-dikila-(i)en <(ma-)dikila 廻き,
min- 「に化す」。
13. minusba²je m-in-usba²je 逃げたもの <musba²je 逃

も猪も澤山居た。切らうとする時に、
脂がまだ無ければ殺さない、脂があれば、殺した。河口が蛇に堰止せられて
るたが、大蟹が出て来て蛇を締め切つ
たから、洪水が流出した。此の蕃社の
邊の洪水が無くなった。昔は、蕃社は、
平らであつたから良かったが昔の洪
水のために土地が悪くなった。洪水
が無くなったので、新高山と卓社大山
に逃げた人々は辯大社に来て、辯大社
に住んだ。

先祖が、仕事をする時に、子供を家に
残しておいた。鷹が掴取つて、大公主
山まで飛んで行つた。父は後から見
てみると、[子供が]大公主山まで泣き續

- ぐ。
18. laqtan <malaqtan 開墾其他の用事のため外出する時
同伴せず家に残し置く、或は耕作中島に於て遊ばせ置
くを malaqtan と云ふ。
antabanun <antaban 奪取る。

- ¹ şa²oo ka nano tan²a dao tata²jis / pana-
見る 聞く 泣く ま
- ² saan tamoqo ta / munsaan dao tama /
で 大主公山 行く 父
- ³ tamoqo ta şa²o ka / nano ad²adin dao
大主公山 見る 許りであつた
- ⁴ bantas kinuddaan madu²şqav / maha:u
足 食ひ残す 壘 怒る
- ⁵ madai²pad a askad malkatto / nano sija
先祖 捨鉢になつて 畏なかける
- ⁶ haiða dao bunun a / makipau sja sidaunin
人 先に行く 取られた
- ⁷ dao tiniskatto / madu²şqav / moppa hai²in
畏にかつたもの 壘 その故に ある壘に
なつた
- ⁸ bunun tuppau²n to / madu²şqaban e mi-
人 云はれた 食
- ⁹ naun tiniskatto madu²şqa /
べた 壘
- ¹⁰ sin dao madai²pad dau tu²feep bunun
先祖 人
- ¹¹ kabanhil dau ka / nano madai² şa kobo
建築材料を採る 大きな 棟木
- ¹² siniða silulu:nin dao bunun a / ampaş
取りたもの 繩を引け引 人 迎へる
- ¹³ dau mataula to / aşı makulu²d e miş²avin
低能(者) 欲 早く 酒を飲んだ
- ¹⁴ дума bunun a / sija dau kobo a / mahau
外の 人 棟木
- ¹⁵ a / askad dau tomkombo saan dalaq /
潜る 土地
- ¹⁶ sija kobo tomkombo a / sija daduma
棟木
- ¹⁷ neto tomkombo a / masalpo dao ka /
心配する
- ¹⁸ tappis dau / mahimma dau puşşul a /
拭ふ 洩
- ¹⁹ masaşo: dau mimbatto / sija dau puşşul
直ちに 化石する 洩

けてゐるのが聞えた。父は大公主山
に行つて見ると、鷹に喰ひ残された足
だけあつた。先祖は怒つてやけにな
つて畏を仕掛けた。ある男があつて、
先に行つて畏に掛つた鷹を取つてし
まつた。畏に掛つた鷹を食べたから、
『鷹部』といふ姓の人達があるやうに
なつた。

そして先祖がその時代に建築用の
材木を採りに行つた。先祖が棟木を
取つて繩で引張つて来た。ある馬鹿
者が迎へに来て[云ふやうには]「外の
人達は酒を飲んで居ますから早く歸
つて下さい」。棟木は、怒つて、やけくそ
になつて地面を潜つた。棟木は潜つ
たが潜れない人もあつて[其の人達は]
心配して、泣いた。洩をかむと[その人
達は]たちまちに石に成つてしまつた。

1. tata²jis <tajis 泣く, 繼續を示す「反覆」。
3. ad²adin ad²ad-in <ad²ad のみ。
5. malkatto mal-katto <katto 畏。
7. tiniskatto t-in-i-katto <katto 畏。
8. minaun m-in-aun <maun 食す。
9. madu²şqaban アヌの氏族の一族, <madu²şqab 『壘』
より轉來, -an 「に關するもの」, -an の接尾辭を取る
姓多し。

11. kabanhil ka-banhil <banhil 建築用材。
12. siniða s-in-iða <sida 取る。
- silulu:nin silulu-un-in <silulu 繩を附け引く。
13. miş²avin miş²av-in <miş²av 酒を飲む。
16. daduma da-duma <duma 外の。
19. mimbatto <min-batto <batto 石, min- 參照。
610頁, 註10。

- ¹ a minqassal / sija dau tinuḡkombo bu-
方解石 溜つた 人
- ² nun a / nano adʔad̄in dau dalaq buḡḡo /
- ³ pa:unin ta dau dalaq saan buḡḡo ka /
押の落されたもの 土地
- ⁴ isaḡain duma / muḡḡoqaiḡ dau mumba:av
何處に行つたか 外の 歸る 上を
- ⁵ ḡad̄oo to / isaḡain duma / nano sija
外の
- ⁶ duma / minqattaḡin dao / nano koppin
外の 石の一種 のみで溜つた
- ⁷ dao / tinuḡkombo ta / silulu kobo
引張る 棟木
- ⁸ sulumaq /
家まで
- ⁹ moppin dao / isaan asaḡ daiḡḡad̄ banu-
に於ける(人々) (地名)辯大 社
- ¹⁰ waḡ a / moḡḡomma ḡao ka / moppa
その故に
- ¹¹ isikaliḡunin dao uvaḡʔad̄ e / duḡaaḡ vale /
乾枯びされた 子 二個 太陽
- ¹² moppa maha:u tama ke / iḡikaliḡun
その故に 怒る 父 乾枯びされた
- ¹³ ovaḡʔad̄ a / tuppa tama to / askaḡ kana-
子 云ふ 父 やげに 征伐
- ¹⁴ ʔasaḡ vale ke / iḡikaliḡun / muḡaan dau
する 太陽 乾枯びされた 行く
- ¹⁵ kanaʔasaḡ a / kakieb dau masuwaḡ iḡok /
征伐する 其の前に 植ゑる 蜜柑
- ¹⁶ maadaḡi dao tatine ovaḡʔad̄ kanaʔasaḡ a /
連れて行く 一人 子 征伐する
- ¹⁷ himma ḡau loḡḡaibad saan tantabanan /
五 穂 右
- ¹⁸ himma dau saan tantavile / hitolun saan
五 左 掛けられた
- ¹⁹ tajiḡa a / ulaḡiḡan dau amin kuskus
耳 詰め込められた すべての 爪
- ²⁰ tilas / muḡaanin kanaasaḡ a / kasaanin
粟粒 行つた 征伐する 到着した
- ²¹ dao / inḡumaan vale ka / siḡa ḡau iḡimut
出る處 太陽 草

1. minqassal min-qassal < qassal 白色石英, 黒灰色の石
版石安山岩に露出せる白色の石英小塊は 漢を想起せ
しむ。

3. pa:unin pa-un-in < pa 掃ひ落す。

4. isaḡain isaaq-in < isaaq 何處。

漢は方解石になつた。溜つた人達は、
頭が土だらけになつた。頭の土を拂
ひ落した時に、外の人達は何處へ行つ
たのだらう[と考へた]。歸つて外の人
達は何處へ行つたのだらうと上を見
ると、堅石になつてゐた。溜つた人達
だけで、棟木を引張つて歸宅した。

辯大社の人々が開墾をしたが、太陽
が二つあつたので、子供が乾枯びてし
まつた。子供が乾枯びたので父親は
怒つて、云ふやうには「乾枯びされたか
ら、まゝよ太陽の奴めを征伐して呉れ
よう」。征伐に出掛けることとして、(出
發)前に蜜柑の木を植ゑた。一人の子
供を征伐に連れて行くことにして、(粟
を)右耳に五穂、左耳に五穂引掛け、すべ
ての爪に粟粒を詰めた。征伐に行つ
た。太陽の出る處に到着した時に、草
を取つたが、直ぐに枯れた。外の人達
を取つたが、どれもこれも枯れてしまつ

mumba:av < mun-ba:av < ba:(a)v 上。

6. koppin kopp(a)-in < koppa のみ。

8. su lumaq su 茲。ヌマロワン ḡau lumaq。

11. isikaliḡunin isi-kaliḡ-un-in < (ma-)kaliḡ 乾枯す。

- ¹ a / na: muḡo iḡibulsokan / siḡa duma
枯れた
- ² iḡimut a / iḡibulsokan dau amin / nano
草 枯れた
- ³ si:n dao asik siḡawun a / iḡikaḡlok tudiee-
筭草 取られた 隠小屋を作る
- ⁴ pen dao / ne:ḡeḡ iḡibulsokan / haiḡin dao
枯れた
- ⁵ masmowab mabaḡais / maipataḡ a pana-
甚しく 熱い(もの) 殺した者 (矢を)
- ⁶ qonin dao tama / nano tainasaanunin dao
打たれた 父 命中した
- ⁷ matta / musba:ḡen dao bunun a / na da-
目 逃げた 人 捕へ
- ⁸ mo:n dau buwan a / nito isitala da:mon
られる 月 出来得る 捕へられる
- ⁹ e / atikis / damo:n dau ka / makasijok
小さい 捕へられる 間から抜ける
- ¹⁰ saan tanudoḡ / moppa punippaḡ dau
指 その故に 唾をつける
- ¹¹ tanudoḡ mansippa:ḡ a / tuppa dau bowan
指 上から押へる 云ふ 月
- ¹² to / maḡaḡ ḡaḡo kalumsn manaḡ ḡakko /
如何して 汝 無業苦業に 矢を射る 私
- ¹³ tuppa dau madaḡeḡḡad̄ to / maha:u
云ふ 先祖 怒る
- ¹⁴ sa:ke / iḡikaliḡun ḡo ovaḡʔad̄ a / moppa
私 乾枯びされた 汝 子 その故に
- ¹⁵ kanaḡaḡ saak / tuppa madaḡeḡḡad̄ to /
征伐する 云ふ 先祖
- ¹⁶ asa ne maha:u e / naʔ laḡat e / na saivak
怒る 我慢する 興へる
- ¹⁷ aḡi muwa / iḡihimma ḡo matta / aḡusun
汝 縛 杖はれる 目 連れられた
- ¹⁸ dau buwan a / daduḡa bunun a / munsan
月 二 人 行く
- ¹⁹ asaḡ buwan ta / pabaḡbaḡ dau to / asa
村 月 話す
- ²⁰ amo lulusʔanin / nano na ḡakko ka / taḡa
汝等 祭が行はれた 私

た。次に筭草を取つて、其の時に隠小
屋を作つたところが、枯れなかつた。
大變に熱い者が現れて來た。殺人者
は父に射られた。目に當つたから、人
間は逃げたが、月は捕へようとした。
然し小さいので、捕へることが出来な
かつた。捕へたが、指の間から抜け出
た。指に唾をつけて押へて、月が云ふ
やうには、「どうしてお前は無暗に私を
撃つのか」。先祖が云ふやうには「あな
たが私の子を乾枯びさせたから、私は
腹が立つてゐる。それだから私は征
伐をするのです」。先祖が云ふやうに
は「怒らすゐて下さい、我慢をして下さ
い、綿を上げますから、目を拭いて下さ
い」。月は二人の人を連れて、月の村に
行つた。話すやうには「お前達は祭を
せねばならない。私は、一年に、十二回
通過するが、七度の祭で充分である」。
其の時に飯を炊いてくれたが、[我々の

1. muḡo 比較 muḡaḡo。

iḡibulsokan 比較 piḡibulsok 枯らす。

3. iḡikaḡlok 比較 iḡilok 小屋。

5. maipataḡ mai-pa-taḡ 殺人者即ち太陽 < mataḡ 死す。
panaḡonin panḡ-on-in < manaḡ 射る。

6. tainasaanunin taina-saan-un-in 接頭辭, taina-
ma 杖ふ道具。

10. punippaḡ pu-nippaḡ < nippaḡ 唾。

16. na na は「未來」を示すと共に「希望」を示すものの如
し。マライ語 hēndak/nak の用法に同じ。'nak pērgi
『行き度し』『行かん』
saivak saiv+ak 『私』

17. iḡihimma 比較 mahimma 杖ふ, iḡi-「道具」, iḡihim-
ma 杖ふ道具。

20. lulusʔanin. lu-lusʔan-in < lusʔan 祭る。

- ¹ punsanana a / mumas²aq qaq duša aqgae
行くこと 十 及び 二 通る
- ² a / nazno maqto pitto lus³anan / dieepen
充分 七 祭事 その時に
- ³ dau pitija qaisij a / mavaive dao to / sija
炊く 飯 異つた
- ⁴ dalaq a luđaqqon a / minšummajin dao
出た
- ⁵ mašdan takedauloq / nano isinabanin bu-
同じ 蚯蚓 教へられた
- ⁶ wan lulus⁴an a / na itbusan dao babo e
月 祭事 謝禮として 豚
- ⁷ tolkok / tuppa bowan to / maže maun e
雞 云ふ 月 若し 食ふ
- ⁸ isita⁵a na minšumma qaulus / nano sija
それ 首飾(の玉)
- ⁹ qaulus ta / na asa ikuma⁶ajon e lulus⁷an /
首飾(の玉) 使はれる 祭事
- ¹⁰ na: mudaanin dao madadaiğpad a /
行つた 先祖
- ¹¹ munhaan asağ a / nano mašaansinhavin
村 黄色になつた
- ¹² dao si:naowad iđuk al mudaan / na
植ゑた 蜜柑 時に 行く
- ¹³ tasin dau loğqaibađ / anšoqaış / al aminun
一つに 穂 食ひ残す 帰る すべて
- ¹⁴ dau ma⁸un a / moppa paka⁹unan dau
食ふ その故に 食はしめる
- ¹⁵ buwan / haiđa dau ma¹⁰naipad a / tuppaun
月 有る 利口者
- ¹⁶ dau / minanaq buwan to / paita jimma
射た人 月 汚にする 手
- ¹⁷ ke / na haiđa masi¹¹hal qaulus / tuppa
良い 首飾玉 云ふ
- ¹⁸ manaipal to / ne: saak e isinakan ma-
怜悯な(者) 汚い 手で

ものと異つてゐて、蚯蚓のやうなもの
が出た。月が祭事を教へたから、豚と
雞とをお禮に與へた。月が云ふやう
には「もしそれ(月の作つた飯)を食べる
ならば首飾玉が出るだらう。その首
飾は祭に使はねばならぬ」。

先祖は、蕃社に參つた。出發の時に
植ゑた蜜柑は、黄色になつてゐた。粟
の穂は一つ食ひ残されてゐた。皆食
べる筈であつたが、月が食べさせてく
れたからです。利口者がゐた。月を
射た人が、云ふやうには「綺麗な首飾玉
があるから、手を出しなさい」。利口者
が云ふやうには「糞をいちるのは汚い
から手を出しません」。馬鹿者がゐた。

1. punsanana pun-sa(a)n-an, mun-saan 『赴く』の名詞形, tas'a punsanana 『一週り』即ち『一年』。
2. pitto lus³anan 『アヌシ』族は一年を十二ヶ月或は十三ヶ月に分割せる太陽大陰曆を有し、年中行事は其曆に依り正確に行はる。祭事の行はる月は丹大社カネトツツ社に於て八ヶ月、カトグラン社に於て九ヶ月、本文には「七回の祭事」とあれど、八ヶ月執行す。
3. isinabanin 比較. mašinab 教ふ。
4. itbusan i-tbus-an 謝禮として與へられしもの、itbos, timbos <t-in-bos 謝禮、貸金。
5. maže カトグラン ma:qe.
6. isita⁵a 比較. isite 此, カトグラン itta 其 itte 此。

10. na: 『未來』の na にあらず、<nano?
11. mašaansinhavin <masinhav 黄, mašaan- (は『多數』を示すといふ説明を得たり、類例. masaanfaykad (多くの) 立つ <hankad 立つ。
12. si:nsowad s(a)-in-sowad 植ゑたるもの <(ma-)sowad 植う。
13. anšoqaış 比較. mušoqaış 歸る。aminun <amin すべて。
16. minanaq m-in-anaq <manağ 射る。-in- は『受身』の場合多し、この例は『發體』の例。paita pai-ta <ta 其。

- ¹ ridoō takke / haiđa mataula / tuppaun
いちる 糞 馬鹿者
- ² ma²da²daipad to / saivak as qaulus a /
先祖 汝 首飾玉
- ³ paaita jimma / nano mataula ne nijapto
手 知る
- ⁴ ma²isinaq a / paltala dan takke a / nano
汚い 手を受ける 糞
- ⁵ masisihal dau qaulus minšumma / tuppa
非常に善い 首飾玉
- ⁶ dau munaipal to / saive saak qaulus /
怜悯なる(者) 與へなさい 私に 首飾玉
- ⁷ nano ađađin dao / qaulus taula / minšum-
許りであつた 首飾玉 悪い
- ⁸ ma al / si:n manaipal / tuppa ma²daipad
其時に 其の次に 怜悯なる(者) 云ふ 先祖
- ⁹ to / sija qaulus a binaliv babu e tolkok
首飾玉 交換した(もの) 豚 雞
- ¹⁰ a / sijata asa jikmajon e lulus⁷an / nano
祭事
- ¹¹ bunun lulusanin na / painvađin dao
人 祭が行はれた 各自が分れた
- ¹² takebaka / tuppa dao to / paintativ atta
卡社蕃 云ふ 競争する 我々
- ¹³ lištummad / nano sija dau takebaka ma-
歌 卡社蕃
- ¹⁴ staan masli:ğ / nano maha:o takebanawad
最も 上手 替蕃
- ¹⁵ dau ka / mastaan maşleğ a / aşkad dao
- ¹⁶ takebanuwad / masaspa:k toqğais a /
替蕃 (食物を口に)押入れれる 煮た芋
- ¹⁷ moppa ne:en takebaka / maşleğ listum-
卡社蕃
- ¹⁸ mad / na:no a:m bunun saan asağ banu-
我々 人 替大社
- ¹⁹ wada / tudieep al paivad qalavağ / tuppa
分る タイヤル族 云ふ
- ²⁰ dau qalavağ madadaiğpad to / paiso dau
タイヤル族 先祖 其のものに
- ²¹ batto di:ke na painvađ / nano sija qala-
石 此の 分る タイヤ

先祖が云ふやうには「私はお前に首飾
玉をやるから、手を出しなさい」。馬鹿
者は汚なさを知らないから、糞を手で
受けた。すると素的に綺麗な首飾玉
が出て來た。利口者が云ふやうには、
「私に首飾玉を下さい」。[馬鹿者の]次に
利口者が[手を出した時に、悪い首飾玉
だけが]出た。先祖が云ふやうには「此
の首飾は豚と雞と交換したものであ
るから、祭に用ひねばならぬ」。人々が
祭事をするやうになつてから、卡社蕃
が分離した。我々は歌の競争をしよ
うぢやないかと、云つた。卡社蕃は一
番上手であつた。一番上手だつたの
で、替蕃は怒つて、替蕃は自棄になり、煮
芋を[卡社蕃人の]口に押し入れたので、
卡社蕃は、上手に歌へなくなつた。我
々が替大社にゐた、その時にタイヤル
族が分れた。タイヤル族が先祖に云
ふやうには「此の石を汝等に與へて分
れよう」。彼等タイヤル族は、[我々と]同

4. paltana 比較. antala 受く。
5. masisihal ma-si-sihal 黄だ好き <ma-sihal 好き。
9. binaliv b-in-aliv <baliv 交換す。

11. painvađin 比較. minuvad 分る, paivad 分る。
19. tudieep al 其時に。
20. paiso pai-so 汝のものにす。

- ¹ vaŋ a / tašimaitaš'a /
ル族 単一なり
- ² moppa moqnin nae painva:d bantalap /
その故に 再び 彼等 分る
- ³ moppa si:n takebaka / moqna painva:d
それ故に その次に カ社蕃 分れる
- ⁴ taketudo ke / si:n takeqoultaban / ma:qa
卓社蕃 その次に カンタバン蕃
- ⁵ bubukun a / taksisija qalavaŋ / nano saan
郡蕃 一所に居る タイヤル族
- ⁶ taksisija takbanuwad a / moppa munitte
郡蕃 その故に 来る
- ⁷ qaŋanup daŋðav dau haiða take aso /
狩獵する 段々に 糞
- ⁸ tal'ajan dau battal e sin maðoq / tuppa
生やされた 糞 糞 云ふ
- ⁹ dau vatan to / masihal qan ite kakaunun /
(人名) 食物類, 作物
- ¹⁰ moppa mun'itte dau vatan / tanam moŋ
その故に (人名) 試みる 開
- ¹¹ qomma ka / masihal dau sja kakaunun /
糞
- ¹² moppa tuna'ite'en dau vatan a / duŋðavin
その故に 此處に來た (人名) 漸次に
- ¹³ dau duma bunun kinuðin tuna'itte ja /
人 後
- ¹⁴ nano sija vatan taŋŋos tuna'ite a / moppa
(人名) 始めに その故に
- ¹⁵ tuppaunin to takevatan /
丹蕃

2. saðo'so
サゾソ

- ¹⁸ tudije:p dau qabašaq a:l / haiðan sa-
其時に 昔 時に 居た
- ¹⁹ ðo'so a / sija saðo'so dau ka / tanu'ale
その 招待する
- ²⁰ madadaipad a / sija madadaipad mu-
祖先 祖先 行

1. tašimaitaš'a <taš'a-->
3. takebaka カ社蕃は二回分離せる記述なるも、目録の
混乱せしめならん。
5. taksisija tak(e)-si-sija 其處に居る者 <sija 其、其處、
take-「場所」。
7. qaŋanup qaŋanup 「獵」の反覆。
8. tal'ajan 生へる處、比較 pa-tali-tija 生やす、pa-tali-

源である。

更にタイヤル族から花蓮港ブタン族が分れた。それからカ社蕃[が分れた]それから卓社蕃とカンタバン蕃が分れた。郡蕃はタイヤル族と一緒にゐた。我々は郡蕃と一緒にゐたが、狩獵に此處にやつて來たところがいつの間にか犬糞のある處へ來た。黍と粟が生へてゐた。バタンといふ人が云ふやうには、「此處は作物が上等だ」。バタンは此處に住んだ。すると次第に外の人も後から此處に來た。バタンが最初に此處へ來たから、タケバタン[丹蕃]と云はれた。

2. サゾソ

昔、サゾソが居て、其のサゾソが、先祖を招待したので、先祖はサゾソの處に行つた。酒を飲みに行つて、酒を飲ま

- sija 肥料。
e sin 兩者共「及び」の意、重複せるも聞きしまゝ記録す。
12. tuna'ite'en tuna'ite'en 此處に來れり <itte 此處、tuna- 參照、原文 I. 第609頁、註6。

- ¹ saan saðoso ta / miš'av a / na: miš'av
く 酒を飲む 酒を飲む
- ² dau ka / sija takke a:s / saan tahamiš /
糞 に 糞
- ³ tom'baqqon dau sintoq'lo ka / mada'om
開けられた 蓋 臭い
- ⁴ sja takke / sija madadaipad a / maha:u a /
糞 先祖 怒る
- ⁵ mimba:š da:o tanu'ale / haiðin dao sa-
返す 居た、來た
- ⁶ ðo'so a saan vaŋ'lad ta / mataš'e hattal /
河 作る 橋
- ⁷ tudijeep saðo'so tunuhattal a / sija mada-
橋を渡る 先
- ⁸ deŋpad dao ka / motoktok e hattal / sja
祖 切る 橋
- ⁹ saðo'so anin kamišqaj a / muntonoq dau
すべて 中央に 崩壊す
- ¹⁰ hattal / sija amin saðo'so a maŋqanno /
橋 すべて 流れる
- ¹¹ sija takseseja saðo'so a / maha:u e ma-
一所に居る 怒る
- ¹² ŋqannojen duma / toppa duma to / aša
流れた 外の 云ふ 外の 欲す
- ¹³ šambot pašampanaq / na pašampanaq
早速に 戦ふ 戦ふ
- ¹⁴ madadaipad ka / pinvaijonin dau mada-
先祖 負けた 先
- ¹⁵ deŋpad / nano sija saðo'so a / nito maqto
祖 出來得る
- ¹⁶ pavaijon / nano sija madadaipad a /
負ける 先祖
- ¹⁷ nejeŋ papijaq miqommiš / nano saðo'so
如何程、澤山 生きる
- ¹⁸ a mawað / šašapat a mattad a / saðo'so a
のみ 四人 死ぬ
- ¹⁹ haan išimoit toŋqavin a moosqa matiš-
草 隠れる 不明 打つ
- ²⁰ boŋ / nano šavis atitikkis sja musqa ma-
彈丸 極小 不明

うとすると、糞が糞の中にあつた。蓋を開けると、糞が臭かつた。先祖は怒つて、お返しに招待することにした。サゾソが河の處に來た。橋を作つた。サゾソが橋を渡つた時に、先祖は、橋を切つた。サゾソは皆真中にゐたので、橋が崩れ落ちると、サゾソは皆流れた。[招待に應じて行かなかつた]仲間のサゾソは、他の[招待に應じて行つた]ものが流れたので怒つた。[行かなかつた]者共が云ふやうには、「速刻に戦ひた」。先祖も戦争する事にしたが、先祖は負けた。サゾソは負けなかつた。先祖には、生き残つたものは澤山なかつた。サゾソが四人だけ死んだのは、サゾソは草の處に隠れてこつそりと射撃したからです。彈丸は極めて小さく何處に當つたか判らずに先祖は、サゾソに打たれて澤山死んだ。

2. a:s 接辭。
3. tom'baqqon <(ma-)tom'baq 開く。
sintoq'lo (i)š-in-toq'lo? <(ma-)toq'lo 蓋をす。
7. tunuhattal tunu-hattal.
8. e 對格の如き使用。
9. kamišqaj ka-mišqaj 中央に居る <mišqan 中央。

11. takseseja taksisija.
13. pašampanaq 比較 manaq 撃つ。
14. pinvaijonin p-in-vai-(j)on-in 負けし者 <pavai 勝つ、
接尾辭 -in と挿入辭 -in- の二重の使用、比較 pa-vai-(j)on 負く。

¹ daɬaiŋɬad / papija mataɬ paʃapanaqan
先祖 死ぬ

² saðoʔso /

3. qanivalval
虹

³ haiða dao binanowað e bananað / qaba-
有る 女 男 昔

⁶ ʃaŋ a / nai dau ka / maqalaʃa tamoqhiija
彼等 貧乏な 裸體

⁷ ukka pinainoq a / sija binanoʔað a /
無い 衣服 女

⁸ maqaijo sija pinainoq bunun / moppa
盗む 衣服 人 その故に

⁹ maðʔav bananað a / tuppa bananað to /
恥しい 男 云ふ 男

¹⁰ miŋqanivalval saam e / maðʔav saak e /
虹になる 我々 恥しい

¹¹ maqaijo sja binanowað / tuppa nae to /
盗む 女 云ふ 彼等

¹² maie luvluvan a / na ðakko mabalop
若し 暴風が吹く 私 嘔き止める

¹³ lovlov / na maha:ɔ saam e / dijaqaes
暴風 怒る 若し

¹⁴ tubaŋno amo ðame / maie mapat-no amo
悪口を云ふ 汝等 我々 若し 指さす 汝等

¹⁵ ðamme ka / na matoqalvaŋ jimma / sja
我々 曲る 手

¹⁶ binanoʔað a / maʃiʔhal painoqon a / ma-
女 良い 綺

¹⁷ kasappa sja / makatanhappav sija bina-
麗な 上部に居る

¹⁸ noʔwada a / nito makasappa / makatapaliq
女 下部に居る

¹⁹ nano sea bananað / nito maqaijo / moppa
男 その故に

²⁰ binanowað makʃaŋa e / tiniŋqaijo paino-
男 盗んだ

²¹ qon /

10. miŋqanivalval miŋ-qanivalval min >miŋ-(q).
13. dijaqaes 比較 dijaqai (原文6. 第621頁8行「若し」
-s?, <接辭 as?
17. makatanhappav maka-tan-happav <happav 上.

3. 虹

昔、女と男があつた。彼等は貧乏で

衣服が無く裸でゐた。妻は他人の衣

服を盗んだ。それ故に夫は恥しくて、

云ふやうには「妻が泥坊をしたから、私

は恥しいから、私達は虹にならう」。彼

等が云ふやうには「暴風が吹けば私は

暴風を嘔止めよう。あなた達が私達

の悪口を云へば、私達は怒る。若しあ

なた達が私達を指さすならば手の指

が曲るだらう。女は、良い衣服だから、

綺麗であつて、[虹の]上部にゐる。男は、

[衣服を]盗まず、美しくないから、下部に

ゐる。女は衣服を盗んだから美しい。

18. makatapaloq maka-taŋ-aloq <aloq 下?。
20. tiniŋqaijo t-in-iŋ-qaijo 盗みし者 <*qaijo. ma-qaijo
盗む, taŋ-qaijo 盗む。

4. lovlov si:n paʔav
暴風 と 雪

² sijaɬao lovlov si:n paʔav ta a / maibunun
暴風 と 雪 人間である

³ dao ka / moppa qabaʃaŋ qanop dao ka /
その故に 昔 狩

⁴ sija ʃaie a / masakbit bantaʃ a / tuppa
(人名) 痛い 足 云ふ

⁵ dao ʃaie to / amajen saak e / ne makto
(人名) 背負はれる 私 出来得る

⁶ mudadaan e / masakbit bantaʃ / aŋkajen
歩く 痛い 足 通つた

⁷ bunun a / amajen saak e masakbit
人 背負はれる 私 痛い

⁸ bantaʃ / ne dao isitala duma bunun /
足 承諾する 外の 人

⁹ tuppa dau ʃaie to / ma: amo ke ne
云ふ (人名) もし 汝等

¹⁰ mamaʔ a / na minlovlov saak / na sam-
背負ふ 暴風になる 私 必

¹¹ butoq mo lumaq mato:ɔnoq a na si:n
す 汝等 家 破壊する と

¹² boŋqawun kakaunun / na minso:ma dao
折られる 作物 出る

¹³ niwuu a / tuppa dao niwun to / isaq ʃaie /
(人名) 云ふ (人名) (人名)

¹⁴ tuppa to duma to / okkaŋ e na ne:n
云ふ 外の 未だ一でない なし

¹⁵ talpija haiðin / solaluwan dau duma bu-
永き 来た, 居た 嘘 外の

¹⁶ nun / sija niwun / haiðin / sija niwun
人 (人名) 来た (人名) (人名)

¹⁷ ampaʃ dao ka / sija ʃaie a / minlihomin /
迎へ行く (人名) 雲になつた

¹⁸ tuppa dao niwun to / na saan saak ludun
云ふ (人名) 私 山

¹⁹ ta / mimpaʔav / saak lapaʔav e / kakaun-
雪になる 霜害を興へる 作物

²⁰ un bunun / na minsoqðaŋin bunun / tuppa
人 貧乏になつた 人 云ふ

4. 暴風と雪

暴風と雪は元は人間であつた。そ

のわけは昔シ+エが狩に行つたが、足

が痛くて、シ+エが云ふやうには「足が

痛くて、歩けないから、私を背負つて下

さい。人が通つたら「足が痛いから、私

を背負つて下さい。[と云つたが]外の

人は承諾しなかつた。シ+エが云ふ

やうには「あなた達が背負つてくれな

ければ、私は暴風にならう、そしてあな

た達の家をきつと破壊し、作物を折つ

てしまはう。ニオンが[家から]出て、云

ふやうには、「シ+エは何處ですか」。

外の人達が云ふやうには「まだ来ない

が、間もなく到着するだらう」。外の人

達は嘘をついたので。ニオンは[シ

+エの居る處へ]行つた。ニオンが迎

へに行つたが、シ+エは雲になつてゐ

た。ニオンが云ふやうには「私は山に

行つて、雪にならう、人々が貧乏になる

2. maibunun mai-bunun <bunun 人。
5. amajen ama-(j)en 背負はる者 <mama 背負ふ。
6. aŋkajen aŋkaje-(e)n 通りし者, <aŋkaje 通る。接尾
辭 -in の轉來語は「受動的」にもなれば「發動的」にも
なる。「他動詞」より轉來せる時は「受動的」になり、「自
動詞」より轉來せる時は「發動的」になる。
12. boŋqawun boŋqa-(w)un <(mu-)boŋqa 折る。
kakaunun 食料類 農作物。

14. okkaŋ ukka-aŋ.
17. minlohomin min-lohom-in <lohom 雲。
19. mimpaʔav mim-paʔav <paʔav 雪, 霜, min- >mim-,
lapaʔav la-paʔav <paʔav, 接頭辭 la- 變照, la-niŋʔav
洪水 <niŋav 海, 「被覆」の義。
20. minsoqðaŋin min-soqðaŋ-in 食料缺乏になれり, 貧乏
になれり, 比較. masaŋsoqʔhoðan 空腹。

- ¹ dau niwun to / sa'e / na: paintataiv / ata
(人名) (人名) 競争する 我々
- ² pinsoqaðag bunun / nano sija bunun sila-
貧乏にせしめる 人 人 始
- ³ laa maqaitbas ita ka / na paintataiv ata /
む 虐む 我々(二人) 競争する
- ⁴ lovlov si:n pa'av /
暴風 及び 雪

5. tilulukkis
薪採

- ⁹ tudeep dao ail taštaš'awunan dao tilas
その時に 時に 一つ一つ 穀物
- ¹⁰ pit'ija ka / anak'anak lukkis mulumaq /
炊く 獨りで 木薪 家に來る
- ¹¹ ma'e mašašoq'hodaŋ a / na:sija dao mi-
若し 空腹 貧乏 その
- ¹² qomis lukkiš / si:n ne maloqloq saag
生きた 木薪 面してなし 燃える 煙, 煙
- ¹³ mulumaq / ma'qae abqan a / na:sija dao
家に來る 若し 満腹 富 その
- ¹⁴ mafuľbulsoq lukkis / si:n maloqloq / saag
枯れた 木薪 面して 燃ゆ
- ¹⁵ mulumaq / haiða dao binana'að a ilumaq /
- ¹⁶ titin'un / ano'manon dao / ušilun a /
織りつゝある 引抜かれた 竹製緯糸掛
- ¹⁷ maha'u binana'að a / toppa binana'að to /
怒る 女 云ふ 女
- ¹⁸ maa'šo mulumaq te / nata'a ta ma na
何故に, 汝 此の 外庭
- ¹⁹ ðamme ke / 'anak'anak si:ða / nasija luk-
我々 自身で 取る 木
- ²⁰ kis dao ka / maha'u wa amin dao lukkis /
薪 怒る すべて 木薪
- ²¹ si:n saag si:n kit'fa / si:n habel / muðaan
面して 肥松 面して 燃え残り 面して 糶(おき) 行く
- ²² dao / tuppa'unin binana'að / moppa pa-
云へり 女 その故に

2. pinsoqaðag pin-šoqaðag 貧乏にす。
8. tilulukkis ti-lulukkis <lukkis 木。

ように, 作物に, 霜害を興へてやらう。
ニオンが[夫のシ・エに]云ふやうには,
[私達は競争して, 人々を貧乏にしよ
うよ。あの人達は先に私達を虐めた
から, 競争して風を吹かせたり雪を降
らせたりしようよ]。

5. 採 薪

粟が一粒づゝ炊かれた時代には, 薪
は獨りで家に來た。貧乏な[家]であれ
ば, 生薪と燃えない肥松が來た。金持
の[家]だと, 枯れた薪と燃える肥松が來
た。ある女が家に居て, 織つてゐた。
[薪が]緯糸掛を引抜いたので, 女は怒つ
て, 云ふやうには, [なぜ家の中に入つた
か。外庭に出なさい。私達自身で取
るから]。其の薪が怒つたので, 他のす
べての薪も怒つた。それから肥松も,
燃え残りも, 糶も。女が[その様に]云つ
たから, 出て行つた。それ故に其れ以
後は人々は薪を採りに行くことにな
つた。

9. taštaš'awunan taš-taš'a-(w)un <taš'a 一。
16. titin'un titin'un <tin'un 織機。
manon <maoman 抜ける。

- ¹ iškatiĵeeĵen bunun tilukkis /
其以後 人 薪を採る

6. paintataiv lukkis tindapkol
競争 木 走る

- ⁴ sija lukkis qabašag a / tuppa to aša
木 昔 云ふ 欲する
- ⁵ paintataiv tindapkol / tuppa ðao banhil
競争 走る 云ふ 檜
- ⁶ to / ne: banisa matališkag e atikkis / nano
柏杉 速し 小さい
- ⁷ mašðan dao tindapkol a / tuppa dao toq-
同じき 走る 云ふ 松
- ⁸ qon to / ite sa:k e / na dijaqai išimaqa-
此處 私 若し 夜に
- ⁹ mutan amo ka na ukka palsuqqon / na
なる 汝等 缺く 燈
- ¹⁰ išimaqamutan amo ka / na ni makuwa /
夜になる 差支
- ¹¹ sija bantaš na:k toktokon / palsuqqon
足 私の 切られた 燈
- ¹² muo / sija duma lukkis a / neto masmo-
汝 外の 木 甚しい
- ¹³ wab matališkag e / mowað pansaan taŋa-
速し のみ まで 山
- ¹⁴ daq luðun ta / tuppa banisa to / tuppa
麓 山 云ふ 柏杉 云ふ
- ¹⁵ amo to / ni: saak matališkag e / atikkis /
速い 小さい
- ¹⁶ simaq mašitaan matališkag / nano ðakko
誰 最も 速い 私
- ¹⁷ maštaan matališkag a atikkis / moppa
速し 小さい その故に
- ¹⁸ maqaiboŋ siqqae pa'un ta jimma ke /
屈曲する 枝 氣に成る 手
- ¹⁹ ðakko matališkag /
私 速い

6. 木の駆競

昔, 木が駆競をしたいと云つた。檜
が云ふやうには, [柏杉は小さいから, 速
くない]。さて同時に駆け出たが, [途中
で]松が云ふやうには, [私は此處にゐる
事にする, 夜になれば諸君には燈が無
いだらう。暗くなつたら, 私の足を切
つて, 點火しても, 構はない]。外の木は,
大して速くなく, 山の麓までしきや行
けなかつた。柏杉が云ふやうには, [私
は小さいから, 速くない, と諸君が云つ
たが, 誰が最も速かつたのですか。私
は小さいが, 一等速かつたのですぞ]。
枝が曲つてゐるのは[私が速いぞ]と[威
張つて]手をそんな風にしたからです。

7. ðanðan
櫻

7. 櫻

6. banisa 柏杉, 高山地帯, の最高部に發生せる灌木。
8. išimaqamutan iši-maqamu:t-an 夜に際會したるも
の, <maqamu:t 夜。
9. palsuqqon palsuqq-on 火を點す物, 燈 <malsioq 點
火す, i は弱音化し脱落す。

11. toktokon <matoklok 切る。
12. muo mu 「汝の」に同じ。
16. nano-a nano の「條件」を示す例, 「に拘はらず」。
18. pa'un pa-un 其様にするもの <moppa 其様に。

- ¹ ma: qabaşan a / tuppa dao mađaiḡad
昔 云ふ 老人、先祖、親
- ² to / aša amofađuša matinhanus na:
要、欲 汝二人 早く歸る
- ³ mabađo (qaişiq mabađo) tilaş / kaunun
搗く 飯 穀物、粟 食物
- ⁴ şanavan a: / dađuša muđaan saan daan
夕 行く に於て 道
- ⁵ ta / toʔija dao toqbisio ka / dusa nae
鳴く 鶯(?) に 彼等
- ⁶ kilim a duḡḡav nae pahuse / talmadıja
探す 次第に 交換 永い間
- ⁷ nae pahuse ka / ne işitala hoqloson a /
交換 なし 出来得る 抜かれた
- ⁸ şida dao nae vija / makulut puđas a /
取る 刀 切る 男根
- ⁹ mitfađuša nae matađ / duşaʔun nae
二人 死す 二人一所_{cont.}
- ¹⁰ maqaltom a talʔaeen dađan / moppa
埋める 生やされた 櫻 その故に
- ¹¹ maşamo hunun pişiduwa dađan e mai-
禁する、禁忌 人 禁やす 櫻
- ¹² hunun / moppa qailis dađan talđuša
人である その故に 常に 櫻 二本
- ¹³ taliʔija /
生える

8. baḡşittad
バンシツタズ

- ¹⁶ sija tuppawun to / baḡşittad a / ne
云はれた なし
- ¹⁷ işitala iqomissan ovađʔad a / tuppa dau
出来 生やされる 子 云ふ
- ¹⁸ binanaʔwađ to / manʔasiqa:đ saak e / mim-
女 自暴自棄になる 私 何
- ¹⁹ maaq miqomis a ukka ovađʔad / na ne:
になる 生く 欠く 子

2. na: =na.
5. toqbisio 此鳥は pahuse「同食せよ」と鳴くと善人は云ふ。
7. hoqloson hoqlos-on 抜取るもの <(ma-)hoqlos 抜取る。
9. mitfađuša mit-fa-đuša 二人(死す)、比較 mit-tatao 死者三人、mit-ovađʔad 子死す、mit-mađaiḡad 親死す、接頭辭 mit- は「死者」を示す。
đušaʔun đušaʔun nae maqaltom 二人を埋む、đuša

昔、親が[子供に]、「一足さきに歸つて、[お飯-]夕食の粟を搗きなさい」と云つたので、[兄妹の]二人は道を歩いてゐると、鶯が鳴いたので、彼等二人は探してゐるといつの間にか契つた。永い間同食してゐて抜け離れなくなつたので、彼等は刀を取つて、男根を切ると、彼等二人は死んだ。二人を埋葬したところが、櫻の木が生えて來た。それで櫻は人間であつたのだから薪にする事が禁忌となつてゐる。それで櫻は常に二股になつて生える。

8. バ ン シ ャ ヲ タ ズ 樹

バンシツタズが云ふやうには、「子供を育てられない」。彼女が云ふやうには「子供を持たずに生きてゐても詰らないから、私は自暴自棄になつた。

nae maqaltom 埋む、人は二人。
12. talđuša tal-đuša 二つ一緒に <đuša 二、接頭辭 tal-「集合數詞」類例、tal-tao 三つ一緒に、tal-tiun 三日間。
16. baḡşittad 此木には臭氣あり。
17. iqomissan <miqomis 生く。
18. binanaʔwad baḡşittad といふ名の女を指す。
mimmaaḡ mim-maaḡ <maaḡ 何、min-> mim-

- ¹ saak mimpoḡoq a / na mowađ saak to / 私 腐敗する のみ 私 私は腐りはしないが、臭い木にはなら
- ² minlukkis baḡşit / 木になる 臭い う。

9. takedoloq
蚯蚓

- ³ tuḡeep qabaşan dao / tina ke ovađʔad
其時 昔 母 及び 子 昔、母と子があつた。子が常に云ふ
- ⁴ a / haiđa dao ka / qailis dau ovađʔad
有る 常に 子 やうには「お母さん、外の人が來ても、私
- ⁵ tuppa to / ka: tinna lişaʔajen / na: haiđa
云ふ 勿れ 母 歴史を代へられた 有り の座席に坐らせてはいけません。女
- ⁶ duma / lişaʔajen a / tuppa ovađʔad bina-
外の(人) 歴史を代へられた 云ふ 子 女 の子[=娘]が云ふやうには「本當に坐ら
- ⁷ naʔwađ to / kaat tutuđa dişaʔajen / na:
勿れ 本當に せてはいけません。子が出て行つた
- ⁸ muđaan dao ovađʔad a / sija tina ka
行く 子 母 ので、母が[娘の座席に]坐つてみると、い
- ⁹ tanamon tina işiloḡoq ka / musqa dau /
試みた 座る 知れずに つの間にか石の處から蚯蚓が出て來
- ¹⁰ minşumma saan batto ta takedoloq /
出る に於て 石 蚯蚓 て、交合した。母は[石を]開けて見ると、
- ¹¹ mahuse dao / na: sija tina tumbaqqon
交接する 開けられた。 アー！大きな蚯蚓がゐたのです。母
- ¹² şađoo ka / aj mađaiḡ sja takedoloq / na:
見る 大なる 蚯蚓 は湯を沸かすことにした。注ぎかけ
- ¹³ sija tinna pişqate danum / maşiqʔol /
沸す 水 注ぐ た。夕方女[=娘]が歸つて來て、態と共
- ¹⁴ haiḡin şanavanin binanaʔwađa / nautonaut
有つた 夕になつた 女 故意に 處に坐つたが、[蚯蚓は]居なかつた。女
- ¹⁵ binanaʔwađ / işiloḡoq itta a / ukka / tuppa
女 其處に 欠く 云ふ [=娘]が云ふやうには「お母さんあすこ
- ¹⁶ binanaʔwađ to / tina / ajnpuppolaan
女 忘れたる(もの) に箱を忘れて來たから、取つて來て下
- ¹⁷ na:k itta baho wa / şidaaḡeqon / sija tina
其處に 箱 取つて下さい さい。母が取りに行つてゐる間に、女
- ¹⁸ mundijeep siđa a / sija binanaʔad tumbaḡ-
其處に行く 女 開けられ [=娘]は石を開けて見ると、夫が死んで
- ¹⁹ qon batto şađoo ka / mattaḡin bananađ /
た 石 見る 死んだ 男、夫 ゐた。妻は泣いた。月足らずだつた

7. na: / na na: haiđa duma の na: は「未來」、na: muđaan dao ovađʔada、の na: は「引續き起る」事を示す「間もなく」。
11. işiloḡoq işi-loḡoq <(ma-)loḡoq 座る。
12. batto アヌンの家屋は石疊。

15. pişqate pi-şi(i)-qate 湯を沸す <qate 湯、maşiqʔol -an 形は sul-an 忘る。
18. ajnpuppolaan <mainpuppol 取る。
19. şidaaḡeqon <siđa 取る、qon は命令法を丁寧にする、-je- は命令法、類例 kauneqon「召上り玉へ」。

- ¹ nano sija binana²wad / tappi³ / nano nejan
女 泣く 未だ一ぬ
- ² kanaqto⁴ abobao ta / moppa atitikisin
完成 妊娠 その故に 小さくなった
- ³ takedoloq /
蚯蚓

10. side
山羊

- ⁶ sija dao madadai⁷pad a / haan tonog
先祖 に於て 断崖
- ⁷ ta / malali⁸nko batto ka / sija lini⁹nko batto
轉ばし落す 石 轉ばし落された 石
- ⁸ ka / mubalathalat / muvi¹⁰vis muli¹¹nko ka /
横向けになる (擬聲)
- ⁹ dop¹²pu¹³avin dau / minside / moppa okka
次第に 山羊になる その故に 欠く
- ¹⁰ qaba¹⁴sa¹⁵n side dao ka / pa¹⁶iskatdijeepen
昔 山羊 其時以後
- ¹¹ hai¹⁷bin side / moppa taksasaan nae kulaan
有つた 山羊 その故に 常に居る 彼等
- ¹² ta qasivo¹⁸n muvi¹⁹vis e / moppa haan
住む その故に に於て
- ¹³ kulaan ta lepko batto / nano side ka /
崖 石 山羊
- ¹⁴ maibat²⁰to miqomi²¹s /
石から生ず 生命を有つ

11. hutto²²n
猿

- ¹⁷ qaba²³sa²⁴n dau palpaev a / pit²⁵i²⁶ja dau
昔 手傳 炊く
- ¹⁸ taze kaun²⁷un bunun a / ne: to i²⁸itala
里芋 食物 人 なし 出来得る
- ¹⁹ masasak / tuppa bunun to / ma²⁹soq³⁰qoda³¹n
煮る 云ふ 人 空腹
- ²⁰ sja nea³²n minaun / tuppa mada³³ipal to /
未だ一ぬ 食べたもの 云ふ 祖先

- 7. malali⁸nko mali⁹nko 「轉ばして落す」の反覆。
lini¹⁰nko i-in-i¹¹nko <(ma-)li¹²nko.
- 8. mabalathalat <balat 横。
- 14. maibat¹⁵to mai-bat¹⁶to.

採録期：昭和五年八月。

から、(現今の)蚯蚓は小さくなった。

10. 山 羊

先祖が、断崖に於て、石を落してゐた。落された石が、幾回も横向になりながら、ピシピシといふ音をたて、轉がり落ちて、次第に山羊になった。昔は山羊は居なかつたが、その後居るやうになつた。ピシピシ君(=山羊)は常に崖の所にゐる、崖の處で石が轉ばし落されたから。とにかく山羊は石から生れたものである。

11. 猿

昔(先祖のカイヌンが)手傳に(村人を)頼んだから、人々の食物の里芋を煮たが、煮えなかつた。人々が云ふやうには、まだ食べないからお腹が空いてゐる。

口授者：sippal ma³⁴qo³⁵qo (少年時代に亡父より聽聞せし物語)

説明者：口授者。

19. ma³⁶soq³⁷qoda³⁸n ma³⁹sa⁴⁰qoda⁴¹n / ma⁴²soq⁴³hoda⁴⁴n / ma⁴⁵soq⁴⁶da⁴⁷n 三種 sippal の發音に現る。

- ¹ ne to (i²itala masasak / tuppa qaisol to /
出来得る 煮ゆ 云ふ (人名)
- ² otsma³n e matasab e ma⁴soq⁵qoda⁶n bu-
締める (綱を)下す 空腹になつて居る
- ³ nun / sija bunun ma⁷un amin a / a⁸j
人 人 食ふ すべて
- ⁴ ma⁹qamqam sja / hai¹⁰da danom / tuppa
いごい 有る 水 云ふ
- ⁵ mada¹¹ipad to / hai¹²da danum sa¹³pan a / o¹⁴n
先祖 有る 水 少し前に
- ⁶ uvad¹⁵ad tuto¹⁶on / tuppa amin bunun to
子 こぼされた 云ふ すべて 人
- ⁷ asa qo danum a / ukkin danum to atik-
飲む 水 無くなつた 水 少
- ⁸ kis / mu⁹sa¹⁰so amin bunun qamqaman
し 引續いて すべて 人
- ⁹ amin a / a¹¹q¹²us dao amin ta¹³pa: / kiki¹⁴lim
すべて 手にとる すべて 鐵 探し抜く
- ¹⁰ danum / mu¹⁵soo mini¹⁶hutto¹⁷n / sija ina¹⁸qos
水 直ぐ 猿になつた 手に持つてゐる物
- ¹¹ ta¹⁹pa a / min²⁰ikkol /
尾になる

12. qabos
カボス

- ¹⁷ aiven saak loq¹⁸tas / top¹⁹pa tina to / a²⁰sa
與へられた 私 魚飯 云ふ 母 要
- ¹⁸ tilukki²¹s na saivan loq²²tas / hai²³bin qabos /
薪採 與へられた 魚飯 有つた

12. カ ボ ス

「私にお魚を下さい」すると母が云ふやうには、「薪採りに行つてくれればお

- 5. o¹n o²n uvad³ad tuto⁴on 『子供ニヨリ零さるもの』
o⁵n poit tap⁶qai⁷on 『本婦人ニヨリ零まるもの』
- 6. tuto⁸on tuto-on <(ma-)tutu 零す, mu-tutu 零る。
- 9. kiki¹⁰lim ki-kili¹¹m 探し續ける。到る處を探す <kili¹²m 探す。「反覆」を示す。
- 10. mini¹³hutto¹⁴n mini-hutto¹⁵n-in > hutto¹⁶n 猿, mini- / min-
ina¹⁷qos in-a¹⁸qos 手に持てるもの <a¹⁹qos 手に持つ。
- 11. min²⁰ikkol min-ikkol <ikkol 尾。
- 17. aiven saak loq¹⁸tas qabos と云ふ名の子供の云ひし言葉, aiv-en, saiv-en, saiv-an <masa¹⁹aiv 與ふ, aiven

及び saiven は『與へよ』といふ「命令」に用ひ、saivan は「與ふ」といふ「發働」に用ふといふ説明を得たり、masa²⁰aiv の語根は /sa²¹aiv なければ saiven は本来の形にして aiven は s の脱落せるものならん saiven >*haiven >aiven, s>h の例 haan/saan <en は分詞接尾辭 -in にして saiven 『與へられしもの』, saiv-an の -an は「場所」或は masa²²aiv に「關係する物」を示す『與へるもの』, -an 轉來語は「發働」的意義を有すること多き故に『與ふ』の意に用ひ、-in の「受働」的なければ『與へよ』の場合用ふることならん。

- 1 tooppa qabos to / saiveŋ qata:ð / tooppa
云ふ 膽 云ふ
- 2 tinna to / munsulan / na saivan loqtas /
母 水汲みに行く 奥へられた 焦飯
- 3 haiðin qabos / tu:ppa tina to / tinsa:ŋ /
有つた 云ふ 母 肥松を取つて来る
- 4 haiðin qabos tininsa:ŋ a / tuppa tina to /
有つた 肥松を探つた 云ふ 母
- 5 asiki lumaq e na saivanan / sija qabos
掃け 家
- 6 mindikin to / sija qabasan tinna / ni: to
老へる 昔 母
- 7 moppa ta poqlalao / nano mataðin tina
斯様な 虐待する 死んだ 母
- 8 qabaŋ a / moqna tama kiŋna tina ka /
昔 再び 父 将来の次の 母
- 9 masimowab poqlalau sja: ka / ni:to ma-
甚しく
- 10 sa?aiiv loqtas / nano sija qabos a / aŋqa:ð
焦飯 自棄に
- 11 makuluts banban qaboŋ a / punsaan
切る 破れた 両腕 入れる
- 12 kus?an ta / minpanne / sija siŋ?asik asik
腋 羽になる 掃いた 箒
- 13 a / min?ikul / na kusbaje qabos / tuppa
尾になる 飛ぶ 云ふ
- 14 to / kohav / kohav / tiŋqiða tama to /
驚く 父
- 15 maaq naipa to / munata ŋadoo ka / tuppa
何 其れ 外に出る 見る 云ふ
- 16 qabos to / nano ŋo tama / madikila
父 悪い
- 17 kinannaan / masmowab paqlalaau ðakko /
後妻 甚しく 虐待する 私
- 18 ni to masaiiv loqtas / sja tama ka / saan
奥へる 焦飯 父
- 19 daiŋq ta / tuppa to / qabos / ðaaen saivan
外庭 云ふ 此處に來れ 奥へられた
- 20 loqtas / ðaaen saivan qattað / ðaaen saivan
焦飯 奥へられた 膽 奥へられた

焦をあげるよ。カボスは歸つて來た。
カボスが云ふやうには「膽を下さい」。
母が云ふやうには「水汲みに行けばお
焦をあげるよ」。カボスが歸つて來た。
母が云ふやうには「肥松を取つて來る
んだよ。カボスは肥松を取つて歸へ
ると、母が云ふやうには「家を掃けばあ
げるよ。カボスは考へるやうには、前
のお母さんは、こんなに虐めなかつた、
前のお母さんが死んだので、お父さん
は再び後妻をもらつたが、大變に虐め
る、それでお焦をくれない。カボスは、
箒を自棄に切つて、腋の下に挿し込む
と、羽になつた。掃いた箒は、尾になつ
た。カボスは飛ぼうとして、云ふやう
には、「コハープ、コハープ！」。父はびつ
くりして、其れは何だらうと思つて、外
へ出て見ると、カボスが云ふやうには、
「お父さん、今度のお母さんは悪いんで
す、私をひどく虐めます、お焦を呉れま

1. saiveŋ <saiven
2. munsulan <hasulan 水汲場。
loqtas 鍋底に附着せる焦飯は loqtas、側面に附着せる
のは qatqat。
3. tinsa:ŋ tin-sa:ŋ <saag 肥松、tin-batto 参照、ti-lukkiŋ
『薪を探る』ti-/tin- (鼻音のある形原形?)。

4. tininsa:ŋ t-in-insa:ŋ、tins:ŋ の -in- 形。
5. asiki 比較、maasik 掃く、
saivanan saivanan?
12. minpanne min-panne <panne 羽、
sin?asik (i)s(i)-in-asik 掃除に使用せし物。
15. munata mu-nata <nata 外庭。

- 1 loqtas / ðaaen saivan qattað / ðaaen saivan
焦飯 奥へられた 膽
- 2 loqtað / ðaaen saivan qattað / tuppa qabos
焦飯 奥へられた 膽 云ふ
- 3 to / ne?e madikila ŋoo tama kininnaan /
否 悪い 父 後妻
- 4 masmowab paklalaŋ / sija qabos maŋimo-
甚しく 虐待する 甚しく
- 5 wab madikila iŋi?aŋ a / tuppa tama to
悪い
- 6 ðaaen saivan qattað a / duŋŋuðarven qa-
奥へられた 膽 次第に
- 7 bos / iŋiqadadaðeen kusbaje / ŋoo tama
登つた 父
- 8 madikila kininnaan / kohav / kohav /
悪い 後妻
- 9 kokohav / sija tama ka / anak?anak
父 自ら、獨りて
- 10 moqaiŋots boŋŋo /
首する 首

せん。父は、外庭で、云ふやうには「カボ
スよ、こちらにお出で、お焦をあげるか
ら、こちらにお出で、膽をあげるから、こ
ちらにお出で、お焦をあげるから、こち
らにお出で、膽をあげるから、こちらに
お出で、御焦をあげるから、こちらにお
出でなさい、膽をあげるから」。カボス
が云ふやうには「いやです、お父さん、今
度のお母さんは悪いんです、大變に虐
めます」。カボスの心は大變にひねく
れてゐたから、父は膽を奥へると云つ
たが、カボスは段々と、飛び昇つた。「お
父さん、今度のお母さんは悪いんです、
コハープ、コハープ、コハープ！」。父
の首はひとりでに切れ取れてしまつ
た。

13. qalindiŋ
カリンデシ

- 19 sija bananað qa:nop a / tuppa binana-
男、夫 狩 云ふ 女、妻
- 20 wað to / isaq titte / pinahiba bananað
何處 肉、獸類 飼す 夫

13. カリンデシ鳥

夫が獵をすると、妻が云ふやうには、
「肉は何處にありますか」。夫は馴し

3. kininnaan k-in-iŋna-an 後に來りし者、後妻 <kiŋna
後の。
6. ðaaen <ðaiða 此處?
7. iŋiqadadaðeen iŋi-ka?、-ða-ða-ða-en 登りし處 <ðaða
上。
10. moqaiŋots maqaiŋot (首を)切る—他動、moqaiŋot 腋

首せらる。(首)切れ落つ—自動。

20. pinahiba p-in-ahiba だます。(例へば叱られし時に泣
く風をす) <pahiva, mahiva だます (泣く子供に菓
子を奥へ泣く物れと云ふが如し)。

- 1 tuppa to / okka e mimpohoq / mo:qna
云ふ 無い 腐る 再び
- 2 qanop a / tuppa to / kaunun tummaḏ /
狩 云ふ 食べられた 熊
- 3 nano binanowaḏ kaṣʔaṅ to / pinahiva /
妻 思ふ 騙す
- 4 moqua bananaḏ qanop a / sija binanawaḏ
再び 夫 妻
- 5 a / malbana:ši / samuqae / iṣipakaun e
看守する 怒る 食はせる
- 6 huttoṅ / sija binanawaḏ a maha:u a / šiḏa
猿 妻 怒る 取る
- 7 e iṣiʔa:ši / lalaṣʔa:ši huttoṅ / nanu huttoṅ
針 幾回も針で刺す 猿 猿
- 8 a matoqaehavin qanom laisʔaʔaṣan / sija
紫色になった 胸 針で刺した跡
- 9 bananaḏ pinahiva toppa to / ne: maha:u
夫 騙す 云ふ 怒る
- 10 we madija paeso: titte / nano sija bina-
多く 汝に與へる 妻
- 11 nawaḏ a / masmowab maha:u e qalma:n
甚しく 怒る 無暗に
- 12 pakaun huttoṅ a / nano sija binanawaḏ
食はせる 猿 妻
- 13 a / na ʔaṣiqaḏ tuppa binanawaḏ to / ma:šo
自棄になつて 云ふ 妻 汝はとて
- 14 laoṅ / qalman masaʔaiv huttoṅ a / ne saak
(人名) 無暗に 與へる 猿
- 15 asa isoowan aṣiqaḏ saak saan vaṗulaḏ ta /
欲 汝の處 河
- 16 anakʔanak kikilim kaunun / nano tuppa
獨りで 探す 食物 云ふ
- 17 valis to / nano miṅqalindiṣ /
(人名) qalindiṣ になる

て云ふやうには「腐つたからありませ
ん」。再び獵に行つた時に、熊に食はれ
てしまつたと云つた。妻は考へるや
うには、それは嘘だと。又夫は獵に行
つた時、妻は看張つてゐると、猿に食は
せてゐた。妻は怒つて針を取り、猿を
幾回も刺した。猿は針で刺された針
の跡で胸が紫色になつた。夫は騙し
て云ふやうには「肉は澤山あげるから
怒つちやいけない」。妻は猿に無暗に
食はせた事で大變に怒つた。妻は自
棄になつて云ふやうには「ラオン、あな
たはどうしたのですか。猿に無暗に
與へるから、妾はあなたの處にゐたく
ありません。自棄になつたから河へ
行つて、獨りで食物を探しませう」。ワ
リシはかう云つて、カリンデシ鳥にな
つた。

3. kaṣʔaṅ 比較 iṣʔaṅ 心、思考。
5. samuqae 『其時に』 比較 dijaqaḏ 『若し』。
iṣipakaun iṣi-pa-kaun 食せに使ふ(もの) < / ʔ kaun
食ふ。
7. iṣiʔa:ši iṣi-a:ši < a:ši(i) 針。『針』は iṣia:ši と同 a:ši
とも云ふ。
lalaṣʔa:ši laṣʔa:ši 『針を以て刺す』の「反覆」にして
「繰返」を示す。laṣʔa:ši < la-aṣ(i)-a:ši < aṣ(i) 『針』 la-

は la-niṅʔav の la- (第619頁註19) に比すべきもの
か。
8. laisʔaʔaṣan la-iṣi-a-aṣ(i)-an と分解すべきものか、a-
aṣi は aṣi の部分的反覆。
10. paṣo = paṣe 「與ふ」 + so 「汝に」。
13. ma:šo = maaq 「何」 + ṣo 「汝」。
15. isoowan isoo+an 汝の處 (に) 居る。

14. tiklas e kunkun
竹雞

- 2 sija tiklas e kunkun a / makabaṣ dao
竹雞 出草する
- 3 ka / sija kunkun mananaq a / sija tiklas
射た: 竹雞
- 4 a / maqaiṗut a / tuppa tiklas to / ina:k
首を切り取る 云ふ 竹雞 私のもの
- 5 naipa / moppa sija kunkun pinanaq a /
それ その故に 射たり
- 6 o:n tiklas qalavan / moppa maha:u kon-
竹雞 取られたる 其の故に 怒る
- 7 kon a / tuppa kunkun to mʔmʔ tiṣqainaḏ /
云ふ 力む
- 8 muṣaṣo: nae / minloqqai e / paqaqalav
直ちに 鳥になる 取り合をする
- 9 boṅṅo qalaʔbaṅ / moppa tuppa tiklas ina:k
首 タイヤル族 その故に 云ふ 竹雞
- 10 ina:k a / tuppa nae to ina:k a tiqohaḏ
云ふ
- 11 tiqqohaḏ toʔija / moppa kunkun a mʔ mʔ
鳴く その故に
- 12 tuʔija ke / tiṣqainaḏ /
鳴く

14. 竹雞とコンコン

ティクラス[といふ男]とコンコン[と
いふ男]が出草して、コンコンが撃ち、テ
ィクラスが首を切り取つた。ティク
ラスが云ふやうには「それは僕のもの
だ」。コンコンが撃つたのに、ティクラ
スが取つてしまつたから、それでコン
コンは怒つて、フォーム、フォームと力んで
云つた。彼等はすぐに鳥になつた、タイ
ヤル族の首を取りあひをしたから。
それでティクラスは「イナーク[私のも
の]といふ意」、イナーク、イナーク、ティ
コハイ、ティコハイと云ひます。それ
でコンコンは力んでフォーム、フォームと
鳴く。

15. mommoʔ
鶉

- 18 sija dao mommoʔ ka mammaʔ dau
鶉 (背負ひて) 運ぶ
- 19 tultulan a / maṣoqboṅ duṣaa ka / pantuṣ-
石盤石 重い 願く

15. 鶉

鶉が石盤石を背負つて運んだが、そ
れが重くて、願いたので仆れた。その

採録期：昭和五年八月。
口授者：丹大社 (asaṅ dḑeṅṅad) itteki soheqqan (男、當
時推定45歳)
補助口授者：lumaḏ maṅṅoqṅo (男、當時推定53歳)
説明者：sipoal maṅṅoqṅo (男、當時推定22歳) sippal 複
語を筆録。説明者、日本語は未だ完全ならず。
5. minanaq m-in-anaq < manaq 撃つ、此例に於て
minanaq は「撃ちし人」即ち「獵物」に使用せらる。
pinanaq, minanaq と同様の使用。
6. o:n 参照、原文12 第625頁、註5。

qalavan < maqalav 取る。
8. paqaqalav pa-qa-qalav < (ma-)qalav 取る。
19. tultulan ブロン族は粟を搗くに臼を用ひず、外庭を舗
せる石盤石上にて數人の女(普通は6人)各一本の杵を
手にし、交互に搗く、長さを異にせる六本の杵は六種
の長さの音を出しその杵音は極めて音楽的なり、搗く
ことを matultul、杵は tutultul (tu-tul-tul)、搗くに使
用する石盤石は tultulan (tul-tul-an)、語根 ʔ / ʔ tul.
duṣaa dau sja.

- ¹ tuş dao ka mutigkulin / mopa tişqatto'en
介れた。 それ故に 壓せられる
- ² naepa / mo'o'man dau ikol / tuppa mom-
其れ 取り去らる 尾 云ふ 鵞
- ³ mo' to / minloqqai saak e / ukkin ikul /
鳥になる 私 無くなった 尾

16. sojeq
ソエク

- ⁶ sija soheqqan dau ka paluşıda:n e /
(姓) 一緒に
- ⁷ maŋqoqo malqatto a / sija duma maŋqoqo
(姓) 良を仕掛ける 外の (姓)
- ⁸ a / makipaus heqqaiv a' / maha'u dau
先に行く。(獲物を)外出す 怒る
- ⁹ suheqqan e / sija maŋqoqo a / munsaan
(姓) (姓) 行く
- ¹⁰ suheqqan tuqqa to / muðakkowan ta /
(姓) 云ふ 私の處に来た
- ¹¹ paqosil tinişqatto a / sija suheqqan ma-
分く 良にかいたもの (姓)
- ¹² ha'u (w)a / siða dau tompo / matabal
怒る 取る 斧 切る
- ¹³ bunpo ka / tuppa dau maŋqoqo to / ma:šo
首 云ふ (姓)
- ¹⁴ pataðav takðaðakko / nano sja maŋqoqo
殺す 私の處に居る者 (姓)
- ¹⁵ (w)a / sinapun dao ka / sija soheqqan
追はれた (姓)
- ¹⁶ a / tinasaan tapalaq taştaş ta / tuppa
に行つた 下 瀧 云ふ
- ¹⁷ maŋqoqo to / isaq naipa / pinahiva dau
(姓) 何處 彼 騙す
- ¹⁸ soheqqan / sisile loqai / saan tapalaq
(姓) 眞似をする 鳥 下
- ¹⁹ taştaş ta / mansusojeq / tuppa maŋqoqo
瀧 「スリエック」と鳴く 云ふ (姓)
- ²⁰ to / ne: naipa bunun loqqai naepa /
人 鳥

1. tişqatto'en <tişqatto 壓す, オトシにかゝる <qatto
オトシ。
2. mommo' 此鳥は尾短く無きやうに見ゆ。鵞の類か。
6. paluşıda:n 比較, maşıda:n 『同じき』, palu-şıda:n?
mal- (mal-qatto オトシな仕掛ける)に比較せよ。
7. malqatto mal-qatto <qatto オトシ(棒外れば重石落
ち動物を捕獲する装置)。

8. makipaus mak-i-paus <paus 先に。
10. muðakkowan mu-ðakko-(w)an <ðakko 私。
11. tinişqatto t-in-iş-qatto <qatto。
14. pataðav patað-av, -av は「疑問」の場合に用ふ, 其他
「命令」の場合にも用ふ。
14. takðaðakko tak(e)-ða-ðakko, take- 参照, 591頁註14。
ða-ðakko は ðakko の「反覆」。
19. sojeq 黒色, 尾短, 河に好んで住む小鳥。

- ¹ unisinna minşummajen soheqqan a /
後刻 出た (姓)
- ² tuppa maŋqoqo to / tuppawunin amo to /
云ふ (姓) 云はれた 汝
- ³ soheqqan / maşda:n loqqai / mansusoheq /
(姓) 同じ 鳥
- ⁴ moppa paışkatdijeepen tuppawun to so-
その故に 其以後 云はれる
- ⁵ heqqan /
(姓)

が云ふやうには、「何處だ」。ソヘカン
姓の先祖は騙して、瀧の下で、鳥の眞似
をした。「スソエク」と鳴いた。マンコ
コ姓の人は、「これは人間でない鳥だ」
と云つた。後でソヘカン姓の先祖は
出ると、マンココ姓の人が云ふやうに
は、「お前達をソヘカンと名づけること
にする、スソエクと鳴いて、鳥のやうだ
から」それ以後ソヘカンと云はれるや
うになった。

17. sakvap
サクヴァン

- ¹³ sija maðaiŋað qabaş / ma'un dao puk-
先祖 昔 食ふ 甘
- ¹⁴ lav a / nano seja binana'að a / mahaqboŋ
酒 女 怒りほい
- ¹⁵ sja: ka / moppa miluklok ma'un poqlav /
その故に 拒む 食ふ 甘酒
- ¹⁶ tuppa duma to / ma'unin puklav / ne:
云ふ 外の 食べた 甘酒 なし
- ¹⁷ işitala ma'un e maha'u / sija duma siða?
受ける 食ふ 怒る 外の 取る
- ¹⁸ puk'lav / pahaðop mişaşod mahau sja /
甘酒 舐めさせる 益々 怒る
- ¹⁹ toppa sija to / asqað saak minsakvap e /
云ふ 自棄となる 私 サクヴァン鳥となる
- ²⁰ o:n mo'o pahaðopon poq'lav / moppa
汝等 舐めさせられた 甘酒 その故に
- ²¹ to'ijjin dau / sakvap / vaq / vaq /
鳴けり

17. サクヴァン鳥

昔先祖達が甘酒を呑んでゐた。怒
りほい女があつて、甘酒をどうしても
呑まうとしなかつた。「甘酒をお呑み
なさい」と外の人達が云つたが、怒つて
呑むことを承諾しなかつた。外の人
達は甘酒を取つて、指につけ口に入れ
たので益々怒つた。彼女が云ふやう
には、「いまいましい一層のこと私はサ
クヴァン鳥になりませう、昔さんが甘酒
を舐めさせたから」。それでサクヴァン

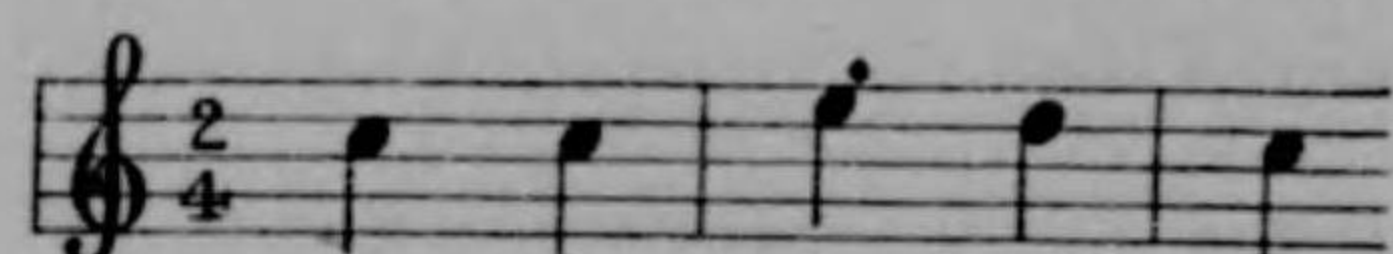
13. puklav カトグラン, ekulav.
16. ma'unin -in 形の「命令」に用ひらる例, 参照, 原文12,
第625頁, 註17.

18. pahaðop mahaðop 舐む, pahaðop 舐めしむ, 比較,
mahaðop 舌にて直接舐む, madaklak 指に附けなむ。

鳥は、「ヴグ、ヴグ」と鳴いた。

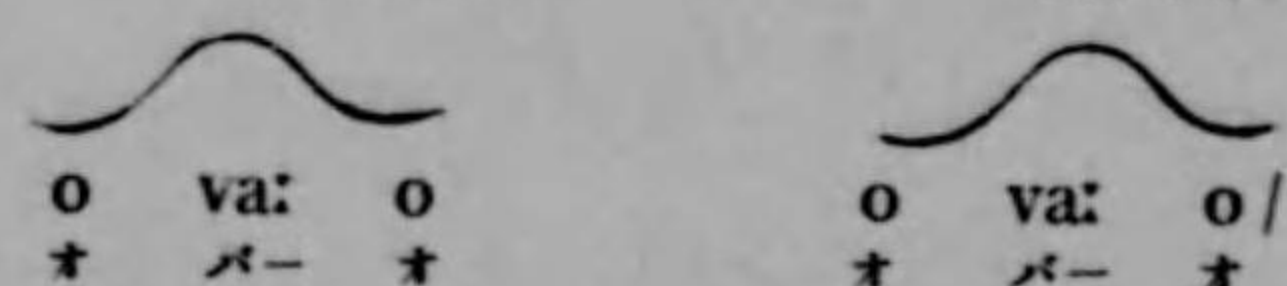
18. ovao 青鳩

4 sija dao ovao ka / mama² e qainšadan
背負つて運ぶ 糸掛
6 a / ne: tututūda tišokno / moppa kintohōq
不 眞實 背負ふ その故に 遠い處を運ぶ
8 nae ka / m²-m² / na²aša dao manuvaje ka /
彼 欲 荷物運搬歌



hai ja do je he:
ハイ フ エ ヘー

10 ni: to maqto manuvavaje ke / mašoq²boq
可能 運搬歌を歌ふ 重い
11 sja / manuvavaje dao ka / muwašin /
運搬歌を歌ふ 許しであつた



14 manuvavaje / duḡḡavin nae min²ovao ke /
運搬歌を歌ふ 段々と 青鳩にある
15 neeḡ to tišokno / mama² qainšadan /
なし 背負ふ (背負つて)運ぶ 糸掛

19. ḡapaš 河の流れの音

18 mauppa site a šiḡa uš bananaḡ as /
その故に 取られた 男
19 binana²waḡ / aḡ²aḡ boḡḡo ka bananaḡ a /
女 のみ 頭 男
20 moppa maḡ²av aš bananawaḡ / muḡaan
その故に 恥し 女 行く

4. qainšadan 糸掛、長さ5尺位の木柱、6-8個の穴を有し、織布の長短により適當の穴に棒を挿入し、緯糸を巻く織機のの付属品。

6. manuvaje カトグラン manavai.

15. neeḡ ne-en?

但し本書は sippal の復讐なしに筆録せり。

18. 青 鳩

青鳩が糸掛を背負つて運ぼうとし
たが、どうしても背負へなかつた。そ
れでムームーと唸つた。運搬歌を〔ハ
イドエヘー〕と歌つてみようとしたが、
歌へなくて、歌ふと〔オゾーオ、オゾーオ〕
と歌ふばかりであつた。糸掛を背負
つて運べなかつたから、段々と青鳩に
變じて行つた。

19. 河 の 音

男が女を娶つた。男は頭ばかりだ
つた。それで女は恥しく思ひ、里に歸
つた。頭ばかりの男は後から従いて

18. site minaunin sitte 『食せり』『過去』を示すといふ
説明を得たり。

šiḡauš šiḡaun iš 或は šiḡaun aš > šiḡauš? 参照。
イバキ 原文I第650頁、註5。

aš aš は a に同じ、sippal は a を用ひ、itteki は aš
を多く用ふ。aš は南部方言及び北部方言にも現る。

1 munsaan ulmaqon / kinuḡ aš bananad
に 買家、里 後方 男
2 ḡaḡ²aḡ buḡḡo / kalat e tunuhilan tunuhun-
頭 咬みつく 腰巻 橋を渡
3 ḡulin / soḡun e binana²aḡ a / tunuhilan a
つた 解かれた 女 腰巻
4 moḡalqalin aḡ²aḡ boḡḡo / maḡqannojen ka-
落ちた のみ 頭 渡れた 咬み
5 lat iš tunuhilan ḡaḡ²aḡ buḡḡo maḡqanno-
つく 腰巻 許り 頭 渡れた
6 jen / moppa minšummajin ḡašḡaš danum /
その故に 出た 水

行つた。腰巻に咬みついて橋を渡つ
た。女が腰巻を解いたので頭男は落
ちた。頭男は腰巻に咬みついたまゝ
流れた。それ故に水がゴーゴーと云
ふ音をたてるやうになつた。

III. 轡 蕃 (人倫社)
(landuḡ)

1. niḡ²av 洪水

11 sja ibut rakrutag danum / šiḡ mindajin
その 蛇 堰止められる 水 而して多くなつた
12 danum / asuvaji² unin bunuḡ / munha:nin
水 逃げた 人 に行つた
13 kaas / šiḡ binuḡaḡan / sja kaas bunuḡ a
東轡大山及び 卓社大山 その 東轡大山 人
14 aša pitiḡa ka nkka šappoḡ / maškarun
欲 炊く 欠く 火 命ぜられる
15 kurpa / šiḡa šappoḡ binuḡaḡan / maka-
轡 取る 火 卓社大山 滑
16 kumbod danum / muppa muško šappoḡ /
る 水 それ故 消す 火

1. 洪 水

蛇が水を堰止めたので、増水した。
人々は逃難して、東轡大山と卓社大山
に行つた。卓社大山の人々は飯を炊
きたかつたが火がなかつた。藝に東
轡大山の火を取つて来るやうに命じ
た。水を滑つたので、火が消えてしま

- 1. ulmaqon ulmaq-on <(mu-)lumaq 家。
2. tunuhundulin tunu-hundul-in <hundul 橋、比較。
hundul は水の上をかけし橋、hattal 下に水無き橋。
5. iš =e.

採録期：昭和五年七月。
口授者：人倫社(landuḡ) 顔目 biḡ takeškaivagan (男、
當時推定54歳)

説明者：岩佐民之助氏、伊藤保氏。

口授者の發音に於て k 及び q の區別；語終の n 及び ḡ の
區別明瞭ならず(他の二名の義人につき調査せしも同様)、カ
トグラン社 biḡ sokulman の發音を比較のため示すこと
にせり(カと略記す)。

11. ibut カ ivut.

rakrutag カ laq-lutan 北部、中部方言の l は人倫に於
て多くの場合舌端の接觸失はれ摩擦音 r の響を興ふ。
本質的(語原的)に l 音なれど r を以て記録せり。但

し語終の l は接觸ある故に l を以て記録せり。

sja ibut rakrutag danum カトグラン社 biḡ sokulman の説明に依れば、此の語順は不當、laq-lutan
ivut danum (堰止める處は一蛇の一水)なれば宜し。
若し ivut を始に置けば sja ivut laq-lut danum (其
蛇は一堰止める者一水の)となる。

mindajin min-ḡaj-in <madija 多。

12. asuvaji²unin asuvaji-un-in <mušvaji 逃ぐ、カ、
mušbai.

bunuḡ カ. bunun.

13. kaas カ. qa:s.

15. kurpa 子音の前の r は轉音 ḡ に變ることあり。例。
torkok / torkok "鷓" ḡ に變じ得ること(アヌン I

音人倫方言に於て ḡ 音の性質を有する證。
makakumboš カ. makakombo.

16. musko mušqo.

- ¹ mu'kna mařkaruŋ qaipe:s / makadaða
再び 命ぜられる (鳥の名) 上
- ² kuřbate qaipe:s / qaipe:s ansapaq řappod /
飛ぶ (鳥の名) (鳥の名) 衝へる 火
- ³ mapitijin e haiðin řappud / muřkun ka-
炊いた 有つた 火 共に
- ⁴ nuzay / muřkun wannřiři / muřkun si:de /
鹿 猪 山羊
- ⁵ muřkun Futon / amin qaðam muřkun /
猿 すべて 鳥
- ⁶ amin ibut muřkun / sija řunuy tanam
すべて 蛇 人 試みる
- ⁷ tite makurut / ma:ke mařimad pataðun
毛物 切る 脂ぎる 殺される
- ⁸ ma'un / ma'ke ni tu mařma d / ni tu pa-
食ふ なし 脂ぎる 殺
- ⁹ taðun / tařa kařiřan sija ibut a taŋŋoř
される 一 年 蛇 先きに
- ¹⁰ karat karay / ni karay matad / min řasun
蟹 蟹 死す 返される
- ¹¹ karat ibut / paŋpurutun / muppa muřau
蛇 切断される その故に(水が)引く
- ¹² niŋ'aw /
海. 洪水

2. řitaqqol
瓢箪

- ¹⁷ maiřnadada řja řinanawad munařito /
上から 女 降りる
- ¹⁸ maa'dař řitaqqol / mařuwad řitaqqol /
持つて来る 瓢箪 植える 瓢箪
- ¹⁹ taqqon akke mařihal madok / řja akke
告げる 男 良い 粟 男

1. mu'kna muřna.
makadaða <daða 上.
3. mapitijin ma-piti(j)-in <pitija 炊く.
kanuvay カ. qanuvay.
4. wanuřiři カ. va(j)iřiř v ~ w.
8. ma:ke 若し. カ. ma:qe.
mařimad <řimad 脂肪.
9. kařiřan カ. qařiřan.

つた。再びカイベシ鳥に命じた。カ
イベシ鳥は上方を飛んだ。カイベシ
鳥は火を衝へて来た。火を得たから
飯を炊いた。鹿と一緒にゐた。猪と
一緒にゐた。山羊と一緒にゐた。猿
と一緒にゐた。あらゆる鳥と一緒に
ゐた。あらゆる蛇と一緒にゐた。人
々は獸類を載つてみやうとした。脂
が乗つて居れば殺して食べた。脂が
乗つてゐなければ殺さなかつた。一
年経つてその蛇が先に蟹を咬んだ。
蟹は死ななかつた。今度は蟹が蛇を
咬んだ。眞二つになつた。それで洪
水は退いた。

2. řiða řan

嫁が天界から下界に来た。瓢箪を
持つて来て、瓢箪を植えた。良い粟だ
と男に云つた。男が見に行くと、(粟で)

10. minbasun minbasun の u の弱められたるもの。
11. paŋpurutun paŋ-(k)urur-un? <V kurur 切る。
17. maiřnadada maiřna-daða (上), maiřna-「より」參
照. 原文 3 第 635 頁 註 13. maiřna-haan-
munařito mu(n)-nařito (下) mun-「へ」。
19. taqqon カ. taqqoan <taqqo 知らず。
madok カ. madok.

- ¹ mintive / hammok řitaqqol / mahau akke /
見に行く てなくして 瓢箪 怒る 男
- ² řiða akke kawul / kurutun řitaqqol /
取る 男 石鎌 切られた 瓢箪
- ³ mahau řinanawad / maqa:řivin ampukun
怒る 女 枯れたもの 集められた
- ⁴ řinanuwad piřitaba'un / haiðin řiřwul /
女 焼かれた 有つた 烟
- ⁵ řia ta řinanawad maravi řuřwul mun-
彼 女 従ふ 烟 登
- ⁶ daða han dekanin / para'un uvad'ad naři
る に 天 残された 子 下
- ⁷ to / mařaskuř řitaqqol turme munařito /
に 結付ける 瓢箪 糸
- ⁸ řiða'un uvad'ad nařito ka / mundaða han
取られた 子 下に 登る に
- ⁹ dekanin /
天

3. pattařan kaabařan
文字 昔

- ¹² muřkaŋ pu:t pattařan kaabařan / mu-
共に 本島人 文字 昔
- ¹³ řaanin madęad / mařnahaan řamořan
行つた 先祖 から (地名) 社寮
- ¹⁴ kařanin řanum / muřalqal pattařan pa-
到着した 水 落す 文字
- ¹⁵ nahan řanum / ni adam makansia e /
まで 水 ない 我々 知る
- ¹⁶ maŋkanu pattařan ka řiðaun pu:t / haiðaŋ
流れる 文字 取られる 本島人 (今) 社寮
- ¹⁷ nam ruřako paitařan batu haan řamo-
我々の 今 書かれたもの 石 に於て (地名)
- ¹⁸ řan /
社寮

1. hammok カ. hammoq.
3. maqa:řivin <maqa:řiv 枯れる.
ampukun <ampuk 集む。
4. piřitaba'un piřitaba-un <miřitaba 焼く。
řuřwul カ. poř'ol.
6. dekanin カ. deqanin.
para'un <para 残す。
12. muřkaŋ カ. muřkun.

なくて瓢箪だつたので、怒つて、石鎌を
取つて、瓢箪を切つてしまつた。嫁は
怒つて、嫁は枯れた(瓢箪を)集めて焼い
た。烟が出て、其の嫁は烟と一緒に昇
天した。子供を下界に残して来たの
で、瓢箪を糸に結びつけて降した。下
界で子供が捉へると、天へ昇つて行つ
た。

3. 古代文字

昔は本島人と同じく(我々は)文字を
有してゐたが、先祖は社寮を出發して
水邊に到着したときに、文字を水に落
した。文字は流れて本島人に拾はれ
たから、我々は(文字が)解らなくなつた。
我々の書いた碑は今でも社寮にある。

pattařan pattař-an <pattan 紋様.
kaabařan qaabařan.
13. maiřnahaan maiřna-haan.
14. kařanin ka-haan-in 到着せり <haan に於て。
16. maŋkanu カ. maŋqanu.
17. paitařan pai-tař-an <pattař / 比較. mai-
社寮に現在かゝる碑文見當らず。

4. min'unin danum bunun
成つた 水 人

- ² maisnasaan ramogan / mudaan / pun-
から 社寮 行く 途中
- ³ daan piti'ja / matas'ji bannij takesiausi-
で 炊く 作る 爐脚
- ⁴ nean sidok / moppa damin bunug tuppa
姓 その故に 我々 人 云ふ
- ⁵ to kaxqai / sja bannij min-pakariva /
〔地名〕 爐脚 奇蹟を行つた
- ⁶ min-madajin / nanu pat bannij a / duša
増大した 四 爐脚 に
- ⁷ maŋkanu / musa:n pijatiŋ / nanu bannij a
流れる 〔地名〕瓶子頂 爐脚
- ⁸ ni tu isitara pinuma'un danum e / nanu
なし 出来得る 壊される 水
- ⁹ aša pašado meikiŋ-na /
飲 見せる 子孫

4. 人が水に變じた話

社寮を出發して、途中で飯を炊くた
めに、タケシーアウシネアンと云ふ子
姓の男が爐脚を作つた。〔食べてから〕
出發したが、彼は水に變つてしまつた。
それで我々ブヌンは〔その地を〕カフカ
イと云ふ。その爐脚は不思議なこと
には、大きくなつた。脚が四個あつた
が、二個流れて、瓶子頂へ行つた。爐脚
は水のために破壊せられないやうに
なつてゐる。子孫に見せんがためで
す。

5. tummad mapatas koknab
紋様を附ける 豹

- ¹⁶ sija tummad a: tapus mapatas koknab /
熊 始めに 紋様をつける 豹
- ¹⁷ pišiharug mapatas / minbasin koknab
良くせられた 紋様を附ける 返した 豹
- ¹⁸ mapatas tummad / matusqoŋ kamkamun
紋様を附ける 熊 ふざけて 無暗に
- ¹⁹ maqšqš / mapišiŋ xoknab / musbaŋe /
塗る 恐がる 豹 逃ぐ

5. 熊が豹の體に紋様を附け
た話

初めに熊が豹に紋様を附けた。美
しく畫いた。次に豹が熊に紋様を附
けることになつた。ふざけて無茶苦
茶に塗つた。豹は恐しくて、逃げたが、

- 3. bannij 石を三個立てし爐。
- 4. sidok カ. sidok.
- 5. kaxqai カ. qex-ke 濁水溪と都人溪の合流點の少し上
流の地點。其處の河水は赤褐色なりと云ふ。
- 6. nanu-a 「主題」を示す、「條件」の意を含むこともあり。
參照。原文 6 第621頁、註16。
- 7. maŋkanu カ. maŋganu.
- 8. musa:n munsaan に同じきか？
- 9. pijatiŋ カ. pa-tiŋ 新高登山軌道の能神橋の手前の停留

- 場社仔より見れば濁水溪中に二個の巨岩在り、流れ來
りし二個の爐脚なりと云ふ。
- 8. pinuma'un <minuma 破す。
- 9. pašado pa-šado <šado 見る。
- meikiŋ-na <kiŋ-na 後。
- 17. pišiharug カ. pišihalun mašihal 「良き」の「使役」形。
- 18. kamkamun カ. qamqamun.

- ¹ šinapun tummad manabu xoknab / tuppa
追掛けられる 熊 捕へる 豹 云ふ
- ² tummad to / patađun aššo matusqoŋ ma-
熊 殺される 汝
- ³ qšqš / tuppa xoknab to / ni tu makwa /
云ふ 豹 なし 差支
- ⁴ mađamu kanuvaŋ sakot vaŋiŋ / mašivire
捕ふ 鹿 羌 猪 左に
- ⁵ matibušqæet / tuppa hoknab to / ma:ke
倒す 云ふ
- ⁶ na haiđin đinamu ka / makaskaš darak
有つた 地へこの、其を 引掻く 地
- maškal / ana'anak kirim đinamu / ma'un /
印をつける 自分にて 探す 食ふ

熊は追掛けて豹を捕へた。「ふざけて
塗つたから貴様を殺すぞ」と熊が云ふ
と、豹が云ふやうには「構はないぢやな
いか。鹿や羌や山猪を獲れば、左に倒
して置くから」。豹が云ふやうには「も
し獲物があれば、地面を引掻いて印を
つけて置くから、自分で探して食べて
下さい」。

2. 北 部 方 言

I. 卡社蕃(タマロワン社)
(tamađo'wan)

1. loppa minbunun
初め 人に成る

- ¹⁵ tsija qoqot-la a minbunun qabašaq /
その 一種の芋虫 人に成る 音
- ¹⁶ tsija qoqotla makohi(k)ko muđadaan / ni:
その 一種の芋虫 背で 歩く ない
- ¹⁷ to mabiskau / tsin halohalo ka qatibiŋ
速い 而して 糞虫 蚊
- ¹⁸ poklav pataqo / naito pindađu'e e na
メカカ 相談する 彼を 起せよ

1. 人類の起源

太古芋虫が人間になつた。芋虫は
仰向けになつて歩いてゐて、速くなか
つた。糞虫と蚊と「めかか」が相談する
やうには、糞玉〔を作る〕ため奴を起さう

- 1. xoknab ~ koknab アヌ q 音は北部、中部方言に
保持せられ、南部方言には <x, k> に變化す。北、中部
方言と南部方言の區別の重大點なるが、人倫方言の
“豹”は k(q) 或は x 兩様に發音せらる。(カトグラン
社にも xoknab と云ふ人あれど、良しからず一カ社、
biog sokulman の説明)。
- 4. mauabu = mađamu 鼻音の「位置變換」(metathesis).
mašivire 比較 tanuvile, v'vile 左。豹は右手を以
て倒せし獲物を自ら食し、左手を以て倒せし獲物は食
はずと番人は云ふ。
- 6. darak カ. dalaq.
- 7. đinamu d-in-amu 獲物、<(ma-)đamu 獲る。

原文註：採録期昭和五年九月。
口授者：タマロワン(tamađo'wan) et tsibil takesikaban
(男、當時推定41歳)。
補助口授者：likkos takemuso (男、當時推定50歳)。
説明者：柯万水、清朝時代通事の子、母は卓社アヌ人、日
本語は極めて正確。
14. loppa loppa-(a)n <loppa 今、參照。loppa ko “今”
此の用法に於て接尾辭 -an は「時」を示す。
15. makohi(k)ko mako-hikko <hikko 背、mako- 「を」
17. ka a に同じ、此の用法は「及」。
18. pataqo <taqo 告ぐ、此處の「使役」の pa- は「相互」の
意を含むが如し。
pindađu'e <pindađu “起す”-e 「命令」。

- ¹ dānkas tippin / pindaḍu'e e na ḍabo(t)s
甘い液 目脂 其の時 起された 人に成つた
- ² wajin / pindaḍu'e e poklav intsaian
腿 欲する
- ³ paqqas / tudijepen pindaḍu'un minbunu-
目脂 其の時 起された 人に成つた
- ⁴ nin / mabiskacin muḍaḍaan / ḍatqa ka-
速くなつた 歩く その故に 刺
- ⁵ laton qatibin wajin / unḍa'un poklav
される 蚊 腿 集められる メカカ
- ⁶ matta / in(t)saian halohalo takke /
眼 欲する 糞虫 糞

2. binanau-aḍ tsi:n bananaḍ
女, 妻 及び 男, 夫
min-laḍ'ḍa
化石する

- ¹⁰ qabaṣaṣ haiḍa tat'ine bananaḍ ma'ḍaṣ
昔 有る 一人 男 連れる
- ¹¹ binanau-aḍ tsija / mundaḍa binoqa'ḍan /
妻 その 登る 卓社大山
- ¹² pantsaan binoqa'ḍan / muntamba:k daan
到着する 卓社大山 下に行く 道
- ¹³ bananaḍ aṣa poṅṅauṣ binano-aḍ / moppa
男 欲 先に行かせる 妻 その故
- ¹⁴ haiḍa kavijal bananaḍ tsija / aṣa palan-
有る 友達, 情人 男 その 欲 同行す
- ¹⁵ (t)isan kavijal tsija / kilao aṣa poṅṅauṣ
る 情人 その その故に 欲 先に行かせる
- ¹⁶ binanau-aḍ / ne iṣitala binano-aḍ moppa /
妻 承諾, 出来 妻 先に行く
- ¹⁷ aṣa poṅṅauṣ bananaḍ tsija / ot-o:nun
欲 先に行かせる 男 その 追付かれる
- ¹⁸ kin-kinu:ḍ / inina-uppin naeṅka minu-unin
後から来た人 その儘-になつた 彼等 成れり
- ¹⁹ laḍ'ḍa /
岩

1. ḍabo(t)s ts ~ s, s 音に関してはマモロウシ方言は北部方言と中, 南部方言の中間地帯。

9. minlaḍa < laḍa 岩。
12. pantsaan pan-tsaan < tsaan 於て。
muntamba:k < tamba:k 下方, 妻の後方より行く。
moppa 先に行く”の「使役」。
13. poṅṅauṣ 比較 中, 南方言 tangos / tangauṣ “始め”, * / ṅauṣ。
14. malantsaan 一緒に行く < tsaan “於”, malan- 比較 paluṣiḍa:n “一緒に”丹大社原文16 第630頁, 註6。

ちやないか腿の甘い汁(を吸ふ)ため起
そうちやないか「めかか」は目脂が欲し
いから起さうちやないか。其時起き
れて人間に成つた。歩くのが速くな
つた。それ故に蚊は腿を刺し「めかか」
は目[の前]に集り、糞虫は糞を欲する。

2. 妻と夫が石に化する
話

昔一人の男が妻を連れて、卓社大山
に登らうとした。卓社大山に著いた。
道を譲つて妻を先きに行かさうとし
た。情婦があつたから、その情婦と同
行したくて、妻をさきに行かせたかつ
たのだつた。妻はどうしても先に行
かうとせず、夫をさきに行かせやう
とした。後から来た人達に追ひつか
れて、彼等は岩になつてしまつた。

17. ot'o:nun ot'o:n-un < ot'on 行き過ぎ、越す。
18. mina'uppin < mina'ppa 共儘 一になる < moppa 共儘に。
minu'unin laḍa 卓社大山に二個の巨石あり、此夫婦の化石せるものなりと傳ふ。上方の岩は女、下方の岩は男、下方の岩に白色の環状紋あり、男の腹輪(アヌの男子は木製の腹輪を使用す)なりと説明す。狩獵に出づる時、此岩を見ることは禁忌なり、見れば死すと云ふ。歸獵の際、銃を以て一度叩き其後見ることを得。

3. paintataiv waḍulaḍ
競争 河

- ² tsaan qalabaṣ ta haiḍa dalaqa tuppa-
に於て 北蕃, 31+4 族 有る 地 云はれ
- ³ wun to maiva:ḍ / ittajin tuppawun to
た 合流点 其處-なり 云はれた
- ⁴ tsima'ata tappos ka(t)saan niḍ-av / tsija
誰 我々 先に 赴く 海 その
- ⁵ makatsaan take'bakha tsijata tappus /
の方に行く 卡社 彼 先に
- ⁶ ṣadowanin a tsijata tappos e tut-man
見た 彼 先に 我慢する
- ⁷ makatsaan maḍikila / ma'dona maḍaiṅ
の方に行く 悪い 遅い 大
- ⁸ waḍu-laḍ makatsaan qalavaṣ e / kilim iṣ
河 北蕃, 31+4 族 探す
- ⁹ matsihal laḍqaiban /
良い 通路

4. nijaṣ mataḍ a luḍbo
不 死 身

- ¹² tuppa to qanop dao / haiḍa paṣ na
云ふ 狩獵 有る 敵
- ¹³ kana-a(t)saṣ / mun(t)saan talukan qaqa-
攻める 行く 獵小屋 獲る
- ¹⁴ nop / pataḍun a qaqaṅop haḍun kuṣkuṣ
殺される 獲る のみ 爪
- ¹⁵ ṣiḍa malaṣ-tummaḍ a / loq-las to nijaṣ
取る 敵首歌 叫ぶ 未だ-ぬ
- ¹⁶ (t)saak mataḍ / nautnaut malaṣ-tommaḍ
私 死ぬ 無効, 徒らに 敵首歌
- ¹⁷ nijaṣ mataḍ / moṅṅan mapataḍ / (t)sija
未だ-ぬ 死ぬ 再び 殺す その
- ¹⁸ kuṣkuṣ oqna-un ṣiḍa malaṣ-tummaḍ / loq-
爪 再び 取る 敵首歌 叫ぶ
- ¹⁹ las nautnaut malaṣ-tummaḍ nijaṣ mataḍ /
徒らに 敵首歌 未だ-ぬ 死ぬ

2. tuppawun tuppa-(w)un 云はるもの < tuppa 云ふ。
3. ittajin itta-(j)in < itta 其處, 副詞 itta も過去 -in を取り得。
4. ketsaan ka-tsaan < tsaan 於て, ka-「状態」, ketsaan “到着す”。
5. makatsaan maka-tsaan < tsaan, maka-「方向」。
6. ṣadowanin ṣaḍo-(w)an-in < ṣaḍo 見る。
8. iṣ kilim iṣ matsihal laḍqaiban “良い通路を探す”,

3. 河の競争

北蕃にマイバツといふ地がある。
我々の中の誰が先きに海に行くかと
其處で[河共が]云つた。卡社の方へ行
く者が先きになつた。見ると彼は悪
い處を我慢して通つたから先きにな
つた。北蕃の方へ行く大きな河は良
い通路を探がしたから遅くなつた。

4. 不 死 身

獵に行くと敵が攻めて来たさうだ
といふ話だつたので、獵小屋に行つて
[敵を]捕へやうとしてゐた。捕へて殺
して爪だけ取つて敵首歌を歌ふと、己
はまだ死なないぞと叫んだ。折角敵
首歌を歌つたのに死ななかつた。爪
を又取つて敵首歌を歌ふと、折角歌つ
たのにまだ死なないと叫んだ。更に

kalat iṣ tunuhilan “腰巻に喰ひつく”(丹大社, 原文 19 第633頁, 4行), 此等の例に於て iṣ は結辭よりも寧ろ「對格」の冠詞の如き作用をなす。説明者は iṣ は日本語の「の」に當ると説明す。

14. haḍun 比較 ad'ad のみ。
15. nijaṣ ni-(j)iaṣ 未だ-せず。
18. oqna'un oqna-un < moqna 再び。

- ¹ oqna-un a maqaiḡut suḡaunin a buḡḡo / 再び 臙首す 取られた 首
- ² nijaḡ mataḡ a luḡbo / paiḡkatdijeepen 未だ一ぬ 死ぬ 體 其後
- ³ tsulan ḡaḡulavan qaiḡiḡutan / moḡna 注ぐ 野菜の煮た汁 臙首せし處 再び
- ⁴ tsulan ḡaḡulavan kaledaḡan nijaḡ mataḡ / 注ぐ 野菜の煮た汁 木豆 未だ一ぬ 死ぬ
- ⁵ tsulan in-hutanan nijaḡ mataḡ / moḡna 注ぐ さつまいもの煮た汁 未だ一ぬ 死ぬ 再び
- ⁶ tsulan hainatan baḡno taḡḡon / tudjeepen 注ぐ 汁 豆 黒 その時
- ⁷ mattaḡ / tsulanun imbainowan baḡno taḡ- 死ぬ 注がれる 豆汁 豆 黒
- ⁸ don / toḡkabin a bunun / toḡkabin a 隠る 人 隠る
- ⁹ lut-bo / maḡbaḡea e pakalibaḡan / muḡbaḡe 體 逃げよ 不思議なこと
- ¹⁰ amin luḡbo / munlumaḡa bunun a / mun- も 體 家に入る 人 家に
- ¹¹ lumaḡa luḡbo / minaḡkaḡa matultul / ma- 入る 體 立上る 粟を搗く 粟
- ¹² tultul tuppā amin lut-bo / tuppā bunun を搗く 云ふ すべて 體 云ふ 人
- ¹³ to ma-un a qaiḡiḡ / siḡile tuppā to ma-ona 食ふ 飯 眞似る 云ふ 食べよ
- ¹⁴ qaiḡiḡ / 飯

5. ḡuḡkahivhiḡ
シユンカヒビビア

- ¹ haḡḡa tuppawan to ḡuḡkahivhiḡ / aḡa-aḡa 有り 云はれる (地名) 許り
- ² binanau-aḡ / maitaḡa a(t)saḡ / munḡaḡa 女 すつかり 村 登る
- ³ ta've kalihiv-hivun / hiḡ-hiv at² po: tsija / 屋根 風にあてられる 風 女陰 その

3. qaiḡiḡutan qa-in-iḡut-an (首の) 切つた處、切口 < maqaiḡut 臙首す。-in- 形 q-in-iḡut-an とならざるところを注意せよ。
5. inhutanan in-hutan-an <hutan さつまいもの、類例; imbainowan 豆汁 <baḡno 豆。
9. muḡbaḡea muḡbaḡe+a, -a 「命令」。
pakalibaḡan pakaliba-an 不思議なること、比較。min-pakariva 奇蹟をなす、語根 pakaliva or *liva. pakalibaḡan の b は v 宜しからん。

臙首して首を取つたが、體はまだ死ななかつた。その後で首を切つた切口に野菜汁を掛けた。又木豆汁を掛けたがまだ死ななかつた。芋汁を掛けたが死ななかつた。又黒豆汁を掛けると、その時黒豆汁が掛けられたので、死んだ。人々が隠れると、(頭の)體も[一緒に]隠れた。不思議なので逃げると、體も逃げた。人々が家に入ると、體も家には入つた。御飯を食べやうと人が云ふと、御飯を食べませうよと真似て云つた。

5. 風を孕む話

シユンカヒビビアといふ處があつて、一村中女許だつた。屋根に登つて風に當ると、風が女陰を吹いて、子供が

13. ma-ona maon-a -a 妻照、註9。

16. ḡuḡkahivhiḡ ḡuḡka- 利用す、hivhiḡ 風。
17. aḡa-aḡa 中部方言、ad²ad。
18. maitaḡa mai-taḡa 總べて <taḡa 一。
19. kalihiv-hivun kali-hivhiḡ-un <hivhiḡ 後頭部、kali- 比較。muloḡ 破壊す(自)、paloḡḡon 破壊せらるもの、kaliloḡḡon 打ち破さるもの。
at aḡ を使ふも宜しといふ説明あり。

- ¹ daḡḡijan ova-aḡ (t)saan tijaḡ / matsa 入る 子 に 腹 若し
- ² binanau-aḡ ova-aḡ a ni: to makwa / ma- 女 子 不 差支 若
- ³ tsa bananaḡ a / ḡiḡiḡiḡiḡun paḡaḡalaḡ / し 男 裂かれる 引張る
- ⁴ muḡu:n mattaḡ bananaḡ at ova-aḡ / 終ひに 死ぬ 男 子

6. atso
犬

- ¹ maḡbaḡaḡ bunun a pahutse / tuppā 寝る 人 交接する 云ふ
- ² duma to mindaḡ-kaḡa moḡḡomma / ne 外の(人) 起きよ 耕作する 不
- ³ iḡitala mindaḡkaḡa e: paḡiḡiḡ-ten / tuppā 能 起る 密着せる 云はれ
- ⁴ wunin to huḡvaivun as puḡas paḡiḡija 犬 交接する 陽物 彼のものにする
- ⁵ atso / puḡas atso paḡiḡija bunun / laḡat e 犬 陽物 犬 彼のものにする 人 都合が良い
- ⁶ ni: to moḡḡomma / paḡiḡkatdijeepin pa- 耕作する その後
- ⁷ hovaivunin ne-im paḡiḡ-tin / as bunun 交換された 不 密着せる 人
- ⁸ pahuhutse /
- ⁹ tudjeep maḡamo qanuvāḡ / muḡoḡaiḡin 其後 捕へる 鹿 歸つた
- ¹⁰ a tun-papaḡ atso taḡo to maḡamo 先になる 犬 告げる 捕へる
- ¹¹ qanuvāḡ / naut-naut manuvavai mammaḡ 鹿 甲斐がない 運ぶ 背負ふ
- ¹² qanuvāḡ mun-lumaḡ tuppawunin atso to / 鹿 歸宅する 云はれた 犬
- ¹³ naut-naut manuvavai / ina:k dina:mo 甲斐がない 運ぶ 私のもの 獲物
- ¹⁴ qanuvāḡ / paḡiḡkatdijeepin kulutun as 鹿 その後 切られる

6. 犬

人間が寝て交合してゐるときに、外の人(人)が起きて働きなさいと云つても、抜けないから起上れなかつた。人間の陽物を犬のものにし、犬の陽物を人間のものと交換しよう云つた。[犬は]働かないから都合が良い。交換してから人間が交合しても抜けないといふことがなくなつた。其時代に[人々が]鹿を獲つた。犬がさきに歸つて、「俺が鹿を獲つたのだ。鹿を背負つて運んで歸つてくるぞ」と云つたが甲斐がなかつた。「運んで来るが、獲物の鹿は俺のものだ」と犬が云つたが徒勞であつた。それから犬

1. daḡḡijan. daḡḡi-(j)an <(ma-)daḡḡi 容れる。
3. ḡiḡiḡiḡiḡun. ḡi-tḡiḡiḡiḡiḡun 引裂かるもの <(ma-)tḡiḡiḡiḡiḡiḡun 裂る。
4. bananaḡ at ova-aḡ. 「男の子」。此 at は中部、南部方言の結辭 a と同じき作用。
10. huḡvaivun. <mahuvaiv 交易す、交換す。

paḡiḡija. pa-i-tḡija <i-tḡija 「彼のもの」
13. ne-im. ne-in > ne-im p のため。
14. pahuhutse. pahutse の「反覆」。
16. taḡḡo. 「音々」、takko 「匙」、k と q の區別に注意。
17. mammaḡ. 「荷物を背負ふ」、mama 「舌」により區別す(丹大社方言に於ても同様)。
19. naut-naut. 徒勞、誰も犬の言葉を信する者なしの意。

- ¹ mamma atso / maha:u e moŋgaʊs taqqa /
舌 犬 怒る 先になる 告ぐ
- ² kulutun as mamma / paɪskatdijeeɸin nijin
切られる 舌 その後 なし
- ³ makan(t)sijap ʔbaðʔbað atso /
出来得る、判る 話 犬

の舌が切られた。先に歸つて云つた
ので怒つて舌を切つた。それから犬
は話が出来なくなつた。

7. pun-ijul
ブンイユル

- ⁴ ha:bun maepa sinapin at^o atso^o / muʂaʂo
追出させる 彼 追ひかけり 犬 終ひに
- ⁵ moŋhav at^o atso / kilimunin / kilim atso
行き不明となる 犬 探された 探す 犬
- ⁶ toʔaveɸ / lantsan^o-lantsan^o loɸon toʔaveɸ /
呼ぶ に沿ひて行く 山の稜線 呼ぶ
- ⁷ mun^odaða lukkis toʔaveɸ / he he he tutut
登る 木 呼ぶ
- ⁸ tu-tut / muʂoojin minloqqai / tuppawun
終ひに 鳥となる 云はれた
- ⁹ to pun-ijul /

7. ブンイユル鳥
ある人が[犬に獲物を]追出させると
犬は追ひかけて、つひに犬は見えなくなつた。探した。呼んで探した。稜線に沿うて歩いて呼んだ。木に登つて探した。へへへ、トットトット、トットトつひに鳥になつた。ブンイユル鳥と云ふ。

8. tsalpoʂi-aŋ
ツァルポシヤン

- ¹⁰ (t)sijata ʂiðawun bananað / ne iʂitala
彼 取られる 男 不 承諾
- ¹¹ ʂiðan(n) bananað / moʔba:tsin aʂin ʂiðau(n)
男 代へた 取らせた
- ¹² bananað / tsin bananað a mimba:tsin ne
男 面して 男 代へた 不
- ¹³ aʂa / matsalpo e ne ʔaunin bananað /
欲しかる 悲し 不 欲しがられた 男
- ¹⁴ tuppun to tsalpoʂiaŋ / aʂin ʂiðau(n) a
云つた 悲しい
- ¹⁵ makantsijap tin-un / aʂin ʂiðau(n) bana-
上手である 織る 男
- ¹⁶ nað / tin-un kulij pataʂan / daða iʂitare
織る 胸當 紋様のある 上 屋根に於て

8. ツァルポシヤン鳥

彼女は嫁に行くことになつたが、嫁に行かうとはしなかつたが[心を]代へて嫁に行くことにした。男に復讐して貰はなかつた。男に振られたので悲しくなり「悲しいです。織物が上手だつたからお嫁に行きたう御座んす、お嫁に行き度う御座んす」と云つた。

9. tutut tutut. アオン族の犬の呼び方。
11. pun-ijul. 此の鳥は食はず(老人は食ふことあり)。
15. ʂiðawun bananað. “男の取る者”即ち“嫁す”。
16. moba:tsin. *√bats mimba:tsin, kaunaba:ts, imba:

tsunin.
aʂin, aʂ(a)-in <aʂa 欲す。
19. tsalpoʂi-aŋ tsalpo-iʂiaŋ 悲しき心。
21. iʂitave. iʂi-tave <tave 屋根, iʂi-「場所」。

- ¹ iʂitakunav kauna (t)saan bananað / ka-
投げられる まで に 男
- ² unaʔba:(t)s matakonan bananað / tsoqqais
返す 投げる 男 返す
- ³ daða tare / toppaun to imba:tsumin ma-
上 云はれる 返された
- ⁴ taknav at kulij pataʂan qauna daða
胸當 紋様のある まで 上
- ⁵ tare / ne aun e bananað / tsalpoʂiʔaŋin /
悲しくなる 男 悲しくなつた
- ⁶ minuʔuni tsalpoʂiʔaŋ to loqqai /
成る 鳥

紋様入胸當を織つて、屋根の上に登つて男に投げつけた。男は投げ返した。屋根の上に返した。云ふやうには「屋根の上まで紋様入胸當を投げ返したぞ」。男に振られたので、悲しくなつて、ツァルポシヤンといふ鳥になつた。

9. tu(t)s
トゥス

- ⁷ tuppa to ma:ʂaʂo ni: tu tinu-un hɸulɸus
云ふ 何故、汝 不 織る 布製上衣
- ⁸ naak / tuppa binanaʔwað to / lapat e ha-
私の 云ふ 女 都合が良い 有
- ⁹ iða latoʔ / tsimaʔata mamaŋan muntsaan
る 皮製上衣 誰 我 勇気がある 行く
- ¹⁰ paʔav / muðaan ne makwa / muðaanin
男 行く 不 差支 行つた
- ¹¹ naeta mun(t)saan luɸun binoqaðan /
彼等 行く 山 卓社大山
- ¹² katsanin paʔav / tuppun to binanawað
到着した 男 云つた 女
- ¹³ tutsan nanað / tu:ts tu:ts tu:ts / tuppa
火を起す 夫 云ふ
- ¹⁴ bananað ʂaɸoʔe tsimaʔata mamaŋan /
男 見よ 誰 我 勇気がある
- ¹⁵ kaunun kaðhav aʂ binanau-að / muʂo:
逢ふ 寒氣 女 直ちに
- ¹⁶ minuʔkoppots / minuʔuni loqqai /
小さくなる 成る 鳥

9. トウス鳥

「何故御前は俺の上衣を織つて呉れないのか」と[夫が]いふと、妻が云ふやうには「皮衣があるからいゝでせう」。「雪のある所へ行くと二人のうちで誰が勇気があるだらうね」。「行きませう、構ひませんわ」彼等は卓社大山へ行つて、雪のある處に到着した。妻が云ふやうには「あなた、火を起して頂戴、トッ、トッ、トッ、トッ」夫が云ふやうには「二人のうちで誰が勇気があるかを見なさい」。妻は寒氣に逢つて、直ちに小さくなり、鳥になつた。

1. iʂitakunav. 比較 mataknav, matakonan. 語根は * takon ? iʂitakunav < iʂitakun+av, mataknav < matakun+av と分解すべきものか? -av に關し参照 丹大社 pataðav (丹大社原文16, 第630頁 註14)。
5. tsalpoʂi-aŋ. 此の鳥は見る、食ふこと共に禁禁。
9. ma:ʂaʂo. <maaʂa ʂaʂo.

15. tutsan, tuts-an <(mapa-)tuts 發火す, √tuts, nanað. <bananað 暑形, 愛稱。
tu:ts. “火を起せ”の意。これより tuts と云ふ鳥が生れしといふ民間語原的傳説。“トゥッ”鳥は高山の寒い所に好み住むこともこの傳説の motiv と關係あり。此鳥は食ふことを禁禁とす。

10. šiqqois
シッコイス

- ² matašin a tina / mintinalo / moqna
死んだ 母 孤兒となる 再び
- ³ kiḡna binanau-waḏ tama tsija / maḡkalun
後の 女 父 その 命ぜられる
- ⁴ muntsulan / maḡsimav a muntsulan na
水を汲みに行く 熱心なる 水を汲みに行く
- ⁵ tsaivan loqtas / miḡqašimav manahiv na
奥へる 焦飯 熱心になった 喜んでやる
- ⁶ tsaivan loqtas / moqnan muntsulan na
奥へる 焦飯 し一度 水を汲みに行く
- ⁷ tsaivan loqtas na kanaqtoḡḡin / itsiḡ kana
奥ふ 焦飯 終つた 何處
- ⁸ ti:na loqtas / moqnan maasik es ʔboḡḡa-
母 焦飯 し一度 掃除する 庭
- ⁹ van / kanaqtoḡḡin a maasik es boḡḡavan /
終つた 掃除する 庭
- ¹⁰ tsaivanin a take atso / mudaan mudipalan
奥へた 糞 犬 行く 隣家
- ¹¹ šiḡa ban-ban minuʔuni pane / tudijeepen
取る 糞 成る 羽 その時
- ¹² tanam kusbaje / mutsoqaisaḡ moqna kus-
やつてみる 飛行 歸る 再び 飛
- ¹³ baje / punḡaḡa qabo / moqna kusbaje
行 上まで 棟 再び 飛行
- ¹⁴ punḡaḡa talunaḡ / loḡ-la(t)san tama tsija /
上まで 竹 呼ぶ 父 その
- ¹⁵ mawun qattaḡ / laḡat e ne haiḡa kaunun
食ふ 膽 都合が良い 不 有 食はれる
- ¹⁶ daḡa ta qattaḡ / ne aḡa mutsoqais muna-
上で 膽 不 欲 歸る 下
- ¹⁷ šiḡo na tsaivan take atso / laḡat e na
奥ふ 糞 犬 都合が良い
- ¹⁸ untsoqaiḡun naḡiḡo te šiḡaa tulkok / lis-
歸る 取る 雞 首
- ¹⁹ qaiḡut buḡḡo tsaan hilav tama tsija /
か切れる 首 に於て 門 父 その

2. mintinalo. <tinalo 孤兒。
4. muntsulan. mun-tulan <tsulan 水を注ぐ。
7. itsiḡ kana. “何處に在るか”, kana は無くとも宜しといふ説明なければ、疑問の場合に用ふる副詞的助辭?
8. es ~is.
16. daḡa ta. “あの上” 比較 naḡiḡo te “この下”。

10. シッコイス鳥

母が死んだので、孤兒になった。父は再び後妻を(娶つた)。水を汲みに行くやうに言附けられた。「一生懸命に水を汲めばお焦を上げます」[と母が云つたから]お焦がもらへると思つて一生懸命喜んでやつた。「汲めばお焦をあげるからもう一度水汲みに行つていらつしやい」[と母が云つた]。「お母さん、お焦は何處にありますか」。「今度は庭を掃くんですよ」。庭の掃除が終つた時に、犬の糞が奥へられた。隣家へ行つて糞を取つた。それが羽と化した。その時飛んでみた。も一遍歸つて飛んだ。棟の上まで飛んだ、今度は竹の上まで飛んだ。「膽を食べなさい」と父が叫んだが、「家に歸らなくともいいです、空で膽を食べますから。下へ歸りたくありません犬の糞をくれますから。下へ歸つて雞を取るから具合がいいです」。門の處で父の首

mutsoqaisaḡ. mutsoqaiḡ-aḡ 今一度歸る <mutsoqaiḡ 歸る。
18. liḡqaiḡut. ma-qaiḡut (首を)切る. mo-qaiḡut 雞首せらる様になる. liḡ-qaiḡut 自然に首切れる。

が取れてしまった。

11. miḡqanuvav
鹿になる

- ⁴ qabaḡaḡ maḡaḡaiḡaḡ a / makḡuḡa ovaḡ
昔 先祖 二人一緒に 子
- ⁵ tsija / maḡqa:ḡam / patimpalawa:ḡ pan-
その 狩獵に行く 別れた 立寄
- ⁶ tusbut tama tsija mulumaḡ / altalaan a
らやに、直前に 父 その 歸宅する 待つ
- ⁷ nkkaʔaḡ mulumaḡ muḡoqaiḡun kilim /
未だない 歸宅する 歸る 探す
- ⁸ katsaanin qomma a / ḡadoo as kinaunan
到着した 島 見る 食はれたもの
- ⁹ maḡoq / maḡqas maʔun / samoqa tsija
粟 何 食ふ 豈圖らんや その
- ¹⁰ ova:ḡ minuʔuni qanuvav / aḡibai-un tsaan
子 なる 鹿 追ひ出される に於て
- ¹¹ šiḡa qomma / tudijeepen ḡadowan minuʔunin
(島の)縁 島 その時 見る なつた
- ¹² to qanuvav aḡ ovaʔaḡ maḡaḡaukaḡ lino-
鹿 子 その儘 括つて
- ¹³ qosan qolbo / minuʔunin viḡviḡ as qolbo /
下く 髪 なつた 尾 髪
- ¹⁴ paiskatdijeepen haiḡa tuppawun to qa-
それ以後 有り 云はれた
- ¹⁵ nuraḡ /
鹿

11. 鹿になつた話

昔先祖が、親子二人連れで、獵に行つて、別れて父はまつすぐに歸宅した。待つてゐたがまだ歸宅しないから探しに引返した。島に到着した時に、粟の食つた跡を見た。何が食べたんだらう。豈圖らんや子供が鹿になつたんですぞ。[鹿は島の縁へ追ひ出されました。その時に子供が鹿になつてゐて髪が相變らずお下げになつたまゝであつて、その髪が尾になつてゐるのを見た。それ以後鹿といはれるものがあるやうになつた。]

12. a:q kokhoḡ qaʔlom
鳥 山猫 穿山甲

- ¹⁸ qabḡaḡaḡ a: / kokhoḡ e tsi:n a:q qalom /
昔 山猫 及び 鳥 穿山甲
- ¹⁹ paintataiv tsi:maʔata ne miḡitaba / piḡitaba-
競争する 誰れ我々 不 焼く 焼かる

12. 鳥と山猫と穿山甲

昔、山猫と鳥と穿山甲が、我々のうちで誰が茅原で焼かれても焼けないか

4. makḡuḡa. mak-ḡuḡa 二人一緒に <ḡuḡa に。
5. maḡqa:ḡam. 犬を連れざる狩獵. qanop 犬を連れたる狩獵。
patimpalawa:ḡ. 比較. minawa:ḡ 別る。
8. kinaunan. k-in-aun-an <kaun.
9. maḡqas / maaḡqas. <maaḡ “何” maaḡ+qa+aḡ? maaḡqas maʔun “食する者は何”, maaḡqas na ḡasun “持参する物は何”, maaḡqa のみの例, maaḡqa ḡiḡ-galan “隣にあるものは何”。

samoqa. samoqa tsiḡata taḡqaiḡo “豈圖らんや彼は盛なせり”。
13. viḡviḡ. 本社方言は ikol “尾”を余り用ひず <maḡviḡviḡ “左右に振る”。
18. kokhoḡ e tsi:n a:q. e tsi:n (は噴腹 (Pleonasm), e も tsi:n も “反、面して”。
19. piḡitabaʔun. piḡi-taba-un 焼かれる者, piḡi-taba 焼く <miḡi-taba 燃ゆるもの *Vʔaba.

- 1 ʔun tsaan padan / aša itsaan makambaba
に於て 茅原 欲 に於て 草の生茂した
- 2 taşso / tsin kokhoŋ a taŋŋos moŋqombois
焼かれたる 及び 山猫 先に 中に入る
事のない茅原
- 3 taşso / pişitabaʔun iş a:q iş qalom /
焼かれたる 穿山甲
事のない茅原
- 4 mişpiltiş mişsutuwab mişitaba as kok-
火傷す 甚しく 焼く 山
- 5 hoŋ / (t)saışan is a:q / tsin kokhoŋ mi-
猫 交代せられる 鳥 山猫 の
- 6 mba:(t)s pişitaba a:q / miştaqdoŋ a a:q
番になる 焼く 鳥 黒くなる 鳥
- 7 mişpiqqa mişitaba / tsaişan iş qalom ma-
跛になる 焼く 交代せられる 穿山甲 知
- 8 kantsip qalom makaiş da'laq / uŋkombaʔan
る、出来う 穿山甲 掘る 地 入る
- 9 iş qalom / kanaqtoŋŋin makai / tuđeeŋin
穿山甲 終つた
- 10 loqla(t)s to pişitabaŋin e kombojen iş
呼ぶ 焼き給へ に入つた
- 11 taşso / imbatson iş a:q pişitaba / kana-
焼かれたる 代られる 鳥 焼く 終
事のない茅原
- 12 qtoŋŋin mişitaba / minşumajin is qalom
つた 焼く 出た 穿山甲
- 13 loqla(t)s / loqla(t)sin at qalom / ma: moppa
穿山甲 穿山甲 その故に
- 14 (t)sa:ke mattamaşşal paŋ nitmişitaba /
私 強い 焼けない

13. maşamojin mađas
禁ぜられた 同作する
binanauʔwađ qanop
女 狩獵

- 1. itsaan, i-tsaan i-「場所」。
- 2. moŋqombo, moŋ-qombo 内に入る <qombo 内。
- 3. pişitabaʔun iş a:q iş qalom. 初めの iş は「動作主を示し」に依りて、次の iş は接続詞的にして「及び」といふ意。aş は「主格」を示す。mişitaba as kokhoŋ 「山猫は獲す」、pişitabaʔun iş a:q as qalom とすれば「穿山甲は鳥に依り焼かる」。
- 5. (t)saışan. <matsaiş 交代す。
- 6. miştaqdoŋ miş-taqdoŋ <(ma-)taqdoŋ 黒き、接頭辭 miş-「になる」、mişpiqqa 「跛になる」、比較 işi-piş-
- 8. makaiş. makai iş.
- 11. imbatson. mimbats 代る。
- 12. minşumajin iş qalom. minşumajin as qalom とし

を競争した。茅の生へ茂つてゐる茅原でやることにした。山猫が最初に茅原に入り、鳥と穿山甲が火をつけた。山猫はひどく火傷して焼けた。鳥が代つた。山猫が鳥を焼く番になつた。鳥は黒くなり跛になつて焼けた。穿山甲が代つたが穿山甲は地面を掘る事を知つてゐた。穿山甲がは入つた。掘るのが終つた時茅原に入つたから火を附けて呉れと叫んだ。今度は鳥が火をつけた。焼け終つたときに、穿山甲が出て来て叫んだ。穿山甲が叫んだ「どうです、我輩は強いから焼けはしないだらう！」。

13. 女を狩獵に伴ふことが
禁ぜられた由來

- でも宜し、iş を用ふれば minşumajin の意強く、as を用ふれば qalom の意強くなると考ふ、説明者は iş の方は「未來」の意味を含むと云ふも信じ難し。
- 13. at. =as.
ma:. 相手の注意を惹く間投詞。
- 14. paŋ. 軽き疑の意を表す助辭、「恐らく」「多分」。
nit. =ni: to.
- 採録期：昭和五年七月。
口授者：マコロワ社 tudai takesikaban (男、當時推定年齢55)
説明者：柯万水。
口授者の口授を説明の復誦せしを記録、文體は説明者のものに近し、各語の發音は口授者の其により訂正す。

- 1 takemadaipadaŋ haiða dađuša tasʔan
先祖の時代に 有る 二人 兄弟
- 2 tatine bananau-wađ tatine bananađ / qa-
一人 女 一人 男 狩
- 3 nop ulduşaan tasʔan tsija qonol / undoʔ-
獵 二人一所に 兄弟 その 四時を待 出會ふ
- 4 wan qanuvap / tsija bananađ taŋŋos ma-
鹿 その 男 先きに 射
- 5 naq sansipattun manaq şabas / qalqvan
る 四回やれり 射る 外れる 手に取る
- 6 tasʔan tsija binawađ buttsul / manaq
一回 その 女 弓 射る
- 7 qanuvap / taişaso-on işibiŋluttun buŋo
鹿 一つを用ひられる 切られる 頭
- 8 tsutso / tainabiŋluttun işido:s aş buŋŋo
乳 切られた (弓)の弦 頭
- 9 tsotso / muşoʔo mata amin binanoʔwađ /
乳 直ちに 死ぬ も 女
- 10 paiskatdijeepin maşamojin mađas binana-
それ以後 禁ぜられた 連れる 女
- 11 wađ qanop / puşoʔon piđjeep mantsoqtsoq
狩獵 直ちに 其處に 挿す
- 12 as buttsol / pantsoqtsoq tsaan dalaq /
弓 挿す に 地
- 13 tsin panaq as ko:s / muşoo taliʔija /
面して 射る 矢竹、矢 穿が出る

14. taŋʔav
タンバブ

- 16 haiða qabaş tuppawun to taŋʔav / ma-
有る 音 云はれる
- 17 ştaan mađain to bunun / itsaan boqqaiv
甚しく 大 人 に於て (マコロワ社)
- 18 kanatsaan mahulaulan taşʔa kaintsaqaan /
まで (地名) 一 歩
- 19 minatsaan mahulaulan ta kanatsaan ha-
から (地名) まで
- 20 bʔpaqqot kantsaqa / madadaukaŋ maqai-
(地名) 歩 その儘 引込む
- 21 toŋʔav kailandapanan taŋʔav /
踏んだ處

- 1. takemadnipadaŋ. take-madaipad-aŋ <madaipad 先祖、take- に住む人々、-aŋ 「時代」を示す。參照。qabaş-aŋ 音々。
- 3. ulduşaan. <đuša 二、比較 ul-tinain-an 一人、ul-tatan-an 三人在り、ul-şasipat-an 四人在り、ul-an ある人數の存在を示す。
- 5. sansipattun. <şipat 四、比較 taişaso-on 一回、şam-

先祖の時代に二人の兄弟があつて一人は女一人は男であつた。兄弟二人が獵に行つて待伏せをしでゐると、鹿に出會つたので、兄が先きに四回射たが當らなかつた。妹は一回弓を取つただけで鹿を射た。一遍やつただけです。乳首が切れた。弓の弦で乳首が切れた。直ぐに妹も死んだ。それ以後女は獵に連れて行く事を禁ぜられた。直ぐに弓を其處に挿した。射た矢も地に挿された。間もなく芽が出た。

14. タンアブ

昔タンアブと呼ばれる巨人がゐた。武界からマフラウラン迄一足[で歩いた]。マフラウラスからハビバコツト迄一足[で歩いた]。タンアブの踏んだ處は引込んだまゝになつてゐる。

- pusanun 二回、santiunun 三回、san-un 「回数」を示す。
- qalavan. <maqalava 手に取る。
- 7. işibiŋluttun. <(ma-)biŋlut 切る。
- 採録期、口授者、説明者は原文1と同じ。
- 16. taŋʔav. taŋʔau と云ふ。

3. 南 部 方 言

I. 郡 蕃 (イバホ社) (ivaxo)

1. işibukun 郡 蕃

- 6 xabaşan ʔina:m bunun maşa lauppaŋ
7 mixomiş xai / şija biʔtaxol aşi muxalxal
8 mişinaðaða dexanin / pananaşıto maupa
9 moaðoʔaðo biʔtaxol tişbuşpał / auppa min-
10 şumma bunun duşa inipađax /

採録期: 昭和五年八月.
日授説明者: イバホ(ivaxo)社 bukkuñ pałabe (男, 當時24歳).

補助説明者: 郡大社(asañ deggad) xalıju takeşitsibanan (男, 當時14歳)

bukkuñ 及び xalıju は蕃童教育所卒業生, 共に日本語は不完全, 説明に多大の時間と努力を要せり. bukkuñ の母は蕃童カトリック社より来る. 「な」と問々

s と ş. アヌン語音韻組織上[s]と[ş]の區別あれど, 缺歯のため[s]は[ş]の響に近づき兩者を調査者にとり聴取辨別するに甚だ困難を覺ゆ. 且又, 話者自身に於ても發音意識の差別薄弱となり, 被調査者に依り其發音を異にすることあり, 此の事實は既に中部方言に於て認められ, 南部方言に至り甚しく, bukkuñ に於て缺歯の爲兩音の明瞭なる發音區別無く又兩音の明瞭なる語意識無きが如し(二三の他の蕃人につき調査せしも同様) :- 例へば同一の語を或時は[s]或時は[ş]に發音し何れを正しとするかと尋ねるも區別出來ず, 又[s]とか[ş]とかの區別をせし場合も北部方言と比較するときに一致せざること多し(文法を參照せよ). 但し不思議なる事實は, xalıju(缺歯せず)の發音に於て[s]の[s]の區別あり而してその區別は北部方言に一致する處多し, xalıjuの説明に依れば, 成人は缺歯のため兩音の區別困難なるのみならず, 又區別を強いてせず, 子供は兩音の區別せず, 即ち兩音の區別の無きは成人の發音, 區別の有るものは子供の發音なり, 自身の[s][ş]の區別は, 兄の未だ缺歯せざるときに見に倣ひしものなりと, 未だ調査材料不十分にして斷言し得ざるも, 音韻の古形老人層に殘留する一般の言語音韻現象に反し, 少年層に殘留する特殊缺歯の人工的原因と少年語と成人語の差別發生の言語社會學的原因に依

1. 郡 蕃

昔我々人間が始めて生れた(物語をすれば), 瓢箪が天から下へ落ちて, 瓢箪が搖ぎ割れ, 人が二人内から出た.

る)の事象と云ふべきものか. 本文書換は bukkuñ の發音に依れり. 原文 I に現はる [s] [ş] に關し, bukkuñ, xalıju の北部方言, タマロワン方言の三者の比較對照を試みて次に附す.

- [s] と [ş] の差異 (A. xalıju B. タマロワン發音)
xabaşan (A. ş B. s), mixomiş (A. s B. ts),
şija (A. s B. ts), aşi (A. s B. ts),
tişbuşpał (A. s B. ts), mişumma (A. ş B. s),
taşʔa:n (A. s B. s), tavşʔuva:ðin (A. s B. ts),
tuşkun (A. ş B. ts), toşaşi (A. s, s B. ts, ts),
maşjin (A. ş B. ts), maşlin (A. ş B. s),
tuşaşaşi (A. s, s, s B. ts, ts, ts), maşta:n (A. s B. ts),
lukkiş (A. s B. ts), imʔbaşi (A. s, s B. ts, ts),
amoş (A. s B. ts), şişoşi (A. s, s, s B. ts, ts, ts),
ʔdav (w) aş (A. s B. ts), maiş (A. s B. ts),
xa:ʔbaş (A. s B. ts), maşxaijış (A. s, s B. ts, ts),
masijiva (A. s B. ts), sjamo (A. s B. ts),
sijin (A. s B. ts), mapaka:ʔbaş (A. s B. ts),
miaş (A. s B. ts), şavaat (A. s B. ts),
işikauppa (A. s B. ts), işiʔbukkuñ (A. s B. ts),
maʔdaşxas (A. s B. ts), maşmowab (A. s B. ts),
şjaşiʔbinad (A. s B. ts), maşitaşin (A. s, s B. ts, ts),
maşisoupa (A. s, ş B. ts, ts), asa (A. ş B. ş),
aş (A. s B. ts).

6. xabaşan xabaş-an 比較 xabaş-an-aŋ 丹大社 xbaaş-aŋ -an 「分詞-接尾辭, -aŋ 「動詞-接尾辭. lauppaŋ laup(a)-aŋ -aŋ 「動詞-接尾辭は「時代, 時期」を示すことあり. 比較. xabaş-an-aŋ 類語. taggəs, kit-ŋab.

7. xai 南部方言特有, 北部, 中部方言 a に當る, at と併用し xajat となることあり.

muxalxal 自動詞, maxalxal 落す (他動詞).

8. mişina- 中部方言, maişina- より pana- まで, 中部方言 pun-

- 1 sja biʔtaxa:l bananađ maş piŋpađ /
2 mappadaŋŋi naijadau xai / mimpapijin
3 ovađ / aida piŋpađ / aida bananađ / ovađ
4 taşʔa:n / piŋpađ maş bananađ xai / mapa-
5 daŋŋi tavşʔuva:ðin naijadau / minʔmaļa
6 başin bunun / maşa işija mailab xabiðan
7 to na min-uvad maş işixalavaŋ / tuşkun
8 toşaşi / mouppa matsinuvaive aş minu-
9 ʔuni işixalavaŋ xai / tutappaş nai toşaşi /
10 ni tu maşlin / tuşaʔaişi ina:m mađadaeŋ-
11 pađ tuşaşi xai / maşlin amuşi şişuşun /
12 işixalavaŋaş / ʔina:m şida / mouppa ma:şa
13 antamavin tsin şija mailav to / moxnaʔ
14 minuva:ð maş bantalaŋ matsiŋxailadaş /
15 na minʔuni bantalaŋ / toxna tuşaşaşi ni
16 to maşlin / tuşaşin ina:m tuşaşi xai /

瓢箪の男と女は夫婦になり, 子供が澤山になつた. 兄弟には, 女もあれば, 男もあり, 女と男は, 夫婦になつて子供が生れた. 人間が澤山になつた. マイラブ, ハビザンの地に於てタイヤル族と別れようとした時に, 一緒に歌つた. 別れた者はタイヤル族となり, 彼等は先に歌つたが, 下手だつた. 我々の先祖は後について歌つたが, 上手だつたため[一部の者は]タイヤル族に連れて行かれた. マイラブの山手に来た時に, バンタランと別れた. [即ち]別れて, バンタランになつた. も一度歌つたが, 下手だつた. 我々は後について歌ふと, 素的に上手だつた. バンタランになつたものは, 我々の先祖を連

- 1. sja sja / şija 於て, 元來 şija は「其處, 其處にあるもの」の意味. 「其處に於て」は「なる」處を示す接頭詞なり işija となる. 「於て」といふ前置詞的用法には işija を用ふることは理論的なれば其例比較的少く反つて şija の方多し, işija の i- の弱化するものと考ふべきか (接頭辭 işi- は屢々 şi- と弱音化するを參照せよ) 比較. 中部方言 saan/haan 參照. 註 11.
maşi 中部, 北部方言 is に當る. 用法同様.
piŋpađ mal(u)spiŋpađ の略形. アヌン終音 ad < 共通臺灣語 ai 例. matađ 死 < *matai, tummad 無 < *tumai -ad は「生物」を示す擬似接尾詞 mađaiŋ 大 > daŋpađ 老人, ovađ / ovađ-ad (中部方言) 子 bananađ 男, aļowađ 鼠.
4. mapađaŋŋi mapa- 「相互」.
5. minʔmaļabasin min-maļabas-in < maļaba 澤山.
6. işija i-şija 參照. 註 1.

- xabiðan 埔里附近, 給美廟.
7. na na minʔuvad 將に分離せんとせし時 na 「未來」 「希望」 「引續き起る事」を示すに用ふ助辭. 參照. 原文 5 註 1 第 659 頁 註 4. na maş ~ işixalavaŋ より, maş (中, 北 iş) は主格以外の格 (oblique cases) を示す故に, 動詞により適當に譯す必要あり.
işixalavaŋ 接頭辭 işi- 「住人」部族を示す. işibukun 郡蕃. 此用法に於て take- と同じ, takebaka 本社蕃, takebanuwad 蕃蕃.
tuşkun 比較. muşkun 一緒に.
9. tutappaş taggəs の反覆?
11. şişuşun < maişuşun 結合す.
15. toxna 比較. moxna sixna.
16. maşlin 上手といふ説明. 類語. makansijap 巧なる. maşijał 良き, maşlin は歌の場合に用ひらるに依り美聲といふ意味?.

- ¹ mašta:n mašlin / auppā aš minbantalān
最上 上手 バンタランになる
- ² xai / sixna šišo:s maš inam: madadēppad /
も一度 最上なるを 我々の 先祖
- ³ šišo:sšiši bantalān / labato? lukkiš tomo-
結合する バンタランを 投げる 木 アカ
- ⁴ kun / maš inam: to madadēppad / auppā
我々の 先祖
- ⁵ imbašusi 'inam: to madadēppad / labato
返す 我々の 先祖に 投げる
- ⁶ tsiŋ xalidaŋan amoš taepataðun / šixanna
此處 木豆を その故に 殺された 再び
- ⁷ aš ištantalān šišo:s šiši:ða / auppā xaunŋun
バンタランは 連れ 取る 怒る
- ⁸ inam: madadēppad / toppa ðau(w)aš ištā-
我々の 先祖は 云ふ
- ⁹ n'talān to / ni to makwa e na: piŋŋa-
タランは 構はない 入れら
- ¹⁰ ðaxun sja? / ðavað inam: bōŋŋo / na mi-
れるもの に 負袋 我々の 頭
- ¹¹ ŋšijax mo? xo? dabos / auppā minevaðin
柄杓 汝等の 飲む 酒を
- ¹² maš ðammi ban'talān / auppā maš ma-
バンタラン 時
- ¹³ kavaši inam: madadēppad xa:baš maš
戦ふ 我々の 祖先 昔 と
- ¹⁴ bantalān / ni to tōppa to ōkka šiniða
バンタラン 不 云ふ 無し 取つたもの
- ¹⁵ bōŋŋo / mašxaiš maðija šidaun amin maš
首 毎日 多く 取られたもの すべての
- ¹⁶ (iši)xalavaŋ / auppā ni: nai xajap paŋna-
タイヤル族 彼等 解る 話
- ¹⁷ nuto / mašiliva paŋnanuto xai sjamo /
相違する 話 其故
- ¹⁸ košilataŋ savajaši 'inam: to madadēppad
當然 勝つ 我々の 先祖
- ¹⁹ xabaš / aupa malalabaš xalavaŋ e / na-
昔 澤山 タイヤル族 のみ
- ²⁰ nuto? naštana: / maša minuvað kōman
(2=非常に) 最も 時 別れる 少

れて行つた。バンタランはブヌンを
連れて行く時に、我々の先祖にアカザ
の木を投げた。我々の先祖は仕返し
をした。こちらへ木豆を投げたため
に死人があつた。又バンタランは(我
々の仲間を)連れて行つたから、我々の
先祖は怒つた。バンタランは云つた
といふことだ、「我々の首が首袋に入れ
られても、又あなた方が柄杓で酒を飲
んでも構はない、そこでバンタランは
我々と別れた。我々の祖先はバンタ
ランと戦へば、必ず首を取つた。タイ
ヤル族(の首)も毎日澤山取つた。彼等
は話が解らず、話が異なるから、我々の先
祖が非常に多数のタイヤル族に對し
勝つのは當然である。別れる時に我
々ブヌン族は少人数であつた。それ
から次第に別れた。[別れた]卓社蕃、卡
社蕃、丹蕃、辯蕃は、常に争つた。卓社蕃、
卡社蕃、丹蕃の三者が同盟し、辯蕃、郡蕃

5. imbašusi imbašun + iŋ? 参照。丹大社原文19. 第
632頁註18.
6. taepataðun tae-patað-un (木豆を投附けられ)殺さる者
<patað> 殺す。接頭辭 tai- / tae- 當る。衝突 taipataðun
(石を投ぜられ) 殺されし者 原文4 第57頁註13.
taimišixanŋoŋ 命中す 原文3 第654頁註10.

9. piŋŋadaxun piŋ-ŋada(-un 内に入れるもの <ŋuŋaŋ
内。
12. maš 若し比較。中部方言 ma:te.
14. šiniða š-in-iða 取りしもの。
17. sjamo / manpašamo 其故に taŋvajo xai samo
ðamoun 委む故に捕へらる。

- ¹ inam: bunun / uppa šijin maša min'ūnū-
我々 ブヌン族 其後 時 次第に
- ² ŋūnū minvað / maš takitudo takibaka
別れる 時 卓社蕃 卡社蕃
- ³ takivatan takibanuwað xai / mašimuwab
丹蕃 辯蕃 常に
- ⁴ mapavaunŋun / mina'tau takitudo takibaka
争ふ 三人一語になる 卓社蕃 卡社蕃
- ⁵ takivatan / minaduša takibanuwað maš
丹蕃 二人一語になる 辯蕃
- ⁶ ištibukun / mapaka:baš maš naita do xai /
郡蕃 戦ふ と 彼等
- ⁷ šavajan takevatan takebaka taketudu
負ける 丹蕃 卡社蕃 卓社蕃
- ⁸ šavaai aš takibanuwað maš ištibukkun /
勝つ 辯蕃 及び 郡蕃
- ⁹ mapaxaunŋun takbanuwað maš ištibukun
争ふ 辯蕃 郡蕃
- ¹⁰ xai / sa:vaijan takbanuwað / ištikauppa
負ける 辯蕃 のみにせられる
- ¹¹ kaimin bunun / maša mappaka:vašaŋ xai /
我々 人 時 戦ふ
- ¹² nanu to ðammi ištibukkun maš takbanu-
のみ 我々 郡蕃人 及び 辯蕃
- ¹³ waðaš / mašitaan šavaai / madadēppad
最も 勝利す 先祖
- ¹⁴ xabašan / mašðanŋiŋ amin / luppa ka ðau
昔 同じであつた 今
- ¹⁵ to / ōkkin mapakavaše / ta'adōn amin /
無かつた 戦争 開いた すべての
- ¹⁶ ito maðanxaš tamōŋ to xaliŋa / ōkkin
其 (2=) 巡査 帽子 話 無かつた
- ¹⁷ mašmowab mapaxaunŋun / uppa mumba-
新機な 戦争 下へ行
- ¹⁸ baxen / taišiuŋ sjašibinad / muŋtaipak
つた 臺中 州知事 臺北へ行く
- ¹⁹ šija sjašibinad ðēppad / mašitašin maši-
に (2=) 總督に 常に
- ²⁰ šoupa kaimin bunun / aša ta'ada itu
我々 人 要する 聞く 其の
- ²¹ lippun to xaliŋa /
日本の 話

の二者が同盟して、彼等と戦つたが、丹
蕃、卡社蕃、卓社蕃は負け、辯蕃、郡蕃は勝
つた。辯蕃と郡蕃と戦ひ、辯蕃は負け
た。我々、即ち郡蕃と辯蕃のみは戦ふ
時に最も良く勝つた。先祖は皆同様
であつた。今は、戦争は無く日本の巡
査の命令を聽く、その様に戦争が無く
なつたから、平地へ下り臺中へ行き州
知事(に會ひ)、臺北へ行き總督に(會つた)。
我々ブヌンは日本の命令を聽かねば
ならぬ。

4. minatac mina- / min-.
7. sa:vaijan savai-an 負ける, savai 勝つ。
8. aš 此 aš は xai と同じき用法。
16. maðanxaš tamōŋ 赤州即ち巡査のこと、セアク郡社方

言 tanaŋ tunuŋ 赤き顔即ち日本人の表現法に比較
すべし。勤務警察官の帽子の赤線より来りし語。
18. sjašibinad 鎮 長。

2. lanip'avan
洪水

- ² kaimin bunun xarbaš maša lanip'avan
我々 人 昔 時 洪水
- ³ xai / sa ivutaš laš'ut / vaxlaš deppad
其 蛇 塞く 河 大
- ⁴ auppa lanip'avanin amin dalax / maša
断くて 洪水になつた 全 地 時
- ⁵ lanip'avanin xai / minsoxdašin koppa mi-
洪水になつた 食料が缺乏する 皆
- ⁶ nixomis / mauppa sja kakalaš maš ivud
生物 其故 其 蟹 と 蛇
- ⁷ mappaxaupun / taṅṅṅṅ dau ivut kalat /
争ふ 始 咬む
- ⁸ ikko ni tv maxato kalatun / auppa ma-
私 不 能 咬まる 故に
- ⁹ xaitxait / mimbaš kakalan makjimma
堅い 蟹 手を用ひて
- ¹⁰ maxaltšiš / kuš'anun maxompaeiplut / to-
切る 一回 切る(長いものを) 眞
- ¹¹ da to'(tođinto) mattad ivut deppad / auppa
貫 死 蛇 太 斯の如き
- ¹² kanašijin / mušauxen niṅ'av at manaš-
理由 減水した 海、洪水 喜悅す
- ¹³ kalin amin minixomis / maša lanip'avan
る 全 生物 時 引續洪水
- ¹⁴ canaṅ xai / idadaḁa sija tuṅko deppad sa-
高き處 於て 山 大 新
- ¹⁵ ujax / mudinu:n saentša amin minizomis /
高山 集 其處へ すべて 生物
- ¹⁶ auppa ukka šappad xai / taṅṅṅṅ kukulpa
故に 無 火 始めに 藁
- ¹⁷ šida šappad / tun-niṅ'av mošxo šappod /
取る 火を 海を渡る 消す 火

2. 洪 水

我々の先祖の時代洪水があつた[話であるが]、蛇が大河を塞いだため地上すつかり洪水になつた。洪水になつた時、すべての生物は食料缺乏を來した。それ故蟹と蛇は争ひ、始め蛇が咬んだ。「堅いから、私は咬まれない」。蟹が代つて蟹で切つた。一度に切つた。大蛇は本當に死んだ。その理由により、洪水は減じ全生物は喜悅した。洪水の最中に大山なる新高山の高所に其處に總ての生物が集つた。火が無かつたから、始めに藁が火を取ることになり、洪水を渡つたが火が消えた。ハハビン鳥が代つて火を取ることになり、飛んで行つたから消えなかつた。食物がなく肉のみを焼いて食べた。

1. lanip'avan [a-niṅ'av-an <niṅ'av 海、湖、接頭辭 [a-「被覆」の意、[pa'avan 雲に被はる <pa'av 雲、[adippo] 埋めらる。
2. minixomis m-in-ixomis 生命あるもの、生物 <(mi-) xomis 生命ある。
3. laš'ut [aš-ut <*[ut, pe[as'utan daan [ukis 木道を塞ぐ(木道に横はり通行を妨害す)、isiputan xainisi 藁草に栓をす、isip-ut-an 栓 [aš- [a- と關係?
7. mappaxaupun mapa-xaup-un 互に争ふ、<(ma-)xauṅ 怒れる、mapa- 相互。
9. makjimma <jimma 手 比較、カトダラン社原文2第594頁 註17. mahimma <jimma, mak-「道具」を示す、を用ひ mak-bantas 足を以て、
10. kuš'anun <taš'a.

12. kanašijin kanašija 其の理由の「過去」形、kanašija <kana (より) -šija (其)? mušauxen <mušauṅ.
13. lanip'avanāṅ [a-niṅ'av-an-aṅ. lanip'avan (は段々と増水す、lanip'avanāṅ は現に増水したるといふ説明を得たり、前者 (-an) は動作過程を、後者 (-aṅ) 繼續せる一定の状態を示すものか。
14. idadaḁa i-da-daḁa daḁa 上方の反覆制に「處」を示す i- 接頭辭の附きたる形。
17. tun-niṅ'av 海を渡る、tun-haul 河を渡る、接頭辭 tun- は「通過」 mušxo isixowav šappod 火を消せ isip-xo-av 消されてあれ -av「命令助辭」*、xo.

- ¹ šajiš xaxapiš šida šappad / auppa kušbajj
代理する(鳥の名) 取る 火を 故に 飛翔する
- ² at ni to mušxo / auppa ukka kaunun xai /
不 消 故に 無 食物
- ³ kauppa tšitšit' tunun maun / maiš ma².
許り 肉 焼く 食ふ 捕へ
- ⁴ damo tšitšit' xai / ka'aun kamašikit maš
る 肉を 不 小 及び
- ⁵ matokula²ad pataḁun / sja masimox aš
獲せた 殺される 思えた
- ⁶ pataḁun maun / maša ukkin niṅ'av xai /
殺される 食ふ 時 無くなつた 洪水
- ⁷ manaskalin mušoxaešin tšinvašvaš mun-
喜び 歸つた 諸方へ 向ふ
- ⁸ sija koppa daḁaxan / maša mušoxešin xai /
すべての 諸方へ 時 歸つた
- ⁹ mak'uni batto muṅFomma amin pailaš².
使つて 石を 耕作する 如く
- ¹⁰ oni / šiṅxaiṅ mas tulan /
刀 及び 斧

獸を捕へる時には、小なるものや瘦せたものは殺さず、肥えたものが殺され食べた。洪水が無くなつた時、すべての地になつた處へかなたこなたへと喜び勇み歸つて行つた。歸つて刃及び斧の様に石を以て耕作した。

3. kana'asaṅ vale
征伐 太陽

3. 太陽征伐

- ¹³ ina:m bunun xabašan / maša ukkan
我々 人 昔 時に 欠ける
- ¹⁴ bo'an xāi / ukka šanavān / bo'an maš
月 無 夜 月 及び
- ¹⁵ vali xāi / taša'an maša tu'di:paṅ xāi / ma-
日 兄弟 時に 以前 時
- ¹⁶ iš maṅxōmma maxašimāv / auppa ukka
に 耕作する 勤勉に 故に 無し
- ¹⁷ šanavān / maiš ?ittap-pāda(šija xutton
晩 時に 低い 石垣
- ¹⁸ mašava(xāi / mala'itad / maiš maxašmāv
寝る 怠慢者 勤勉なる者

先祖の頃、月が無く、夜が無かつた。月と日は、昔は兄弟であつた。夜がないから一生懸命に耕作をした。石垣の下に寝る者は、怠け者で、勤勉な者は石垣の上で寝た。其時太陽は二個あつた。父と母は耕作をしてゐた。山

2. ka'aun <ka 禁止、ka'av / ka'ab 爲す勿れ、ka to taṅxaijo 爲す勿れ。
6. ukkin ukka 欠く、無、の過去分詞形。
8. daḁaxan daḁa(土、daḁaxan 土地、-an 形は具體的、限定的。
9. mak'uni mak-「道具」參照、註5. -uni 比較、min'uni になる min- 例、minbunun 人になる。
moṅFomma ~ moṅvomma <xomma 鳥。

郡書解の第八月 (minto-to[masxauṅus] (解書カネトワシ解の第七月 [buwan mašoqaulus]) の満月の夜更より前年の首飾祭の後に生れし子供に對し首飾を附する儀式—首飾祭「masxauṅus」—を行ふ。
14. as buwan maš vali xāi に連結す、as の冠詞的用法參照、655頁、註13。
15. tud:paṅ tuše:paṅ-aṅ 時期。
17. ittaṅ-pada(i-taṅ-pada(<paḁa(内、ittaṅ-pada(tave 屋根の下、i- 處、tan / tana- 方向、šanavan šanavan 夕暮、[abijan 夜。

採録期、口授者、説明者、原文1に同じ。
補助口授者：イハボ社 anno palabe (老人、年齢不詳)。

- 1 xāi / tanaʔapab xōtton / auppa dusaŋ
の上に 石垣 故に 二個
- 2 tuʔde:p valē / ukkaŋ bowan / amoŋ moŋ
其時 太陽 無い 月 其故 耕
- 3 xomma tama maŋ tšj:nā / na:što:n sja
作する 父 と 母 下す に
- 4 da:ʔlah / mapasappal sja xa:šipan / paša-
地 敷く 其の 山羊皮 寝附
- 5 baxan ova:d / amoŋ minʔuni šišju:na:ŋ
けさる者 子は 爲る 蝸蟻に
- 6 maiʔuva:d / auppa aišxali:vun / auppa
死んだ子は 故に 括られたもの 故に
- 7 mašalpōʔ tšina maŋ taimā / moupa mat-
悲しむ 母 と 父
- 8 ʔkaki:jev / tama madanoh iōokāt / mdaan
出發する 父は 植ゑる 蜜柑を 行く
- 9 kaušija inšumaan valē manā / makʔunue
へ 出る處の 日の 射る な使ひ
- 10 buššul mana / amu:ŋ taimišixagŋōŋ /
母 射る 命中す
- 11 tanaska:un mattā / auppa makoʔuni kulali
右 目 その故に な使つて ぼろな
- 12 majimmae / auppa ne:n šadōʔ / taša ma-
手にて拭ふ 見えなくなった 一 日
- 13 ta / amoŋ sja buwan mađamo bunun /
月 捕へる 人
- 14 mak-jimma mađamo xai / makašjo / sija
手にて 捕へる 抜け出る に於て
- 15 tanudo / mun-appāv / kaan-dappaanan
指 出現する 踏まれたもの
- 16 dau bunun sija minanaxāi / ma:kaš-jo /
人は 射し者 抜け出る
- 17 sija / bantaš tō tanudō / moppa mdaanin
足 の 指より 行つた
- 18 bunun mušoxaiš sija lumma / xai / ka-
人 歸る に 家
- 19 ntuļu-nan boʔan ta:xāo (palnanuto) / aup-
従はれる 月に 云ふ
- 20 pa maša panaxun bunun buwan xāi /
射られたもの 人に 月は

1. dusaŋ vale dusa vale と云ふも宜しといふ説明。此場合 -an の用法不明。
3. našitovn <našito 下。
4. pašabaxan pa-šaba-an <(ma-)šaba 寝る。
6. maiʔuva:d 死せる子。類例。maitama 亡父。maitš'na 亡母。mai- 「過去の状態」を示す mai-bunun 元人間なりしもの。元故亡。
aišxali:vun maxali:v lukiš 木枯る。xali:vun 枯る。も

羊皮を地に下し敷いて[子供を寝かせた]。日干になつて、子供は死んで蝸蟻に變じた。母と父は悲しみ[太陽征伐]に出發した。父は蜜柑を植ゑた。太陽の出る場所へ行き射つた。弓にて射つた。右の眼に當つた。ボロにて拭うたが、一眼は見えなくなつた。[その太陽は月になり]その月は人を捕へようとした。手にて捕へようとしたが、指から抜け出た。射つた人は踏み押しへられたが足の指から抜け出て、人は歸途に就いたが、月は人に射られて、太陽は出ず暗かつた。食物は無く、薪は無く人々は困つた。射た人は歸つたが、暗黒の中を歩いた。行つてゐる眸は、初めに石を投げ若し草に當れば、他の處へ又石を投げ、若し道に當れば、前進した。前に投げた時、水を植ゑる]。羌仔に當つた羌仔は水を植ゑてゐたから投石したことを怒つた。山羊は

の。masixali:v 枯る。*, xali:v
10. taimišixagŋōŋ <mišixag 中央。tai-mišixag-ŋ(ŋon?)。tai- 「當る」。
11. tanaska:un 比較。tanaviļi 左。tana- 「方向」。
14. makašjo 通り抜ける。pakašjoxan トンネル。
15. kaandapaanan 過去。kaandapanin。
16. minanaxai minana / xai, m-in-ana / <mana / 撃つ。

- 1 mađumđum ukka valē minšummā / aup-
暗い 無 日 出る 故に
- 2 pa me(-di amin bunun / ʔukka ʔkaunun /
困却する すべての 人 なし 食物
- 3 ukka lukkiš / pišiduun / auppa maša mu-
なし 薪 燃される
- 4 soxaišaš minana / xāi / kan-mu-ʔmutʔmut
歸宅する 射られた者 暗黒
- 5 mdaaān / amo:ŋ maiš mdaaān xāi /
行く 時 行く
- 6 taŋuŋun labato maiš šandōʔ išimut xāi /
初めに 投げる もし 當る 草に
- 7 lušxo:n šij-labato / maiš šandv:nin daan
移されたもの 投げた石は もし 當つた 道に
- 8 xāi / makašije:pin mdaaān / maša labato
向うへ 行く 投す
- 9 daan xāi / šanduun sakkūt / šjā mašuwađ
道 命中したもの 羌仔 彼 植ゑる
- 10 đanūm / auppa xauŋun sakut tō labato-
水な 道 怒る 羌仔 投石し
- 11 wane / auppa mađāno / dā:nom / auppa
たことが 植ゑる 水
- 12 xāuŋun sakkūt mađid-la / xāi / tšintuŋʔ-aʔ /
怒る 山羊 叫ぶ 明るなる
- 13 auppa minšummin vale / aš buwan xāi /
出た 日 月
- 14 maša xabašanāŋ xai / valle amīn / maša
時 昔 日 すべて
- 15 minʔuni buwan xāi / kanʔtullūn / mašina-
爲る 月に 従ふ 敬へる
- 16 uā / maš išilulu-ān / tuppa aš bowan to /
につき 祭事 云ふ 月
- 17 ka to maʔun madaboše: na unšoħxađa-
物 食ふ 甘い(もの) 食料缺乏
- 18 ŋan / auppa maša mušoxaeišin aš / mina-
時 歸つた 射た
- 19 na / valle xāi / kala:šin dau iōok / auppa
人 太陽を 結實した 蜜柑

怒つて鳴聲を挙げると太陽が出て明るくなつた。月は昔、太陽に外ならぬ。月になつた時に、[人の跡を]附けて来て、祭をすることを教へた、月の云ふやうには、「甘味物を食す勿れ、是に反すれば饑饉來らん、太陽を射た人が歸宅した時には蜜柑は實を著けてゐた。二人の兄弟が後に残されてゐた。一人は利口者、一人は馬鹿者、二人は云はれた。「糞を手を受けよ、利口者は臭いから手で受ける事を欲しなかつた。馬鹿者は手に受けると、首飾が現れた。利口者は欲しくて、次に手にて受けると、腔門から悪い首飾が出た。月が云ふやうには、「今後祭をせねばならぬ。新月になつた時に祭をせねばならぬ。満月には、子供の祭をせねばならぬ。其時以來我々ブヌン族は、首飾祭日に於て祭事をする。満月に當り祭をし

3. pišiduun 過去。pišidunin. išiduwaŋ sappod 夫を附けよ。*, dū.
6. taŋuŋun <taŋu 始め。
7. lušxo:n <lušxow 他の處に移す。šij-labato (i)š(i)-in-labato? išilabato 投げしもの。
9. mašuwađ đanum 羌仔の小便せし處より水湧出づと信ず。即ち湧水は羌仔の植ゑしものと彼等は云ふ。
12. tšintuŋʔ-aʔ 過去。tšintu-ijin なければ語尾の a は結辭の atʔ.

13. aš 句の初めに使ひられたる特殊の例。正に buwan の主格冠詞の如き使用法。参照。653頁註14。文法 IV. 2。
15. mašina:va 敬ふ。išinava 敬ふ事。masi- <ma+išj? 能動的。iši- 道具。
16. išilulušʔan <lušʔan 祭る。祭。
17. unšoħ-xađagan 比較。minšoħđagan 食料缺乏になりし。
19. kala:šin <ašj 實。kala-?

- ¹ dadūša šipko²avān taš-a:n xāi / mataikiloš
二人 後に残されたもの 兄弟 利口
- ² taša / mataula taša / tuppauñ daš dadūša
一人 馬鹿 一人 云はれる 二人は
- ³ to / patalaav takkē / amoš ne-a:š mataiki-
手に受けよ 業な 不 利口者
- ⁴ laš / ašša mapatalāē kōšisina / auppā šija
欲す 手に受ける 臭き その
- ⁵ mataula mapatalā / amuš xaulu:ši mun²a-
馬鹿者は 手に受ける 首飾 出現する
- ⁶ pāv / auppā taxađ ā:s mataikilaš / amoš
欲する 利口者は
- ⁷ pušaišun jimma mapatala xai / makuwañ
次に 手にて 受ける 悪い
- ⁸ xāuluši min-somma / sija to:xō / auppā
首飾 出る に於て 腰門
- ⁹ paš-katođijé:p / taxowan maš bowan to
其後 云ふこと に依つて 月
- ¹⁰ ašša mauppā bo²an maš loš-i-án / maš
欲する 其故に 月 祭 時
- ¹¹ maxaiñilañ bowan xāi / ašša luš-anin /
細くなる 月 要 祭をした
- ¹² maš mao²mo² bowan xai / luš-an ova-đ /
満月 月 祭 子供
- ¹³ maš bowan pašxauluša-nin / auppā paš-
若し 月 首飾を附ける 其
- ¹⁴ katdije:p / kaimin bunun luš-i-án / maš
後 吾々 アヌム族は 祭事をする もし
- ¹⁵ ni to mao²mo² bowan luš-an xāi / matađ
不 満月 月 祭 死ぬ
- ¹⁶ ova-đ / maš mao²mo² bowan luš-an xāi /
子 若し 満月 月 祭
- ¹⁷ na mexōmmiš ova-đ / auppā ašā maši-
生きる 子 其故 遵守
- ¹⁸ šouppā mađaiñpađan xabašañ to / išilulu-
する 先祖 昔 の 祭
- ¹⁹ ši-an /
事

4. piñpađ maš vanniši
女 と 猪

- 1. šipko²avān iši-in-ko²av-an? isikouavan 後に残さる者, masikoav 後に残す, *, /koav, masi- 註20, šip- 参照 註16.
- 3. patalaav pataja (上より落つるものを手或は他の物にて) 受く, <*, /taja isitaja, antaja.

なければ、子供は死ぬ。満月に當り祭をすれば、子供は長生する。其故祖先の祭事を遵守する必要がある。

4. 女 と 猪

- 11. maxaiñilañ <xaiñil 新用形.
- 13. pašxaulušanin paš-xauluš-an-in 首飾を附せり <xauluš 首飾, paš- は maš(i) (655頁 註15) の使役形.

- ¹ ina:m mađaiñpađ xabašañ xai / maša
我々の 先祖は
- ² mapaxoušad vanniši / auppā mixaippv
交る 猪と 鳥追をする
- ³ maxfok dao xai / assa miñkatšine mixai-
粟 欲する 鳥追を
- ⁴ poje / auppā paxoušab vanniš / tuppauñ
する 交る 猪と 云ふこと
- ⁵ dao iši:ja: to bananađ / na đakko mušaiš
彼女の 夫の 欲する 私 交代する
- ⁶ mundijep mixaiippo / ni tu štalla majuš-
其處へ行く 鳥追に 不 承諾 女
- ⁷ piñpađ e / auppā aša paxoušab / amoš
欲する 交る
- ⁸ kantolu:nan bananađ šađo xai / manda-
後に従はれ 男に依つて 打振る
- ⁹ lo višviš tavok koiš xai / vašikadije:p
ひらひらと(?) (註) 横き (恐ら) 来る
- ¹⁰ vanniš / liš²amma pakšinatapkinuđ ma-
猪は 乗る 後方より
- ¹¹ xušab / auppā kuttunin xai / maš-in-labi-
交る 翌日になれり 夜明前に
- ¹² jan mašananađ mun-dije:p maluda(obos /
男は 其處へ行く 打つ 撃つる男、女、其處より)
- ¹³ amoš vašikadije:p vanniš / auppā taeppaš-
(恐ら) 来る 猪は 投げるもの
- ¹⁴ duwun labato² / auppā šinapuš vanniš aš
石 追ふ 猪は
- ¹⁵ mabananađ xai / išinadadađa šija ²painsul
男を 登る 彼 積石
- ¹⁶ labato / maitao dao painsul iši-labato at /
投ぐ 三個 積石 投げるもの
- ¹⁷ tai-patađunin / auppā amaunin kaujumah
殺されたもの 運ばれたるもの 家へ

我々の先祖は猪と交つた。粟の鳥追をする時には、獨りで鳥追をすることを欲した。それは猪と交らんがためです。彼女の夫が云ふやうには、今度は私が鳥追に其處へ行かうと交りたから、女は拒んだ。男は後を附けて行つて見ると、[女が]小さいタボクを振ると、猪が向うからやつて来て女の背に乗り交つた。そこで其翌日男は夜明前に其處へ行つて皮衣を叩いた。すると猪は向うからやつて来た。そこで石を投げた。猪は男を追ひかけた。彼は積石に登り[その石を]投げた。三個の積石が投げられると、[猪は]殺された。それで[猪が]家へ運ばれると、妻は泣いた。「私の夫は何故に殺したんだらう!」其の夫により[彼女に]肉が與

- 採録期: 昭和五年八月。
- 口授説明者: イバネ (ivaxo) 註 bukkun palabe (男、當時21歳)。
- 補助説明者: 郡大註(asañ dēngad) xaiju takesitsibanan (男、當時14歳)
- 2. mapaxoušab mapa- 「相互」。
- 4. paxoušab = mapaxoušab.
- 6. štalla <išitaja, iši は si と弱化すること多し、参照。
- 8. kantołunān kantołun 先に行く, kantołunan 後に従はる。
- 9. višviš 左右に振る。
tavok アヌム婦人の腰衣。
vašikadije:p vašika-dije:p 向ふより来る, ašika-dije:p 向うに於て <dije:p 向ふ、類語, daida かなた, dije:p より少し遠き處。

- 10. liš²amma <mamma? 背負ふ?
pakšinatapkinuđ pakšina-tap-kinuđ 後方より <kinuđ, pakšina-tana-pauš 前方より <pauš 前。
- 11. kuttunin kuttun-in 翌日 <kuttun 明日。
maš-in-labijan 夜明前鶏鳴時頃, labijan 夜。
- 13. taepašd nun *, /du. taē- 参照, 650頁 註6.
- 15. išinadadađa iši-na-da-dađa <dađa 上部, iši- 「處」-na- 「位置」? dađađa 反覆形, išinadadađa 飛び登る, kaunadadađa 攀登る, išinašito 飛び降る, kaunašito 次第に降る。
painsul 参照, カトグラン, 原文7 第600頁 註15.
- 17. taipatađunin 参照, 原文1 第650頁 註6.
amaunin ama-un-in <mama? 背負ふ。
kaujumaš kau- 「方向」の方へ行く。

- 1 xai / tappis pippad / a; pataðav nak
泣く 女 何故に殺す 私の
- 2 bananað i; / auppa saevan dao na^u to
夫 奥へおれもの のみ
- 3 isija to bananad tšitsi xai / ni to anatala /
共 男 肉 不 受取る
- 4 auppa thanawun mašataiv / pešainun sija
再びせられる 奥ふ 置かれるもの
- 5 duš-duš šiŋxaili maša-ajev / ka²aun šiðaun /
尖端 刀 奥ふ 不 取らぬもの
- 6 auppa kiš-laupa-an tšibok-lab xai / matad
突刺される 腹 死ぬ
- 7 amos mun-appav aoxad / mamaš-an aoxad
現はる 猪の仔 十匹 猪の仔
- 8 xai / duša mattad masa kiš-laupaan /
二 死ぬ 突刺される
- 9 auppa vavau mixomiš / mapavaad dao
八匹 生く 分れる
- 10 kaūtainunto šašipat / as mis-vanniši / šaši-
タイヌト方へ 四匹は 猪になる 四
- 11 pat maša-uppa sija ilav aš(i) min-uni
匹 出る 戸 成る
- 12 babo šale-ašaq /
豚 家阿の

5. pippad to ova:d mini-uni
女 の 子 成る
kokowav
鷹

- 16 xabašanay xae / sija mini²uni kokowav
昔 彼は 爲る 鷹
- 17 xai / itto ael-tappušan to ova:d / auppa
共 先妻 の 子 その故に
- 18 mo(-na) mabananað ši:ða pippad xai /
再び(す) 男は 取る 女を
- 19 maxaitas dao kinip-na:n mašus-pippad /
唐待す (22) 後妻

1. pataðav -av は主として「命令」「願望」の助辭なるが「疑問」のときにも用ひらる。
2. is 輕き接續詞的用法 而して saevan <masaiv.
4. ušanawun <mo(-na) 再び. posainun pa-sain-un 比較 sain+šin 此處.
8. kiš-laupaan kiš-laupa-an <laupa 突き挿す. 接頭辭 kiš- kiš-boğanan 槍を以て突き刺す <boğanan. kis- には「道具」の意あれば <isi-? kiš <k(a)+is(i)?
10. tainunto カトグラン 原文7. 第602頁 註3.
12. šale-ašaq <ašaq 書社. 接頭辭 šale- 「飼育す」例.

へられた。[妻は]受取らない。其故に再び奥へた。刀の先に附けて奥へた。取らなかつた。腹が突刺されると、死んで猪の仔が出た。猪の仔は十四であつたが、二匹は突刺された時に死んだ。それ故に八匹が生きた。分れて四匹は[家の奥]へ行き、猪になつた。四匹は戸から出て家畜の豚になつた。

5. 繼子齋に化す話

昔々、ある男が妻を再び娶り、後妻は先妻の子をいぢめたため、其先妻の子が齋になつた。父の留守の時は、叩かれ、掴られ、飯も食べさせてもらへなかつた。其故に泣いた。彼の父が薪を

šale-babo 豚の番なす. šale-xanuvay 牛を飼ふ.

17. ito 説明者は二種の解釋を與へたり: 1) isaitša 其處の 2) ある (a certain) (原文9 第64頁 註19). ito は i-to と分解すべきものにして, to はカトグラン指示代名詞 naiton 其人々の ton に比すべきものか.
19. maxaitas -un 形, kaxaitasun. kinipnaan k-in-igna-an 後にせられし者 <kiŋna 後. 比較 migna も一回. mekiŋna 子孫.

- 1 mma:s itto ael-tappušan to ova:d / auppa
共 先妻 の 子 その故に
- 2 maiš ukka dau tama xai / luðax^{o:n} ka-
時に 無い 父 叩かれた 掴
- 3 mutun ka²aun pakaunan xaišiq / auppa
められた 無 食はせる 飯を その故に
- 4 na tappišin / auppa masa telukiš dao
泣いた その故に 時に 探薪する
- 5 tama isija xai / pu²akaðan uva:d pippad
父が 彼の 違言せられたもの 子は 女に
- 6 to / na saivan kat-kat dabos / na paka-
奥へたもの 焦飯 粟酒 食はせ
- 7 wunan xaišiq / auppa tuppa dao sija ma-
るもの 飯 其故 云ふ 共
- 8 luš-pippad kinniŋ-na:n to / ašikav luma(-
(2=) 後妻 掃けよ 家を
- 9 ašikav natta / kanah-toppin dau ma²ašik
掃けよ 敷石庭を 終了した 掃除
- 10 xai / tuppa pippad ova:d to / saevavinik
云ふ 女に 子は 私に奥へよ
- 11 kad-kad ma:s xaišin / ka²anunan dau
焦飯 及び 飯 相變らず無い
- 12 saivan / tuppaun dau to nijay / ašikavaŋ
奥へるもの 云つた 未だ一せず 引續き掃けよ
- 13 patulkokan / ašikav luma(- to babo /
雞小屋を 掃けよ 家 豚の
- 14 auppa kana(-toppin xai / toppa aš pippad
時 終了 云ふ 女に
- 15 uva:d to / ašin xaišiq ma:s kad-kad / ka-
子は 渡さる 飯 及び 焦飯 食
- 16 wunun ko auppa kana(-toppanin ma²ašik /
はれるもの 私の 故に 終了した 掃く
- 17 ka²awun dao saevan / auppa ši:ða ašik
無 奥へるもの それ故 取る 筈
- 18 išiŋinsoop sija toxo / pađušawun tok-ban /
挿入したものの 彼の 腔門 二つにした 圓形竹製の箕
- 19 jah²-tšidun sija kusuwan / mataida:ðin
挿したものの 腋下 飛上り

探りに行つた時に、繼母は子に嘘をついて、「粟のお焦を上げませう、御飯を食べさせませう」として後妻は云ふやうには「家を掃きなさい、石庭を掃きなさい掃除が終ると、子は繼母に云ふやうには「お焦と御飯を頂戴、まだ遣りません。[まだですよ、雞小屋をも掃きなさい。豚小屋を掃きなさい]。終つた時に、子は繼母に云ふやうには「御飯とお焦を頂戴、掃除が済んだから私は食べます、遣りません。それで筈を取りお尻に挿し、圓箕を二つに切り、腋下に挿し、飛上り空を翔けた。高くへ昇つた時に、「コッワープ」と云つた。彼のお祖母さんは「お歸りよ、山羊の皮衣を縫つてあげますから」と云つた。子は繼母に「チーナタホワシユ」と云つたので、後妻は仰いで見ると、頭が切れた。

1. mma:s = maš 「對稱」を示す。
2. luðaxa:ŋ <ma[luða] 叩く. kamutun <makamut 掴る。
4. na 「引續き起る動作」参照. 丹社原文9 第623頁 註7. tejukkis / tiŋukis, ti-jukkis (水, 薪) 接頭辭 ~ ti- 「採取」. tin-saq 肥松を採る. tin-batto 石を採る場合は tin-。
8. ašikav ašik+av (命令の助辭) <mašik 掃く。
10. saevavinik saiv+av (命令願望) -inik (私に)。
11. ka²anun dau ka²anun dau, d の同化により g>n

ka²a-un-aŋ.
12. ašikavaŋ ašik+av-aŋ av 「命令」-aŋ 「願望」。
13. patulkokan pa-tulkok-an <tulkok 鷄. pa- 「使後」-an 「場所」。
14. aš 「女に云ふ」 aš より maš の方宜し。
15. ašin aš(i)-in 渡さるもの <aši 手渡す. aši pašado-wavinik 私に渡し見せよ。
18. išiŋinsoop <mašinsoop 挿入す。
19. jah²-tšidun <maija(-)tšid. mataida:ðin mata-i-ðada-in 或は ma-tai-ðada-in ?

- ¹ kauʃba-ai / tuppa to kokowav / auppa
飛翔する 云ふ 鷹 時
- ² iʃikaxoxon / tuppa dao tʃina xoʃaʃ iʃija
高き處 云ふ (2=)組母 彼の
- ³ to / mu:ʃoxaiʃa na iʃitaxaeʃko ʃide /
歸れ 私に歸はれる 山羊
- ⁴ tuppa dao piŋpaʃ ovaʃd to / tʃi:nataxo-
云ふ 女に 子は
- ⁵ wal / auppa maʃimamaŋxa / piŋpaʃ kin-
それ故 仰ぐ (2)後妻は
- ⁶ niŋ-nan maʃiviʃ xai / mubaŋ-ut buŋu /
見る 切れ取つた 顔か

6. tummaʃ mas oknav
熊 と 豹

- ⁹ tummaʃ mas ok-nav xabaʃan xai / ma-
熊 と 豹は 昔
- ¹⁰ ifunun / auppa masa minuʃuni tummaʃ
人である 時 爲る 熊
- ¹¹ mas ok-nav xae / mapa-tuppa dao to ʃi-
と 豹に 互に話す
- ¹² maʃ taŋpuʃ maʃanav / tuppa ʃao oknav
誰 始め 顔を洗ふ 云ふ 豹
- ¹³ to / ʃakko taŋpuʃ / ʃiʃa:v maʃoho-ʃoʃ xa-
私は 先に爲す にせよ 白き 灰
- ¹⁴ ʃo / as iʃixoʃxoʃ piʃi-aʃav matataʃ / auppa
に 塗る 良く 紋様を
- ¹⁵ kanah-toppin oknav xai / tuppın dao
終了した 豹は 云つた
- ¹⁶ tummaʃ to / ʃakuwavin xoʃxoʃin / auppa
熊は 私にして下さい 塗られるものは
- ¹⁷ xoʃxoʃanin xai / ʃiʃa-un xonnoŋ iʃixoʃxoʃ /
塗られた にせられる 木炭 塗られるものは
- ¹⁸ oboŋ to tommaʃ / kauptaun dao / va:ʃ
體に 熊の 許りにす 肩
- ¹⁹ as xoʃxoʃan maʃo-ʃas / auppa tuppın dao
塗られるものを 白く 云ふ
- ²⁰ tummaʃ to / aʃje: mataxadop / xauŋun
熊は あー 眞黒 怒る

2. iʃikaxoxo <kaxoxo 高き iʃi-「處」。
3. mu:ʃoxaiʃa muʃoxaiʃ 歸る a「命令」の助辭。
iʃitaxaeʃko iʃi-taxaiʃ 歸はる物 <(ma-)taxaiʃ 歸ふ、
-ko 私の二重母音 ai は >æe>e/e となることあり。
4. tʃi:nataxowaʃ 鷹の鳴聲, tʃina 母, xowaʃ 破衣, 母よ、
着物は切れたり といふ意。
5. maʃimamaŋxa maʃi- 比較, kaʃi-
6. maʃivit 觀察す, ʃaʃo 見る。

6. 熊 と 豹

熊と豹は昔は人であつた。熊と豹になる時に、「誰れが先に顔を洗ふか」と互に話した。豹が云ふやうには「私が先にします。白い灰をもつて、きれいに紋様を塗つて下さい」。豹は終つた。熊は云ふやうには「私に塗つて下さい」。塗つたが、熊の體に木炭が塗られた。肩だけ白く塗つた。熊は云ふやうには、「アー眞黒だ」。熊は怒つたが、豹が云ふやうには「立腹しないで下さい。鹿や其他のすべての獸を君に食べさせることにするから」。熊は兄、豹は

13. ʃiʃa:v ʃija-av 其れにせよ? 例、「何を與へん」と問われしとき siav suje「金にせられたし」比較。ʃiʃa-un「それにせらる」。
14. iʃixoʃxoʃ iʃi-xoʃxoʃ 塗りに使用するもの、塗料 <(ma-)xoʃxoʃ 塗る。
piʃi-aʃav piʃiaʃ+av, piʃiaʃ 良く <maʃiaʃ 良く。
16. ʃakuwavin ʃaku-av-in。

- ¹ tummaʃ xae / tuppın dao ok-nav to ka to
熊は 云ふ 豹 物れ
- ² xauŋun e / na iʃi-damukwaʃ xanuvav /
怒る 私は汝に食はせるもの 鹿は
- ³ amin kauppa tʃiʃi / tummaʃ xae ma-
總ての 他の 獸は 熊は
- ⁴ ʃitoxaʃ / oknav xai maʃ-noba / tasta:n
兄 豹は 弟 兄弟
- ⁵ naija dao xabaʃan /
彼等は 昔

弟、昔は彼等は兄弟であつた。

7. ʃovʃov xoʃdan mas paʃav
風 雨 と 雪

- ⁸ xabaʃanaŋ dao xae / ʃovʃov mas xoʃdan
昔 風 と 雨
- ⁹ paʃav xai / maitasʃan tatao / auppa ma-
雪は 兄弟である 三人 互に
- ¹⁰ paku:nev dao to / ʃi:ma mastaan mata-
自慢する 誰は 最も 強
- ¹¹ maʃa:ʃ katta tatao / tuppın dao xoʃdan
い 我々 三人(等) 云ふ 雨は
- ¹² to / nito makwa ʃaŋpaʃi e na ʃu:bus
不 困却 安心する 故に 謙す
- ¹³ amin dalaʃ / tuppın dao ʃovʃov to / ʃakko
すべての 地を 云ふ 風は 私は
- ¹⁴ taŋpuʃ e mastaan matamaʃa:ʃ / na ʃoxa-
最初 故に 最も 強い 私の折
- ¹⁵ soŋko amin kauppa lukkiʃ / maʃ iʃimut
るもの すべて 他の 木 面して 草
- ¹⁶ ʃumah to ʃunun / auppa kanah-toppin
家 人の 時 終了する
- ¹⁷ ʃovʃov xai / ʃin xoʃdan saʃiʃ tuppın to /
風は 次に 雨は 交代する 云ふ
- ¹⁸ na tonoxoŋko ʃut-dun amin kauppa da-
私の落すもの 山 すべての 他の
- ¹⁹ ʃaʃ / auppa na min-maʃijen ʃdanum /
地 それ故に 増大する 水は
- ²⁰ tu:ʃa ʃao to / muntunoh ʃut-dun / auppa
眞實に 崩落する 山は 時

7. 風と雨と雪

昔は、風と雨と雪は、三人兄弟であつた。我々三人のうちで誰が一等強いかと、自慢しあつた。雨が云ふやうには「平氣だすべての地を濡らすから安心だ」。風が云ふやうには「俺は最も強いから一番だ。俺はすべての木や草や人家を破壊する」。風が終ると、次に雨が交代して云ふ。「俺は山やすべての地を崩す。そして洪水になる。本當に山が崩れるんだぞ」。雨が終つた時に、次に雪が云ふ。「お前達は初めに自慢したがすべての草が死ぬ、又俺は山の高い處で最も美しいから俺は一等だ」。

2. iʃiʃamukwaʃ iʃi-ʃamu-ku-aʃ, ʃamu>maʃamu 捕獲す, ku 私, aʃ 結辭。

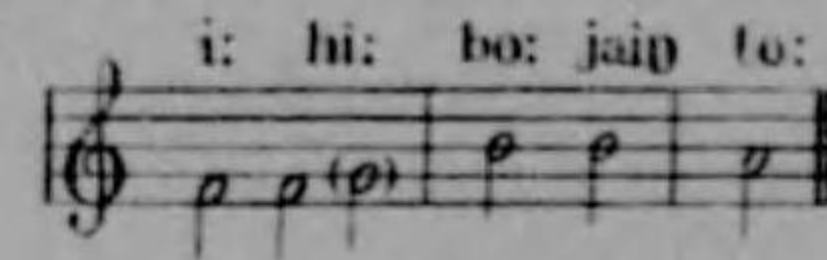
9. maitasʃan mai-「前の状態」。元は兄弟なり。mapakunev <makunev 自慢す。
11. katta <ita 我々(話相手を含む)。
12. ʃaŋpaʃi 安心す, 都合良し。(病氣)治る ʃaŋpaʃin (病氣

治れり) タマロツン ʃaŋpaʃi。
14. ʃoxaʃoŋ ko <maʃoxaʃ 折る k のため -on>-on。
18. tonoxoŋ ko tonoxon 崩し落すもの, 比較 tonox 断崖, muntunoh 崩る, matonox 崩す, maitonox 崩れ断崖になる。
19. minmaʃijen min-maʃij(a)-in <maʃija 大。

- ¹ kanahtoppin xoxdan xai / sin tuppā paʔav
終了する 雨は 次に 云ふ 雪
- ² to / mo taggoʃ maku:niv / auppā ðakko
汝等 初め 自慢する 私は
- ³ mastaan e / matta:ð amin iʃimut / mas-
最優 故に 死ぬ すべての 草は 最
- ⁴ taan saekin manawad daʔaʔa sija lut-
も 私 美しい 高處 その
- ⁵ duntan /
山に於て

8. xanivalval
虹

- ⁸ xabaʃan dao xai / min(i)ʔuni xanivalval
昔 爲る 虹に
- ⁹ miʃ-ʔav xai / mapaxaʊgun / auppā patʃiʃ-
醜化する者 喧嘩する者 切られ
- ¹⁰ tuban dao ito tatʃini tanudoʃ / auppā
たもの その 一人の 指は
- ¹¹ mudaanin dao maʔiʃiʃ-tob xai / tuppā dao
去る 切る人は 云ふ
- ¹² aʃ paʃiʃiʃ-toban to tanudoʃ to / mah-top
切られた人は 指の 可能
- ¹³ saekin mimbaʃ auppā nijān matad / oʃ-
私は 返す まだ-しない 死 繰返
- ¹⁴ onaun dao matʃiʃ-to jimma patʃi:ma:n
へされる 切ること 手を 五回
- ¹⁵ mabukbuk sija boho-toy / auppā tuppā
切る その 関節を その故 云ふ
- ¹⁶ dao aʃ patʃiʃiʃ-tuban tanudoʃ to / nijān
切られた人は 指の まだ-しない
- ¹⁷ saekin matad / auppā xaiŋ-utnonin buppo /
私は 死 それ故 切られたもの 頭は
- ¹⁸ kan(u)-kanun dao sija dawad / auppā
入れたもの その 首袋
- ¹⁹ iʃijanin taʃoxan maʃabaʃ xai / kaxu:ðaʃ
に於て 獵小屋 寝る 歌ふ
- ²⁰ dao tuppā to / i: hi: bo: jaiŋ to:
云ふ i: hi: bo: jaiŋ to:



4. sija lutdun tan tan 比較 中部方言 ta. 向う. あすこ
9. patʃiʃtuban pa-tʃiʃtub-an 切らる處 <matʃiʃtub 切
る.
12. maʔtoy maʔton? <maʔto maʔton maun 食して差
支なし.

8. 虹

昔々、醜化する者が喧嘩して虹となつた。その一人の指が切られた。切つた人が立去らうとすると、指を切られた人が云ふやうには「己は未だ死なないから己は復讐が出来る」。指の關節を五回繰返して切つた。指の切られし人は云ふやう「私はまだ死なない」。それ故に頭が切られ、首袋に入られた。獵小屋に寝て、頭を切つた人は歌つて曰く、「イーヒーボーヤイントー」。歌を終へてから、その殺人者が云ふやうには「己は最も強い、奴の首を取り、奴が話せぬやうにしたから」ところが頭は相變らず話した。頭に木豆の煮汁を注

14. patʃi:ma:n patʃi:jima-an <jimma 5.
17. xaiŋutonin xaiŋut-on-in <ma-xaiŋut 切る.
18. kan-kan 容る, k-in-an-kan 容れしもの iʃi kankan 容器, kan-kan-un 容れるもの.
19. iʃijaanin i-sija-an-in, 現在 i-sija 或は i-sija-an. 例. iʃija / iʃijaan iʃipun xaiman-ot 品物は日本にあり.

- ¹ auppā kanah-toppin kaxu:ðaʃ xai / tuppā
時に 終了した 歌 云ふ
- ² dao sija maipatað to / ðakko mastaan
その 殺人者は 私は 最も
- ³ matamaʃa:ð e / xaiŋ-utnonin ko buppo /
強い 故に 私の切りたるもの 頭は
- ⁴ auppā nin paʃnanuto / amos paʃnanuto-
其故に 無くせつた 話 相變らず話す
- ⁵ waŋ buppo / auppā su:lan buppo mas
頭は 注がれた 頭は
- ⁶ iŋxalidapan / ma:ʃda-ukkan paʃnanuto /
木豆汁 灌漑せられた 話は
- ⁷ auppā sulanin iŋ-ʃaŋlavan xai / nin pa-
それ故に 注がれた 菜の汁は 無くせつた
- ⁸ Inanuto / auppā tuppā as / maisul to /
話 云ふ 注ぐ人は
- ⁹ matta:ðin saija / auppā kuʔ-unijan dao
死んだ それは
- ¹⁰ xoʃbo madamo / muskun koppa:ðaʃ sija
髪毛 捕へる 共に は入る その
- ¹¹ danum / auppā paʃiʃ-kat-dije:p miniʔuni
水 其後 爲る
- ¹² xanival-valaʃs sija maʃbuppo / miniʔuni
虹に 首の男は 爲る
- ¹³ ʃiŋʔavas sija bunun aiðanaŋ obon / auppā
河音に その 人 有る 體の
- ¹⁴ maʃamo mapat-noʔ xanival-val e / na: miʃ-
禁忌 指さす 虹を
- ¹⁵ taaba jimma / na kiʃ-pulaan / mais mapat-
焼ける 手は 火傷するもの 若し 指さ
- ¹⁶ no xanival-val xai / maʃamo piʃan-ʃanun
す 虹を 禁忌 眞直にせられる
- ¹⁷ tanudoʃ / ni tu makwa mais pixot-mu:n
指は 不 困却 圓くせられる
- ¹⁸ mapad-no / asija madi-uʃ ʃa:ðowana xai /
指さす その 赤き 見えるものは
- ¹⁹ maixaidag / aʃs maxaiballa xai / maiʔuni
血である 茶色は 爲る
- ²⁰ iŋxalidapan to danum / aʃs maʃaŋlava
木豆汁 の 水が 青色

いだが話を續けた。それで青菜の煮汁をかけたところが話さなくなつた。注いだ人が云ふやうには「奴は死んだ」ところが(頭は)その髪毛で(頭を)切つた人を捕へ、一緒に水に入つた。其後首の男は虹になり、體のある男は河のゴーズ云ふ音になつた。それ故に虹を指さすことは禁ぜられてゐる。手が焼け、火傷するから虹を指さすならば、指を眞直にしてはいけない。握拳にして指せば構はない。赤く見えるものは、血である。茶色は、木豆汁が變じたものである。青色は、青菜の汁が變じたものである。雨が降ると種々の(色になつて)見えるが、先祖に従ひ、指さすことは禁忌である。

4. paʃnanutowaŋ paʃnanuto (話す) -aŋ (繼續).
7. iŋsaŋʔlavan iŋ-saŋʔlav-an 菜の汁 <saŋʔlav 野菜, in-hutan-an 薯汁, 類例 iŋbabowan 豚の汁, iŋtoʃkokan 豚の汁, aŋ-「米粟の重湯」 aŋ-pa:ð 米の重湯 <pa:ð 米, aŋ-ma:ðoʃ 粟の重湯.
9. kuʔunijan makuʔuni を以て, -an 形.
10. koppa:ðaʃ kau-pa:ðaʃ kau-「の方に」 pa:ðaʃ 内.
16. piʃanʃanun pi-ʃanʃan-un 眞直にせられるもの, <ma-ʃanʃan 眞直なる.
18. aʃija aʃ sija.
19. maixaidag <xaiʃaŋ 血, mai 参照, 原文7 第661頁 註9.

- ¹ xai / mai²uni in³ag-lavan / auppā vaive-
青葉汁は 種々
- ² vaive ⁴šadowan mais xodanana / auppā
な 見える 若し 降雨
- ³ mašaamo mapad-ro e / mašišauppā⁵ xa-
禁忌 指さす 従ふ
- ⁴ bašan to madadēppād /
昔の 老人に

9. asaṅ dēppād išinadādaan
社 傷 上より来る
dexanin
天

- ⁶ xabašan masa muxaa[xa] dexanin xai /
昔 落下する 天
- ⁷ panasiṭja asaṅ dēppād / xabašan dao ma-
其處へ 村 昔 昔
- ⁸ dabēppād xai / tašito luma[moṅxamma
先祖 一間の家 耕作する
- ⁹ mapalabato kokolpa / paṅaxainan patai-
互に投げ合ふ 墓を 玩弄せられる 投げ又
- ¹⁰ bašobas / mapala-batto / amus šadowan
投げ返す 互に投げ合ふ 見られるもの
- ¹¹ dexanin / auppā xaṅgun dexanin ma-
天に 怒る 天 落
- ¹² xa[xa] dao dala[/ maēnadādaa sija
下する 地を 上より 其
- ¹³ dexanin tan / laḍiṅ-po[/ auppā taḍa¹⁴un
天 に於て 埋没する 聞かれるもの
- ¹⁵ dao buma to dunun ipada[sija dala[
外の 人 下 その 地
- ¹⁶ tatappiṣ / auppā mašamo kaimin bunun /
泣く 禁忌 我々 アメン族
- ¹⁷ matusxoṅ kokolpa / mašamo mapataḍe na
悪戯する 墓に 禁忌 殺す
- ¹⁸ xaṅgun dexanin / auppā ito dexanin to
怒る 天 天の
- ¹⁹ šinaepok aš kukulpa / na xaṅgun amin
養ふもの 墓 怒る すべての

6. asaṅ dēppād 現在は郡大社を asaṅ dēppād と稱す、郡
番の「舊社本社」の意、此物語に出づる asaṅ dēppād
はイバ本社と郡大社の中間郡大溪の向側の地、其地に
番社ありと云ふ。
išinadādaan iši-na-da-faan 到着の地 <daan 道、
dādaan 歩く、比較 panadāan 到着す (išinadādaan
「到着し永久に留まる」場合、panadāan は「再び出發
することある」場合。

9. 天より来るアサン、デ

ンガズの話

昔天がアサン、デンガズへ落ちた。
昔祖先の頃、一軒の家[の人々]が耕作を
してゐて墓を投げ合つた。投げたり
投げ返したりしてもてあそんだ。天
は怒つて天から土地を落し[その人々
を]埋めた。地の下に泣いてゐるのを
外の人に依り聞かれた。墓に悪戯を
することは我々ブソンの禁忌である。
天は怒るから禁忌である。墓は天の
飼育するものである。人が墓を殺せ
ばすべての雷も怒る。我々ブソンは
墓に悪戯をしない。もし墓に悪戯を
すれば死ぬ。地の到着した處はアサ

9. pana-sija 接頭辭 pana-sija 「到着」 sija 其處、類例、
pana-ḍijep 向へ到着す、pananašito 降る。
11. mapalabato mapa-labato mapa- 「相互」
taibašbas < / bax 返す、tai- 參照、原文 1. 第650
頁註6。
15. laḍiṅpo[接頭辭 la 參照、591頁註10。
19. ito 參照、原文 5 第658頁註17。
20. šinaipok s-in-aipok 家畜 <šaipok 養ふ。

- ¹ biḷ-va mais mapataḍ bunun kukulpa /
雷 もし 殺す 人 墓
- ² auppā ukka kaimin bunun mutusxoṅ
無 吾々 人 悪戯する
- ³ kukulpa / mais matusxoṅ kok[pa xai / na
墓を もし 悪戯する 墓を
- ⁴ mataḍ / a:s išinadāan da[ja[xai / tuppā-
死す 到着した處 地 名づけら
- ⁵ wun to asaṅ dēppād / siṅm taša tuppāunin
れた 次に 一の 名づけられた
- ⁶ to maḍexanin to dala[/ masa ipada[dao
天であつた 地 下
- ⁷ sija dala[xai taḷ-mas-a:n mašaba[at /
地 十日間 寝る
- ⁸ ukkin taḍawun taṅpiṣ /
無くなつた 聞かれ 泣聲

ン、デンガズと云はれてゐる。又一つ
の名は「天であつた地」その地下に十
日間寝たときに泣聲が聞えなくなつ
た。

10. ałowad
鼠

- ¹¹ ina:m bunun xabašan sija minu²uni
我々の アメン 昔 時 爲る者
- ¹² ałowad xai / maḷoitad / auppā kaimin
鼠に 怠惰な者 其様に 我々
- ¹³ bunun xabašan¹⁴ xai / taša tšilaš poxa-
人 昔 一 穀 鍋に入
- ¹⁵ ḍa:un / minšuwak mitmod sija po[a /
れられる 増加す 充てる に 鐵鍋
- ¹⁶ auppā iluma[maḷaitad mapit¹⁷ sija pi-
其様に 在家 怠惰なる者は 炊く 多
- ¹⁸ maḍijun da: puxaḍavun tšilaš / amos
くにす 鍋に入れるものは 穀の 其故
- ¹⁹ minšuwak mit-muḍ sija luma[/ auppā
増加 充滿する に 家 新しくして
- ²⁰ a[atsiḍun maḷuṣ-piṅpaḍ sija xotton xai /
押附けられる 女は に 石壁
- ²¹ minu²²uni ałowad / auppā maša mit-muḍin
なる 鼠 新しくして 時 充滿した
- ²³ sija luma[xaisiṅ xai / kaunun da:v amin
に 家 飯 食ふ すべて
- ²⁴ vanno / tummaḍ / oknab / šibvs / iṣixo[
蜜蜂 熊 豹 砂糖黍 副食物
- ²⁵ mawun xai / maša mawun dao šibuš maš
食ふ 時 食ふ 砂糖黍 及び

10. 鼠

昔人間の怠け者が鼠になつた。昔
我々人間は一粒の粟を鍋に入れると
増えて鐵鍋一杯になつた。怠け者が
家に居て、鍋に粟を澤山入れて炊いた。
すると家に増加充滿し、女は[充ちた飯
のため]石壁に押附けられて、鼠になつ
た。飯が家に一杯になつた時、蜜蜂、熊
[肉]、豹肉、砂糖黍を、副食物として食べ
た。砂糖黍と砂糖を食べた時は、未だ
[飯を]平げなかつた。豹肉、熊[肉]、枇杷
蜜蜂を食べた時、其時飯を食べ終へた。
其故に我々は鐵鍋に柄杓一杯[の粟]を

7. taḷmas-a:n <mas²an 10.

10. ałowad 中部北部分方言 qamutiṣ 郡番語の ałowad

は丹大社に於て時靈禁忌語となる。
18. a[atsiḍ 二物の間に挟まる。

- ¹ kamašija xai / nijaŋ aminu:n mawun
砂糖 未だ…しない 平げ 食ふ
- ² maša mawun oknab tummad vanno litto
時 食ふ 豹 熊 蜜蜂 枇杷
- ³ xai / tudijepin ik-aminun xaišij mawun /
其時 終る 飯を 食ふ
- ⁴ auppa kanašijin kaimin loppa ka dau /
その故に 我々 (2)現在
- ⁵ bunun / maiš taša pe'kat-nu! poxadavun
人 も 一 柄杓 入れるもの
- ⁶ šija pul-a xai / nitto minšoosi auppa /
に 鑊鍋 不 増加
- ⁷ šiŋxo:l xabašan kauppa paka-šo/odan /
副食物に 昔 其故に 貧窮する
- ⁸ auppa kanašija kaimin bunun ni to ma-
斯くて 故に 我々 人 不
- ⁹ wun mašaboš maiš [us-an e / na minšo-
食 甘いものを 時 祭 (後に)
- ¹⁰ hošan / maštaan mašamo aš tummad
貧窮する 最も 禁忌 熊
- ¹¹ maiš oknab vanno / auppa aminun xaišij
及び 豹 蜜蜂 その故に すべて 飯
- ¹² maša mawunin tummad maš xoknab /
時 食べた 熊 及 豹

11. uttop
猿

- ¹⁵ ina:m bunun xabašan šija min'uni uttop
我々の 人 昔 其 爲る者は 猿に
- ¹⁶ xai / makuoš auppa muškun da:zo bunun
意地狭い人 と共に 人
- ¹⁷ mapawunxomma xai / amoš kaujumah
共に耕作する 時 屋内に入る
- ¹⁸ takbanuwaž matapav ta'e maun / auppa
耕番 掘食する 里芋を 食ふ
- ¹⁹ anašitunin maun xai / šija kaunun tak-
卸された 食ふ 其 食ふものは 耕
- ²⁰ banuwaž to maitapav maš maš-ah / amoš
番の 掘食した もの 堅い

1. kamašija 本嶋語・甘蔗。
aminun amin (すべて) -un.
3. ik-aminun 接頭辭 ik- は「食ふ事」に關係ある如く
思はる。例, ik'moxos 辨當を食す < moxos 辨當,
ikedaan 食物の容器。
7. šiŋxo:l (i)si-(i)n-xo:l.
pakašo:odan * / -šo:oxo: 食料缺乏, 貧困。
10. mašamo アメン族は收穫期に於て其番を食ふことを

入れても増加しない。といふのは昔
[上記のものを]副食物としたからです。
さう云ふ譯で[現在]貧窮してゐるので
す。それだから我々ブメンは貧窮し
ない様[食料缺乏しないやうに]祭の時
は甘いものを食べない。熊と豹と蜜
蜂は最も忌む。熊と豹を食べた時飯
が無くなつたから。

11. 猿

吾々先祖の猿になつた人は、食心坊
の男です。人々と共に畠で働いてゐ
たが、その(食心坊の)耕番の男は屋内に
入つて里芋を鍋の中から掘食した。
[鍋を]卸して食べる時に、掘食した耕番
の男の分前はまだ煮えないものであ

禁止さる。其慣習の説明説話なり。

17. mapawunxomma mapa (相互) -(m)un-xomma. mo-
pxomma 耕作す。
kaujumah kau-jumah (家), kau- 參照, 原文4, 第657
頁註17。
19. anašitunin anašit(o)-un-in < našito 下。

- ¹ iknab-toppin da:zo takbanuwaž maun xai /
終了した 耕番 食ふ
- ² kalabun pašmu:dan mundada'aša sija lu-
掘かれた 喉は 登る に
- ³ mah / tuppa da:zo to / ʔe / o: / amuš mi-
家 云ふ 斯の如く
- ⁴ n'unin uttop / šinapun da:zo na madamo
爲れり 猿に 追はる (2-)捕へようとする
- ⁵ xai / ni to štaja damugi matališikan /
不 可能 捕へられる 速いから
- ⁶ makadaša sija lukkiš pašunonoš
上に 於て 木 飛び移る
- ⁷ mudadaan / auppa xai maŋ-unin ni to
歩く 故に 中止する 不
- ⁸ madamo / makduši xaišamo auppa mi-
捕ふ 意地狭き 當然 斯の如く
- ⁹ nu'uttop /
猿と化す

II. 郡 蕃 (郡 大 社)
(asaŋ deppad)

1. ikojon
イコジョン

- ¹⁴ aiša ikojon ipadah dala(tsin / ni to
有る の下に 此の 土地 不
- ¹⁵ mawun xaišij / tawun kaunun / ni to
食 飯 嗅ぐ 食物を 不
- ¹⁶ mawun tšiši / mapus-wut patakejan /
食 肉 小 腔門
- ¹⁷ kaimin xabaš xai / ukka:naš paž auppa
我々 昔 未だ無い 米 其故に
- ¹⁸ kaupada(sija ikojon tantoppo / ša:do paž
下へ行く に 訪問 見る 米
- ¹⁹ xai / tapxaijo / tappos bananaž maxabin
食む 始めに 男 匿す
- ²⁰ paž sija xattaš / amuš kilimus ikojon
米 に 陽物 それ故 探す

1. 地 下 人

此の世界の下にイコジョンがゐるた。
飯を食べない。食物を嗅ぐのである。
肉も食べない。腔門は小さい。祖先
はまだ米が無かつたからイコジョン
へ遊びに行き、米を見て、盗み、始めに男
が米を陽物に匿した。するとイコシ
ョンは探し、見出してイコジョンは取

1. ina'-toppin 接頭辭 ik- 參照, 原文10 第666頁註3。
ikna'toppin 食ふ事を終了せり。

採録期: 昭和五年八月。
口授者: 郡大社 (asaŋ deppad) [anixo pažifavan (男, 老
人, 年齢不詳)]

説明者: 郡大社 xaiju takesitsibanas
14. dala(tsin tsin 此處, 比較 tan 其處, 向う。
16. patakejan pa-take(j)-an 糞を出す場所, 腔門 < take
糞。
20. kilimus kilimun + aš? 參照, mimbašus 原文
632頁註18。

- ¹ xai / iduwan at šiṣoxaisus ikuḷon / auppā
見出される 返す それ故
² šaiši piṣṣad ši:ḍa paad maxabin sja xabis /
交代する 女 取る 米 匿す に 女陰
³ mouppa niḡ iduwan auppā maḍ'av iku-
其様に 不 見出される 恥しい
⁴ ḷon kap-kap xabis /
探す 女陰を

2. minṣumma tombe maṣinaṣa-

出づ 蚤 の中より

dah xabis
女陰

- ⁸ aiḍa daū uvaḍ maḷuṣpiṣṣad manawad
有る 子に 女の 美しい
⁹ iḍawun bananad pundaan xattas / amos
取られる 男 通される 陽物は 然るに
¹⁰ ukka xabis / ka'aun e ukka xabis / auppā
無 女陰 不要 故 無 女陰 そこで
¹¹ tuppā tṣina to mavivia to ka'aun es ane
云ふ 母 と 何故に 不要 不拘
¹² manawad / tuppā bananad to mimmad
美しい 云ふ 男 何にする
¹³ ukka xabis / auppā kilim us tṣina xai /
無 女陰 されば 探す 母は
¹⁴ ukka xabis / amus kulutt us tṣina xai /
無 女陰 されば 切る 母は
¹⁵ amos maṣinaṣada / minṣumma tombe /
其時 内より 出づ 蚤
¹⁶ amos maḷa'ḷa mas bananad / aiḍin xabis /
そこで 叫ぶ に 男 女陰

2. 女陰より蚤出づる

話

美しい娘が結婚した。陽物を入れ
たが女陰がない。女陰が無いから(此
の娘は)嫌ひだ。そこで母は「美しいの
に何故に嫌ひですか」と云つた。「女陰
が無ければどんな役に立ちませうか」
と男は云つた。そこで母は探すと、女
陰がない。そこで母は切ると、其時内
から蚤が出た。そこで男に「女陰が出
来ましたよ」と叫んだ。

1. šiṣoxaisus šiṣoxaiṣun + aṣ?

9. iḍawun <ṣiḍa 取る。

pundaan pun-daan (道)。

11. es 本口授者は is の結婚を問ふ。

16. aiḍin aiḍa の「過去」。

IX

ツ オ ウ 語

語 法 概 説

及 び 本 文

ツォウ語語法概説

I. 分 布

ツォウ [tsou] 語は狭義のツォウ [tsou] 族、即ち臺中州新高郡並に臺南州嘉義郡に住するツォウ族 (1,661 人) の言語にして、ルフト [duftu] 方言と阿里山方言に分つ。

ルフト 方言: 楠仔脚蕃 [mamahabana] 社。

阿里山方言: 達邦 [tapapu] 社, 竹脚 [ptsoptsocknu] 社, 頂笨子 [nijautgina] 社, 樟脚 [tso^otso^osu] 社, 繁頭 [fitfa] 社, 殺送 [sasapo] 社, 落風 [jo^ofuge] 社, 勃子 [takpjanu] 社,²⁾ 獺頭 [tsatsaja] 社, 知母勝 [tufuja] 社, 角端 [taptowanu] 社, 石捕有 [tsipuu] 社, 流勝 [dad^au^aja] 社, 無荖烟 [mejoina] 社, イムツ [imutsü] 社, ララチ [dadatši 或は pu^uu] 社。

兩方言の音韻關係は,

ルフト方言	阿里山方言	
	タバン	トフヤ
ʃ	j	j
ʒ	j ³⁾	z/ʒ

調査はルフト方言楠仔脚萬社、阿里山方言の達邦社、知母勝社に於てなせり。

- 註 1. 和社 [hosa] は近年楠仔脚萬社に移住併合せられたり。
 2. 勃子社には極少數のアモン族住す。
 3. 「夾」ルフト pu^u, タバン pu^u, トフヤ pu^u の例外あり。

II. 音 韻

1. 母音, [i], [e], [a], [o], [u], [ɤ], [ə].

- [i], [e] [i] は基本母音第一號より極く少し廣く, [e] は基本母音第二號に略等し。他の蕃語と異なり兩者の區別明なり。
- [o], [u] 各々略基本母音第七號第八號に等し。他の蕃語と異なり兩者は明かに區別せらる。達邦社は稍廣き [o] を用ふ。
- [ɤ] [u] なる中間母音ありて [u] と異なる一の素音を形成す。兩音の發音區別は阿里山方言に於て概して明瞭なれども ルフト 方言に於て不明瞭なることあり。又終音に於て兩音の別を聽取り難し (終音は弱音化する傾向ある故に)。

4. [ɸ], [ə] 素音[e]の變音 § 16 参照。
2. 子音, 兩唇音[p], [b], [m], 唇齒音[f], [v], 齒音[t], [d], [tʃ], [s], [z], [z], [ts], [ts], 硬口蓋音[j] 軟口蓋音[k], [ŋ] 聲門音[ʔ], [h].
1. [b], [d] ブヌン語と同じく, b, dの調音部位の閉鎖と共に聲門を閉ち, 其の破裂と共に聲門を開く, [d]は兩方言共に[ʔ]に響くことあり。破裂に際し側音的に氣流の流出する爲めか, 阿里山方言の[d]は輕き反轉音的傾向を有するものの如し(トフヤ人の發音に依る)。
2. [f], [v] 上齒と後唇部との唇齒音, 兩唇音[ɸ], [β]に發することあり。
3. [j] ルフト方言に現る特殊音, 舌尖は齒齦に對し摩擦音[x]の調音の位置を執り, 發聲と同時に舌は後退し[j]の調音の位置に來り生ずる摩擦音, 二重の調音を有するために話者により[x]の音色の強き者と[j]の音色の強き者とあり, 又舌尖と齒齦接し側音[l]の發音をなす者もあり。
4. [s], [ts], [ts] [s], [ts]は後部齒齦調音にして輕き[s]の響を有す, [ts]は[i]の前に於て[ts]に口蓋音化する。
5. [z], [z] 兩音は同一素音, [z]~[z], [z]の發音をなす者あり(トフヤ), [z]音は兩方言共其摩擦度弱く, [i]ノ母音的音色に變することあり。
6. [j] 摩擦少なし, 往々母音的になることあり, かゝる發音は[ŋ]を以て記録せり。
7. [h] 軟口蓋摩擦音[x]に變することあり, [h]は母音間に於て消滅することあり tsumu > tsu:mu.
8. [ʔ] 聲門破裂音の多きはツオウ語の一特色。
3. 三重母音[eio], 急速なる發音に於て[eio]は[eio]に變することあり。(阿里山方言). [eio]は[eio]に變することあり(ルフト方言), かゝる[e]音の中間母音化は後母音[o]音の同化に依る。
4. 母音の脱落, 急速なる發音に於て[u], [u]は脱落することあり, suputu > sputu 同質の母音間に[ʔ]介在する時は前方の母音屢々消失す。ukaʔa > ukʔa.
5. 有氣音, ツオウ語の無聲破裂音は有氣音的にして特に揚音のある音節に於て強き有氣を有す。pʰipi, tsʰana (原文音録には記號を附せず)。
6. 終音, ツオウ語は母音を以て終る開音節の形式を有す。終母音の現象を若干記載すれば, 1)無聲化することあり。2)[ʔ]の後の「のり」(off-glide)生ずることあり。tujuʰ (タバン社 vo:ju). 3)[ʔ]の後の「のり」生ずることあり。hisiʰトフ

ヤ社山中)。

7. 揚音, 最後より第二の音節に揚音來るを原則とす。(tsuhumu は一見最後より第三の音節に揚音あり。是は[h]音弱の音節を形成し難き故ならん。[h]に關し § 14, 参照) ツオウ語揚音は「強き」の揚音(stress accent)にして, 特にタバン社の揚音は其氣息強勢なり。

III. 品 詞

1. 冠詞, ツオウ語は複雑にして而も整然たる冠詞の組織を有す。此「冠詞」と「時相接頭辭」はツオウ語語法の重大なる特性なれば, 概説に於て主として此二項に就き記述す。ツオウ冠詞は他の IN. 語に於ける如く「事物」と「人物」に依る區別無し, 先づ 1) 話者より見ゆる處に在りや否や, 即ち「眼界内」と「眼界外」に分ち 2) 「眼界内」に在る場合に, 話者の近くか, 對話者の近くか或は兩者より離れし處か, 「こゝ」「そこ」「あそこ」の三種の「位置」の區別, 3) 「眼界外」に在る場合は, 話者の知るものなるや否や, 又, 聴手の知るものなるや否や, 即ち a) 話者の「既知」 b) 話者の「未知」 c) 話者の「既知」聴手の「未知」 d) 話者の「未知」聴手の「既知」の四種の區別に依り冠詞を分ち, 加之「格」の概念ありて, 各々は主格と從格を有す。此等に表示せば,

(a) 眼界内		(b) 眼界外	
主格	主格以外の格	主格	主格以外の格
(1) この e	ta	(1) 既知 o	to
(2) その si	ta	(2) 未知 na	no
(3) あの ta	ta	話者既知 jao	?
		相手未知	
		話者未知 ejo	?
		相手既知	

註 1) 「從格」は主格以外の格, 即ち「領格」「與格」「對格」「造格」「處格」等を意味す。

2) 此等の「冠詞」は指示代名詞より發達せしものならん。

3) jao, ejo は阿里山方言に於ては「古めかしき詞」となり, 老人層のみに留保せらる。

2. 從格の用法, 外延的位置に立つものにして, 主なる用法を示せば, (例はナマカバン)。

1. 所有, na femo: ta tsoū 其(或は此)人の家, (人は話者の見ゆる處に居り, 家は話者の見えざる處に在り而も此處に見し經驗無し。假りに家は眼界内の遠き處に在り, 人は話者の知る者なれども話す時に不在なれば, ta femo: to

tsoü とせざる可からず)。

e fupuu no hapu 敵の首, (首は眼前に在り, 敵は見えざる遠方に居るものにして話者は此迄見しことなし)。

2. 屬性, a. ts'ofoha ta tsojeoha 星の河(銀河) b. ts'ofoha to tsojeoha 同上

(a は夜間銀河を見つゝ云ふ。 b は晝間星の見えざる時に云ふ)。

femi no pu:tu 臺灣酒 femo: no pojave 刀の家(鞘)

(位置の確定せる概念の無き場合は no を用ふ)。

3. 對格, mafo no puzu 犬を取る fetoku to o'oko 子供達を殴る

(何處より取り來るか不明なれば no, 此處に居らざれども, 知れる子供なれば to)。

4. 造格, 過去分詞の動作主を示す。[o'otša ta av'u e fukoi 蛇は犬により咬まるもの, 蛇は犬に咬まる(犬も蛇も眼界内に在り)。

[o'otša to av'u e fukoi 意味同じ(但し犬は知れる犬なれども既に逃げ去り姿は見えず, 蛇は目前に在り)。

5. 處格, ufu ta patupkuonu 新高山に到着す。(ufu は, “行く” “來る”共に用ふ, ufu ta (= ufta) は“來る” “到着す,”之に反し“行く”は ufu ne (= ufne), ne は眼界外を示す副詞 ne'e と關係す, 見えざる遠方へ行く)。

fon ta mamahabana 此ナマカバンに在す。

3. 時相接頭辭, ツ、ウ語動詞は人稱と時を明示する一種の接頭辭を有す。mi'po bonnü 我食す, miko bonnü 汝食す, mo'po bonnü 我食せり, mohusü bonnü 汝食せり。該接頭辭を分解すれば, 二の要素より成立す。即ち時の要素と人稱代名詞なり。例へば, mi'po は mi なる[現在]を示す要素と 'po [第一人稱單數]の代名詞より成立す。此等の接頭辭を表示す。

時 相 接 頭 辭

	一 人 稱			二 人 稱		三 人 稱	汎 稱
	單 數	複 數	除 對 話 者	單 數	複 數	單 數	
現在能動	mi'po (I, II, III)	mimüza (I)	mito (I, II, III)	miko (I, II, III)	mimu (I, II, III)	mita (I, II, III)	mitsü (I, II, III)
mi-		mimza (II)					
		mimija (III)					
現在受動	isü'pu (I)	imüza (I)	ito (II, III)	iko (I, II, III)	imu (II, III)	ita (I, II, III)	
i-	is'u (II, III) 使用稀なり o'u を以て代用す	imza (II)				isi (I, II, III)	
		imija (III)				ihini (I, II, III)	

	一 人 稱			二 人 稱		三 人 稱	汎 稱
	單 數	複 數	除 對 話 者	單 數	複 數	單 數	
過去能動	mo'po (I, II, III)	momüza (I)		mosü (I, II, III)	momu (I, II, III)	mohini (I, II, III)	motsü (I)
mo-		momza (II)					
		momija (III)					
過去受動	mosü'pu (I, II, III) 但し II, III 使用稀なり	omüza (I)	mohuto (I, II, III)	mohusü (I, II, III)	mohumu (I, II, III)	mohuta (I, II, III)	mohu'(tsü) (I, II, III)
o-	osü'pu (I, II, III) 但し II, III 使用稀なり	omza (II)		osü'ko (II, III)	omu (II, III)	oita (I?)	otsü (I)
		omija (III)		osü'na (ララウヤ)		osi (II, III)	ohi (I, II, III)
第一未來	te'po (I, II, III)	temüza (I)	teto (I, II, III)	teko (I, II, III)	temu (I, II, III)	teta (I, II, III)	tetsü (I, II, III)
te-		temza (II)				tesü (I, II, III)	
		temija (III)				tehi	tehini (I, II, III)
第二未來	tena'po (I, II, III)	tenamüza (I)	tenato (I, II, III)	tenako (I, II, III)	tenamu (I, II, III)	tenata (I, II, III)	tenu'(tsü) (I, II, III)
tena-		tenamza (II)				tenasi (I, II, III)	
		tenamija (III)				tenahi (I, II, III)	tenahini (I, II, III)

I. ナマカバン社 II. トフヤ社 III. タバン社

4. -hu- 「過去」の接頭辭に -hu- / -xu- 入りしものと然らざるものとあり。其意義用法同じ。-hu- のある形は本形にして, 無きは畧形。h の本質上 (§14 参照)。-hu- 脱落せしものなり。

5. 人稱語尾

	一 人 稱		二 人 稱		三 人 稱	
	單	複	單	複	單	複
			-ko	-mu	-si	-si
-'po		-müza	-sü		-ta	-ta
-sü'pu			-süna (ララウヤ)			-hi -hini

一人稱單數の -sü'pu 形 (isü'pu, mosü'pu, osü'pu) はトフヤ, タバンに於て 40 歳以上の婦人層により使用せらる。ナマカバンは一般に使用す。而してトフヤ, タバンに於て現在受動の isü'pu の代りに過去受動 osü'pu 使用せらる。一人稱複數に「含對話者」と「除對話者」の兩形の存在は他の IN 語に同じ。二人稱單數に -ko 形と si 形の有ることに注意すべし。三人稱は「指示代名詞」處の副詞と關係す。si, ta は單複共に用ひられ, hi, hini は複數のみに用ひらる。hi は「眼界外」の見えざるもの, si, ta, hini は「眼界内」而して si, hini は近距離に在るものに指し, ta は遠距離に

在るものに指す。物語等に於て -si 用ひられること多し。人物事物を眼前に彷彿たらしむ。

6. 汎稱、人稱を特に示す必要無き場合或は示し難き場合に人稱語尾を含まざる汎稱形を用ふ、mitsu mütsüfü 降雨す。又、ata, asi, ita, isi, io の指示代名詞と共に三人稱に使用す。

ata mitsu = mita, asi tetsu = tesi

7. 能動と受動、「現在」及び「過去」は各々「能動」「受動」の二形を有す。「受動」は「分詞」と共に用ふ。例示せば、

{mi ^o bonnü	我食す	{miko mimo	我飲む
{isi ^o anna	我に食はる	{iko ima	我に飲まる
{mohutsü baiuo	見たり	{mosü optsoi	汝殺せり
{ohutsü aiti	見られたり	{os ^o ko optsoza	汝により殺されたり

8. 「第一未來」と「第二未來」、te- 並に tena- は「能動」「受動」共に用ふ。例、te^o bonnü 我食せん、te^o anna 我により食せられん。而して te- は「今より始まる動作」を示し、tena- は「未來の或る時期に於て始まる動作」を示す。te^o bonnü 今より我食せん。tena^o bonnü 後に (例へば入浴後) 我食せん。

tena は >ta と約せらるることあり。

9. tsü/tsu, 時相接頭辭の總てに tsü/tsu を後添し得、mi^o tsü, mo^o tsü, te^o tsü 等。但し mitsü, motsü, otsü, ohutsü(?), tetsü は常に tsü を附す。tsü は「完了」を示す。

{mo ^o uo bonnü	我食せり
{mo ^o otsü bonnü	我食し終れり
{tena asonü ufu tan ^e	恐らく歸來せん(將來或る時に)
{tenatsü ufu tan ^e	間も無く歸來せん(明瞭なる將來の時に於て)

「現在」「過去」の tsü は全く「現在完了」「過去完了」を示せども、「未來」に於ては「制限的」にして更に近き明瞭なる「未來」を示す。te^o tsü mamtsüno 速刻我入浴すべし。

10. mijo, moso, da, 「現在汎稱」は mitsü にして「完了」にあらざる動作を示すために mijo を用ふ。

{mijo mütsüfü	雨降る(降れる状態)
{mitsu mütsüfü	雨降り出せり(降り出し來る事を示す)

moso は mohu に同じ、moso tsü の形もあり、da は「繼續」「不完成態」を示す。mi^o

da pejajofü 我歩き續く, da^o etamaku 我は喫煙常習者なり。

11. 分詞、「受動」の「時相接頭辭」と共に用ひらる「分詞」は語尾變化を以て形成せらる。

1. a 變化

{mimo	飲む	{puno	射る	{optsoi	殺す
{ima		{puna		{optsoza	
{tshihi	捨つ	{majo	取る	{ivaho	再びす
{tshiha		{ja (阿) eia (ル)		{ivaha	
{ptogusi	泣かしむ	{ptadüi	聞かしむ	{sumühunu	雇ふ
{ptogusa		{ptadüa		{sükuna	

2. i 變化

{tsotsuvo	笑ふ	{jusuhupu	座る
{tsotsuvi		{jusuhupi	
{juhu ^o guzu	泳ぐ	{m-toku	投ぐ
{juhu ^o guzi		{tokui	

3. ni 變化

{mofi	興ふ	{p(o) ^o onnü	
{faeni		{pa ^o anni	{pa ^o teni 見せしめらる

4. 不規則變化

{baito	見る	{bonnü	食す
{aiti		{anna	

5. 準分詞 語尾變化をせず、接頭辭に依るもの。

{mojojai	作る
{teai (阿) (tajai) (ル)	

12. 代名詞

1. 人稱代名詞 主格としては時相接頭辭の形として現る。領格、一人稱單數^o /^o, 一人稱複數除對話者 müza / mza 含對話者 to, 二人稱單數 sü, 二人稱複數 mu, 三人稱 ta, si, hi, hini.

2. 指示代名詞 eni この, sitso その, tonoi あの, na 眼界外。

13. 副詞, tan^e 此、sitša そこ, ta^e あそこ ne^e 眼界外。

14. 結辭 tši, a) 修飾語と被修飾語を結合す, pepe tši fujuju 高き山, umunu tši

mamespiŋi 美女, 修飾語は先行す。b)句と句の接續詞的に使用せらるることあり。o'a te'o ufu ne toton'u tŋi mi'o so tuma'tsoŋu 我病氣なる故に我島に行かず。

1. ルフト方言
(duftu)

1. tutunuma
洪水

- 4 ina tuŋfoza muso miŋfozu / mitsü
(現代)の 蟹は 既に 横向となる (現在)とつてある
- 5 amakuno tüppü e pühpüŋü / aja hotŋi
其故に 海に (現代)の 地は (3)若し—は
- 6 na uk'a ina foŋo mfoŋi / texitsü ŋaŋtsi-
無い (現代)蟹が 大 (未来)それなら 充滿
- 7 ŋütsü ta pühpüŋu na tsuhumu / mohutsu
する (冠従) 地に (冠主) 水は (過去)した
- 8 ahoŋu ahoi miŋŋaŋtsüŋütsü / mohutsü
將に(?) 開始 充滿 (過去)した
- 9 amuzo uhu ta patuŋkuwonu e foŋo
其の間に 來 へ 新高山 (冠主)蟹が
- 10 mfoisi / ma temüza sükuna ho patifi-
大 おや (未来) 雇ふもの ために 抓ら
- 11 kitsineni txisitsü amuzo se'tsü'hi e
しめる (未来) 其 今少しにて 到着する處 (冠主)
- 12 patuŋkuwonu / txisitsü afua püna /
新高山は (未来) 其物 若し 充つ
- 13 texitsü a'tsuhü mutsoi na [atatisikova /
(未来) 總て 死ぬ (冠主) 生物は
- 14 mijo putujunu ta ihunu peppe / tŋi o'a
避難する(?) へ 最も 高さ處 故に 故
- 15 isi so se'tsühi / oepü na tuŋfoza tŋi
(現在) まで 到着する處 浪石に (冠主) 蟹は から
- 16 mijo so maŋazo peppe / oxusi nana aüto-
である 同じ 高 (過去) まうだ やつて
- 17 homa tifikitsa putsuku no tuŋfoza ho
みること 抓るもの 脚は (冠従) 蟹の 面して
- 18 aiti / ma mijo akeji aüto'o / mitsü 'bi'biŋi
おや 少く 動く (現在) 探す
- 19 no psoef'efu tŋi tejisisi / tenasi akofova
(冠従) 洞穴を (結)の 石棚 (未来)彼の 計劃
- 20 no simo'usini / ho tenasitsü a'umta tifi(i)-
(冠従) 走り入る處 時に (未来)彼の 事實 挟む
- 21 kitsa / isitsü tifikitsa tinoza mitsü tamai-
もの (現在)で 抓るもの 強く (現在) 廻轉す
- 22 zufu mitsümiŋuhu e tsuhumu / ina
(現在) 零れる (冠主) 水は 其の

1. 洪 水

怪蟹が横向になつたため、此土地が海になつた。もし巨蟹が居なければ、地は水ですつかり被はれるだらう。
[水が]充滿し始めた。充滿しないうちに巨蟹が新高山に來た。我々は(彼を)雇つて其を抓らせよう。[水は]も少しで新高山[頂]につかうとしてゐる。若し上まで來れば、生物はみんな死ぬでせう。[水は最高處まで]やつて來ないから最も高い處へ避難する。怪蟹は[新高山と]同じ高さなんですよ!。[巨蟹は]怪蟹の脚を試みに抓つて見ると、オヤ少し動いてゐる!。[巨蟹は]洞穴になつた岩棚を探す。今度本當に抓る時に、逃げ込む場所を考へよう。強く抓られると[怪蟹は]體を廻す。そして水が[彼の體の中に]流れ込む。彼の背は山そつくりで、檜林や素的に廣大な丘陵もある。此の世界の水が一緒

採録期：昭和六年九月。
口授者説明者：ナマカバン[mamahabana] mo'o usa(ana)

(男、當時40歳)

- ¹ fu'uhu mi'aadu fu'ufu / ho fafahafoi
背は 似てゐる 山 而して 楡林
- ² na'no mo'foi no hutsu:fu / teha'no da'šiso
葦た 大 (冠従) 丘 (2) する位だから
- ³ mohutu'uni no tshumu ta pūhpūpū /
集合 (冠従) 水 於 地
- ⁴ maintši o'a' dāhtū pa'pūtsūpūtsū / de'fa-
何故に (2) 決して...せず 充滿 から
- ⁵ šiso imma ko'ko'ada no pa'pūtsūpūtsū /
飲まれる それ故に常に... (冠従) 充滿
- ⁶ ho: moso da noana'o uk'a tši puzu /
(3) = 昔々 ない (接) 火の
- ⁷ oxu tsū sūkuna e k'foisi ho mafo no
(過去受動) 届はれる者 (冠主) (鳥の名) に 取り 取る (冠従)
- ⁸ puzu / moxutsū ma:fo miso o'a ma'faxe /
火を (過去) 取る (現在) (否定) 早い
- ⁹ o'axusi pahutsuha tan'e na puzu / mitsū
(現在) 運ばれるもの 此處まで (冠主) 火は (現在)
- ¹⁰ maine' e k'foisi / ho jajintša o'a isū'u
本意に... (冠主) (鳥の名) は 而して 云ふ事 ではない (現在) (受動) (鳥の名)
- ¹¹ pahutsuha tši / mitsū hoepū:pū e sumusu
運ばれるもの 故に (現在) 燃え終る (冠主) 嘴は
- ¹² motso'po isitsū moza t'ofopasi na puzu /
痛い (現在) (受動) (鳥の名) 置きもの (冠主) 火は
- ¹³ isi ausika sūkuna o uhupu / tši moma-
(現在) 代りのもの 届はれるもの (冠主) (鳥の名) は (結) 速い
- ¹⁴ faxe / tesi so hafa meimatso'po isitsū
(未来) すでに 飛ぶ (現在) (受動) (鳥の名)
- ¹⁵ pahutsuha e puzu / mitsū eno ēa puzu /
運ばれるもの (冠主) 火は (現在) 漸く 存在 火は
- ¹⁶ e uhupu e mo maxutsuho / te'fa puato-
(現在) (鳥の名) は (冠主) もの 運ぶ (未来) (鳥の名) 中央で
- ¹⁷ taitso no papaji / tši mošo max(u)tsuho
食さめる (冠従) 稲田の (結) すでに 運ぶ
- ¹⁸ ta puzu / av'a io k'foisi / a: tō da
(冠従) 火を 除く (指代) 其 (鳥の名) (否定) (未来) (鳥の名)
- ¹⁹ puato taitso to papaji / a: miso max(u)-
中央で食さめる (冠従) 稲田の (鳥の名) (現在) (受動) 運ぶ
- ²⁰ tsuho to puzu / te: 'da pabonnu atiha
(冠従) 火を (未来) (鳥の名) 食はせる のみ
- ²¹ puasasikiti a muso so ma'faxe /
島の縁で食はせる (否定) すでに 速し
- ²² ne moso 'da fu'wet'ofoponu ta patu-
昔々 洪水の時に (人々は) 新高山に 集
- ²³ kuwonu nemoso tūppū / mohutsū afepūpū
山 既に 洪水 (過去) 終了
- ²⁴ tūppū / moxtsū atsuho fuovufuji / ne
洪水は (過去) 昔 元に歸る すでに

になつて[彼の中に流入する]位だから
何故に洪水にならないか。[彼に]飲ま
れるからいつも氾濫しない。其昔は
火がなかつたさうだ。ヨヨイシ鳥を
雇つて火を取らず事にした。取りに
行つたが[飛び方が]遅く、火を此處まで
[新高山]運べなかつた。こゝに[新高山
に]歸つて来て、云ふやう「私は持つて来
ません。嘴が燃えてしまつて痛くて
仕方なく思切つて火を放したから」代
りにウフグ鳥を雇つた。その鳥は速
く、彼は飛んで運ぶだらう、火を運んで
来た。火がやうやうあるやうになつ
た。ウフグが運んで来た。稻田の中
央へこれからいつも入れてやること
にしよう。火を運んで来たから、ヨヨ
イシ鳥は除け者、これから稻田の中央
で食べさせてもらへない。火を運ば
なかつたから、食べさせるが速くなか
つたから島の縁だけで食べさる。

昔々洪水の時に(人々は)新高山に集
つてゐた。洪水が終り、皆歸つた。歸
る時は、マーヤと西洋人と郡蕃と曹族

- ¹ mitsū vufuji / fupepevai majja ho a'umu
(現在) 歸る 分れる (部族の名稱) 及び 紅毛人
- ² ho su'bukunu ho tsoū / muso nana
及び 郡蕃 及び 曹族 既に だまうた
- ³ aonu'ū / a'pae no husufu no a'u'dū /
別れる 分ける (冠従) 弓 (冠従) 竹の
- ⁴ nuta maja e p'ofopusi / nuta a'umu e
のもの (冠主) 其の根元 のもの 紅毛人 (冠主)
- ⁵ patišso:hasi / nuta sū'bukune e taitso ta
その先端 のもの 郡蕃 (冠主) 中央 (冠主)
- ⁶ patišso:hasi / nuta tsoū e taitso ta
その先端よりの のもの 曹族 (冠主) 中央 (冠主)
- ⁷ p'ofopusi / moxtsū uhu ne pesapusi e
その根元よりの (過去) 行く へ 平地 (冠主)
- ⁸ majja / ho e a'umu / min'a no'nonuhūpū
及び (冠主) 紅毛人 相離ら*掛けて 遺留す
- ⁹ e tsoū ho e sū'bukunu /
(冠主) 曹族 及び (冠主) 郡蕃は
- ¹⁰ moxtsū fupepehupū'ū ho: jajintša /
(過去) 相談す 而して 云ふこと
- ¹¹ teto optsoji ta p'u'hoū teto aiti / mi'fo
(未来) 殺す (冠従) 猿を (未来) 見るもの である
- ¹² akeji ū:mūnū ho isi aiti ie fu'puu ta
少し 良 時 (現在) 見るもの この 顔は (冠主)
- ¹³ p'u'hoū / ho tši na akeji mefoisi / ntetsū
猿の (3) 少し 大なる だらう
- ¹⁴ a'umtū ū:mūnū / ho: teto aiti / teto
本當に 良 而して (未来) 見るもの (未来)
- ¹⁵ auisifūtū meesi ho ma'fasūvi / na'nu
試みる 祭 而して 踊 大いに
- ¹⁶ mofo'pu / ho tši na optsoji no fatatīsi-
美聲 (3) 少し 殺す (冠従) 人間を
- ¹⁷ kova / tetsū so asuhutsū mofo'pu / ho mo
(未来) すでに 更に 美聲 時 爲す
- ¹⁸ mafasūvi / teto opsoji ta o'oko / tetsū
踊 (未来) 殺す (冠従) 子供達を (未来)
- ¹⁹ ko'oko nanahahapa e sū'bnkunu /
それ以後 互に反目する (冠主) 郡蕃は

に分裂した。離別した時に、弓を分け
た。マーヤは根元を、西洋人は先端を、
郡蕃は第二番目を、曹族は第三番目を
[取つた]。マーヤは平地に行つた。西
洋人も[平地に行つた]。曹族と郡蕃は
引つゞいて留る事にした。

相談して云ふには「吾々は猿を殺して
見ようぢやないか、猿の此の顔を見る
と、少し面白いね。「も少し大きいと本
當に面白いだらう。[大きいのを]見よ
うぢやないか。祭と踊をやつてみよ
うぢやないか。素的に聲が良くなる
だらうね。もし人間を殺せば、實に美
聲になるだらう踊つてゐる時に云つ
た。「我々は子供を殺さうぢやないか。
それ以後吾々は郡蕃と仲が悪くなつ
た。

2. mamahabana

2. 楠仔脚萬社

- ²⁰ ne: mohutsū nuvofu ta patu'kuwonu /
既に (過去) 出る (冠従) 新高山より
- ²¹ fupepevai e tapapu ho e tufufa ho e
分裂す (冠主) 達邦社 及び (冠) 知母勝社 及び (冠)

新高山から出て、達邦社、知母勝社、
ド社に分れた。グイヨへ行きグイヨ

- 1 fū²du / moso ufu ta vufijo ho fon ta
ル下社 既に 行く へ (地名) 及び 居る に
- 2 vufijo / moso fe²ohū na mo foso ho
(地名) 既に 跡に行く (冠主)其 に 戻して
- 3 jaintsa / te²o mo²unu ta mija²unu ne²e /
云ふこと (未来)私は 行く へ 向ふ 彼處
- 4 mitsū totafa / ho tsi tsū maine²e / ene-
(現在) 待つ かどうか 歸る (疑問)
- 5 mo²ahtu maine²e omüzatsū fe²fimma ta
いつまで待つ 歸る (過去)我々の 探すもの 於
- 6 fufupu / o²a müza e²dua / imüzatsū ma-
山 (否定) 我々の 見出すもの (現在完了)我々 同
- 7 fazo mo²unu tan²e / fe²fimma tan²e / o²a
じ 来る 此處に 探すもの 此處に なし
- 8 isi tsohivi na isi fofo / temüza tuwotsosi
(疑問) 聞きの事 (冠) (冠) 聞きの事 (未来)我々 問はれたる
- 9 e mumutsu / o²a xe etisuhuta / hoxe:
(冠) (部族の名) (否定)彼等 告げられたる 戻して
- 10 optsoiza / ixē peitsoveni / ohuke: no opt-
殺されたる (現在完了) 自状されざる 其の實は 殺さ
- 11 soiza / mimüzatsū m²foohu ta fatu ta
れたる (現在完了)我々 石を推したる (冠) 石 (冠)
- 12 vaaxū / ho jaintsa / temüza hu:pa / ixē
小川 戻して 云はれたる (未来) 土地を買ふ (現在完了)
- 13 ku:zoa / ho ae²oha o p²foohu neni to
感惑さる 戻して 押し倒す (冠) 標 其爲に (冠)
- 14 fatu / imüzatsū ibaha aiti / imüza tafai /
石 (現在完了)我々 又 見る (現在完了) 作らる
- 15 inaxe ibaha p²fo²oha / momüzatsū
彼等 再び 押し倒されたる (過去)我々
- 16 sü²ūno / omüzatsū ta²dua / i²ohe optsoiza
怒る (過去)我々 思出さる 彼等 殺されたる
- 17 tsimo foso / momüza fetoku to o²oko / ho
其の 二人 (過去)我々 撃つ (冠) 子供達 戻して
- 18 p²foohu neni / omüzatsū e²dua e tsū-
標 のために (過去)我々 見出されたる (冠)
- 19 fehu to mo foso / uk²a tsi fupu / maine²e
骨 (冠) 二人 無し 頭 歸る
- 20 na²a ta vufijo / mofofai fanosūfū / temü-
暫く (冠) (地名) 作る 矢 (未来)
- 21 zatsū sufumi o mumutsu / omüza no
我々 戦はる (冠) (部族の名) (過去)我々 (冠)
- 22 potvo²oxa e mo²botoponu he / kakutiia
殺されたる (冠) その 多数の人 彼等 少し
- 23 e mo p²ka:ko / hafa maine²e ne vufijo
(冠) その 逃がしたるもの 持たれたる 歸る に (地名)

に住んだ。二人の者が狩獵に出かけ
て云ふやう。「私はあの山の向う側に
行きます。歸るか歸るか、待つてゐた
が、いつまでたつても歸つて来ない。
私達(社の人)は山を探した。私達は發
見しない。私達も同じく此處(二人が
獵に行つた場所)に来た。探したが、彼
等の居た所が知れない。ムムツに問
ふことにしよう。彼等は返事をしな
い。彼等に殺されたのだが彼等は白
状しない、その實は殺されたのだ。そ
して云つた。「此土地を下さい」彼等は
斷はられた。そしてその標石が押し
倒された。私達は[それを]も一度見て、
又作つた。
彼等に再び押し倒された。私達は
怒つた。私達は思出した。[ムムツが]
その二人を殺したのだと、私達は子供
達を棒で叩き殺し、グイヨのための標
にした。私達は二人の骨を見附けた
が、頭がない。暫くグイヨに歸り、矢を
作り、私達はムムツと戦ふ事にした。
私達の數より多くのムムツが殺され
た。逃げたものも少しはあつた。ム

- 1 fuguu ta mumutsu t²ofopasi e mutsumo /
頭 (冠) (部族の名) 途中に置かれ (冠) 其余のもの
- 2 temüza akofova no² fuovufija / omüza
未来(我々) 心意 元へ歸れり 我々
- 3 husuofo²dua tsi mo ümünü tsi pühptü-
置かれたる(置く)地 其の上等の 地
- 4 hüpü / imüza utšija zofo / temüzatsü no
(現在完了) しばしば 耕作地 (未来)我々 (冠)
- 5 epotsa e mamespiji ho: e i²ihosa / osini
待つて居る (冠) 女達 及び (冠) 家財
- 6 ta mata²bašana ho mofofaimo / temüza
(冠) (地名) 耕作の地 及び 家を作る (未来)我々
- 7 foni muimu²i to fu²ufe moji toton²u /
居る處 種う (冠) 甘藷 作る 粟島
- 8 imüzatsū atsuba zofo mata²bašana ho
(現在完了)我々 置-にたる 島 (地名) 戻して
- 9 tutuhusana ho jaxaimutana ho tifumapa-
(地名) 耕作の地 戻して (地名) その下流 戻して (地名)
- 10 na ho hanuapana / temüza no sühütsü
戻して (地名) (未来)我々 (冠) 前進する
- 11 tamaaxana / mofofaimo / temüza no go:zi
(石の名稱) 家を作る (未来)我々 標識さる
- 12 e tamaaxana / ho ufu ne fufuv²o /
(冠) (石の名稱) 戻して 行く に (地名)
- 13 omüzatsū no fon ta fufuv²o / temüza
(過去)我々 住む (冠) (地名) (未来)我々
- 14 fahuzoo / temüzatsū nona²vi e aimana /
健康無病 (未来)我々 永き間 (冠) 家
- 15 momüza fimi ta fufuv²o / apaevaē / ufu
出る (冠) (地名) 別る 行く
- 16 ne ho:sa / ufu ne mamahabana / tesitsü
に (和社) 行く に (ナマカバン社) (未来)その
- 17 opko na mamahabana tomuzeni ta tama-
地 (冠) (ナマカバン社) 理由に依り (冠) (石、
- 18 axana /
名稱

ムツの頭をグイヨに持つて歸つた。
運びきれなかつた頭は途中に置いて、
引返して持つて来る事にした。私達
はムムツの良い土地が欲しくて堪ま
らなかつた。島を作りたかつた。そ
こで甘藷を植ゑ粟島を作つた。マタ
バラナ、トット。ホサナ、ヤハイムタナ
をすべて島にした。タマアハナに進
み、家を建てることにした。タマアハ
ナを去つて、フフボに行くことにした。
フフボに住んでゐた。病氣をしない
でせう。永く住んで居れさうだ。フ
フボを出て、別れて、和社に行くものと、
ナマカバンに行くものがあつた。タ
マアハナになぞらへてマカハバナ[ナ
マカバン]といふ名をつける事にした。

3. kefee 綱斗

3. 餅 斗

- 21 mi²o fū²süp²ohu / teto eutso:tsu²u
(現在)我は 女に通ふ (未来)我等は 囁く
- 22 teamüza ta²duji kuzo ho tsi ta²duji tesi
(否定)我等は 聞かれ 悪い もじ-ならは 聞く (未来)
- 23 amakuna tsohivi to mofon ta femo: /
其故に(?) 知ること (冠) 居る人の (冠) 家に
- 24 fofohunasi fū²fū²süp²ohu / tebakotsü me-
毎晩 通ひ續ける (未来)汝は 人の

[男曰く]遊びに来たよ。私達は聞か
れないやうに囁いて話さうね。もし
聞かれてそれで家に居る人に話が知
れると拙い、毎晩通つてゐる。「私が歸

- 6 etsü:nu uhu ne emo:²u / temüza meesi
後から(行く)行くへ 我の家 (未来)我等は 祭
- 7 ho mafasüvi / mifo (o)n nenu na emo:sü /
及び 踵 (現在)有り 何處に (冠)汝の家は
- 8 teko eüsühuta na emo:sü / tefoeno me-
未来(汝の)告げるもの (冠)汝の家は 後よ
- 9 tsunu ho tsi ko eüsühuta / o²a te²o tso-
り行く 若し 汝の 告げること (冠)で (未来) 知る
- 10 hivi hotsi² o:te eüsühuta / te²o eüsühuta /
こと (冠)も (未来) 告げること (冠) 告げること
- 11 tekotsü uhu ne ts²ofoha / mofo(n) ne
(未来)汝は 行くに 河 有るに
- 12 ts²ofoha o emo:²u / mi²o uhu ne ts²ofoha
河 (冠)主) 我の家が (冠) 行くに 河
- 13 hõ fejimma ne ts²ofoha / uk²a tsi aimana
前して 探す 於 河 なし (冠) 家
- 14 ta ts²ofoha / io tso mu tüppü / oxusi
於 河 其のみ 淵 (過去)渡す
- 15 fofo ni ta ke²dee / isi tofohupi ta kie²dee
居る處 (冠) 網斗の (現在) 網へるもの (冠) 網斗の
- 16 e efofutoña / isü²otsü efa ho eu²ba²ba-
(冠) 帯は (現在) 帯を 穿るもの 而して 叩きつけ
- 17 kuneni tsoni o²a mo mimoho süp²ofohu /
るもの 一匹は (冠) (過去) どうしても 離落
- 18 isü²o tovufutša tsiha / mitsü fofohuna
(現在) (冠) 網斗の 捨てるもの (現在) 曉となる
- 19 mita ibaho uso / o²u jaintša mofo(n) nenu
(現在) 再び 来る (過去) 私 云ふこと 有り 何處に
- 20 na emo:sü / ita jaintša tsoyo e funuu²u /
(冠) 汝の家は (冠) 云ふこと 痛し (冠) 主) 我の頭は
- 21 isü²otsü tsohivi / ho ita jajaintša fofo²baku
(現在) 我の 判ること 而して (冠) 云ふこと 叩く
- 22 neni nexie / isü²otsü tsohivi / ho ke²dee
此の 晝 (現在) 我の 知ること 而して 網斗は
- 23 isü²o sumofowa² / te²o p²kaku / mita so
(現在) (冠) 恐怖のもの (未来) 逃ぐ (冠) すでに
- 24 ke²dee / mitsü ufovufui /
網斗 (現在) 戻り行く

つた後ですぐ私の家に来て下さい。
我達は祭と踵をやります。[女曰く]「あ
なたの家は何處にありますか。あな
たの家を教へて下さい。云つて下さ
れば直ぐにあなたの後を追つて行き
ませう。教へて下さらなければ私は
判りません。」(男曰く)「では云ひませう。
河へ来て下さい私の家は河にありま
す。」[女曰く]「私は河に行つて河を探し
たが、河に家が無く、淵ばかりあつて、オ
タマジヤクシがゐりました。そのオタ
マジヤクシは帯にくつ附いてゐまし
た。取り上げてはたき落しましたが
一匹だけはどうしても離れません。
私は手で取離して捨てました。晩に
なるとその男が又来た。「あなたの家
は何處にありますか」と私は問ねた。
其の男が云ふやう「私の頭が痛い」[女
曰く]「判つた」その男が云ふやう「晝打
たれたから」[女曰く]「私は良く判りま
した。私はオタマジヤクシが怖い。
私は逃げませう。その人はオタマジ
ヤクシです。」[その男は]戻つて行きま
した。

2. 阿里山方言

1. tufuja

トフヤ

- 4 moso ma²hizufu na tupejoza / tappua
既に 横へ行く (冠) 鯉 驚き止められ
た
- 5 na etüppü / kokomoso na:mo fo:zu: na
海 湖 其の故 深き (冠)
- 6 tshumu ta fujuju / kokomoso p²ka:ko na
水 (冠) 山 その故 逃ぐ (冠)
- 7 tsoü / p²ka:ko ufne patupkuonu / ufne
人 逃ぐ 向へ行く 新高山 向へ行く
- 8 patupkuonu ho noteojunu / na:mo ²bto-
新高山 而して 集合す 多
- 9 onu tsou ho majja / na:mo siio uk²a tsi
数 人 及び マーヤ人 飢ゆ 無
- 10 ana / ²bonü no fuo:u uk²a tsi pajji ²bonü
食物 食す 鹿肉 無 米 食す
- 11 no fuo:u / na:mo nani na urwa / noteuu-
(冠) 鹿肉 多数 (冠) 鹿 一緒に居
- 12 junu ne patupkuonu / optsoza na mots-
るに 新高山 殺されたる (冠) 一部
- 13 mo:si ho oai:ni / mohutsu upw:pe:ai ne
而して 食物とす (過去) 分るに
- 14 patupkuonu / mimimio ho iema na teeio-
新高山 遊ぶ 而して 居られた (冠) 住場
- 15 ni / eio ne ²duftu / mohutsu aüpopohao
所 居るに (地名) 暫くして
- 16 uftan²e / uftan²e ho moiojai emo: / moso
此處に来る 此處に来る 而して 作る 家 既に
- 17 apepaski na tsoü / oxutsu eohoa ho
分散す (冠) 人 (過去) 驚かれた 而して
- 18 teujunu moiojai emo: oxutsu atsüha ehoa
集る 作る 家 (過去) 總て 驚かれた
- 19 oahpu /
同蕃社の人々

1. トフヤ社

鯉が横向きになった。(河が)眠き止
められて海になった。それで水は山
を没してしまつた。それで人々は逃
げた。新高山へ逃げた。新高山へ逃
げて集つた。ツオ族とマーヤが澤山
ゐた。食物が無く飢ゑた。鹿肉を食
つた。米がなくて鹿肉を食つた。多
くの鹿が、新高山と一緒にゐた。その
一部を殺して食物とした。新高山に
て分れて、あちらこちらと歩き住場所
を探した。ムフトにゐた。しばらく
して此處に来た。此處に来て家を作
つた。分れた人々も、招かれて集まり
家を作つた。同蕃社の人々はすべて
招かれた。

2. av²e poepoeiusqüsü

2. 馬鹿のアブエ

- 22 oho ²da jaintša av²e poepoeiuspüsü / 「馬鹿のアブエ」のお話、茶原を刈り刈
云ふこと (人名)

採録期：昭和七年八月。

口授者：トフヤ[tufuja]社、akoiono pasuja (男、當時55歳)

口授者：トフヤ[tufuja]社、vo²e tiakiana (男、20歳?)

説明者：口授者と同じ。

- ¹ moso na da mo²tou mohtsu nana ²da
既に (冠) 茅原を刈る (過去)
- ² oemimi / na nija ²da t²ot²osi / moso nana
乾燥す (冠) 其刈りし 既に
- ³ ja: evi na taitso no t²ot²o / ositsu nana
存す木 (冠) 中央 刈りし處
- ⁴ homoi na t²ot²o / ho tsapo no evi no
焼かる (冠) 刈りし處 而して 登る (冠) 木 (冠)
- ⁵ taitso no t²ot²o / mohtsu nana junzo² na
中央 (冠) 刈りし處 (過去) 燃ゆ
- ⁶ na isija²joni / mohtsu nana hoetuh na nija
(冠) 其の薪や土塊 (過去) 焼け縮む (冠)
- ⁷ kuhtsu si / ho tetejunu no t²o:na si /
皮衣 而して 集る (冠) 頸窩
- ⁸ mohtsu tsuts²o nana nijate spejohü / moso
(過去) 落下す 既に
- ⁹ nana ²da mitsivua phou tsapo no evi /
真似たし 猿 登る (冠) 木
- ¹⁰ ma mitsü tsu²mou na evi / ma mohtsu
現在 腐朽す (冠) 木 (過去)
- ¹¹ nana a²ko:tsu na evi / ho speiohü / ho
折る (冠) 木 而して 落下す 而して
- ¹² aomane mtsoi / moso nana ²da e²du no
暫時 死す 既に 発見す (冠)
- ¹³ tejo²o na av²e poepoeiusqüsü / o²ante
蜜蜂 (冠)
- ¹⁴ nana ahta a²ohi / ositsu nana to²si
登り得る 附す
- ¹⁵ toto²hozai / ho to²hu ho pa²eja no tsüsü /
鞆を作る 而して 鞆を照る 而して 掘る (冠) 金棒
- ¹⁶ moso nana ahtu tosvo ho aiti / ma mitsu
既に 休む 而して 見る (現在)
- ¹⁷ ts²o nija²te antüpü / ositsu nana noha-
切断す 中止す
- ¹⁸ ²avi /

3. ak²e-jam²um²a
アキエカムムア

- ²¹ muso nana ma:seu na mamespi²ni peo-
網を以て漁る (冠) 女 掛けら
- ²² ²düa na epüepü / ntesi: nana ja: ho tsiha /
れたる (冠) 流木 取られた 而して 捨てられ

口授者: タパン(tapanu)社, peonsi ucnu (男, 当時 61歳)
補助口授者: 同社, tosoku vo:ju (男, 当時 57歳)

つた處が乾燥した。刈つた處の中央
に木があつた。刈つた處が彼に依り
焼かれた。そして刈つた處の中央の
木に登つた。彼の居る處が燃えた。
彼の皮衣は焼け縮み猿の窟に丸まつ
た。すんでの事でおつこちやうとし
た。猿の真似をして木に登らうとし
たが、オヤオヤ木が朽ちてる。オヤオ
ヤ木が折れて、おつこちで、暫く人事不
省、馬鹿の「アブエ」は蜜蜂を見附けた。
登る事が出来なかつた。ブランコを
作つて附け、前後に振り金棒で掘つた。
休んで見ると、オヤオヤ(ブランコ)が切
れかゝつてゐる。[取ることを]止して
しまつた。

3. ア、エカムムア

昔々女が網で魚を掬つてゐるとこ
ろが流木が引掛つた。取つて捨て、又

説明者: トフヤ(tufuja)社, jataujujana jusugu 同社,
bejonsi pasuja

- ¹ mijo nana ivaho ma²seu / isinana ivaha
再び 網を以て漁る 再び
- ² peo²düa na epüepü / ja: ho psippa no
掛けられたる (冠) 流木 取られ 而して 捨てられたる
- ³ snoeputa ho maine²e / isitsü nana pajoa
帯 而して 歸る (現在完了) 釣られし
- ⁴ ho o²ana isi aiti / noanao isitsü nana
而して 見らる 久しき (現在完了) 後
- ⁵ uniho²ü / mohutsü jajo ho ensühü /
子む 生る 而して 座す
- ⁶ ihetsü nana tsotsuvi no motsumo / mitsü
笑はれたる (冠) 他人
- ⁷ nana maizo tsotsuvo na oko / mitsü
真似る 笑ふ (冠) 子 (現在)
- ⁸ nana ja:hisü ja / ho jam²um²a / maitsa
齒生す 而して 毛生す その様に
- ⁹ homo jam²um²a ihe:tsü tos²opki ho pöa
毛生す 名づけらる 而して
- ¹⁰ ak²e-jam²um²a /

掬つたが、又流木が引掛つた。取つて
帯に挟み歸つたが、無くしてしまひ見
えなくなつた。程經て妊娠した。生
れたそして座つた。他の人々により
笑はれた。その子は真似て笑つた。
齒が生えてゐたし、又毛が生えてゐた。
毛が生えてゐたからア、エカムムア
[毛のある小父さん]と名づけられた。

4.

- ¹³ ne:anoana² e tan²e si moso etüppü /
昔 (冠) 台湾 既に 海
- ¹⁴ homijo e tsoü moso eio ne patunkuonu /
其時 (冠) 人 既に 居る 既に 新高山
- ¹⁵ moso ²da ²bonü (j)uwanson / homijo moh-
既に 食す 動物 其時 (過)
- ¹⁶ tsu uk²a etüppü / moso iupevai na tsoü
去) 無 海 既に 分る (冠) ツオ族
- ¹⁷ ho majja / ho sotsapaja atisika na fusuju
馬し マーヤ人 而して 形見にせられたる 形見に掛けら (冠) 弓
- ¹⁸ no aü²du / moso iupevai na majja ho
(冠) 竹 既に 分る (冠) マーヤ人 而して
- ¹⁹ tsoü e ta tan²e moso ufne map²ana / na
ツオ族 (冠) (冠) 此處の 既に 行く (地名) (冠)
- ²⁰ majja moso emo²usunu ne omija / e tsoü
マーヤ人 既に (或る方へ) 進む (既に) 東 (冠) ツオ族
- ²¹ tan²e moso imine map²ana ufta tufuja /
此處 既に より (地名) 來る (地名)
- ²² na motsumo ho ufne isikiana / i²o jasi-
他の者 及び 行く (地名) (姓)

4.

昔臺灣は海であつた。其時に人々
は新高山にゐた。魚や獸を食べてゐ
た。海がなくなつた時、ツオ族とマー
ヤ人と分れた。そして形見として弓
を半分に分けた。マーヤ人とツオ族
は分れ此處のツオ族はマンアーナへ
行つた。マーヤは東方へ行つた。此
處のツオ族はマンアーナからトウフ
ヤに來た。ある者はイシキアナに行
つた。ヤシユグ姓とウツナ姓は平地

口授者: タパン(tapanu)社, jaspe noats-atsuhijana (男,
当時 44歳)。

説明者: 口授者に同じ。

- 1 juju ho e ?utsuna moso ufta tsum?u ta
及び(冠) (姓) すでに 来る 附近 (冠)
- 2 pesapsi / homijo e ?utsuna ho jasijupu /
平地 其時 (冠) (姓) 及び (姓)
- 3 moso ?da asiñpütsü eupa-u?u?so emo jon
既に 繼續して 互に交通す この 住む者
- 4 ta tufuja ho isikiana / homijo namoso
(冠) (地名) 及び (地名) 其時 既に
- 5 jonpesapsi tsi tsoü pano ihe aiti tsi
平地に居る者 ツオ族 有り 見られたる
- 6 jatatisikova ne tsum?u ne etüppü / o?a
人間 に 附近 に 海に 不
- 7 isi tsohivi tsi jatatisikova / i?o pu?tu moso
知られたる 人間 本島人 に
- 8 ahoi. ufta tan?e si / mohtsu eu?b?baï /
最初 来る 台榭 (過去) 争ふ
- 9 i?o tsoü uk?a tsi fusuju no puzu / i?o
ツオ族 銃 (冠) 火
- 10 pu?tu mohtsu ja: fusuju no puzu a / o?ate
本島人 (過去) 所有す 銃 (冠) 火 決して
- 11 ahtu atapütü no mo ja: fusuju no puzu
せず 勝利す 者 有す 銃 (冠) 火
- 12 a / hote ehitoto:mu ta pesapsi / mohtsu
若し 戦ふ (冠) 平地 (過去)
- 13 eiövei ta fujuju na moso jone pesapsi tsi
歸來す (冠) 山 (冠) 既に に居る 平地
- 14 tsoü / mohtsu ?da sü?üno na tsoü / ho
ツオ族 (過去) 怒る (冠) ツオ族 而して
- 15 ina ?dahe aiti tsi pu?tu / ?daha atsüha
彼等 怒られたる 本島人 全部
- 16 optsoza / ?dahe jaintsa no tsoü mo
殺されたる 云はれたる (冠) ツオ族 者
- 17 nohukhukpu: ta xpüxpüp to atavei si
邪魔になる (冠) 土地
- 18 homijo moso tamatso?o no hitsu man?i
其の時 既に 天然痘 (冠) 多く
- 19 namo mtsoi / moso tojokukuju:pu no hosa
者 死す 既に 驅け廻る (冠) 蕃社
- 20 namo maisa uwa sosomovai / ahoi ho
者 斯の如き 馬 始
- 21 mijo o?a na moso ?da optsoi no jatatisi-
其時 不 (冠) 既に 殺す (冠) 人間
- 22 korva / ho mijo ohe jaintsa to pu?tu / o?a
其時 云はれたる 本島人 不
- 23 na temu ?da optsoi ta jatatisiko:va /
(冠) 殺す (冠) 人間
- 24 temija fi: ta taütsuno tsi fatu / hotsi
奥ふ (冠) 丸き 石 若し

の附近へ来た。ウツナとヤシユグは引續き此のトウフヤ及びイシキアナに住む者と互に交通した。其時平地に居たツオ族は海の近くに人間の現はれたのを見た。知らない人間であった。本島人が初めて来たのであった。争があつた。ツオ族は鐵砲を有つてゐない。本島人は鐵砲を有つてゐた。平地で戦ふならば鐵砲を有つてゐる者にはどうしても勝てない。平地にゐたツオ族は山へ歸つて来た。ツオ族は怒つてゐた。彼等は本島人を見ると、全部殺した。ツオ族の言ふやうには此の土地に邪魔になる者だと、其の後に天然痘が流行して死んだ者が澤山あつた。馬のやうなものが蕃社を馳け廻つた。其時から人間を殺さなくなつた。其時本島人が言ふやうには、人間を殺してはならぬ。丸い石を與へよう。若しその石が磨滅したならば、再び人間を殺しても構はないと、其時總督は彼の子分に命じて、ツオの家に十人或は二十人を居らせた。獵をするようにすゝめた。

- 1 tsu: ?da a:papaju?u u?e fatu / tetsu?u ?da
磨滅す 石
- 2 ümünü hotši mo ivaho optsoi no jatatisi-
良き もし 汝等再び爲す 殺す (冠) 人間
- 3 korva / homijo ina ts?amfu moso ?da su-
其時 既に
- 4 muhunu no o?oko si / ho püajon ta amo
命す (冠) 子分 彼の 而して 居らす (冠) 家
- 5 no tsoü a / ?da sejomaskü hotšijote tom-
(冠) ツオ 十人 或は 二
- 6 puskü / da sumuhunu no pöaja: fo:fou /
十人 命す (冠) 取らしむ 獲物
- 7 ho mijo na ?da ja no tsoü tsi fou /
其時 (冠) 取らしむ (冠) ツオ 獲物
- 8 ?da atsü:ha hafa ufne tsahamu / homo
すべて 運はれたる 行く (台南)
- 9 tonsoha ina tsoü ?da moiojai tonsoha ha /
一回 ツオ 作る 一回
- 10 atsühü ufne pesapsi / ho eä ?bo?bonü si
すべて 行く 平地 而して 御馳走になる
- 11 ho mitsu maine?e na tsoü tena atsühü
而して(現在) 歸る (冠) ツオ すべて
- 12 mitotonu no matsutsuma / homijo pano
重き (冠) 荷物 其時
- 13 moso oiöpu?tu ne kuva tsi foirana tsi
既に 眠る 公廨 若き
- 14 hahotsugu / isi etsu?uvi no pu?tu / ho
男 (四角窓?) 起されたる (冠) 本島人 而して
- 15 iaintsa maintši homo hije / o?a isi tsohivi
云はれたる 何故 太陽 不 (四角窓?) 怒られたる
- 16 no pu?tu / osi ioiotsa no fuzu namo
(冠) 本島人 怒られたる (冠) 猪 者
- 17 oevoi / mosü?üno namo oevoi / motsö?o
寝る 怒る 者 寝る 痛む
- 18 na osi ioiotsa no fuzu / mo epüskü ho
(冠) 咬まれたる(冠) 猪 刀を抜く 而して
- 19 sou?tsa na pu?tu / ina pu?tu na motsu-
突く (冠) 本島人 本島人 (冠) 他の
- 20 mo:si atsühü p?ka:ko / ho ufne tsahamu /
すべて 逃ぐ 而して 行く 臺南
- 21 eueteu-iüunu na tsoü / ihe jaintsa teto
集合す (冠) ツオ族 云はれたる (集?)
- 22 naso pek?nüi na pu?tu / teto pöaufne
翻す (冠) 本島人 (集?) 行かす
- 23 tsahamu o oko to pejoñsi / ho poaeuteo-
臺南 子 顔目 而して 陳謝せし
- 24 teozu a / hotši toma?du nijate ümünü /
む 若し 承諾す 良好

其時ツオ族の獲つた獲物は、すべて臺南へ運ばれた。一年に一回ツオ族は、すべて平地へ行き、御馳走になりツオ族の歸る時には荷物が重くなる。其時公廨で眠つてゐる若い男があつた。本島人が起して、言ふやうには「何故に晝眠をするか」。寝てゐる者は猪に咬まれたことを、本島人は知らなかつた。猪に咬まれたところが痛かつたから、寝てゐる者は怒つた。刀を抜いて本島人を突いた。他の本島人はすべて逃げて、臺南へ行つた。ツオ族は集合して、「本島人を騙さうぢやうないか」と彼等は言つた。「頭目の息子を臺南へ行かせ、陳謝させようぢやうないか。承諾すれば良し。若し承諾せなければ、女達を竹脚まで出迎に出さうぢやないか。『男はすつかり新高山

- ¹ hotši o'te toma'du / teto poasuputoneni
若し 不 承諾す 出迎なせしむ
- ² to mamespiŋi ta ptsoptoknū tehini ja-
女達 (冠) (地名)竹脚 云は
- ³ intsa ta mamespiŋi / mo atsihū p'ka:ko
れたる (冠) 女達 すべて 逃ぐ
- ⁴ o hahotsupu ho ufne patuŋkuonu / uk'a
男 面して行く 新高山 無
- ⁵ tši temu hijowa / ho tšimo ufne hosa /
用事 面して 行く 蕃社
- ⁶ hotši o'te toma'do temu 'da hafa ma-
若し 不 承諾す 運はれたる 女
- ⁷ mespiŋi na fusuju no puzu ho / pəioto-
達 (冠) 銃 (冠) 火 面して 弾薬
- ⁸ pu'a / -ho temu 'da spihi temu mesmos-
面して 渡る 轉倒する
- ⁹ moptsu:ku ho / pa'teni o heoihūgū mü
風みなす 面して 見せる 陰部 汝等の
- ¹⁰ ho tufu:i fufuju / ho peioto pu'a / ho temu
面して 水に没す 銃 及び 弾薬 及び
- ¹¹ tsoetsonu mu'jo o ma:məspiŋi / ho tena
歩く 先行す 女達 面して
- ¹² mi to sijaezonu to oi-isi / o'a motsu temu
通過す 瀧 下 不 未だ
- ¹³ ameumeusu / ho temutsu ivaho mi to
急行す 面して 再び 通過す
- ¹⁴ sijazonu to omija si / ina temu uwafeihi
瀧 上 後従す
- ¹⁵ temija 'da tok'zi no fatu / homijo na
投ぐ (冠) 石 その時 (冠)
- ¹⁶ temutsu ameomeosu 'boksifou / temijatsu
急行す 登攀す
- ¹⁷ so sükümüti / homijo ina oko no pejoŋsi
杜絶す 其時 子 (冠) 顔目
- ¹⁸ moso uf no tsamfu ne tsahamu / homijo
既に 行く (冠) 總督 既に 臺南 その時
- ¹⁹ tši euteoteozu o'anao si te:'dui na tesu-
陳謝す までに出張 (冠) 戦ふ
- ²⁰ jumo ta hosa no tsoū / isi jaintsa no nija
者 (冠) 蕃社 (冠) ツオ族 (冠) 言はれたる (冠)
- ²¹ tsamfu / o'a nate me'me'du mitsu so-
間に含ふ (現在)
- ²² e'ohū i'po te sujumo / naho aüm'uhu iovei
出發す 兵士 速く 歸る
- ²³ ho aiti / moxtsu mine ptsoktsoknu mo
面して 見る (過去) (地名)竹脚
- ²⁴ toi'so'u nomo fuhjo'a o tsumumu to ts-
濁る 赤き (冠) 水

へ逃げてるから、蕃社へ行つても、用事が無いでせう」と、女達が〔本嶋人〕に言ふことにしよう。〔本嶋人が〕承諾せねば女達は〔本嶋人の〕銃と弾薬を運ぶ事にしよう。お前達が河を渡る時に轉倒する風して、お前達の陰部を見せ銃と弾薬を水に没せよ。歩く時には女達は先になつて行け。下の瀧を通る時はお前達は急ぐに及ばぬ。上の瀧をお前達が通る時に、最後に歩く女に我々は石を投げる。その時お前達は急いで〔瀧の上へ〕昇つてしまひなさい。我々は〔お前達と本嶋人の間を〕遮断しよう。其時頭目の息子は臺南の總督へ行き、陳謝しようとしたが、曹族と戦ふ者は既に出發してゐた。總督が言ふやうには、兵は出發してゐるから間に合はない。速く歸つて見るがよい。竹脚を通ると河の水が赤く濁つてゐた。獨りで考へ、心の中で言ふやうには、〔河の血は全部味方のものでない。多分本嶋人の血もあるだらう〕。河を上ると二人の本嶋人に出會つた。髪が結附けられてあつた。手を見ると

- ²⁵ 'oeha invonuvo matotohuŋu / isijaintsa no
河 自ら 思考す 云はれたる (冠)
- ²⁶ kojunsi / o'a atsinū o'ahapu / hūmūjū ta
心 不 全部 味方 血 (冠)
- ²⁷ tsumumu / asonu pu:tu na motšimo / mi-
河 恐らく 本嶋人 (冠) 他の (現)
- ²⁸ tsu ots'o to ts'oeha 'dua namo ioso tsi
在) 上る (冠) 河 (地名) (現)
- ²⁹ pu:tu / isi pape'tuia na hu'usu / isi aiti
本嶋人 結合せられたる (冠) 髪 見らる
- ³⁰ na emutsu / uk'a tši 'du'duku / mitsu
(冠) 手 無 指 (現在)
- ³¹ aveovoioju mo maitsa na kojuusi asonu
喜ぶ 斯の如く (冠) 心 恐らく
- ³² hijowa no o'ahapu / ina pu:tu moso se-
爲せしむ (冠) 味方 本嶋人 既に
- ³³ 'tjuueva / atsiha optsoza no mo tomtu:-
三百人 全部 殺されたる (冠) 三十人
- ³⁴ ihu tši tsoū / moso seomaskū namo uf
人 既に 十人 行く
- ³⁵ no feoŋo tših namso uf ne tū'ūnu ne
(冠) 石洞 一人 行くに 絶壁に
- ³⁶ ma:məspiŋana / ho tonhifi no hipsi tši
(地名) 面して 絶壁 (冠) 薄き
- ³⁷ fatu ina ts'o ka'di na isi aiti / tojohu:ŋa
石 のみ 踵 (冠) 言はれたる 一緒に
- ³⁸ pna no fusuiō no aū'du / o'a isi a'taūxa /
男 (冠) (3=)弓 (冠) 否定 (冠) 當てらる
- ³⁹ tših namo mavija / namo mu'ho: no
一人 左利 當つ (冠)
- ⁴⁰ ka'di / mitsu eiuiuso namo hipsi tši fatu /
踵 (現在) 共に 薄き 石
- ⁴¹ ho tamaiohū / ina mojo no feoŋo tših
面して 轉落す 居る者 (冠) 石洞 一人
- ⁴² namoso optsoi tši tsoū na'no a'do'doŋu /
既に 殺す 蕃人 負傷す

指が無い。これだから嬉しいと心の中で思つた。恐らく味方のした事だらう。本嶋人は三百人であつたが、三十人のツオウに皆殺しになつた。十人は石洞へ入り一人はマームスビガナの絶壁へ行つた。薄石を前に置き體を隠したが踵のみ見えた。皆一緒に弓を射たが當らなかつた。左利きの人のみは踵に當てた。薄石と共に、轉落した。石洞に居る者は蕃人一人で殺したがひどい負傷をした。

X

サアロア語

語法概説

及び本文

サアロア語語法概説

I. 分 布

サアロア語は高雄州屏東郡管内に住居する四社蕃 [a²aruwa] の言語にして、其方言的差異僅少なり、同蕃はハイセン社 [paitsiana]、タラル社のガニ社 [lilara]、ヒラソ社 [birapana] の四社に分れ、人口 284 (昭和五年調) の小數部族なり。

本調査はハイセン社並にガニ社に於いて行へり。

II. 音 韻

1. 母音 [i], [e], [a], [o], [ɔ], [u], [u].
 1. [i], [e], [ɔ] と [i] は同類音、[i] は基本母音第一號より稍廣し、[e] は極めて稀なり。
 2. [a] 基本母音第五號に近き後母音的。
 3. [o], [ɔ], [u] 同類音に屬す。
2. 中間母音 [u], 中間母音 [u] 存す [u] と明かに區別せらる、u>i なる音變化生ずることあり。
3. 子音、兩唇音 [p], [b], [m], [w], [β] 齒齶音 [t], [d], [n], [r], [ɹ], [l], [s], [ʃ], 齒齶硬口蓋音 [tʃ] 硬口蓋音 [j] 硬口蓋音 [k], [g], [ŋ] 聲門音 [h], [ʔ].
 1. [l] 輕き反轉音 [r] と區別する要あり、[r] は稀に [ɹ] に變異することあり。
 2. [s], [ʃ], [s] の擦れ音の強きことあり。斯る場合は [s] を以て記せしも [s] 及び [ʃ] は同類音なり。
4. 終母音弱音化、サアロア語は開音節なれども終音の母韻は屢々弱音化することあり [~] を以て弱音化せる母韻を示せり。又屢々脱落することあり。
5. 揚音、強弱の揚音にして概して第一音節に揚音を有す。láboku, tálija|ija (例外あり、例へば接頭辭は揚音を取らず moatsápi)。

III. 形 態

1. 反覆
 1. 部分的反覆, tsutsutsu²o 人々 <tsutsu²o 人, müasasa|a 歩み續く <müasa|a 歩む。
 2. 全部的反覆, makopa|apa|o 一度 <makopa|a 一度。

3. 反覆せし音節の母音 >a. t-un-aboso 橋を架す <tokoso 橋, ts-un-atsuloko 餅を作る >li-tsoloko 餅。
4. 重反覆, k-um-akakaŋi 掘る(進行形) <k-um-aŋi 掘る。k-um-akikita 見る(進行形) <k-um-ita 見る。
5. 終音節の反覆 la:ma:ma 年長者 <a:ma:ma 昔昔の人。
2. 接頭辭 ma-, um-, mi-, moa-/mu-, mai-, miŋa-, maia-, maŋi-, pa-, pi-, poa-/pu-, paŋi-, pija-, muru-, maru-, maŋ, ta-, ki-, ma(o)-, tali-, la-, tama-, ara-, muto-, li-, pi- 等, 主なる意義を述べれば,

1. ma- の「形容詞」「名詞」「動詞」を形成す, ma-tšitsi 熱き, 熱きもの, ma-taŋi 繩にて結ぶ。
2. um-, mi-, moa-/mu-, mai-, miŋa-, maia-, maŋi-, は動詞を誘導す。um-aŋa 取る <√aŋa. mi-ibu 小便す <ibu 小便, moa-saŋa 歩く <saŋa'a 道, mai-buturaŋi 掃く <buturaŋi 箒, miŋa-ma 飲む <mima 飲む, maia-oŋa-oŋa 柔くす <ma-oŋa-oŋa 柔き, ma-li-aŋaŋu 熱湯を注ぐ <ma'aŋaŋu 熱き, mi-, moa- は共に「自動詞」にして mirutsu 「(物品)水に落つ」, murutsu 「水に入る」の例に於て前者は「自然的」, 後者は「自意的」の區別ある如く思はる。然れども「小便す」は miibu にして「大便す」 moati <tiŋi 大便と言ひ mi-, moa- の區別無きが如し。mi- は一般的の動作にして, miŋa- はこれより開始する動作を示す。mitoŋusu は現在祖先祭を執行せる時, miŋa-topusu はこれより始まらんとする祖先祭を言ふ。mima 呑む, miŋama これより呑む。

m を p に變更せば「使役動詞」となる。pa-aŋa 取らす >ma-aŋa 取る, piŋii 充たす <miŋii 充つ, p- 使役形は a を頭音に有することあり。mima 呑む >apima 呑ます。

3. maru 「除去」 maru-tsarubu 毛布を除る <tsarubu, muru 「出づ」 muru-apolu 發火す <apolu 火, maŋ 「住人」 maŋ-taipak 臺北の人, ta- 「場所」 ta-paloŋulo 岩の隙間「受身」 ta-aŋa 取らるもの。

ki- 「變化」 ki-taŋi 綯ふ <li-taŋi 繩, ma- 「移動」 malo-taiŋa 増大す <taiŋa 大, tali- 「作る」 tali-parariju 梯子を編む <parariju 梯子, la- 「拙悪」 la-alaina やくざ女房 <alaina 女, tama- 「良好」 tama'ijaru 良く働く人 <ta'ijaru 仕事, ara- 「になる」 ara-batsupu 良くなる <batsupu 良き, muto- 「死者」 muto-tsani 一人(死者を數ふ時), pi- 「所有者」 pi-saŋija 家持 <saŋija 家。

4. li- 「過去」を示す, li-murutsuka 狩獵に行けり <murutsuka 狩獵す, 述語動詞として用ひられども, 本質的には名詞とす。liumaŋatapoo 割れしもの, 分詞に接頭せば, 受身の意味になる li-umala 取りし人取れり, li-ala 取られしもの, 取られたり。
3. 挿入辭, -um- k-um-aŋi 掘る人, 掘る <√kaŋi 掘る, s-um-ulatu 書く人, 書く <√su-latu
4. 接尾辭, -ala/-la, -ana, -a
例: amiŋa 言へり <ami 言ふ, ta-ti-ala 大便所 <tiŋi 大便 an-ana 食事場 <anu 食物, akaŋi-ana 掘る場所 <k-umaŋi 掘る。
tutunuma 洪水 <tunumu 海, tsatsapoka 茅原 <tsapoka 茅 -ala, -ana, -a は IN- an に對比すべし, 「分詞」及び「場所」を表はす, 而して接頭辭と併用せらるることあり。li—a li-kitoŋi-a 繩, li-kaŋi-a 掘りし處, 掘れり。 ta—a 場所 ta-ariŋamu-a 置場 <riŋamu 置, ta-ŋusap-a 寢所 <maŋusapu 寢る。
5. 複合接辭, paka-, pata-, tapi-, taki-, maki-, mako-, 等。
例: paka- (pa+ka?) paka-paipai 餅を作る。 pata- (pa+ta) pata-rutsu 水中に投込む。 tuma- (t+um+a?) toma-aŋolu 發根す。 tapi- (ta+pi) 方向 tapi-araŋaŋu 岩棚の方向。 tapi-jaŋi 飯る方向[比較] puwaiŋi 飯る。 takitaki'ijaru 働く, maki-maki-aŋi 呼び返す。 <puwaiŋi mako- makopaŋapaŋa 尙一度。

IV. 品詞

1. 冠詞, ka, kai, na, ni は冠詞の働をなす。本質的には ka, kai は結辭より, na, ni は指示代名詞 na (眼界内) nai (眼界外) より發生せしものならん。ka 及び na は見えるもの, 眼界内のものを示し, kai 及び ni は見えざるもの, 眼界外を示すものの如し。¹⁾

taiŋa ka saŋija ku 私の家は大なり。 uka'a ami kai apoŋoisa 彼の火無し。屬格を示す冠詞なし。

ka, kai 主格

musaŋa ka [aŋima 人五人行く。 ami-ami kai ŋutokolu 魚は云ふ。

na, ni 與格 ami-ami ni tapuŋatsupu 猿に云ふ。

對格 kumita ni aŋaŋiamu 蠅を見る。

造格 tumali-parariju ni oŋu ŋutolo 鹿の角を以て梯子を作る。

處格 *malokuwa ni sakuralu* 川へ行く。

屬格²⁾ *sa|ija anaisa* 彼の同名者の家, *sa|a'a takolu* 山猫の道。

2. 代名詞

1. 人稱代名詞

	單 數	複 數		
		除對話者	含對話者	
一人稱	(a) 主 格	<i>ilaku, aku</i>	<i>ilata</i>	<i>ilalamu</i>
	(b) 屬格其他	<i>-ku</i>	<i>-ta</i>	<i>-lamu</i>
二人稱		<i>ilau</i>	<i>ilamu</i>	
		<i>-u</i>	<i>-mu</i>	
三人稱		<i>ilaisa</i>		
		<i>-isa</i>		

kumaka|i ako 我は掘る *|ika|i tsu ko* 我は掘れりの例に於けるが如く、「發動動詞」の主格に *ako* 用ひられ、*li-* 形には *ko* 用ひらる。上記の表には *ako* を主格に分類せり。

-isa の外に *-isana* なる形あり。*na* は冠詞 *na* と関係あるものなるべし、眼に見ゆるものを示す (*kani'i "ce"* に *na* を附し強意する例を比較すべし。 *anurwa kanii ua* 此を食せ) *ilau ja'u umuisana* 汝は其を食す、更に實際には眼界内にあらざるものを *isana* を以て示すことあり。眼前に彷彿として表現するものならん。 *uka'a ka sa|ijaisana* 彼の家無し。

2. 指示代名詞, *kani'i* この, *kana'u, kana'a* その, *šika|ju* あの(眼界内) *kaju* あの(眼界外) *na* は眼界内に存在するものを示し, *na'i* は眼界外に存在するものを示す *na:na'i, nani, manani* 此處の。

3. 接頭代名詞³⁾

<i>{tsu ku anuwa</i>	我食せり	<i>{tsu u anuwa</i>	汝食せり
<i>{tsu ta anuwa</i>	我等食せり	<i>{tsu mo anuwa</i>	汝等食せり
<i>{tsu sa anuwa</i>	彼(等)食せり		
<i>{ sa anuwa</i>	彼(等)食せり		

「分詞」に代名詞(2)接頭せられ、其動作主を示す。 *tsu* は「完了」を示す「助辭」三人稱に於て *tsu* 畧せられること多し。或は分詞の後に來ることあり。 *sa anuwa tsu.*

動作主を繰返し示し、接頭代名詞は先行代名詞となることあり, *sa anuwa ka tabua* 鳥食せり。

4. 分詞, 品詞分類より見れば「分詞」は動作に關係せる「事物, 人, 處」を示す名詞にして、其機能に於て多くの場合述語者動詞の作用をす。

1. *o, u, u⁴⁾a*

|aliboro 突き挿す > *|alibora* *marutaubu* 蓋を開く > *arutauba*
kumakurapu 焼く > *|ikurapa* *ma|usapu* 寝る > *pa|usapa*

2. *o, u, u, i > oa, ua, ua, ia.*

towaporo 休む > *towapuruwa* *ma|aku* 水を汲む > *mu|akuwa*
puasipi 燃やす > *puasipia*

3. 語根

kumita 見る > *kita* *toma|ila'u* 切る > *ta|ila'u*
mima 飲む > *pima* *oa|ora* 與ふ > *ora*
mai|au|a 柔くす > *pa|u|au|a*

4. 特殊

uma'u 食す > *anuwa, anana, umana* *pa:patši* 殺す > *pa:patšila*
uma|a 取る > *a|ua* *tumali* 作る > *tamali|o*

5. 動詞

1. 時制, 「未來」は接頭辭部分の反覆を以て示さることあり, *moamoasa|a* 行かん < *sa|a'a* 語根部分の反覆は「繼續的動作」を示すものの如し, *moasasa|a* 歩みつつあり更に *li-* を接頭して「過去」の「繼續的動作」を示すことあり, *limoasasa|a* 歩みつつありき、接頭辭 *mija-* は「未來」を示す轉來語を作る(參照 § 13-b), 「現在」及び「未來」は形態の變化無く表現せらること多く、又「歴的現在」の用法も多く、換言せば所謂「現在」形は總ての「時」に通ずる汎時的動詞と考へ得、然れども明瞭なる「過去」を示すには接頭辭 *li-* を用ふ, *litumapii* 泣けり < *tumapii* 泣く。

「完了」を示す *tsu* なる助辭あり、「現在」と共に用ふれば「現在完了」となり、「限定的現在」を表現す, *moasa|a* 歩く, 「時」の概念を離れ歩くといふ動作のみを表現す, *moasa|a tsu* 今始めて歩き出す(例へばこれまで歩行せざる子供)「過去」の *li-* 形は *tsu* を附すこと多し、「分詞」の時は汎時的なれば、特に過去を意味する時は *li-* を接頭す、或は *li-* を接頭し更に *tsu* を用ふ、或は *li-* を畧し *ins* の

みを用ふことあり, saanuwa 彼に食はる, saanwa tsu 彼に食はれたり, lipatapija tsu 泣かしめられたり, patapija tsu 泣かしめられたり。

2. 動態, 他動詞及び使役動詞の「分詞」形は受身なり, [alibora 突き挿さるもの, 突き挿さる, puasipia 燃やさるもの, 燃料, lisumulatu 書けり [lisulata 書かるもの <sumulatu 書く [ikumita 見たる人 [ikita 見られし人。

3. 命令

1) 發働動詞共儘命令に用ふ, kumita 見よ, matsatsa 笑へ, 語根を用ふ, sulatu 書け分詞を用ふ, anua 或は umana 食せよ。

2) 語根の終母音を o に變ぜし形を以て命令を示す。ka[ijio 掘る <kuma[i 掘る, kito 見よ <kumita 見る, imo 飲め <mima 飲む, alo 取れ <umala 取る。

3) ai なる助辭を附す puca ai 買へ, 一人稱複數含對話者 -ta と共に「誘引」を表はす時に ai を用ふ, kumitaita (kumita ai ta) いざ汝等と共に見ん, 英, Let us see!

tuporowaita <tuporo いざ共に憩はん kitotai (kito ta ai) いざ共に見ん「命令」を強意するため助辭 maū, mijo を添加することあり, kumita maū 見よ。

4. 否定, ko, kowa (a は語根の一部とも考へらる)を語根に前接す, ko:sabopu 不祈 <sumasabopu 祈る。

5. 禁止, tap mija 或は tapko: tap mija kumita 見る勿れ tapko pa:patši 殺す勿れ, tapko:mu 食ふ勿れ。

6. 形容詞, 形容詞は後置せらる, sa[ija taisa 大なる家, 前置せらることもあり, maini sa[ija 小なる家, 前置せらる時には ka 或は kai なる結辭を挿入すること多し, maini ka sa[ija 小なる家(家小なり)と譯すべきか)。

7. 結辭, a) ka, kai

1. taisa ka sa[ija 家大なり,(大なる家)。

2. usuwa ka tamusu[u 二個の山。

3. sa[ija isa ko umau ni [aboku 食砂人の家。

4. mussa[a ami ka ukui 山羊は行く。

5. isainijata ka apararana: su haanu ami-ami 食物を粗末にする故に要せず。

6. maaru kai ala:ma kai uka?a kai a:nuisa 昔の人ありて彼の腔門なし。

ka, kai の最も多き用法は主語を示すにあり(例4),稀には接續詞的にも使用

す(例5, 6)。

b) ia/ja

1. matsu ako musa[asa]a ia ma[au]u wako 我は歩けば疲勞す。

2. matsu ai malokua n pu:rai ia pu:ca ai n tamaku 寶來へ行くならば烟草を買へ。

3. maatsuwa talaku kanii ja taisa 此豚は大なり。

條件文の後に附せらる(例, 1, 2), 或は主語を示す(例3)例3の述語を文の始めに置けば, taisa ka talaku na

8. 助辭

a) i 疑問文を示す。

1. ?ibu u i? 汝の小便なりや。

2. maaru i ka tsutsu?u? 人居るや。

b) ai 「想像」[不確]

1. ?ibu u ai 恐らく汝の小便ならん。

2. matsi?i tsu ai mai 恐らく死せしならん。

c) tsu 「完了」[決定]

d) na 尙,未だ

1. ko na: kita 未だ見ず。

9. ami

a) ami 1. 甲の乙に云ひしことを乙の丙に告ぐるときに即ち「甲曰く」と乙云ふ場合は ami 2. 甲の乙に云ふことを乙再び丙に傳へ, 丙更に丁に告ぐるときに, 即ち「甲曰く」と丙云ふ場合は ami-ami 1. の應用として「物語」に於て或る事實を敘述する時に, ami を挿入することあり, puwai[i ami 歸つたとき 2. の應用として「物語」に於て大昔の人の述べる言葉は ami-ami, ami-ami ka ala:ma 昔の人曰く。

【註】1. 原文の冠詞の區別は正確ならず, 終母音は弱音化され筆録の誤もあり, 又口授者自身も物語を現實的に思考して事實上現在に在る事を見つゝあるが如く語ることあればなり。

2. sa[ijaisa ka umau ni [aboku “食砂人の家”の例に於て屬格の用法の結辭 ka もあり。

3. 接頭代名詞分詞動詞に接頭して筆録せり。

4. 得たる資料中に -i>a の例無けれども恐らくかゝる形あるべし。

5. 「物語」には現在を以て過去, 未來をも示す用法多し。

1. サアロア方言 (la²aruwa)

1. tütünümü 洪水

- 4. ma:ru ami kai tamo bürüña lipararala / 存する 父 鯰 太古
5. maḡulubu ni lalomü / tütünüma / usuwa 堰止める 水な 洪水になつた 二個
6. ka tamsu[u] / mussa[ʔa ka tsuʔtsuʔ] / tapi- 高山は 行く 人々は 通ぐ
7. kakowa n tamsu[u] lakurapa / la alipapo- 方向 高山 前
8. takolu / ukaʔa ka apulu isa / patsupütsü- 無 火 彼等 考ふ人
9. püḡü ami / kumita n a[ʔ]iamu / sumasa:- 見る 堀を 摩る
10. sam:usu n lamutsu is / pakitoro wami to- 手を 彼の 激ふ
11. mamalogu ni kijoʔo / kupao muruwapolu 作る 木を以て (註) 火生ず
12. wami / mu[u]ji ka ma: ni tamsu[u] uts- 欲す 存在する者は 山に
13. ani / omole[ʔo ni ʔuku:i / pa[ʔa ni apulu / 一 頼む 山羊に 取らす 火を
14. mussa[ʔa ami ka ʔuku:i / umarau muru- 行く 山羊は 不屈就 痛し
15. palau wami n matsitsi kai ʔḡḡ isa / 熱い 角 彼の

1. 洪水

昔々老鯰がゐた。水を堰止めた[た
め]洪水になつた。二つの高山[があつ
て]人々はシャクラバ山とアシバボコ
シュ山へ逃げて行つた。火が無かつ
た。蠅が手を摩るのを見て、考へて、真
似て木で作り、摩ると火が出た。他の
山にゐる者はその[火を]欲した。火を
取るように、山羊に頼んだ。山羊は行
つた。到着しない先に角が熱くなつ
て痛くなつた。彼は水に浸した。歸
つたが、火は無い。羌仔が代つた。[火
をもつて]踏る事が出来た。一同は喜

採録期：昭和六年八月。

口授者：ハイセン(paisiana)註 tabujana u[igana (男、當
時32歳。

口授者自身大意を日本語にて説明す。日本語不完全。昭和七
年九月ガニ(hilara)註 pasü[ʔa につき再調査。[i]と[ɔ]、[o]
と[ü]の區別の校合、pasü[ʔa の翻譯と u[igana の翻譯と
對照し最も妥當なる和譯を編輯せり。pasü[ʔa の日本語は流
暢ならざるも正確。

- 4. ma:ru ami kai tamo bürüña lipararala / [u[igana] maaru kai a[ʔ]ama tamo bürüña, a[ʔ]ama は昔の人、祖先なれば不合理 (pasü[ʔa の説)。tamo bürüña 巨大なる怪鯰、ツオウの [tuḡojoza] に比較。
5. tütünümü <tütünümü 海になる <tünümü 海、洪水 usuwa ~suwa, suuwa.
6. tapikakowa 接頭辭 tapi- [方向]。
7. n ~ni.
8. apulu ~hapulu.

- 9. sumasa:samusu s-um-asa:samusu <*V/samsu
10. is ~isa tomamalogu <tomalogu.
11. kupao [u[igana] kuapao 四社著の古代發火器は長方形木片に穴を掘り、それに木棒を當てがひ廻轉し摩り發火せしむ。「發火器」及び「發火の動作」を kupao といふ、マッチの使用せらるゝと共に pao の意義變遷し現在にマッチを意味す。muruwapolu muru-apolu <apolu 火、muru- [出る] 參照原文3第705註8
13. pa[ʔa <um-a[ʔa 取る。
14. umarau 「不完成」を示す umarau tsu musa[ʔa 出来上らざるうちに歸る(例へば夕食の仕度中に島より人の歸るとき)。murupa[ʔaami n matsitsi 此場合の n (=ni) は理由を示す。
15. matsitsi Vtsi, 比較 aratsi 熱くなる。

- 1. sajarü tsü wami n lalomü / püwajili 浸す 水に 歸る
2. jami / ukaʔa ka apolu / patalusukasü ami 無 火 代現す
3. ka taüroḡu / ama tsü püwajili / masapa- 羌仔 可能 歸る 喜ぶ
4. saḡaru ka laülaübü isa / maiboasu isana 仲間 彼の 撫でる 共
5. maimai:mai:ni / şina:minitsi ta kijali ʔara- 減少する 如何しやう 我々 何故 消失
6. kuka ka tünümü / ami ami ka a[umulu] / する 日 猪
7. musa[ʔa: ku ruwajiratü isana / pa:nu wai 行く 私 水を通ぜしめる 食せしむ
8. ka mama:ni ko n intaʔanu la tabülübülü / 子 私の 里芋 及び パナ、な
9. ami ami ka armulu / mussala: mi / ma- 日 猪 行く
10. küḡütülü n tamo bürüña / mata:laʔü kai 咬み切る 老 鯰 激出する
11. tünümü / mualusu ka a[umulu] / masapa- 洪水 流る 猪 喜ぶ
12. saḡaru tsu ka (h)ala:mu la kurü mü:müa / 鳥 及び 獸 總
13. tomamalogu ni lo:loḡu / utsani ka takaü- 作る 河を 一 窟
14. kau ka kotta[ü]üḡü / matsü ai mima na 手傳はない もし 飲め
15. lalom lo:loḡu ja / mamatsi u ai / amila: 水 河 ば 死ぬ 汝 であらう 云つた
16. ka [aü]aübü isa / şina:mini aili miama 仲間 彼の 構はず 飲む
17. ko ai ni isüḡürü / ami ami ka takaükau / 我 山の空際にある 日 窟
18. matsi mima n lo:loḡu ja mamatsi ami / 若し 飲め 河を ば 死ぬ

び、彼を撫でると、段々小さくなつた。
「どうませう、何故洪水が無くならな
いのでせう」[と一同が云つた]。猪が
云ふやうには、「私は水をはかせに参り
ませう。[その報酬として]私の子供に
里芋とバナナを食べさせて下さい」。
猪がかく云つて、去り、老鯰を咬み切つ
た。洪水は流れ出た。猪が流れた。
すべての鳥と獸は喜んだ。河を作る
事になつたが、鷹だけは手傳はなかつ
た。「河の水を飲めば、死ぬぞ」と一同
が云へば、「構はない私は木の洞穴の溜
水を飲むことにするから」と鷹が云つ
た。「鷹は]河水を飲めば死にます。

- 1. saajarütsü saa-jarütsü saa-「接頭辭の代名詞」彼、-ja-rütsü <(mi-)jarütsü 浸す。
4. laülaübü <laübü 友人 (一人を指す場合)。
5. maimai:mai:ni <maini 小。şina:mini 比較 原文3第705頁、6行。şina:mini-ai 構はない、正反對の用法、後者の意味は原意にして、前者は反語の用法平氣で居れやうか居れない、ドクシャウカ。kijali 何故 kijali unu? 何故に食せざるや。

- 7. paanu <anu 食ふ、鳥の作物を食せしむ約束せし故 猪は鳥を荒すことになれり。
9. arumülü [u[igana] arumu[u] [pasu[ʔa] a[umulu] / arumu[u]] の例多し、語尾の u を ü とすることより、
12. (h)ala:mü (?) の無き顔音母音。
14. kotta[ü]üḡü ko: +ta[ü]üḡü ko: 否定、V ta[ü]üḡü >t-um-a[ü]üḡü 手傳ふ。
15. amila: 云へり。

2. tütünümü
洪水

- ² miniso:wa: mi kai sa: saruwa na tütü-
土地 海に
- ³ nüma / mitsü:lo wami kai tsu?tsu? / tari-
なつた 逃げる 人々
- ⁴ şitsüpütsüpü mitsülo aratsübütsübuşu
各人 逃げる 集合する
- ⁵ n ta:tamüşo:owa / ?uka?a: mi kai apolo
高山に 無し 火
- ⁶ isa kai ma: ni ai:papotakolo / omolono
彼等 存する 新高山に 頼む
- ⁷ ami ni ?okoze apakijapolo ni tamusu[u
山羊 火を燃らす(言ひにする) 山
- ⁸ lakurapa / ko ami: pakijama tsü / toma-
關山 不 能 交代
- ⁹ şokasü ami n taüroşu / anitsiki ai paki-
す 羌仔と 辛うじて(苦い) 出来
- ¹⁰ matsü / sa:pai?o:sa tsü ami / ma:ma:ma-
得る 彼の獲るもの 小さくなる
- ¹¹ ini / mimişowa: mi omolono ni a[ümülu
(が故に) 頼む 猪に
- ¹² apaküptütü ni ?isisi şürüpa / anitsiki
咬み切る 尾を 鯉の 辛うじて
- ¹³ ami / patala?u ka tütünümü / apali tsü
(水のみ)減少す 洪水 出る
- ¹⁴ isana ami kai tsu?tso?o / ma:tsu kai
其處より 人々は
- ¹⁵ toma:mamarikisala ja / malokwa mi ni
行く
- ¹⁶ marikisala / ma:tsu kai tomalalasupa ja /
- ¹⁷ malokwa ni jaisupa / taina:na tsu ka
行く これ許り
- ¹⁸ kari ku /
話 私の

採録期：昭和七年九月。

日授者：ガニ(lilara)社 ama[ata:lü (故老年齡?)。

説明者：ガニ社 pasüja。

2. miniso:wami miniso:wa ami 昔々…ありき—説明
の譯 参照原文3註20。

5. ta:tamüşo:owa ta-tamuso:o-a 山々 <tamuso:o 山。

2. 洪水

地が海になつたから、人々は逃難した。たれもかれも高山へ逃げ集つた。新高山に居る者には火が無かつた。山羊に關山へ火をもらひに行くように頼んだ。(運んで來ることが出来なかつた。羌仔が交代した。やうやくにして運ぶことが出来た。彼等に撫でられたので、小さくなつた。鯉の尾を咬み切るやうに猪に頼んだから、やうやくにして洪水は減つた。人々は其處を出た。トマーママリキサシヤ族はマリキサシヤの地へ行き、トマシヤシヤスガ族はシヤスガの地へ行つた。私の話はこれだけ。

ta-~a 「場所」 ta:lukija:ja 標置場 <luki 標置

?uka?a mi ?uka?a ami.

8. pakijamatsü 比較 makianatsü 書く事能はず。

tomasakü 「適當なる人」を示す。

3. upana ni talijarija

- ² matsişi jami kai talijarija / [uma]ümü-
熱し 太陽 植ゑる
- ³ kü wami n inta?apa / kwami atapo:ru /
果芋 否定 生える
- ⁴ amijaniso:wa tso wami / kitali: n pa:alu /
それ故に (繩を)縛ふ 麻を
- ⁵ kumi[i] n o[osu / sasüwa: mi ka tsutsu?u /
結びつける 家の柱に 二人 人
- ⁶ mussa[ai: mi mü[übu n likata[lija / urama-
行く (繩を)縛ひて(縛)す 繩を 待射す
- ⁷ şu isana upana / uruwamitana talijarija /
る 射る 出現する 太陽
- ⁸ murutsara?ü wami / murütsü wami n
血が出る 入る(水に)
- ⁹ lalom / matsi?i ami ka tsatsili / matsişi
水に 死ぬ 一人 熱い
- ¹⁰ ami ka lalom / ma:tsu wami kai tsatsili
水 一人は
- ¹¹ ja / tapi?ara:şanu ami şatü?u / arasü:süma
岩棚の中に隠れる 石 暗くなつた
- ¹² tsu wai / mü[übu tso wami n likata[lija /
傳ふ 繩を
- ¹³ puwai[i] n sarija / utsani tsu wami tsai[ia /
歸る 家へ 一 年
- ¹⁴ kwa tsu ami ka puasipia isa / pu:papipitsi
消滅する 薪 彼の (斧にて) 割る
- ¹⁵ tsu ami lo:şo isa / ma:tsu wami kai paşili
白 彼の 杵は
- ¹⁶ sa ja / sa:pupipia tsu wami / ma[ai:ami-
彼等により燃やされる 如何し

採録期：昭和六年八月。
日授者：ハイセン(paişiana)社 tabujana uligana (男、當時32歳。
日授者自身大意を日本語にて説明す。日本語不完全。昭和七年九月ガニ(lilara)社 pasüja につき再調査。[l]と[r]、[u]と[ü]の區別の校合、pasüja の翻譯と uligana の翻譯と對照し最も妥當なる和譯を編輯せり、pasüja の日本語は流暢ならざるも正確。
3. kwami atapo:ru kwami = ko ami, atapo:ru 比較 tomatapo:ru (植物) 生へる。
4. amijaniso:wa 比較 miniso:wa 原文3 第706頁、註12。
5. sasüwa 二人、<suwa 二。
6. likatalija li-kita[li]a 縛ひしもの、繩 <ki[ai] 縛す。uramaşu 自身を隠蔽して敵(獲物)の來るを待ち射撃す。カナカナ uramaşu。
7. uruwamitana uruwamita-na 出現の場所 <uruwamita, murumita 出現す。接尾辭 -na 「場所」。uruwamitana talijarija 東 u:[ai]kasana talijarija 日没の

3. 太陽を射る

太陽が熱い[ため]、里芋を植ゑ[ても]、つかない。其故、麻で繩を縛ひ、家の柱に結び付け、二人の男がその繩を傳つて行つた。太陽の出る場所で、かくれて射た。[太陽の]血が出た。一人は水に入つた[か]、水が熱い[ため]、死んだ。今一人は、岩窟へ入つた。暗くなつたから、繩を傳つて、家へ歸つた。一年間暗黒だつた。薪が無くなつた。白を割り杵さへ燃した。「どうしませうか、かうなつちや太陽に牲を捧げませうか」。獸共も牲を捧げた。蚯蚓と魚だけは、太陽に牲を捧げなかつた。「私は地に入るから構はない」。と蚯蚓は云つた。魚も、「私は水に入るから構はない」。と

處、西 <mu:[ai]kisu 渡す。
8. murutsara?ü muru-tsara?ü <tsara?ü 血, muru- 「出る」。muruwara[ü]pa 發汗す <ra[ü]pa 汗。mu:rütsü 水に入る, mirütsü (荷物) 水に没入す, pa-tarütsü 水中へ(荷物)を投入す。
9. tatsişi 人間、動物を示す數詞。
10. ma:tsu ~ja 1. 「條件」若し。2. 「主題を提示」本例は2。
11. tapi:ara:şanu tapi:ara:şanu <ara:şanu 岩棚(山言葉、あぶき) tapi- 「方向」「の方に行く」。
arasü:süma ara-süsüma <süsüma 暗 ara- 「になる」 ara:ma:ia 空腹になる。
13. tsai[ia] tsa[i]i 「年」の分詞形。「經過」を示す, utsani tsai[ia] 一年間, tsut:ai[i] 來年, ki:tsai[i] 昨年。
14. puasipia puasipi 燃やす puasipia 「分詞」燃やすもの、燃料。
16. ma[ai:amimisan'tsita sina:minitsita と意味同じと云ふ説明。ma[ai] (取る) ami misani (何) tsü ta (我々) と分解すべきものが。

- ¹ misaniṣita / maṭṣi auna:na ja kija[ija]i
やう 然らば 如何 祭をする
- ² jaī ta / sumaboŋ ai ta isana / maṭṣu
我々 牲を捧げる 太陽
- ³ wami kai kuriimū:mūa ja / maṭru wami
獸類へ 有
- ⁴ ja ka kutsaboŋu isana / utsani tsu ami
禮拜しない者 (太陽を) 一
- ⁵ ka taparolu / nu:ka: βutokolu / ko: saboŋu
蚯蚓は 及 魚 不 斬る
- ⁶ na talijarija / šina:mini ai ka moatsu:tsu:
太陽 構はない 入る
- ⁷ aku n sa:saruwana / ami ami kai tapa-
我 水に 日 蚯
- ⁸ rolu / maṭṣu wami kai βutokolu ja / ši-
蚯 魚
- ⁹ namini ai ka moatsu:tsu: aku n [alomū /
構はない 入る 我は 水に
- ¹⁰ ami ami kai βutokolu / maṭṣu ami kai
日 魚
- ¹¹ a[ai:ma ja / pa:paṭṣi jami n talakū / nu:ka:
昔の人は 殺す 豚を 及び
- ¹² tu[ukoka] / sumaboŋo isana / amianišowa
雞 禮拜する 太陽に それ故に
- ¹³ tsu wami / murumita ka talijarija / ma-
出る 太陽
- ¹⁴ batsapu takūi[ijaru tsū ka ala:ma / ma-
良く 働く 昔の人は
- ¹⁵ sasapari tsū wami ka a[ai:ma / ni:akuisa
喜ぶ 昔の人は の時に
- ¹⁶ arabatsapu kai talijarija ja muaumu:uma
良くなる 太陽 鳥を作る,耕作する
- ¹⁷ tsu wami / lūmūmūkū ni ʔinta:ʔapu la
植ふる 里芋を 及び
- ¹⁸ mai[ap la ūbūtsūpū ni: akuisa arasi[apu /
齒摩羅を 及び 粟を 時 明かとなる

1. auna:na 其様なる, 斯くの如き。
kija[ija]i 祭事一般。
2. sumaboŋ < saboŋu 牲, 生ける豚の肝, 耳, 足を載り取り酒と共に神[i:tsu]に供ふ。 saboŋu は其他税金, 罰金なも意味す。
3. ma:ru wami ja ka kutsaboŋu isana kutsaboŋu は saboŋu 牲をすの否定形, 神儀により全く正反對の意味となる。
A. ma:ruwamijakaku: saboŋuisana
新らざるものあらんや—祈る
B. ma:ruwamijakaku: saboŋu:sana

云つた。昔の人は、豚と雞を殺して、牲をしたから、太陽は出てゐる。昔の人は良く働いた。昔の人は喜んだ。昔の人は、太陽が良くなつた[=出た時に耕作をした。明るくなつた時に里芋、甘藷、粟を植ふる。

新らざるものあり—祈らす
此場合A型にして「獸類皆斬る」の意也。
12. minišowa:mi 1) その故に, かくして 2) 「昔々かくの如き事實ありき」と云ふ場合にも用ふといふ説明を得たり。
16. arabat-apu ara-batsapu.
muaumu:uma < umo-uma 鳥。
17. lūmūmūkū l-um-ūmūkū < ūmūkū 比較 l-um-a[ū-mūkū (705頁2行) lūmūmūkū < ūmūmūkū 母音調和。
18. ni: akuisa の時。

4. labausu

- ² maṭru kai a[ai:ma ni: / labaʔsū nu:kai
存在する 昔 人名(女) 及び
- ³ laliʔolu / piṭsaotsao ka laliʔolu / pa:paṭṣal
人名(女) 雌を云ふ 投させる
- ⁴ wai ja talaki: o la tsumoloku malaba
豚 汝の 及び 餅を作る 持参する
- ⁵ amila: kai ʔina u / maimatsu ka labaus /
云つた 母 汝の 承認する
- ⁶ pa:paṭṣi ni talakū isa / tsumoloku pi[ii ni
殺す 豚 彼の 餅を作り 一併にする
- ⁷ paraŋal / maṭṣu ka ilau ka mu[ulokoloko
背負籠を もし 汝 乗る
- ⁸ na paraŋalu ja: / ku: wakita ka tsutsuʔu
籠に 不 見 人々は
- ⁹ ja / ʔita:ija tikoru la a[uliju / ami ami
奥へよ 上衣 及び 腰衣を 日
- ¹⁰ kai [aliʔolu ni labaus / mo[okoko]oko isa n
入る 彼女は
- ¹¹ paraŋal sa:pijapija ka laliʔulu / mussa[ai:
背負籠に 彼女によつて餅を造らば 行く
- ¹² tupuro wai ta mana ami ami / miama:
休まう 我々 さて 日 飲む
- ¹³ ku lalomū ami ami kai laliʔolu / uma[ai
我は 水な 日 取る
- ¹⁴ ni ʔimaru la liṭsoloku / matai[ai ni sa[aiʔa /
豚の肉 及び 餅を 置く 道に
- ¹⁵ sa:patakutsuwa tsu matai[ai ka imaru la
悉く消失する 置く 肉 及び
- ¹⁶ liṭsoloku / pura:ʔa: ni tatowaparuwa tali-
餅 連れ行く 休憩場所まで 大
- ¹⁷ jarija / patai[ai ni tsalatsū kai utsani /
馬 置いたもの 虱 一
- ¹⁸ mussa[ai tsu ka laliʔulu / puwai[ai / mako-
行く 歸る 呼びつ
- ¹⁹ ʔato ami kai labaus liʔulo ami ami / oi
よける 日

3. pa:paṭṣal wai ja pa:paṭṣi 殺す, 分詞. pa:paṭṣal 殺さる者, pa:paṭṣal は終音 a の脱落. 助辭 ai の「條件」を示す用例。
4. talaki: < talakū o 汝の豚, o の爲め ū)i.
5. amila: ami の過去。
6. pi[ii 比較 mi[ii 充てる。
7. maimatsu 比較 moamatsu 可能, 出来る, maimatsu 可能にす, 承諾す。
9. ʔita:ija = ita: 人に物を與ふる時に云ふ「それ」而して受取る時には inai / nai と云ふ。
11. sa: pijapija pi:pi 頭に掛け背負ふ」の分詞. sa: 彼。

4. シヤバウス

昔々、シヤバウスとシヤシウシユが居た。シヤシウシユが嘘を吐いて、あなたの豚を殺してそして餅を作つて持つていらつしやいとあなたのお母さんがおつしやいました」と、シヤバウスは承諾した。彼女の豚を殺した。餅をついて背負籠に充した。「あなたが籠に乗れば、人々は見ないから、上衣と腰衣を遣はしなさい」とシヤシウシユはシヤバウスに云つた。彼女は背負籠に入り、シヤシウシユは背負つた。「サア休ませう。私は水を飲む事にしよう」とシヤシユが云つた。肉と餅を取つて、道に置いた。肉と餅をみんな置いてから太陽の休憩場まで連れて行つた。虱を一匹置いて、シヤシウシユは歩き、歸つた。シヤバウスは「シヤシウシユ」と呼んだ。「オーイ」と虱

12. mana 助辭. 参照. 712頁註1 輕い意味に使用せられたる例。
miama mima 飲む, miama これより飲む。
14. liṭsoloku < ts-um-ojoku 餅を作る。
mata [ai 持参せる物を殘し置く。
15. sa:patakutsuwa < matakutsu 既に無くなる. sa:ko-kotsuwa ka tsutsuʔu na 彼は食べ盡す, matajiku:tsu ka tsutsuʔu isa ka sarija kanii 此の家は皆外出。
16. pura:ʔa: < murava …まで行く。
tatowapuruwa < towaporo 休む, ta-a 「場所」。
19. liulo [aliulo の呼称. 第一音節脱落。

- ¹ ami ami kai labaus / murmita: mi ma-
日 出づ 彼女
- ² isana ami kai tsalatsü / sa: pakatupia: mi
は居た 風 彼女に 潰されたもの
- ³ makopalapaia mako³ato / uk²a tsu ami
向一回 呼ぶ 無
- ⁴ kai uma[ia]ßara[ü] / muromita ka talijari-
返事 呼び続ける 太陽
- ⁵ ja / kumita isana alaisa: ma:na: tatowa-
見る 彼女を 誰 其處に 休み場
- ⁶ puruwa: ko a:ni ko ai / ami ami ka
我 食ふ物 我 日
- ⁷ talijarija / labaus wako / litalisu[uiwa: ako
太陽 我は 騙されたもの 我は
- ⁸ lali²ulu / matsi auna:naï / mau[au]laga mau
それならば 静止する
- ⁹ uma[ia] ku manana liku[uta ku [oku]lu la
取る 我 其處を暫らした 我に 豹
- ¹⁰ tsumi²i la lijapila ku na ilau / mussa[ia
熊 而して 見られたもの 我に 汝は 行く
- ¹¹ uma[ia] puwai[li / ma:kari n labausu tsu:
取るため 歸る 話す 行け
- ¹² mau anai ju ma:ngkanaü / mussa[ia ka
汝 友人 汝の 其處に居る 行く
- ¹³ labaus / malokwa n [akowa anai isa /
行く 水汲場へ 同名者 彼女の
- ¹⁴ sa:ütüwala ami kai ina isa kai anai isa /
其の母を見るもの 母 彼女の 同名者 彼女の
- ¹⁵ tsila: mau bü[ü]bü ai ta / malokwa n anai
いさひかう 一緒に 行かう 我々は 行く 同名者
- ¹⁶ ami ami / ma:rinu waku uk²a ka tikoro
日 恥しい 我 無 着物
- ¹⁷ ko / ma:ru wa tikoro anai ju / ami jami
我の 有 着物 同名者 汝の 日
- ¹⁸ isana / mu[ü]bü mijogo sarija anai isa /
彼女は 同伴する 到着する 家に 同名者の 彼女の
- ¹⁹ kumita ka tsutsu²u / sasuwa tsu wa
見る 人々 二人

- 3. makuva:va:u <makuva:u 呼ぶ。
- 6. a:ni <umau 食ふ。
- 9. [iku]luta <kulutü 皮。
- 10. [ali]jupila (雨、日光を防ぐ。比較。patiapiia 熱き鍋を
手に持つために作りし革製の「鍋つかみ」apii 甲
冑等の防禦用具。
- 11. tsu: mau
- 12. anai 或は murijanaï 同名者。
ma:ngkanau <kanau 其處、接頭辭 mag-「住む人」
maglakurutsa 六龜の人々。

は返事した。「あなたは何處へ行きま
したか」とシャバウスは云つた。(籠か
ら)出ると其處に風が居た。潰しても
一度呼んだ。返事が無かつた。太陽
が出た。彼女を見て「己の休み場に
るのは誰ちや食べるぞ」と、太陽は云つ
た。「私はシャバウスです。私はシャ
シウシユに騙されたんです」。「それ
なら、ちいつとしてゐるなさい己は豹と
熊の皮衣を着て「暑くならないやうに」
お前を保護してやらう」取りに行つて
歸つた。シャバウスに云ふやう「行け、
お前と同名の女が向うにゐる、彼女の
同名者の水汲場に行き、彼女の同名者
の母は彼女に見附けられた。「サア御
一緒にあなたの同名者のところに參
りませう」と云つた。「私は着物が無い
から恥しいです」。「あなたの同名者
は着物を持つてゐます」と彼女が云つ

- 13. [akowa <mu:]aku 水を汲む。
- 14. sa:ütüwala <müüwala 発見す。
inaisa kai anaisa kei [i inaisa と anaisa の結辭と
して用ひられたる例。
- 15. bü[ü]büaita <mu:]übü 參照 709頁註9。
- 17. ma:ru a tikoro anaiju ma:ru ka tikoro anaiju に
同じ。
- 19. sa:uwa tsu (w)a labaus 結辭 a は ka と同じ。sa-
suwa 二人 <suwa 二。

- ¹ labaus ami ami ka tsutsu²u / maritsip
日 人々は 嘘
- ² ami ami ka usuma:nu / ralo:wa tsu wami
日 他のは 暫時經て
- ³ matsu isa sasuwa / a:li ku ai ami ami
誠に 彼等は 二人 取る 我 日
- ⁴ ka tsutsu²u / matsu mu uma[ia ai isana
人々 もし 汝 貰ふ 彼女を
- ⁵ ja pataikito n na:ni ka [imogolo mu
挿し立てる 此處に (汝等の) 鎗な 汝の
- ⁶ mümüa / matsu (w)ai ja uwa[ü]bü ai isa
すべて もし 通過する(鎗等)な 彼女
- ⁷ inu:tsapi ja / ilaisa ai piusumanu isa /
降下する 彼女のもの 夫婦となる 彼等
- ⁸ mata[abau]labau ka laupari / mataükütu
さきさき 降すにても彼になる (男名) 挿した
- ⁹ n [imogolo isa / mu[ü]bü tsu isana ka
鎗を 彼女の 傳ひて降る
- ¹⁰ labaus / mu:tsapi sa:aua tsu ka laupari /
降る (鎗により) 降す
- ¹¹ muriusumanu / ralowa ami moasa[ia ami
夫婦となる 行く
- ¹² ka laupari müritsuka buri jaku na labu:
狩 下され度い 悪い弓
- ¹³ ru ami ami ka labaus / misainija au ami
日 何にする 日
- ¹⁴ ami ka laupari / mumuara ku ami ami
玩弄する 我 日
- ¹⁵ ka labaus / uma[ia ni [labouru / ubura
取る 奥へた
- ¹⁶ isana musa[ia: müritsuka / nisukasu (w)a-
彼女を 行く 狩 其後に
- ¹⁷ mi ka labaus / mijaukütü isana [alita
挿す 彼女を 外庭
- ¹⁸ po:kowa ni [a]omü / aragusipi ami tuma-
灌ぐ 水 蘇生し来る 横附く

- 2. ra[ic:watsuwami matsuisa sasuwa 一人の labaus
を屋内に隠し置きしが人々は戸の隙間より覗き見し
ため labaus の二人のあること露見せり。(pasüja 説
明)
- 3. a[iku]ai >uma[ia] 取る a[i]-ku-ai「私に取らせて呉れ」
比較。uma[ia] a[ia]ina 娶る、「娶る」の同義語多し。例。
towaporoq tsutso²o 人々は座す。muri:au sumanu
夫婦になる。
- 5. pataikito <mataükütu (地)に挿し立つ。pataikito は
使役形にして「挿し立てよ」と命令の用法、此處に ü
の音韻變化生ず。
- 7. piusumanu <usumanu 夫婦。
- 9. mu[ü]bü 1) (柱等)を傳ひ昇降す。2) (橋を)通過す。

た。同伴して同名者の家に到着した。
人々は見た。「シャバウスが人になつ
た。不思議だ」と人々は云つた。「嘘
だ」と細君連が云つた。しばらくする
と本當に二人になつた。「私は娶りた
い」と人々は云つた。「もし彼女を貰ひ
たければ、皆さんの鎗をみんな此處に
挿し立てて下さい。彼女の傳つて降
り[鎗の]持主と夫婦になることに
たしませう」と彼女の同名者の母が
云つた。シャウガリは最後に鎗を挿
した。シャバウスはこれを傳つて降
りた。シャウガリが貰つて、夫婦にな
つた。しばらくしてシャウガリは獵
に行つた。「悪い弓を私に下さい」と
シャバウスが云つた。「何にするか」と
シャウガリが云つた。「私は遊びます」と
シャバウスが云つた。シャウガリは

- 3) 同伴す。
- 10. sa:aua tsu sa:aua 彼の取るもの、sa: 彼、aua <
uma[ia] 取る。
- 11. muri-usuman <usuman 夫婦。
- 12. buri:ku 我に與へよ。(我に與へらるもの) buri (他
人へ) 與へよ、ubura isana 其を與ふ(其は與へらる
もの)。
[abu:ru bu:ru 弓、接頭辭 la-「拙悪」なるものを示す。
[ajitu 鎗砲 [itaku 刀
[ajajitu へぼ鎗砲 [ajitaku なまくら
[ajaina 女
[ajaina やくさ女
- 18. aragusipi <isipi 生命。

- 1 po:ru / matakakuwa n alaina ku ina|u
向けよ 我の兩親 先端
- 2 isana ami ami ka labaus / ma|taisa ka
彼女な 大きくなる
- 3 ratsu?u / matakakuwa n halaina isa ka
竹の一種 兩親
- 4 ina|u isa / mat|tsi ai ma|uŋuŋu ka laupari
先端 愛想する 居ないで懐く
- 5 ja / ilaku ja umija: kiai sasarowana
通る 地面
- 6 pa|ija, pi|ji / mat|tsi ai ku pana ai ja
後に行く 若し 不 射る
- 7 tapumija: kiai mutsüküjü ami ami ka
禁ず 来る 日
- 8 labaus / musa|a tsu mutokusu n ratsu?u
行く 渡る(橋, 舟等を) 竹
- 9 mijöpu n ina|uisa / kumita ka a|aina
到着する 竹の先端へ 見る 兩親な
- 10 isa / ilaisa a labaus ta nai ami ami ka
彼女の 彼女は 我々の 日
- 11 mamaini / puwai|i mama ai ka / sa:ri-
子供 歸る 彼女により
- 12 ukauka la|i|u| nai ami ami ka ?ina isa /
行先不明なる 日 母 彼女の
- 13 maramasü ka ?ina isa / kumita isana
来たて自身である 母 彼女の 見る 彼女
- 14 matsu isa labausu masapasaparu tsu ami
真に 彼 喜ぶ
- 15 ina isa / mutsapi ka labausu / puwaroma
母 彼女の 降下す 家に入る
- 16 mijöpu ami ka laupari / lipijapi ni pa-
到着する 背負ふ 肉
- 17 pa?a / rajöwa tsu (w)ami ha|opa|ija?a-
な 共同労働をなす

- 1. matakakuwa V kakuwa tapikakuwa (逃げ行く)方
向 |takakuwa 例へば(磁石の示せし)方向 mataka-
kuwa 或る方向へ向く(例へば木の枝).
- 2. ma|taisa <taisa 夫.
- 3. halainaisa h は「涉り」.
- 4. ma|uŋuŋu 居らざる爲めに懐しく思ふ, metrumuku
寵愛す.
- 5. kiai 「と云へよ」「と傳へよ」.
- 11. puwa-i| mana ai mana 「繼續」の意を有す、「尙」「相
繼らす」否定と共に「未だ…せず」繼續より轉じて「直
ぐ後に」「又」命令と共に用ふる時は單に命令を強む,
ai 助辭「疑問, 不明」 puwa-i| mana (間もなく)歸
家せん puwa-i| mana ai 歸來するか歸來せず (ai

悪い弓を取つて、シャバウスに與へ獵
に行つた。其後でシャバウスは外庭
へ挿して水を灌いだ。生きて根附い
て来た。「この先端よ父母の方へ向け」
とシャバウスが云つた。竹は成長し
てその先端は彼女の父母の方へ向い
た。「もうシャウガリが私がない爲」
淋びしく思ふなら、地上を通つて後か
ら来て下さいと(シャウガリに)傳へて
下さい。もし(獲物を)射でないならば
来ちやいけないと傳へて下さいとシ
ャバウスは云つた。竹を渡つて行つ
て先端に到着した。彼女の父母は見
た。「あれは我々のシャバウスだ」と子
供が云つた。「歸つて来るものか、シャ
ウシユが行衛不明にしたんですも
の」と彼女の母が云つた。[子供に]代つ

- のために反語的)
- saariuka-uka <uka?a 缺く, 無, saa 彼, arijapani-
jaku ni sa:sa|itaako nai na rajako tsumi?i uitsa-
tsapija nako サルシタのみ花鳥へ熊皮の敷物敷けよ,
我は降り行く, 竹の端に來りし時 labausu は上記の
歌を歌ひしにより母は labausu となると知れり(ガニ
社傳承)
- 15. puwaroma 比較 rürüman sa|ija 屋内 rürüma ni (?)
sa|ija? rürüma <rüma.
- 16. lipijapi 現, pijapi 顔に掛け負ふ.
- 17. alopa|ija?arüü 共同労働, 數戸の家共同して労働をす
ることあり, la|i|u| の家と labausu の家は共同労働
を營み, la|i|u| は labausu の母と共に薪採りに行け
り.

- 1 rüü tsu na la|i?u|u / tarakiju?u tai|üpüŋ
薪を探る 割る
- 2 puwai|i n sarija / tsumuloku mai|ü|ü|ü|ü /
歸る 家 餅を作る 丸める
- 3 pa|a|uma: ta ami ami ni la|i?u|u / kit:u:
呑み込ましめる 日 見よ
- 4 mau pitsu:tsu:ra ni imarü ami ami ni
中に入る 豚肉を 日
- 5 la|i?u|u / mat|tsu ka pa|a|uma labausü
呑み込んだもの
- 6 ami ja / pitsu:tsu:ra ami n imarü / mat|tsu
中に入る 豚肉を
- 7 ka pa|a|uma la|i?u|u ami ja / pitsu:tsu:ra
呑み込んだもの 中に入る
- 8 ami n liküraŋa ?atu?u / ma:ruaru ka
焼けた 石 先になす
- 9 labausü ma|umü / kitsuŋu|u ka la|i?u|u
呑み込む 次になす
- 10 ma|umü / ma?a|u|u n matsi|si aratsi ka
呑み込む 熱きもの(を)を(ひ)て 熱き 熱くなる
- 11 tsibuka isa / mat|si?i saapa|üsapa ami la
腹 彼女の 死す 彼の寝させるもの 日
- 12 apatsarü?a / uma|a ni loapo / la ikuwa
布圍なかけける 取る 日 面して 入るもの
- 13 isana ka übütsüŋü / la ija|uku|ukuwa n
彼の 粟 面して (長きものを)入る
- 14 pap|i| / puwai|i ka ina isa litaraki /
杵を 歸る 母 彼女の 薪を探る
- 15 tarutsuboŋ ai ta ami ami ni la|i?u|u / ku
出會ふ 日 不
- 16 wami arija?a: ?arüü / miuŋu ami kai ina
返事する 到着する 母
- 17 isa / umarutsarutsaku uma|a ni pap|i|
彼女の 怒る 取る 杵を
- 18 maritükü isana / ku tsu kuwabi:biki /
打つ 彼女を 不 動く
- 19 sa:rutaüba / limatsi?i tsu wami / litai?jara
灰の 蓋を取り除くもの 死んだ 如何して

- 1. tarakiju <kiju?u 薪, 薪音 u は脱落.
- 2. mai|ü|ü|ü|ü 比較 marilü|ü|ü 丸き.
- 3. pa|a|uma: <ma|a|umü <ma:|umü 呑み込む, pa-
a|a|uma 「使役」の「分詞」.
- 4. pitsu:tsu:ra <tsu:tsu:ra 中.
- 8. liküraŋa 焼けたもの, <kumaküraŋü 焼く.
- 9. ma?a|u|u 知らずに熱したる物に觸れ熱を感ず, (熱湯
を呑み)熱を感ず, ma|ia|u|u 熱きもの(例へば湯)を
注ぎ掛く.

て母が見ると、本當にシャバウスだ母
は喜んだ。シャバウスは降りた。シ
ャウガリも到着して家へ入つた。肉
を背負つて来た。シャウシユは(シ
ャバウスの家と)共同労働をしてゐた。
薪を探り割つて家に歸つた。シャバ
ウスは餅を作つて丸め「あなたと私の
二人で呑み込まうぢやないか」とシャ
ウシユに云つた。「御覽なさい豚肉が
中に入れてありますよ」とシャウシ
ユに云つた。シャバウスの呑み込ん
だものは、豚肉を中に入れてあつた。
シャウシユの呑み込んだものは焼
石を入れてあつた。シャバウスは先
きに呑み込み、シャウシユは次に呑
み込んだ。熱いもの(を)呑んで焼けた
彼女の腹は熱くなつた。死んだ(から)彼
女は横たへて布圍を掛けた。日を取
り、彼女は粟を入れた。杵を日に入れ

- 10. matsi|si 熱き(もの), aratsi 熱くなる, V|si.
- 11. saapa|üsapa <ma|üsapu 寝る.
- 12. apatsarü?a <tsarü?ü 掛物, 布圍.
- 13. ija|uku|ukuwa <ija|uku|uku 語根 *|uku 比較
mata|uku|uku.
- 14. litaraki 現, tarakiju, ju 脱落.
- 15. tarutsuboŋ... ガニ社傳承に依りて、少し雨降り始めし
故に「干物を取り入れて下さい」と母云へり.
- 19. sa:rutaüba sa-arutaüba <marutaübü (蓋を)取り
開く, maru- 類例, marutsarü?ü 布圍を取り除く.

- ¹ isa matsi'i / magusipi manani kitsobana-
彼女に死ぬ 生きてゐた 尙 少し以前に
- ² na amiami ka labaus / tsumagi tsu ka
注ぐ
- ³ ina isa /
母 彼女の

た。彼女の母は薪採から歸つて来た。
「途中で出會ふんだよ」と母はシャシウ
シユに云つた。返事がなかつた。母
は到着した。怒つて杵を取つて打つ
た。動かない。彼女は布團を取り除
けると、死んでゐた。「どういふわけで
死んだんでせう。つきつきまだ生
きてゐたんですが」とシャバウスは云
つた。彼女の母は泣いてしまつた。

5. tapuatsüpu ja ?arümü

- ¹² jimürütsüka liuma]a butolu / mussa]a
狩置せられた 取られた 鹿 行く
- ¹³ pila]opu / pupa]u n papa?a / umija n
釣る 針に餌を掛す 肉 通る
- ¹⁴ lika?a ka ?arümü / kataütatü]üpü / uma-
下 穿山甲 水に入る 経返し
- ¹⁵]a]a n pag tapuatsüpu / p]aba]abau n
取る 餌 猿 最後に行ふ
- ¹⁶ ?ara?ü / umatsuka ka ?arümü a]ali n
内臓 起立する 穿山甲 より
- ¹⁷]alom / arakitsa tsü ami ka tapuatsüpu /
水 驚く 猿
- ¹⁸ mitsulu tapijai]i / pa]ija]i]i ka ?arümü /
逃ぐ 歸る 従ふ、後を追ふ 穿山甲
- ¹⁹ tsu u mu]akuwa ami ami ni tapuatsüpu /
汝 水を汲め 云ふ 猿
- ²⁰ mussa]a ami ka tapuatsüpu / mu]aku
行く 猿 水を汲む

1. manani mana ni ma-a 尙、未だ参照707頁、註12. ni
指示代名詞、比較、mana na magusipi mana ni
kü]a 「昨日も尙生命を保てり」、magusipi mana na
「尙生き」mana ni は眼界に存せざるものに就き
云ふ時、mana na は眼前に見つゝ云ふ時。

12. jimürütsüka 現在 mürütsüka.
]uma]a 現在 uma]a.

5. 猿と穿山甲

猿は猿に行つて鹿を獲つて、釣に行
き、鹿の肉を針につけた。穿山甲は水
を潜り、猿の餌を取つてゐた。最後に
はらわたをつけると、穿山甲は水の中
から立ち上つた。猿は驚いて、逃げ歸
つた。穿山甲は後から従いて来た。
「水を汲んで呉れないか」と猿に云つ
た。猿は行つた。水を汲みに行つて
彼の水汲竹筒に小便をした。[猿は歸

13. pila]opu <]a]opu 釣針。
pupa]u <]apa]u 餌。
14. uma]a]a uma]a “取る”の「反覆」。
18. tapijai]i 比較、puwa-i]i “歸る” tapi- “方向” tapijai]i
n sa]ija 家の方へ飛ぶ。
19. tsu u mu]akuwa mu]akuwa は mu]aku “水を汲む”
の「分詞」。“汝により水汲まる”。

- ¹ miibu ni]a]a]u isa / puwajiji mima ami
小便す 水汲竹筒 彼の 歸る 飲む
- ² ka arümü / a]a]ija ami ?ibu u jau ami
穿山甲 臭氣を有する 小便 汝の 云
- ³ ami ka ?arümü / tsu u]upa]a mana /
ふ 穿山甲 汝 尙一回
- ⁴ mussa]a ami]opa]a / omiga]a]a]a ami
行く 尙一回 尙一回す
- ⁵ miibu ni]a]a]u isa / puwajiji jami / ma-
尿す 竹筒 彼の 歸る 尙
- ⁶]a]a]a]a ka arümü mima isana / hilaisa
一回 穿山甲 飲む 其を 其
- ⁷ ami iibu / maritsipi ju i]au / mara nana]ni
小便 嘘をつく 汝 居る 此處
- ⁸ kitoo butokolu / maramasü aku mu]aku /
見よ 魚 交代す 私 水を汲む
- ⁹ miskas ami ka tapuatsüpu / umi ni
留守なする 猿 食ふ
- ¹⁰ butokolu / uma]a]a ni]ipasü ?arümü / upa-
鹿 取る 矢 穿山甲 數回
- ¹¹ napana ni ?atu?u / puwai]i ka ?arümü /
發射す 石 歸る 穿山甲
- ¹² tsu u wanuwa ajaü butokolu nai / uka?a-
汝の 食べたもの 魚 無
- ¹³ a / saanuwa ka tabua / kito mau]ipasü
彼の 食べたもの 鳥 見よ 矢
- ¹⁴ u nai / la]ijarumi jaku isana upana / ku
汝の 而して使用せる 我 其 射る 不
- ¹⁵ wako kuritüwa]u / matsi jau na]nai pilisi
私 命中す 拭ふ
- ¹⁶ ai ta na tanü?ü ami ami ka arümü / pilisi
我々 刺木 云ふ 穿山甲 拭ふ
- ¹⁷ ka arümü / matija]au n papa?a / pilisi
穿山甲 附着する 肉 拭ふ
- ¹⁸ ka tapuatsüpu / matija]au n uripi / tsija:]
猿 附着する 魚骨
- ¹⁹ hilau i]au umu isana] ami ami ka arümü /
汝 食べる 其 云ふ 穿山甲
- ²⁰ matsi jau na]nai / tsija]a aruka]au]amar
拭く

つた穿山甲は飲んだ。「臭いね君の小
便だね」と穿山甲が云つた。「も一度行
つて呉れ給へ」も一度行つた。も一度
竹筒に小便をした。歸つた。も一度
穿山甲は飲んだ。「これは小便だ。君
は嘘をついてゐる。此處にゐる魚を
見てゐてくれ給へ。僕が代つて水汲
をしよう」。猿は留守居をしてゐる、魚
を食べた。穿山甲の矢を取つて、石に
幾度も射つた。穿山甲が歸つた。「君
は此處にあつた魚を食べたにちがひ
ない。「無くなつたんだよ。鳥が食
べたんだよ。その君の矢を見たまへ、
僕は其で射つただけけれども、當らな
かつた。「それならお互に刺木で(お
尻を)ふかうちやないか」と穿山甲が云
つた。穿山甲が拭くと、肉を附けてゐ
た。猿がふくと、魚の骨を附けた。「ソ
ーレ、それを食べたのは君だよ」と穿山
甲が云つた。それちやきあ焼きあひ

2. ?ibu u jau jau 感嘆詞「確定」の意を有す。例。
umau:uma na jao 君はまた食べてるんだな！
3.]opa]a 比較、makona]a 一回 omiga]a]a]a ma:]a]a-
]a]a.
7. i]au = jau
mara <maru.

12. tsu u (w)anuwa ajaü anuwa >umau 食す。ajau =
jau.
18. uripi 魚の骨 uripi 人間獸類の骨 tsija]a-
tsija 感嘆詞、本當の事を發見せし時に使ふ、それみた
か！。

- ¹ ai ta / pa|uwa|u waku ami ami ka
我々 先に爲す 私 云ふ
- ² ?arümü / mussa|a ami ka ?arümü / mu-
穿山甲 行く 穿山甲
- ³ tsuutsu: n tsatsapoka / kuma|i/ saa|amara
入る 茅原 掘る 彼の焼いたもの
- ⁴ tsu ami ka tapulatsügu / mussa|a ami
猿 行く
- ⁵ mutsuutsu: n lika|i isa / marika?u|u ka
入る 掘ったもの 穴 其の 焼やす
- ⁶ apu|u / murumita ami tükül|ü|ü / mutsu-
火 出る 座る 起きる
- ⁷ ku|u ami kai tapulatsügu / lita?ijara u
猿 何故に 汝
- ⁸ ka ku watsulu / ami ami kai tapulatsügu /
不 燃焼する 云ふ 猿
- ⁹ uma|a kija n kumukumu na marisobo-
取る 茅の枯葉 集む
- ¹⁰ sobo la / utsuwutsu: wa / ku u kija
前して 入る 不
- ¹¹ uwatsulu / a?u ami ami kai tapulatsügu /
燃焼する はい 云ふ 猿
- ¹² umulija aku lamaru waku ai / a?ü ami
交替する 私 焼け 私 はい 云
- ¹³ ami ka arümü / saalamaru ami ka ?a-
穿山甲 彼の焼いたもの
- ¹⁴ rümü / muatsulu ka tapulatsügu / musu-
穿山甲 火傷する 猿 焼死
- ¹⁵ patši|i / saparapitsija ka tsibuka isa /
する 彼の切つたもの 腹 彼の
- ¹⁶ uma|a ka atši isa / aba:bu ni u:|u /
取る 肝 炊く 飯
- ¹⁷ aritsukaa ka tapulatsügu / pau isa n
穿山甲の焼いたもの 猿 食はす 彼
- ¹⁸ a|uwa ka atši|i apatsamai isana / lipana
取つたもの 肝 副食物にする 其を 射つたもの
- ¹⁹ isa ka |a?u|a|i / mitsa|?i|ivi kiitsubanana /
彼の (人名) 家の前を通る 小時間前
- ²⁰ ami ami ka ?arümü / saakukutsuwa ka
云ふ 穿山甲 彼の食へ終へたもの

をしよう。僕を先に焼いてくれ給へ]
と穿山甲が云つた。穿山甲が行つて、
茅原に入った。(地を)掘つた。猿は火
をつけた。(穿山甲は)穴に入つて行つ
た。火は(茅原を)焼拂つた。(穿山甲は
穴から)出て座つてゐた。猿は来て、「何
故に君は焼けないのか」と猿は云つた。
「茅の枯葉を取り集めて、入ると、焼けな
いさうかい」と猿は云つた。「僕が替
から僕を焼いてくれ給へ[宜しい]と穿
山甲が云つた。穿山甲は焼いた。猿
は火傷し、焼け死んだ。彼の腹を切り
開き、肝を取り、飯を炊いた。猿は呼び
起された。取つた肝をおかづにして
彼に食はせた。「シャウガリが射つた
んだ。今し方家の前を通つて行つた
よ」と穿山甲が云つた。猿は肝を平
げた。「自分の肝を食へたよ」と穿山甲
は云つて、彼の穴に入つて行つた。猿
は穴を石で詰めた。穿山甲は掘つて、

1. pa|uwa|u <mu-a|oa|o 先に爲す *V a|o
3. aruka|aalamar|ü <oamaru 焼く、開架の山焼。
tsatsapoka <tsapoku 茅。
5. lika|i <k-um-a|i 掘る。
marika?u|u <mi?u|u 到着す山焼にして頂上迄焼く
る事を marika?u|u と云ふ。

8. ku (w)atsulu muatsulu 燃焼す。
9. kija 話手の考、希望、勧告を示す。maruamija kija n
kani?i 察る此を使用せられよ、maga|ai kija umu 何
としても食ふつもり(話手の希望)。
14. muatsulu 火傷す lamaru 點火す。
18. apatsamai <tsamai 副食物。

- ¹ tapulatsügu ka atši|i / kuwaj|i ju n atši|i
猿 肝 自己の肝を食ふ 汝 肝
- ² ju ami ami ka ?arümü / mussa|a ami
汝の 云ふ 穿山甲 行く
- ³ mutsuwutsu: ni lika|i isa la: / saawü|u-
入る 穴 前して 彼の詰め
- ⁴ wu|a n bato?o ka tapulatsügu ka talu-
たもの 石 猿 穴
- ⁵ wuru isa / kuma|i ami kai ?arümü / pi-
彼の 掘る 穿山甲 通
- ⁶ ja|ibatu ni tükül|ü / puwaj|i taku|i|ijonu
引抜け出る 他の場所 歸る 道に在る、通過する
- ⁷ ni tapulatsügu / lita?ijara u pakuwaj|i ni
猿 何故に 汝 自己の體を食ふ
- ⁸ ilaku ni atši|i ku / ku waku wa tsalija /
汝 肝 私の 不 私 知る
- ⁹ lijapali jaku n tükül|ü ami ami ka ?aru-
より来る 私 他の場所 云ふ 穿山
- ¹⁰ mü / puwaj|i manai ka / ü|üwü|a tsu
甲 歸る 詰められた
- ¹¹ ka ilaku na |atu?u matsi i tsu wai
私 石 死ぬ
- ¹² ma:nai ami ami ka tapulatsügu /
云ふ 猿

他の處へ抜け出た。猿を訪ねて歸つ
た。「何故に君は僕に僕の肝を食はせ
たのだ。[僕は知らない。僕はよそか
ら来たものだから]と穿山甲は云つた。
「あいつは歸れやしないよ。己は石を
詰めたから死んでゐるだらうから」と
猿は云つた。

6. umaü ni |aboko
食ふ人 砂

- ¹³ ma:ru kai alama / umaü ni |aboko /
有る 昔の人 食ふ人 砂
- ¹⁴ ma|okwa ni sakuraju ta|a |aboko / ku-
行く 河 運ぶ 砂
- ¹⁵ mita kai a|aina |iuma|atopo: tapirasu /
見る 女 破製した 岩
- ¹⁶ omo|ono ni takajatsa?a pa|a ni arisaputa
依頼する 臺灣島 取らざる 帯
- ¹⁷ ta|a: |aboko / aparuka ami / taraba:bariüü
運ぶ 砂 紛失する 見廻はす
- ¹⁸ kumita isana ma: ni tapirasu / mussa|a
見る 有る 岩 行く

7. 食砂人

昔々、食砂人が居た。河へ砂を取り
に行つた。岩が破れて(現れた)女が見
てゐた。(女は)臺灣島に砂を取つてゐ
る人の帯を取つて来いと頼んだ。(帯
が見當らない。(食砂人は)見廻すと共
が岩の處にあるのを見た。登つて行

1. kuwa-i|i 自己に歸る、自己の肉を食す。比較 puwa-i|i
類例、kuwa-i|i n ti|i 自身の腹を食す。
5. pija|ibatu 通抜け出す。
6. puwai|i manai manai >mana ai 参照原文4注。
10. ü|üwü|ü umaü|üwü|ü 詰める、塞ぐ。
16. ta|a 比較 uma|a “取る” t-a|a

17. |iuma|atopo umaratopo? 1) 鉄聲 2) パチント音を
立て破製す。3) 腫の卵を破り出づる。
18. pa|a 比較 uma|a p-a|a。
20. kumita isana isana 是帯、對格?
ma: 比較 ma:ru 存す ma: ni 向うに存す、ma:isana
其處に存す。

- 1 mibararū kumita isana ma: isana ka
登る 見る 彼等 有る 其處
- 2 sasuya ka halaina / pi:mapatsi ami /
二人 女 酒を有する
- 3 saapima ami / mujubu tsu wami malo-
母の飲ませた 共に行く 行く
- 4 kuwa ni saija isa umaū ni laboku /
家 食ふ 砂
- 5 alaiša ka kanii ami ami / maijuturau ni
何 此 掃く
- 6 laboku / puwajili ami kai la:ma:ma isa
砂 歸る 年長者
- 7 umarutsarutsakū isainijata ka aparatna:
怒る 不要 物でないことをする
- 8 sū ha:nu ami ami / miupisi ami kai ha-
食物 云ふ 憤慨す
- 9 laina la: mussa[ā puuajili / makutalamu
女 而して 行く 歸る 試食する
- 10 ami kai umaū ni laboku ni ūjūrau po:si-
食ふ 砂 白米 糲
- 11 jam kusaau mussa[ā ami mitsugutsupu
美味 行く 跡を追ふ
- 12 halaina / makia[ā / marowaro tsu wami
女 戻す 居る
- 13 ni sarija / matsi kijarijamū / uma[ā ni
家 壺を取る 取る
- 14 utsani / umiikuwa ni tarijamuwa mija[ā
一 置く 壺置場 充滿する
- 15 jami / uma[ā ami ni utsani ka ūjūrau /
取る 白米
- 16 umiikuwa ni ta:ūjūra mija[ā jami / alaina
置く 米入籠 充つ 女
- 17 apūū[ā]ūmū ami ami ka tsutso'o /
奇蹟をなす人 人々

つて見ると二人の女が居た。酒をも
つてゐて、飲ませてくれた。(女は)食砂
人の家へ従って行った。「此は何です
か」と(女は)云つて、砂を掃き出した。年
寄が歸つて怒り「食物を粗末にするか
ら(此の女は)要らない」と云つた。女は
憤慨して歸つて行った。食砂人は白
米を試食すると美味だったので女の
跡を追ひ、連れ戻つた。(男の)家に引續
き居ることになった。彼女は壺を切
り取るには、一本を取つて壺置場に置
く、すると一杯になった。一粒の米を
取つて米入籠に入れると充滿した。
「奇蹟をする女だ」と人々は云つた。

1. mibararū <bararū 上, mi-
2. pi:mapatsi <mapatsi 酒、接頭辭 pi-「所有者」pi-
saija 家持, pi:alaina 妻帯者。
3. saapima sa-apima <mima 飲む。
5. maijuturau 反覆形, mai[ā]juturau 同義, 比較, si-
[ā]juturau / sipai[ā]juturau 等。
6. la:ma:ma <al:ma 昔の人, 最後の音節反覆せる例。
7. umarutsarutsakū marutsakū 怒り易き人の反覆。
isainijata / misainijata。
9. la:musa[ā] 比較, la:umau 食べごこなふ、接頭辭 la-

「抽壺」, la:mussa[ā] 不成功の結果歸り行く。
12. maki-ai[ā] 比較, puu-ai[ā] 歸りし者を再び元へ戻す。
marowaro ma:ru 存す, の反覆。
13. kijarijamū <arijamū 壺。
14. tarijamuwa <arijamū ta-wa 参照, 707頁註16。
mija[ā] 比較, mii[ā] 充てる, mija-「今後…になる」mi-
「現在…なり」, mija[ā] これより次第に充つ。
16. ta:ūjūra <ūjūrau。
17. apūū[ā]ūmū 奇蹟, …をなす人, 動詞 mū[ā]ūmū。

7. orti

- 2 ma:ru kai ala:ma kai / uka'a ami kai
有 昔(の人) 無
- 3 a:nu isa / kuma[ā] (j)ami ni talibaku[ā]lai /
食物 彼等の 掘る 山羊を
- 4 ki[ā]uili ni urti / tumaliparariju ni o:go
さが掘られる 地界に 編む 角を
- 5 ōtolo / mo:tsapi ni urti / takli:ijonggu /
鹿の 降る 地に 遊ぶ
- 6 kumita ami n pija:nu / masapasaparū
見る 食物を有する人々を 喜ぶ
- 7 (w)ami / omo ni litsoloku ko:atsoku /
食ふ 餅を 満腹する
- 8 matsi tsumoloku ka / tsutsu'ū urti ija /
もし 餅を作る 人々は 地の
- 9 uma[ā]i n palo isa ka litsuloku ma:fat-
呼ぶ 湯氣 共 餅の 満腹す
- 10 suku ami / kumita ami ni mijaan ni
る 見る 搗く
- 11 ubutsonggu / kumita aku ami ami / ma:
粟を 見せよ 我に 臼 手で
- 12 kaūru isana hapo[ā]u[ā]u n aloku isa /
搗ぶ 彼等は 狭き間に挟む 爪の 彼の
- 13 uma[ā] ami n risapu / umiikuwa n puloku
取る 豆を 置く 腕に
- 14 isa / uma[ā] ami ni la[ā]omi / umiikuwa n
彼の 取る (器)を 入る
- 15 tsari[ā] isa / matari: n lopolo mairan /
耳に 彼の 頭に繋りつく 壺 甘藷を
- 16 i[ipiku ni talijarija ami ami / ma:atsoku
日陰となす 太陽を 臼 満腹する
- 17 tso ami / muti'pi (j)ami / kumita ami ka
脱糞する 見る
- 18 tsotso'o orti / saapaiu[ā]u[ā] ami / mu[ā]oi[ā]
人は 地の (器)にて貯ねる、敷く 欲する
- 19 n pi[ā]uso / taiša ka [i]uso isa / tamalūpo
肛門 大なる 肛門 彼の 作られる
- 20 ka [i]usu lamu ami ami / saaruwamija
肛門 我々の 臼 彼の道具となす
- 21 ami ni tatulu kai usuma:nu ku[i]jo[i]jusu /
鎌を 他人 肛門の穴が開けられる

7. 地 界

昔々、食物がなかつた。山芋を掘つ
てゐると、地界まで穴があいた。鹿角
を梯子に編み、地界へ降りて、遊びに行
つた。食物を持つてゐる人々を見た。
喜んだ。餅を食べて満腹になった。
地界人は餅を搗くと、餅の湯氣を嗅い
で満腹した。粟を搗くのを見た。「私
に見せて下さい」と云つた。其を手で
すくひ爪の間に挟んだ。豆を取つて
臼に入れた。麻豆を取つて、耳に入れ
た甘藷の蔓を頭にのせ、日の光を避け
た。腹がくちくちくなつて、脱糞した。地
界人は見て、(指で)捏ねた。大きな肛門
が欲しくなつた。「私達の肛門を作つ
て下さい」と云つた。鎌を以て、(頭目)
以外の者の肛門が作られ、頭目の肛門
は斧を使つて、割り明けられた。「寝て
下さい」。夜具を被せた。「もう歸りま
す」と云つた。「私が(地上へ)到着したら、
取除けて下さい」。歩き歸つて到着し

1. orti 地の裏にも一つの世界あり、是を orti と名づく。
2. ma:ru kai ala:ma kai 第一の kai は「疑問詞」の用
法、第二の kai は「結句詞」の用法。
4. ki[ā]uili 比較, mi[ā]uili 貫通せる穴を開く, ta[ā]uili
トンネル。

tumaliparariju <taliparariju 梯子を編む。
12. hapo[ā]u[ā]u h は「渉り」, 比較, mōa[ā]o[ā]o 狭き
間隙を滑り抜ける ta[ā]o[ā]o 岩の隙目の間隙。
18. saapaiu[ā]u[ā] <mai-ō[ā]a 委くす。
21. ku[i]jo[i]jusu <ijosu 肛門。

- ¹ matsu (w)ami kai / kapita:nu isa ja / 其のもし 頭人 彼の
² saarumija ni arija / ma:pitsi kai [iusu isa 彼の道具 斧を 斧にて割る 扉門 彼の
³ la / apa[usapa / apatsarübü / moasa[a tsu 面して 軽かす 標を標こめる 行く
⁴ (w)aku ami ami / matsu (w)ako ?ai miuüü 我 目 其の 我 到着する
⁵ tsu ja arutaibu tsu ai / musa[a tsu ami 取除く 毛をかける 歩く
⁶ powajil[i mijöü tsu / saapapitaa tsu ami 歸る 到着する 標の切れるもの
⁷ kai / lita[iki isa ö:üü / 梯子は 彼の 角の

8. Iusümanu ni a[ümülü

- ¹⁰ ma:rü ami kai ala:ma kai limuüjü: 昔々猪と夫婦関係を結んだ(女)が
¹¹ sumanu ni a[ümülü / ma:tsi ami msa[a 夫 猪 行く
¹² mariinta[öü ja / ko (w)ami pa:tsa[itsa[i]i 里芋を探る 不 通過させる
¹³ n mariainta[öü / ma:tsi (j)ami mariainta[öü 里芋を探る 里芋を探る
¹⁴ ja / a:raüraü[üü ami n ramuru isa kai / それのみをする 子
¹⁵ pata:ku isa (a)mi n tsatsapuka: kai ina? 捨てる 彼女 茅原 親芋
¹⁶ inta[öü / pau ni usümanu isa a[ümülü / (八頭) 食はせる 夫或は妻 彼女の 猪
¹⁷ litajara ilalau ami ami kai la[usa isa / 爲した 何 云ふ 夫
¹⁸ ma[öü[öü[ili isana / komita ami n a[üm- 隠して従ふ 彼女を 見る 猪
¹⁹ üü sa:panua ami sa:öü[öü ami / marikako- 彼に射られた 標に撃はれたる 来る

1. kapita:nu 外来語(オランダ語) kapitan.
 3. apa[usapa 参照 原文4 第711頁 註11.
 5. arutaibu arutaübu 正.
 6. saapapitaa <ma:pitau 切る.
 9. limuüjü:sümanu [i-murija-usümanu, [i-「過去」
 murija- になる, usümanu 夫或は妻.
 12. mariinta[öü <inta[öü 里芋, mari- を探る.

pa:tsa[itsa[i]i 比較, mitsa[i]i 先に通過す, 超過す,
 先に爲す.
 14. a:raüraü[üü ある事のみを爲す.
 15. pata:ku <meta:ku 投捨つ.
 17. [itajara 現在 taijara 仕事.
 19. sa:panuai <uapana 射る.
 sa:öü[öü <ma:öü[öü 運ぶ.
 marikakowa 物を運び入る, ma[ökowa 行く, 入る.

- ¹ wa ami n sa[üja la / paüüa po:şusua kai れた。其を差し出したが、受取らうと
² atsi isa / parobe:re sajatüsü:ka ami n はしなかつた。(肝をつけた)まゝで突
³ ina[u kitaku / kai [irri alaina la / iaka- きさした。彼女の腹から彼女の子が
⁴ kuwa isana / ko (w)ami paimatsu matia[u 出た。山側の家の横へ逃げたものは
⁵ isana / [alibora ami tuma[ala[usu / apali 猪となつた。親置場へ逃げたものは
⁶ ami n tsibuka isa / tarapasüü kai ramu- 豚になつた。私の話は本當にこれだ
⁷ ru isa / matsu (w)ami kai tapikakuwa n け。
⁸ piligana i[öü ja mara[üa[ümülü ami / 家の側面 山の方向 猪になる
⁹ matsu ami kai tapikakua ni ta:[ukija: ja 行く方面 親置場
¹⁰ mara: talatalakü ami / taina:na tsu ka 豚になる これ許り
¹¹ kari ku tutu:ru / 話 私の 本當の

1. paüüa oapüü の「分詞」
 pa:şusua posu の「分詞」.
 2. sajatüsü:ka jatusü:ka <mijatusükü.
 4. matia[u (手にて)受取る.
 5. [alibora [um-alibora の「分詞」刀を以て突き刺す.
 tuma[ala[ala[usu 比較 moala[usu moala[ala[usu
 直接的に(途中に於て運寄りせず)に行くと云ふ意味に

用ふる事あり).
 6. ramuru 人間の子, 獣類の仔, mama:i 人間の子 (<
 maini 小 原義小なるもの).
 8. piligana 家の側面の山手に向けるものを piligana
 i[öü (上の横), 谷に面するものを piligana rikaa (下
 の横)と名づく.
 9. ta:[ukija <[uki 親置.

XI

カナカナブ蕃

語法概説

及び本文

カナカナブ語語法概説

I. 分 布

カナカナブ語は高雄州旗山郡に住するカナカナブ [kanakanaβu] 蕃(人口189. 昭和五年調)により使用せらる。同蕃は現在タカヌワ [tapanuwa], ランツルガ [rantsuruŋa], マガツン [paŋatsunu], ナギサル [naŋisaru] に小聚落を作る, 部落間の方言的差異無し。

II. 音 韻

- 母音, [i], [e], [ɛ], [æ], [a], [ɔ], [o], [u], [ɯ], [ɔ̄].
 - [i] 基本母音第一號より稍廣し。
 - [e] 重母音 ai 屢 e に單音化する。
 - [ɛ], [æ] 重母音 ai 稀に ei 或は æi に轉位す。ia > ε なる例あり。tanijaru > tanieru.
 - [ɔ] puwaaĩ > poi の例の如く ua > ɔ 或は au > ɔ と單音化することあり。
 - [o] 稀なり。u の同類音か或は au > o.
 - [ɔ̄] kau / kəu > kəü / kəu u / u のために a は中音化する例あり。特に k 子音の後に於て此變化あり。kaüna > kəüna.
- 素音, 變異音を除けば, カナカナブ母音は [i], [a], [o], [ʔ], [u], [ɯ].
- 子音, 兩唇音 [p], [β], [w], [m], 齒齶音 [t], [s], [ts], [r]^h, 硬口蓋音化齒齶音 [ʃ], [tʃ], 齒齶硬口蓋音(反轉音) [l], 硬口蓋音 [j], 軟口蓋音 [k], [ŋ], 聲門音 [ʔ] 有聲破裂音存在せず, 流音は [r] と [l] の區別あり。
- 頭音母音^h, 頭母音に聲門破裂音 [ʔ] 先行するものと然らざるものとあり, 後者は [わたり] として有聲聲門摩擦音 [h] 現はることあり。ʔapuru 石灰, ʔapu[u] / ʔapu[u] 火, [ʔ] を有する語の例,

ʔakija	無	ʔasamu		ʔuma	鳥
ʔausija		ʔaβu	灰	ʔanijatsapa	屑
ʔaβiki	檳榔	ʔanuka	爪	ʔau[u]	竹
ʔaparatu	電	ʔaβapu	舟	ʔatimoə	蚤
ʔutsu	鬼	ʔatopu		ʔunai	地

[?]の無き語の例,

a[u]ʔu 屋根	uru 飯	aka 悪
utsu 雲	aratsakanu 狩	utsanu 雨
a[akuratsu 怒	uruʔu	a[u] 八
umutsa 喉	anu 蜜蜂	iku 我
ananu 右	isa 彼	a[u]ŋu 松
uratsu 血管	ukunaū 豹	itsi-isi
ili 左	ilipi	

- 母音弱音化, 母音は弱音化し音節的效果を失ひ或は脱落せらるることあり, [?]を以つて標示せり。終母音に於て此傾向甚し。カナカナブ語は開音節の構造を有す。原文中子音にて終る語は終母音の脱落せるものなり。
- 母音の省略, 代名詞 ini を後添せらる時は終母音省略せらるることあり。
例, ʔuru+ini>ʔurini
- 特殊の音變化, i にて終る名詞に母音にて始まる添加辭,例へば所有代名詞 -aku “私の” 及び命令の助辭 au を添加する時には i は r/[へ變ず。
例, ʔanaī+aku>ʔanaraku 私の名, tsumāi+aku>tsumaraku 私の熊, paipatsai+aū 殺せよ >paipatsa[au.
- 揚音, 二音節語は第一音節に(例外 tsumāi 熊),多音節語は最後より第二或は第三の音節に来る。例, tanijaru 日, pakikija 本嶋人,揚音は高低並びに強弱を併用す[強さ]を特に大にする時は,意義内容上の變化を來たし[強大]を示す。
aka 悪 >akka 極悪 tatiya 多 >tattija 巨多。

註 1) 日授者 a[ʔia は [r] を [R] にて發音せり。
註 2) 原文には頭音 [ʔ] を表示せず。

III. 形 態

- 反覆
 - 部分的反覆, ra-ta-taomaj-a 細竹籐 <taaumaj 細竹 ka-kaʔutsa 大空 <kaʔutsa 大空。
 - 全部的反覆, ma-kari-kari 相談す <mūa-kari 話す。
 - 重反覆, tan-tan-tanijaru 毎日 <tanijaru 日 [u][u][u]wana 毎夜 <nu[u]wana 夜。
- 接頭辭, ma-, mi-, mōa-, um-, mai-, ka-, mija-/me-, ki-, kia-, i-, tōa-/to-, si-, masi-,

masu-, pasu-, ara-, mari-, (a)pa-, maka-, paka-, mu[u-, pu[u-, tuma-, ni-, ta-, taka-, ra- 等。

主なる用語を例示すれば,

- ma- [形容詞] mapituu 暗き。
 - mi-, mōa/ mu-, um-, mai-, ka- は發動動詞の接頭辭に mi-ʔa[u] 泥になり流る, mōa-tsanu 歩む >tsanu 道, um-a[ʔa 取る, mai-patsai 殺す ka-oma-oma 耕作す >owa 畠。
 - mija-/me-, meitsuuru 産卵す <itsuru 卵。
 - ki- [採取] ki-tana[ai 落花生を採る。
 - kia- ki- と同じきか? kia umuʔa 芭蕉の芽を取る <umuʔa 芭蕉の芽, kia-ta[isi 繩を縛ふ。
 - i- [受動] ikaru 使役せらる <makaru 雇ふ。
 - tōa-, to- [變化] to-a[ʔu-a[ʔu 灰になる <a[ʔu 灰 to-tsumatsumai, toa-tsumatsumai 熊になる <tsumai 熊。
 - si- [道具] si-japana 銃 <mōapanaʔu 射撃す si-jakəunu 食器 <kəunu 食物。
 - masi- masiputsu 乳を搾る <uputsu 乳。
 - masu-, pasu- [挿入] masu-ʔuŋu 頭に髻す <ʔuŋu 頭, pasu-ʔuku 帯に挟む <ʔuku 帯。
 - ara- [になる] ara-pituu 暗くなる <ma-pituu 暗黒なる。
 - mari- mari-suuatu 字を書く <sunatū 字。
 - (a)pa- [使役] apa[ʔa 取らしむ <ama[ʔa 取る。
 - maka- maka-matsuʔu 栗を搗く <matsuʔu 栗。
 - mu[u-, pu[u- pu[u-topatopu 口琴を吹く <topatopu 口琴。
 - tuma- [發生] tuma-ʔuʔaʔuʔu 花咲く <ʔuʔaʔuʔu 花。
 - ni- [過去] ni-mukusa 行けり <mukusa 行く ni-ja[ʔa 取りしもの <ama[ʔa 取る。
 - ta-, taka- [場所] ta-tauwapuruwa 休憩所 <tauwapuru 休憩す taka-tatanasa 建築地 <tanasa 家 taka-tsau-wana 人の居る處 <tsau 人 -a, -ana, 接尾辭と併用せらる。
 - ra- [多數] ra-ʔatuʔatu-wa 石の多くある處,河原 <ʔatu 石。
3. 挿入辭, -um-, -in-,
- um- [動詞] k-um-aunu 食す <kaunu 食物 [um-a[ʔiʔai 毘を仕掛く <[ʔiʔai 毘。
 - in- [物] s-in-iʔina 燃やせしもの <siʔina 燃やす t-in-uaʔuaʔu 灰になりしもの

<a₂u 灰。

4. -a, -ana,

1. -a 1) 「處」 ra₂pa₂tu₂wa 石の多き所 <pa₂tu 石, 2) 分詞物「者」 ni-pana²a 撃たれしもの <pana²u 撃つ。
2. -ana 「處」 tsatsauwana 村 <tsau 人。
3. -unu? 参照 § 「分詞」。

IV. 品 詞

1. 冠詞, suwa / sa “其”は冠詞の作用をなすもの本質的の冠詞にあらず。四社, matsuwa に對比すべきものにして, 指示形容詞と看做すべきものか。

2. 代名詞

1. 人稱代名詞

	單 數	複 數		
		除對話者	含對話者	
一人稱	主 格	iku, aku	ikimi, kimi, kija (?) ¹⁾	(ikita?) kita
	屬格其他	-maku -naku -ku	-mija (?) numija (?)	-mita -tai,
二人稱	單 數		複 數	
	主 格	ikasu, isuwa, kasu	ikamu, kamu	
	屬格其他	-musu, -nusu, -su	-numu, -mu	
三人稱		kiaī ²⁾ 彼, 彼等.		
		isa 彼, 彼等 (?)		
		-ini 彼の, 彼等の, 其の.		

2. 指示代名詞

inija 其の, 其を.

3. 動詞

a) 分詞

1. -a 類 ni-pana²a 撃たるもの, 撃たる <pana²u 撃つ ni-u₁upa 脱ぎしもの <um-au₁upu 脱ぐ t-in-uupa 賑かたたるもの, 賑かたたる <t-um'uupu taina 捨つもの <t-um-ataini 捨つ賑かる ara 取るもの <um-a₁a 取る。
2. -unu (-unu) 類 語根に unu の添加せられたる形あり, 其作用は分詞に類せる故に準分詞として分類せり。unu は「被働」を示し, ツォウ, -neni に比

較すべきか, taimaku pana-unu tanijaru 太陽は我に依り射らるものならん。

ijatsu-unu kani kijaī 共は指示せらるもの, tsuu₁a 見る >tsuu₁a-unu 見らるもの taniura²u 騙す >taniura-una 騙さるもの moa₂uwa 與ふ >₂ua-unu 與ふもの。

b) 時制

1. 未來, 1) 「反覆」形 ma-matsai 死せり <matsai 死す 2) tai / te + 代名詞 taiku aratsukanu 我出獵せん, taja uma₁a 彼等は取らん。比較 ツォウ te 「未來」

taiku	一人稱單數
taikimi, taikija (?)	一人稱複數 除對話者
taikita (?)	一人稱複數 含對話者
taikasu	二人稱單數
taikamu	二人稱複數
taja	三人稱 汎稱

ta₁- に添加せられ代名詞主格に働く時は動詞の發働形來り, 造格(により)に働く時は -unu の分詞形來る。(参照 §)

2. 過去, ni-, -in-, 誘導形を以て示す, ni-mukusa 行けり <mukusa 行く nija₁a ku 我の取りしもの, 我取れり, <uma₁a 取る t-in-aini maku 我の捨てられしもの, 我捨てたり <t-um-a taini 捨つ mija 「既に」を以て「過去」を示すことあり, mija mima ku- 私は既に吞めり。

3. tsu, 「現在」「過去」「未來」「命令」と共に用ひ「完了」を示し, “既に” “今直ちに” の意を表はす。

nimatsai tsu tsau isa あの人は既に死せり——過去完了。

maku₁upu tsu 寒し(今)。

puwa²ia tsu 歸れ(今直ちに)。

tsu の後に代名詞 kija 來る時は t₁i kija と音變化す。

c) 命令

1. a puwai²ia 歸れ <puwai²i 歸る。
marisunata 書け <marisunatu 書け。
pukarikaria 話せ <makarikari 話す。
2. au pepatsa₁ai 殺せ <patsai 殺す。
tsuurau 見よ <tsuuru 見る。

3. maū mutsana maū 歩め <mutsana 歩む。

d) ai 「不確實」[想像]を意味する助辭にして「想像法」を作る, kani と共に「物語」に於て屢々使用せらる, 命令法と共に用ふ時は「未來」の意生ず。

kuma²una tsu 今食せ kuma²una ai 後に食せ。

4. 結辭

a) 形容詞と被修飾語を結ぶ結辭なし。

b) 結辭 ia / ja 主語(主題)述語(説明句)に先行する時には ia を以て結合す。

takai ku 我はタカイなり。

suwa iku ja takai 同上

suwa tsau ja [iponu 其人は日本人なり。

5. 助辭

tsu 「完了」[決定]

ai 「不確定」[想像]

pa 「繼續」尙

kaanu 「否定」にあらずして…なり

ko 「否定」不

akija 「否定」無欠く

akuni 「禁止」する勿れ

kara 「疑問」

itumuru kara pa²itsi 酒多量なりや?

[ipugu kara kasu 汝は日本人なりや?

註 1) kimi に相對する屬格の形態は調査に現れず、「我々」の意味の場合に kija 形現る。恐らく「除對話者」と思はるる, kija を單數形に用ひたる一例あり。

註 2) kiai の人稱を特示せざる場合に用ひらる數例あり。汎稱?

1. カナカナブ方言

(kanakanaβu)

1. pana²u tanijaru

1. 太陽征伐

⁴ sua nannakū ja nana[^a kani / akija
冠詞 女 結辭 孤獨な なし

⁵ kani ikarini apa[^a ma[aku]aku[apu tsa-
彼女の雇人 取らせる 毛物 彼女

⁶ maini / mukusa kani tsakūrunu [umiju²u /
の副食物 行く 河 刺漁する

⁷ [uma]iju²u kani akija kani ara ini vutu-
ない 取る 魚

⁸ ku[^u / paratuwanāi kani inija sanapisapi /
捕られた 其 流木

⁹ tainai kani inija / maraūnaūna kani umi-
捨てる 其 幾回もする 刺で漁

¹⁰ ju²u / paratuwanāi kani inija sua sana-
する 捕られた 其 流

¹¹ pisapi / arai kani inija / pasuvuku ai
木 取る 其 帯に挟む

¹² kani inija / sisiina maku (w)ai misakanii /
其 たきもの 私の 日く

¹³ puwai²i kani tanasa / taijauma[^a inija
歸る 家 取る 其

¹⁴ akija kani / atsowava maku wai (i)inija
なし 確かに 私の 其

¹⁵ ripana / mija[anaū kani / pivura kani /
紛失する 水く 学ぶ

娘は孤兒であつた。彼女の副食物

の毛物を獲らせる雇人がなかつた。

網で魚を採りに河へ行つた。取らう

としたが何遍やつても採れなかつた。

流木が共に掛つた。捨てた。幾回も

魚を網で取らうとした。流木が共に

掛つた。其を取つた。帯に挟んだ。

私の薪木にしようと言つた。歸宅し

た。其を取らうとしたがなかつた。

確かに私は無くした。暫くして、身も

ちになつた。子供が生れた。大きく

なつた。智慧がついて來た。鳥を見

採録期: 昭和六年八月。

採録者: ナギサル社(nagisaru) voro voruwana (男、當時36歳)

説明者: タガマツ(taganuwa)社 appai voruwana (男、當時29歳) 説明者は善童教育所卒業後六年間警手として勤務せし経歴を有す。

4. sua ~ suwa 參照、概説 IV. 1.

ja 主語と述語を結ぶ結辭。參照、概説 IV. 4.

kani 自己の直接經驗にあらざる事を示す。「他人より聞きし事」「噂」「昔物語の記述」に用ふ。比較、サアロア、ami.

5. ikarini ikaru+ini i-karu 使役せらるる人。<moakaru (仕事に人々)使ふ、雇ふ、ini 彼の、apa[^a <um-a[^a 取る。「使役」、tsamaini tsamai+ini.

7. [uma]iju²u [-um-iju²u の反覆。「動作の繰返」を示す。akija 存せず、…を欠く。ara um-a[^a の語根 a[^a a[^a ara. akija は語根と結合す、ara 取るもの「受身」?

8. paratuwanāi paratuwana+ai. paratuwana <+V tuana, muatuaana 見附ける(人)。助辭 ai 「不確實」を示す。物語は自己の直接經驗せざる事柄なれば、kani 及び ai を屢々使用する。「といふことです」sanapisapi 性器の fetish と解釋すべきものか。

9. tainai taiui+ai. taini, tumataini 「捨つ」、inija 其處、其、刺を指示す。

11. arai ara+ai pasuvuku <vuku 帯。比較、masu-navugu 頭に挿す <navugu 簪。

12. sisiina <si²ina, sumasi²ina 燃焼す、接頭辭 si- は「道具」を示す、sisiina 燃やす道具、燃料、uma[^a 取る >si[^a 取る道具。pana²u 發射す >sija-pana²u 銃器。

13. tai²a =teja tai- せんとす。「意圖」「未來」參照、概説 IV. 3. b.

15. pivura pi- 比較、サアロア、pi- 「所有」、四社、vura-vurakū 子。

- ¹ ka:manumanu ai kani inija / ara:tatija
出産する 其 成長する
- ² kani / arapa:kanag / tsüüja ünü kani kijai
伶俐になる 見る
- ³ tapijanagai ijatsuunu kani kijai / mata-
鳥 指さす 落ち
- ⁴ pari'i kani / ara:tatija kani / pana'un kani
る 成長する 射る
- ⁵ suwa anuka vutunu vavuru / nimatsai
足置 猪 鹿 死せり
- ⁶ kani / naumani panai (i)ni siaja'i ni suwa
何 名 捕獲の道具
- ⁷ mara kura:kurapü / taniuraü nu pa mita
毛物 罾す 我々
- ⁸ ai misakani(i) / suwa kukunag ini / mu-
外の人々 彼の 行
- ⁹ kusa kani rümura / mutsanuma pa kisaï
く 山 水を汲む 云ふ
- ¹⁰ kani suwa kukunapini / mtsanumu kani /
他の人々
- ¹¹ arai kani suwa kukunapini su'a paü ini /
取る 他の人々 冠詞 彼の
- ¹² putuvurika / tsumüüja suwa vurini /
蓋を開く 見る 彼の弓
- ¹³ vavakan tutui / suwa kani rupatsü ini
肋骨 豚 矢 彼の
- ¹⁴ taitiki kani / poi:kan tanasa / natsina
肩骨 歸る 家 亡母
- ¹⁵ ini / tsinuru'ü tsau pau moku tjina misa
彼の 笑はれた 人 革袋 私の 母 云ふ
- ¹⁶ kani / uma[ka ka]u mata uripi misa kani /
取る 木 及び 鬼茅 云ふ
- ¹⁷ teanaumanj ka]u misa kani tjina ini /
何にする 木 云ふ 母 彼の
- ¹⁸ tai maku panaün tanijaru / numakasu-
私の 射る 太陽

た。指さした。落下した。成長した。
指さすと、鳥と鹿と[死んだ]鹿と猪の足
跡を射ると[死んだ]獲物を獲る道具の
名は何か。我々は騙さうぢやないか。
と他の人々が[相談した]。山へ行つた。
[水を汲みなさい]と他の人々が云つた。
水を汲んだ。他の人々は彼の革袋を
取つた。蓋を開いた。彼の弓を見た。
豚の肋骨[で出来てゐた]。矢は豚の肩
骨であつた。家に歸つた。娘に云ふ
やうには、「お母さん、皆さんは私の革
袋を笑ひました」と云つた。「薪と鬼茅
を取つて下さい」と云つた。「薪は何に
しますか」と母が云つた。「私は太陽を
射ます」と云つた。「友人と共に行きま
す」と云つた。縄を作つた。其を家に
結びつけた。縄を引いて行つた。太
陽の休み場に到着した。隠れた。太

1. ka:manumanu ka-manu-manu, manu 子。
aratatija <tatija 大, ara- になる。
2. arapa:kanag ara-pa:kanag pa:kanag 智慧。
tsüüjaünü <tsüüja, tsumatsü'ura 見る。
kijai => kijai 彼、彼等。鳥を指示する代名詞か？
3. ijatsuunu <mijatsu'u 指にて示す。
4. pana'un pana'ü+ini ?
5. nimatsai <matsai 死す。
7. taniuraü <v taniura'ü たます。
pa 尙、未だ。
8. mukusa rümura 「出産」を「山へ行く」と云ふ。
9. mutsanu mutsanumu 「水を汲む」、<tsanumu 水。
12. vurini vuru+ini, vuru 弓。

14. poi:kan puwa-ai kani の急速なる發音。
natsina tsina 母, na-「死人」、例. natsuma 亡父、
namanu 亡息。
15. tsinuru'ü ts-in-uru'ü 笑はる者, ts-um-uru'ü 嘲笑す。
比較 matsatsa 笑ふ。
moku maku ?
17. teanaumanj taija naumani. taija 729頁, 註. 13.
naumani 「何」
18. taimaku 或は taiku 参照概説 IV. 3. b.
pana-un <pana-ü 射撃す。
numakasuinja 「それなら」と云ふ説明を得。比較 nu
umpana ku nija 731頁, 註5。

- ¹ ninja maratso:qwa kita ai [avai / kiata-
同行する 我々 友人 縄を指
- ² [i]i kani / kijai kani'inija tanasa ini /
ふ 結合する 其 家 彼の
- ³ nasai kani inija / makatsüküna tataü-
其 到着す 休み
- ⁴ puruwa tanijaru / uramagai kani inija /
場 太陽 隠れる 彼
- ⁵ a]a]akau kani suwa tanijaru / nu umpana
現る 太陽 若し 射る
- ⁶ ku nija [avai ja musutavuru kita ai /
私 其 友達 水に入る 我々
- ⁷ a]a]akau kani suwa tanijaru / u]ugai
現る 太陽 脱ぐ
- ⁸ kani inija takuijini tsumai / maritupuku /
彼 彼の皮衣 熊 はたく
- ⁹ naumani kasu ai]i totopuruwa maku
誰 汝 に於て 私の
- ¹⁰ misakani / pana ai kani sa naparamatši
云ふ 射られたる
- ¹¹ tanijaru / mustavuru kani tso:tsonumu /
太陽 水に入る 水溜
- ¹² ko: kani pakisapatü suwa vali ini / pana
なし 遠かに、間に合ふ 友人 彼の 射られた
- ¹³ ai kani sa tsara'ü tanijaru / powai'i kani
血 太陽 歸る
- ¹⁴ matisapüsapü / arapituü kani mijajanaü /
暗い處を手探りして歩く 暗くなる 永く
- ¹⁵ mi'aranasu kani suwa tsau karanana /
困る 人 外の
- ¹⁶ akija kani tsu sisi'ina ini / mata kaüna
なし 燃料 彼等の 及び 食物
- ¹⁷ ini / namarunü kani tsu kiai tanüavini /
彼等の 焼く 島小屋
- ¹⁸ sinapini kitami / kaijijai kani su tsau
彼等の光明 羊を圍る 祭る 人

陽が出た。「友人よ私が射つと私と共
に水に入りませう」。太陽が出た。彼
は熊の皮衣を脱いで[地面を]はたいた。
[己の休み場にゐる奴は誰れぢや]と云
つた。太陽はナバラマチに射られた。
水溜に入つた。友人はのろかつたの
で、太陽の血で射たれた。手探りして
歸つた。久しく暗黒になつた。外の
人々は難澁した。たきものが無かつ
た。食物も、彼等は島小屋を焼いた。
明くして羊を掘つた。人々は太陽に
供物を捧げて祭をした。太陽が来た。
太陽が一寸と来て、歸つた。段々と西
に入つた。西に入つてしまつたから
好くなつた。昔の太陽は二個であつ
た。ナバラマチが射つたから、一つだ
けになつた。

1. kiata]isi <ta]isi 縄. kia-
2. kijai kijai+ai, kijai <k-um-aki]i 結合す。
3. nasai nasü+ai mari-nasü (縄、電線等を「牽引して」
進む。
inija 縄を指示す。
tataüpuruwa <taupuru (座して) 休息す, ta~a 「場
所」「太陽の休み場」は太陽の出現する處。
4. uramagai uramaga+ai, uramaga 隠れつゝ、射撃す。
5. nu umpana ku nija =nu moapanau ku inija nu
は「條件」若し、の時。

7. u]ugai u]ugu+ai umau]ugu 脱ぐ。
8. takuijini takuijini+ini takuijini 皮、皮衣。
9. totopuruwa =tataüpuruwa
10. naparamatši 此物語の主人公の名。
11. tso:tsonumu <tsanumu 水。
12. pana <moapanau
14. arapituü 比較 mapituü 暗き。
17. namarunü <namaruu 焼く。
18. sinapini sinagu+ini.
kitami <tami 羊 ki-「採取」

- ¹ suwa tanijaru sumavuj / ivatu kani suwa
太陽 供物を捧げる 来る
- ² tanijaru / mua[ivatu kani] ivatu suwa ta-
太陽 短時間来る 来る
- ³ nijaru / puwai'i kani / ipana'ini aramata[ai]
太陽 帰る 段々 西に没する
- ⁴ kani / mija kani mata[ai] tsija mamanuj
西に 西 好
- ⁵ kani tsu / suwa kani na tanijaru mijana
太陽 昔
- ⁶ na: urut[šini] kani / pana ai kani sua
二個 射られた
- ⁷ naparamat[ši] / utsani kani tsu mazmija /
一個 のみ

2. mi[š]i tsanumu

- ¹⁰ nivatu vuruga ku[š]isivatü / tumüüpü
来た 鯉 側面に向く 駆く
- ¹¹ tsakuranu a[š]atumuru tsanumu / uma[š]uru
河 溜る 水 逃げる
- ¹² tsau / nuknsa tinum[umu]u ti[š]ipai / ivatu
人 行く 高山 少し 来る
- ¹³ tsanum umunüpu inija / mutsanu tsau
漲る 其 行く 人
- ¹⁴ a[š]ava[š]i / mukusa tinmu[umu]u naüsu-
移轉す 高山 藤包
- ¹⁵ rana / mu'una tsu inija / maunaju arau-
山 居る 其處 泊る 一緒
- ¹⁶ kukunu mata marakürakürapü / ka'anü
に 及び 毛物 不
- ¹⁷ tavarau'ü kumaünü akija apu[š]u / mi'ara-
可能 食す 無 火 困却す
- ¹⁸ nasü tsu taama:karikari nmikaru apa[š]a
る 相談する(未来) 雇ふ 取らせる

1. sumavuj < savuju 供物。
3. aramata[ai] < mat-lai 西。
4. tsija =tsu ja 比較. tsu kija> tsikija.
5. na, na: 過去の意義を有する? 比較. 接頭辭 na-「故
人, 死人」指數代名詞 na 其處.
mijana mija に同じ. -na も 60 の na と同性質か?.

採録期: 昭和六年八月.
口授者: マガメツ(taganuwa)š, avija naušana (男, 當時
51歳), 同社, pu[ato] apuwana (男, 當時57歳).
説明者: ランツルガ(rantsuru[š]a)š, pau naušana (男,
當時23歳). 説明者は舊制教育所卒業生.

2. 洪水

鯉が来て[河を]横切つて臥した。河
を堰きとめたから水が溜つた。人々
は逃げた。稍高い山に行つた。水が
来てそれを覆うた。人々は移つて藤
包山に行つた。其處に居た。毛物と
一所に泊つてゐた。火がなかつたか
ら食べられなかつた。困却して[誰か
を]雇つて火を取らせる相談をしよう
といふことになつた。山羊だけが出

10. nivatu ivatu 来るの過去.
ku[š]isivatü < sivatü 側面. 接頭辭 ku[š]- 用例 ku[š]-
[autsu 河の下流へ向く < ama[š]autsu 下流.
tumüüpü t-um-üüpü. 比較. ツオウ (e)tüpü 淵.
11. a[š]: tumuru tumuru 水溜. 湖. a[š]- (他の例は ara-)
になる.
13. umunüpu 漲る. 例へば橋に水を充滿せし場合. 水のみ
に用ふ.
mutsa:nü < tsa:nü 道.
18. umikaru um-ikaru 雇人.
apakšuni:je apakašunau ini ai の略形. kašunau 食す.

- ¹ apu[š]u / inimamija ta'uru[š]u tavarau'ü /
火 のみ 山羊 可能
- ² makanapu[š]u mutsa:nü mukusa tanu'ü-
泳ぐ 歩む 到着する 新高
- ³ ŋ'intsu / una apu[š]u / puwai'i ta'uru[š]u
山 有 火 帰る 山羊
- ⁴ umavit[š]i apu[š]u / ivatu tinmu[umu]u
運ぶ 火 来る 高山
- ⁵ naüsürana / matsa[š]atsa[š]aru tsu tsaü /
藤包山 喜ぶ 人
- ⁶ aranaš inija pautsipitsu kašuna / a[š]anaš
後 共 炊く 食物 後
- ⁷ inija makarikari tsaü mata marakür-
共 云ふ 人 及び 毛物
- ⁸ kürapü / marivari vavuru / mo[š]tsa ku:
返事す 猪 行く 私
- ⁹ ai mukusa inija maipatsai vuruga / pu-
赴く 其處 殺す 猪
- ¹⁰ karikari vavuru / apakšun[š]e mamanu
云ふ 猪 食はす 子
- ¹¹ maku nimukü mu / maatsunu ku e /
私の 植えたもの 汝の 渡る 私
- ¹² mutsa:nü mukusa inija / kumaünü ku-
歩む 行く 其處 食す
- ¹³ türükü / kipapa inija maatsunu / aranaš
切る 一緒に 共 渡れ 後
- ¹⁴ inija arakija tsanumu / aranaš inija una
其 無くなる 水 後 共
- ¹⁵ tsu [a]tawatawanuka / una ma[š]u[š]tsai
土地の凸凹 高い
- ¹⁶ ünai / š i nimiva[š]u ünai / mija aranakaru
土 泥になつた 土 既に 干上る
- ¹⁷ tsu tsanum ja / aranaš inija tsaü ma-
水 後 其 人
- ¹⁸ avöavöaru mata marakürakürapü / ma-
分離す 及び 毛物
- ¹⁹ karikari kimi ai / tsaü kimi ai / mara-
云ふ 我々 人 我々
- ²⁰ kürakürapü kamu ai / ma:karikari ma-
毛物 汝等 云ふ
- ²¹ rakürakürapü / mariaka kimi ai / kamu
毛物 嗅ぐ 我々 汝等

来る。泳いで行つて[タヌウインツ]
山にいった。火がある。山羊は火を
運んで歸つた。藤包山に行つた。人
々は喜んだ。その後飯を炊いた。そ
の後人々は毛物と相談した。猪が返
事をした。「私が鯉を殺しに其處へ行
かう」猪が云ふ。「私の子供にあなた方
の作物を食べさせて下さい。私は[水
に]流れる」。其處へ行つて[鯉を]食ひ切
つた。一緒に流れた。それから水が
なくなつた。それから[土地の]凸凹が
出来た。高い土地も出来た。土地が
泥になつた。水が乾いてしまつたか
ら、其後で人は毛物も分れた。我々は
云ふ。「我々は人になる。御前達は毛
物になりなさい」。毛物は云ふ。「我々
は嗅ぐ。あなた方の臭ふのを」。[それ
でも御前を射つつもりだ]と人が云つ
た。それから[毛物は人を]みると悪い。
射たれるかも知れない[から]。それか
らナツガに行つた。其處で鳥を作つ

10. mamanu manu 子の反響.
11. nimukü 現在. moamukü.
e = ai
14. arakija ara-akija ara- になる.

16. si 「條件」(?).
nimiva[š]u miva[š]u 泥になるの過去.
aranakaru nakaru 干地.

- ¹ wa marisovu / apatsuaija te kamu pana-
臭 それにも勝るに 欲する 彼等 射
- ² ʔunu / aranaī inija nu: tsumūūraini ja
後 共 若し 見れば
- ³ maʔitsūpūtsu / sii tāi tsu panaūnu / aranaī
抽しかる 射る 後
- ⁴ inija mukusa natsūpa / muʔuna tsū inija
共 行く (地名) 居る 共處
- ⁵ kaumauma / matsapatsaparu tsu tsaū
耕作する 喜んである 人
- ⁶ uuna tsū kōūna / miaisuwa ja makaŋūtsū
有る 食物 共時 少し
- ⁷ uma apatsuaija / ittomuru kōūna / ka-
島 それにも拘らず 多 食物 な
- ⁸ anu kuwavaŋuŋuŋū utsaniʔi tsainana /
い 總て 一 年
- ⁹ miaisuwa ja paera:pa matsapatsaparu /
共時 引續き、常に 喜んである
- ¹⁰ ittamura kōūna / kaanu pa masukuwa-
多く 食物 不 引續き 病氣
- ¹¹ mü / mija[anaū pa muuna natsūpa ara-
永く 引續き 居る (地名) 増加
- ¹² katsauwa pa tsaū / mamūmūkütsū akija
する(人口) 引續き 人 困却する 無
- ¹³ tsu takamanuŋa uma / aranaī inija a[ā-
開墾すべき地 島 後 共 移住
- ¹⁴ va[ī napatana / kaumauma makaŋūtsū
する (地名) 耕作する 少し
- ¹⁵ kipapa inija tatsa:uini nipivura muuna
共に 彼等 彼等の犬 孕む 有る
- ¹⁶ inija kamanumanu / te pa poiʔi natsūpa
共處 仔を生む 欲す 尙 歸る (地名)
- ¹⁷ ši aiši pa inija kōūna ini aʔune inija /
故に 於てまだ 共處 食物 彼等の 彼等の
- ¹⁸ manu tatsau / ivatu tʃina ini / [umaŋan
仔 犬 来る 母 彼の 術ふ
- ¹⁹ manu ini / aiʔi napatana / pariivini sa
仔 彼の 持ち歸る (地名) 跡をつける
- ²⁰ tatsau ini / umaʔunu kōūna ini / muʔuna
大 彼等の 背負ふ 食物 彼等の 居る

1. wa 接辭 (?)
apatsuaija apatsu ai ja (?)
3. maʔitsūpu maʔitsūpū?
sii si 此の用法は「理由」を示す。
5. kaumauma <uma 島, ka-
6. miaisuwa ~me:suwa <isuwa, suwa 共, 比較. サア
ロア ma:tsuwa.

てゐた。食物があるから人々は喜ん
だ。其時島は少かつたがしかし、食物
は澤山[あつた]。一年間で盡きる事が
なかつた。その時にはづつと喜んで
ゐた。食物は澤山あつた。病氣もし
なかつた。永い間引續きナツガにゐ
た人も相變らず増えた。開墾すべき
島がなかつたから困つた。それから
ナバタサキへ移つた。少し開墾した、
彼等の犬も一緒に來てゐた。共處で
孕んで仔を生んだ。又ナツガに歸り
たい食物がまだ向うにあるから。犬
の仔を背負つて行つた。親犬が來た。
仔を啜へて、ナバタサキに持つて歸つ
た。犬について行つた。食物を背負
つて、共處に[ナバタサキ]居て家を作つ
た。それから人々が來た。すべての
人達は家を作つた。すべての人達は
共處に久しくゐて總てのものは島を
作つた。其時には蕃人はまだ病氣に

11. arakatsauwa ara-ka-tsau-a <tsau 人, katsaua 人の
多き事。
13. aravari a[ava]i 732頁, 14行。
16. kamanumanu <manu 子 ka-
17. aʔune aʔunaī, umaʔunu 背負ふ。
19. aiʔi <puaiʔi (?)

- ¹ inija kazmanūŋū tanasa ini / aranaī inija
共處 作る 家 彼等の 後 共
- ² ivatu tsu tsaū / kaavaŋuvaŋu kaamanūŋū
来る 人 總て 作る
- ³ tanasa ini / kaavaŋuvaŋu muuna tsu inija
家 彼等の 總て 居る 共處
- ⁴ mija[anaū / kazumauma kaavaŋuvaŋu /
永く 耕作する 總て
- ⁵ mijaisuwa ja kaanu pa masukuwamu
共時 不 未だ 病氣
- ⁶ tsaū / arakatsauwa muʔuna inija mija[ā-
人 人口増加する 居る 共處 永く
- ⁷ naū / aranaī inija katsauwa tsaū / aranaī
後 共 人 後
- ⁸ inija a:katsupū:ŋini pakisija ivatu parita-
共 性質の悪い 本嶋人 来る 戦ふ
- ⁹ nasū / maaʔunuŋu arupakapatsai / nima-
たいきあふ 殺し合ふ 死
- ¹⁰ tsaī tsaū mukumapitunu / kau tsu avunai
人 人 七十人 無 埋める
- ¹¹ tsaū nimatsai / aranaī tsu inija umaŋuru
人 死んだもの 後 共 逃ぐ
- ¹² a[ava]i ūmūmūru mija[anaū / aranaī
移住する (地名) 永く 後
- ¹³ inija / mukusa tavarana tsūtsūma ini / ara-
共 行く (地名) 残りもの、一部 彼等
- ¹⁴ nimukusa aŋʔuwana tsūtsūma ini / ara-
(地名)紅花仔 残りのもの 彼等
- ¹⁵ naisuwa taniura ai sa pakisija / paka-
共後 傳染する 本嶋人 病氣に
- ¹⁶ sukuwamū / matsai kavaŋuvaŋu tsaū /
する 死ぬ すべて 人
- ¹⁷ kanairatsu kōupaī matsai / aranaī inija
少人数 未だしない 死す 後 共
- ¹⁸ a[ava]i tanūʔūtsū muʔuna tsu inija / ka-
移住する (地名) 居る 共處
- ¹⁹ aumauma mija[anaū / ivatu kananavuru /
耕作する 永く 来る 大埔(臺中州)の住民
- ²⁰ maʔunuŋu tsaū akija nimatsai tsaū / itto-
争ふ 人 無 死んだ 人
- ²¹ muru nimatsai kananavuru / aranaisuwa
多く 死んだ 大埔の住民 共後
- ²² akijatsū tanasa / ninamaru kananavuru /
無 家 焼かれた 大埔の住民

8. a:katsupū:ŋini. a:ka 悪 -tsupū:ŋu 考 -ini 共。
10. avunai umavunu 埋葬す。
11. aranaisuwa aranaī isuwa.

ならなかつた。共處に永い間ゐる人
数が増した。その後蕃人は澤山にな
つた。其後悪い本島人が戦争をしに
來た。なぐりあふ殺しあふ。死人は
七十名[あつた]。死人を埋葬しなかつ
た。其後ウムムルへ逃げ移つて永い
間居た。其後一部はナバタサキに行き、
一部は紅花仔に行つた。それから本
島人から病氣が傳染して、病氣になつ
た。澤山の人々が死んだ。死なない人
は少い。其後にタヌウツへ移り、そこ
に居た。永い間耕作した。大埔の人
が來た。蕃人と闘つたが蕃人には死
人がなかつた。大埔の人は多く死ん
だ。其時から家がなくなつた。大埔
の人に焼かれたから、それからナウブ
アナに行つた。家を作つた。それか
ら開墾をした。永く共處に居た。開
墾地が悪くなつたので、その後河表湖
へ移住した。

17. kōupaī kau pa ai kōupaī mukusa 未だ行かず。
22. ninamaru <namaru.

- ¹ aranaisuwa mukusa na²uvuana / kama-
其後 行く (地名) 作る
² nūpū tanasa / aranajisuwa kaumauma /
家 其後 耕作する
³ muuna inija mija[anaū / aka tsu takau-
居る 其處 永く 悪い 開墾す
⁴ mauma / aranaī inija a[ava]i rantsuruŋa /
べき地 後 其 移る (地名)河表湖

3. mijji tsanumu

- ⁷ nimurisivatu tsakūranu suwa vurūpa /
側面へ向く 河 鱧
⁸ ivatu suwa tsanum tatija / mattatsuvu-
来る 水 大 集合する
⁹ tsuvuŋu suwa tsa:u / nimu²una tanu²uŋ²-
人 居れり (地名)關
¹⁰ intsu / karanana nimu²una nausūrana /
山(?) 他の 居た (地名)藤包山
¹¹ mamūmūkū akija apu[ū / pukarikari kani
辯論する 無 火 話す
¹² una intsu / ivatu suwa ta²uruŋ / kaanu
有 先祖 来る 山羊 不
¹³ ma²utsūpū tsanum / matsanu mukusa
恐怖する 水 歩く 行く
¹⁴ naūsūrana / umavitji apu[ū / matsapatsa-
(地名) 運ぶ 火 喜ぶ
¹⁵ ŋaru tsaū / pukarikari una intsu / ivatu
人 話す 来る
¹⁶ suwa vavuru kumaunu vurūpa / akija tsū
猪 食ふ 鱧 無
¹⁷ tsanumu / pukarikari suwa vavuru / voū
水 話す 猪 與へよ
¹⁸ ku kauna / vuənu inija nakūvu / pi[ā
私に 食物 與ふ 彼に 品物 與ふ
¹⁹ vaŋuvəŋu / nuwari ja kata[ā]a[ū ku: ai /
すべて 後に 愛撫す 私
²⁰ apakaūnu ni:mūka /
食はす 種ふたもの

3. takaumauma ta-ka-uma-uma. 類別, takatanasa 家
にてを建築する場所。

採録期: 昭和六年八月。
口授者: マグツン(vəŋatsunu)社, puntau navilaŋana (男,
推定40歳)。

3. 洪水

鱧が河を横切つて臥したので、大水
が出た。蕃人は集つた。「タスウイン
イツ山にゐた。「ナウストラナ」にゐた人
もあつた。火がないので難澁した。
先祖は話した。山羊が来た。水が恐
くない。「ナウストラナ」へ歩いて行つた。
火を運んで来た。蕃人は喜んだ。祖
先は話した。猪が来て鱧を食べた。
水はなくなつた。猪は話した。食物
を私に下さい。彼に品物を與へた。
全部與へた。後で私を可愛がつて下
さい。作物を食べきして下さい。

説明者: 同社, avija ikauwana (男, 当時19歳)。説明者は
蕃童教育所卒業。當時河表湖警察駐在所警手勤務。
17. vouku vuwāū ku の略形。moəvuwa 與ふの命令形。
13. vuənu vuwa-ūniū の略形。<moəvuwa
pi[ā 取らせる (?) <uma[ā 取る (?)。

4. arakuruturuvu

- ² nikamanumanu kani kiai / aratatiŋa
出生した 成長する
³ kani / muru²utsaŋū tsu ku tšina / komo
妻帯する 母 待つ
⁴ pa kopemusutuwa tsainana musu / arana-
尙 不足する 年 汝の 今
⁵ [apaisija makatsukūna pe na anijatsaŋū
後 達する 對しまで 肩
⁶ sū vūkūsi sū / makatsukūna kani ani-
髪毛 汝の 達す
⁷ janijaatsaŋini vukūsiŋi / ka²anu pa ku
彼の肩 彼の髪 勿れ 未だ 我
⁸ muru²utaŋu tšina / makatsukuna paina
妻を娶る 母 達す 對しまで
⁹ kükū musū vukūsi sū / mu[ū]utsaŋa tsu
髻 汝 髪 汝の 髪れよ
¹⁰ ?ai / makatsukūna kani na kükū ini
達す まで 髻 彼の
¹¹ suwa vūkūsiŋi / muru²utsaŋū tsuku mi-
彼の髪 娶る 私
¹² sakanīi / ka²anu kasu muru²utsaŋu / kisaī
云ふ 勿れ 汝 娶る 云ふ
¹³ ?inija / a[aku]a tsu / umara paŋaru /
共 怒る 取る 箱
¹⁴ mukusa tatapiniŋa / tso:manu kasū tsu
行く 屋外 汝
¹⁵ u[ut]šina / tsumatsū²u[ā paai ikuwa / ara
母 見る に對し 我 取らぬ
¹⁶ inija paŋaru / matatsukūtsukū tatapiniŋa
彼 箱 地に挿す 屋外
¹⁷ mutširi / aratūmū kani tsu una atšipin
立てる 出る その 彼の足
¹⁸ ramiši tu[uvu / aranaī kani inija / pa-
根 薄 後 共
¹⁹ ratsani /
歌ふ
²⁰ piu²ūna

4. 人薄に化す話

子供が生まれた。成長した。「お母さ
ん、私は妻をもらひます」。「待ちなさい、
お前さんはまだ年が足りない。お前
の髪毛が肩へとく時に、彼の髪毛が
肩にとくいた。「お母さん、私はまだ嫁
をもらつちやいけないですか」。「髪が
足のフクラハギにとくいた時に、嫁を
もらひなさい」。彼の髪はフクラハギ
にとくいた。「私は妻をもらひます」と
云つた。「お前さんは嫁をもらつては
いけない」。そのやうに彼女は云つた。
[子は]怒つて、箱を取つた。外に出た。
「お母さん、あなたは私の面倒をみてく
れません」。彼は箱を取つた。屋外の
地面に挿し立てた。薄の根が彼の足
から出た。其の時から話される。

ピウウナ調

採録期: 昭和六年八月。
口授者, 説明者: マグツン社 avija ikauwana.
3. muru²utsaŋū utsaŋū 妻 muru-
komo “待つ”といふ説明, 原形不明。
4. kopemusutuwa ko pa ai musutuwa (?).
6. vukūsi sū vūkūsi sū, ū>i 音の異化?
anijanijaatsaŋini anija-anijaatsaŋū-iui.
7. vukūsiŋi vukūsi-ici

9. mu[ū]utsaŋa tsu ai mu[ū]utsaŋu の命令, 助辭 ai も
命令に屬々附加せらる。
15. tsumatsū²u[ā 1. 見る 2. 世話す。
17. una atšipin una “存す” “共” atšipi-ici.
20. piu²ūna 歌謡の一形式, 粟倉種祭に於て歌はる, 歌種
と招魂の關係深く, 此 piu²ūna には祖先の靈を招ふ
内容のもの多し。歌謡の言語は日常語と異なる歌謡, 雅
語にして彼等自身も其意味を詳かにせざること多し。

- ¹ tšina tsuma ma[atu]utujuvu tšī kimi いざさらば父母よ、薄尾花にわれは
母 父 薄に化す 我々
² nija[iku] vaninaku vūnūtū / なる、つまを乞へどもわが母は、許し給
妻 懇慮する
はず悲しくて。

5. nimatapa[ī]i kaḡutsa
落ちた 天

- ⁶ nimatapa[ī]i kaḡutsa mijana / nimusu- 昔天が落ちて、高い山にひつかゝつ
落ちた 天 昔 引掛る
⁷ [a:nu] tšimatšima?uru / nivatu kani ku- た。獸は皆來た。揚げられなかつた。
高い山 來る
⁸ rakurakurai kavavuvavu / kaanu kani ビビクライを呼びにやつた。「私は體
獸類 總て 不能
⁹ takunaūnū kiei / pukari jai kani inija が小さいから勿論駄目でせうよ」と云
揚る 揚る 呼ぶ 彼等
¹⁰ viviku[ai] / ipakija ai akuoi tiḡei tsaū つて、押上げかゝつた。ビビクライビ
(鳥の名) 勿論 私 小 身
¹¹ misakani / mitakitšī kani inija / viviku[ai] ビビクライと云つて、天界まで[押して行
云ふ 取りつく 其 (鳥の名)
¹² viviku[ai] misakani / tumakusa kakavū- つて]、ビビクライは地上に落ちて來
云ふ まで 空
¹³ tsa / matapa[ī]i kani / ūna?ūnai viviku[ai] / た。
落下する 地上 (鳥の名)

6. tunuḡukaḡkaū

- ¹⁶ voūku tutu taḡutaḡu tšina / makina[ā]a [お母さん南瓜の種子を私に下さい]。
我に與へよ 種子 南瓜 母 買ふ
¹⁷ tsomu su / makina[ā]a vai su / akija vua [お父さんに貰ひなさい。兄さんに貰
父 汝の 買ふ 兄弟 汝の 無 無へもの
¹⁸ kasu wa / nu makasuweni ja / ḡkaū ひなさい]。「お前にやらない」。「それな
若し それならば 猿
¹⁹ kuje / a[ainija] ka[lu] / sūtsūḡūn tataitsa ら、私は猿になります」。薪を取つて、尻
私 取られる彼 木 挿す 尻
²⁰ ini / mupa[ra] tsu / mupara ka[lu] ka[lu] / に挿し入れた。登つた。木から木へ
彼の 登る 登る

1. tšikimi tsu kimi

採録期：昭和六年八月。
口授者：avija nauwana 及び pu[ato] apuwana。
説明者：aḡḡai voruwana 及びタガメツ社 takai。
7. kurakurakurai 同義、marakūrakūrapū。
10. viviku[ai] 上方へ高昇する習性を有する小鳥。
ipakija?ai 勿論出來ず、どうしても出來ず。例。

5. 天が落ちた話

6. 猿に化す話

ipakija?ai ikuwoi mukusa inija 如何にしても我は
其處へ行かぬはず。

12. kakavūtsa kaḡutsa 天の反覆。
13. una?ūnai unai 地の反覆。

16. makina[ā]a 比較、pi[ā], uma[ā]
18. makasuweni maka-suwa-ini (?)

- ¹ tumpala pa[aku] / ḡkaū tsū / と登つた。キーキーと鳴いて、猿にな
(猿の叫聲) 猿の
つた。

7.

7. 父のない兒の話

- ⁵ utsani ma:mija nanakū nipivura / akija 昔々、女獨りで孕み、夫なしに子を
一 昔 女 孕んだ 無
⁶ utsapini kamanumanu / pukarikari manu んだ。その[ててなし]子が[石に對し]云
彼の連合 子を生む 云ふ 子
⁷ ini / a[avija] vai / mukusa inija tanasa ふ「割れなさい」。彼の家へ行き石の内
彼の割れたもの 石 行く 彼の 家
⁸ ini una aravaḡ vatu / a[apapiniḡi] suwa に入つて住んだ。その子は外に出て
彼の 居る 内 石 外に出る
⁹ manu tsumu?ū[ā] unai kai[ā] ita?itanu / 見ると、土地はすべて断崖であつた。
子 見る 土地 總て 崖
¹⁰ akija touna tsaū / patapani ai inija unai 蕃人の住む處がない。杵で[土地]を一
なし 住む處 人 搗く 低 地
¹¹ matanumamija / masukumanūḡu tsu ma- 度搗くと、半分は平らになり。残りは
一回のみ 半分
¹² [inu?ū] / ita?itanū pa tsutsuma ini / 相變らず断崖であつた。
平らなる 断崖 相變らず 残り 其の

採録期：昭和六年八月。
口授者：avija nauwana 及び pu[ato] apuwana。
説明者：paū nauḡupana。
5. utsani 1. — 2. のみ。

6. utsapini utsaḡu+ini
8. a[apapiniḡi] <pi-piḡini 外、tata-piniḡa 屋外。
10. touna taūna <(mu)?una 居る。
11. matanumamija mamija のみ。

XII

ヤ　　ミ　　語

語　法　概　説
及　び　本　文

ヤミ語語法概説

I. 分 布

ヤミ語は紅頭嶼に住むヤミ族(約1,600人)の言語にして、同族は七部落に聚落すれども殆ど方言的差異無く、東海岸の部落と西海岸の部落間に微細なる方言的差異あるのみなり、ヤミ語は臺灣本土の蕃語よりは、寧ろバタン語に近く、言語系統上より觀れば、ヤミ語をバタン語の一方言に位せしむを可とす。

II. 音 韻

1. 母音 [o], [u], [ɔ] u-音は基本母音第八號より可なり廣く嚴正に示せば [ɔ] 記號を使ふべきものなれど、原文書換に於て [u] 記號を用ひたり。[o] は略基本母音第二號に當るものにして、u-音は此 [o] に屢々變位する。原文書に [ɔ] を使用し [u], [ɔ], [o] と三様の書別を試みたり。而して其の場合の [ɔ] は [o] に近似せる音を示す。要するに語原的には [ɔ] 記號一個とを以て示せば充分なるも、[ありのまゝ] に示す本調査の主義よりして聽きしままに [o], [u], 或は [o], [ɔ], [u], と書別けしものに過ぎず。

1. [i] 基本母音第一號より廣く [i] に近し、屢々 [i] 或は [e] に變位することあり。
2. [ɪ] 中間母音 [ɪ] 存在す。バタン語の pépet 音なる i/e に相對す。ヤミ [anim] 四 <バタン anim 四, 比較, チャソ nem. ヤミ [pusid] 臍 <バタン pusid 臍, 比較, チャソ pusēr 臍, ヤミ [agib] 夜 <バタン axep/axip 夜, ヤミ [atip] 屋根 <バタン atip 屋根, 比較, チャソ atep 屋根。

2. 子音 β 兩唇音

1. l 齒裏或は齒齦の側音。ヤミ [l] <バタン y. 例, ヤミ [kawalan] 竹 <バタン kawayan, ヤミ [tatala] 舟 <バタン tataya 舟, 但し ヤミ [j] <バタン y の場合もあり。例, ヤミ [ujat] 血管 <バタン uyat 血管, IN. ur.at, ヤミ [βaju] 新 <バタン vayu 新, IN. bar.u. 而してバタン y は IN. r₂ に相對す。故に IN. r₂ >バタン y >ヤミ [l/j], 例, [1]; IN. bar.at 西 >バタン ka-vayat-an 西 >ヤミ ka-βalat-an 西, IN. bara 塊 >バタン mi-baya 赤 >ヤミ miβala 赤. [j]; IN. jar.om 針 >バタン dayem / rayem >ヤミ lajom 針, IN. niur₂ 椰子 >バタン niyo >ヤミ anjuj(i).

2. [d], [l], [s] 反轉音 (cacuminal, retroflex) [t] も若干反轉音的傾向あるも、原文書換には反轉音の記號を附せず、[d], [l] の調音部位は前硬口蓋而して [l] は舌尖を用ふ、稀に轉音 [r] に變ずることあり、ヤミ [l] < バタン r, d. ヤミ [d] < バタン d 例、ヤミ [ala 血 < バタン raya 血、ヤミ [likud^o 背 > バタン dichod 背、[d] は主として終音に現はれ、頭音に現る場合は d^o, d^a の冠詞、代名詞、中音に現る場合稀なり [mumu^oan] 鼻。
3. g 摩擦の度少く屢々摩擦を失ひ [u] の響をなす。kagašan > kaūšašan. この [g] はバタン語の [x] 音 (h 或はイスパニア風に j にて記せられる) に相對す。例、ヤミ [kagašan] 森 < バタン kaxasan 森、ヤミ [məjakai] 男 < バタン maxakay 男、IN. l (i 音を後に有するものを除く) > バタン x > ヤミ g の音韻法則を見出す。IN. lanit 天 > バタン hañit [xarit] > ヤミ [gañit], IN. jalan 道 > バタン rarahan [raraxan] > ヤミ [a]agan, IN. ulu 頭 > バタン oho [oxo] > ヤミ ogo, IN. balay 家 > バタン vahay [vaxai] > ヤミ βagai, IN. puluh + > バタン poho [poxo] > ヤミ [pogo] / [poño]
3. 硬口蓋音化、IN. [kali] 掘る > バタン kadi > ヤミ [kañi], i 音前の IN. l は側音的硬口蓋音なる [s] となる。語原的には [l] なる音も i 音を従ふ時は屢々 [s] に變ず。バタン語に於て IN. yi > pi の硬口蓋音化の現象あり：IN. lanit > バタン hañit [xapit] ヤミ語に於ては [p] を保留す ([pi] 音を用ふ人もありと後藤氏より聞く) 類例、IN. anin 風 > バタン añin [apin] > ヤミ mikapin 風、バタン miñin 痛 > ヤミ miñin 痛。フィリッピン語 ki > バタン chi > ヤミ tsi, バタン chi の硬口蓋音化はヤミに於て存在す。例、tagalog kidlat 雷光 > バタン chi^oat > ヤミ √tšiat, locano takki 糞 > バタン tachi > ヤミ tatsi 尿、tagalog kita 見る > バタン chita 見る > ヤミ √tšita 見る。
4. 終音、母音は聲門閉鎖音を伴ふ、mata^o 目 pat^o 石、破裂音及び鼻音は入聲即ち破裂の無き破裂音となる。anak^o 子 kanin^o 食物 maḡap^o 取る (原文書換には^o及び^oの記號を畧せり。但し繼續せる語は終母音の後の^oは消え breath-group の最後の語の終母音のみに^oを従ふ。
5. 「わたり音、語根の終音母音なる時 -in の接尾辭來れば、[わたり音として] [g] 音發生す。tu^o 指す > tu^ougin 指す物、matšita 見る > tšitagin 見る物、頭子音に發聲の a を冠することあり。バタン mian 有 > ヤミ mijan / amijan バタン tud > ヤミ atud^o。

6. 無氣音的破裂音、[p], [t], [k] は無氣音的なり。
7. 揚音、最後の音節にあり。

III. 態形

1. 接頭辭 ka-, ma-, maḡ-, mi-, ŋi-, i-, pa-, paḡ-, pi-, matsi-.
1. ka- 状態、抽象名詞。ka-ḡai 行進、ka-busui 満腹、ka-tau-tau 體 < tau 人。但し ka-lijus 助産婦 < ma-lijus 水浴す。
2. ma- 形容詞。ma-ḡuḡu (川の) 淺き、ma-lalaḡ 偽、ma-taḡa 太き、ma-kai-kai 早朝、ma-šaraušau 涼しき < šaraušau 微風。
動詞。ma-patši 言ふ、ma-kušit 皮を剥ぐ < kušit 皮、ma-nakimnakim 考ふ < nanim 心。
3. maḡ- 動詞。maḡošoḡ 錐にて穴を明ける < ošoḡ 錐、manakaū 盗む < takaū 泥坊、maḡaju 採薪す < kaju 薪、maḡ-mata 生肉を食す < mata 生肉。
maḡ- の ḡ 鼻音と語根の頭音と音の同化のために音韻變化を起す。
a) 母音及び g の前には maḡ-, g は脱落、maḡ-ošoḡ, maḡap < maḡ+gap.
b) p の前には mam-, p は脱落、mamun^o < punun^o 充つ。
c) b の前には mam-, b は脱落することあり、mamokbok 開花す、< bok.
d) s, t, l の前には man-, s, t, l は脱落、manawud 編む < sawud 網、manakaū 盗む < takaū 盗人、manama 和合す < mi-lama 和合す。
e) k の前には maḡ-, k は脱落、maḡaḡi < kaḡi。
4. mi- 動詞
a) 「にす」 miḡatip 屋根を葺く < atip 屋根、mi-jakan 副食物にす、mi-tatala 造船す < tatala 舟、mi-ḡatik 畫く < ḡatik 紋様。
b) 「になる」 mi-koḡuḡ 夫婦になる < koḡuḡ 夫婦、mi-ḡalan 名づけらる、名になる < ḡalan 名、mi-anak 生る < anak 子。
c) 「を使ふ」 mi-ḡulaḡat 銀帽を被る < ḡulaḡat 銀帽、mi-šakop 傘を被る < šakop 傘、mi-ḡijaḡ 掃除す < ḡijaḡ 箒、mi-taḡiḡi [衣服を] 著す < taḡiḡi 着物、mi-tanatana 土器を作る < tana 土。
5. ŋi- 過去
ŋi-mijan 存在せり < mijan 存在す。ŋi-maḡai 行けり > maḡai 行く、ŋi-atip 葺きし屋根、屋根を葺けり < atip 屋根、ŋi-šawud 編みし物 < šawud 編む。

6. i-

- a) 道具. i-lu^{ai} 搖籠, i-lu^s 匙。
 b) 位置. 其處に位する人 i-laud 沖, 海外の. i-manila マニラ人, 紅毛人。
 i-^{patan} バタン島, バタン人. i-mo^{lud} イモロッド村。
 c) 受身. i-ka^{si} 愛せらる, i-kami^{jin} 笑はる > mam^{ijin} 笑ふ, i-pat^{si-pinapina} 賣
 らる。

7. pa- 使役.

pa-u^{şok-in} 降さるゝもの < ^vu^{şok} 降る, pa-ka^{luwan} 引去る < ka^{luwan} 外の。

8. -paŋ-

pa^{paŋ} 取らしむ, 持たしむ < pa^ŋ+^vga^p 取る, ma^ŋ と同様の音韻變化を起す。

9. pi- 使役.

pi-ku^{şuŋ-in} 夫婦にせられし(結婚せし人) < ko^{şuŋ} 夫婦。

10. mat^{si-}

- a) 欲望. mat^{si-japat} 欲す。
 b) 相互. mat^{si-k-i^{xi}-an} 同村人 < i^{xi} 村, mat^{si-pina-pina} 交易す, mat^{si-^{pu}suⁱ} 殺し
 合ふ。

2. 複合接頭辭

1. ika- (i+ka)

[受身] ika-mi^{jin} 笑はる, ika-t^{lu} 第三番目, ika-pi^{ja} 良くせらる。

2. ipi- (i+pi)

[受身] ipi^{tsibt^{sib}} 除草具 [mitsibt^{sib} 除草す], ipi-pu^{wa} 棄てらる。

3. ipaŋ- (i+paŋ)

ipam-b^{ot^bot} 毛抜き < b^{ot^bot} 毛を抜く, ipananawar 網 < mitawar 編む。

4. ipat^{si-} (i+pat^{si})

ipat^{si-pinapina} 賣る。

5. maka- (ma+ka)

maka-pi-pi^{ja} 改良す < pi^{ja} 良, maka-l^{ala} 上陸す < l^{ala} 陸, mak-amu^ŋ 漁る < amu^ŋ
 魚, maka-(a)^{şa} 一回 < a^{şa} 一。

6. mika- (mi+ka)

miku-aju 増水す < aju 河。

7. mipa (mi+pa)

mipa-l^{aku} 増大す < l^{aku} 大。

8. ma-, maŋ- は複合接頭辭となる時は -pa-, -paŋ- に變ず。

^vl^{ama} > manama > mat^{si}panama。

3. 挿入辭, -um-, -in-.

1. -um- 動詞

t-um-inun 織る > t^{sinun}-an 織機, t-um-ita 見る, s-um-a^{şoŋ} 花咲く < s^{aşoŋ} 花, -um-
 は接頭辭としても用ふ。 um-rat^{si} 鋸る, um-u^{şok} 降る, um-l^{aşi} 泣く。

2. -in- 完了

m-in-a^{lakat} 死せる[もの], p-in-atojun 招待せられし人 < ma-patojun 招待者。

4. 接尾辭, -an, -in.

1. -an,

- a) [場所] ka^{an} 穴 < mi^{ka^{xi}} 掘る。
 b) [道具, 物] t^{sinun}-an 織機, s^{aşulep}-an 入口 < s-um-lep 入る。

2. -in, 動作を受け或は關聯する[者, 物]を示す。

rakatin 殺さる[人] > ma^{lakat} 死す, t^{şitaşin} 見らる人或は物, a^{şin-in} 鹽漬, a<sup>şi-
 jaşijajin</sup> 命を有するもの, 生物 < şijai 命。

5. 接頭辭接尾辭併用

1. ka-an 場所

k-anitowan 墓場 < anitu 魂, ka-l^{ataj}-an 平地 < l^{ataj} 平なる, ka-^{patu-patu}-wan 石原
 < ^{patu} 石。

2. -in は各種の接頭辭と併用さる。

pi-pa^{lit-in} 交換物 < pa^{lit} 交換す。

6. 反覆, 部分反覆と全部反覆とあり。[強意][繼續][多種][類似][道具][數量]を示す。

1. 部分反覆

強意:—pi-pi^{ja} 極良 < pi^{ja}。

繼續:—mat^{si}tat^{şita} 探す < mat^{şita} 見る。

多種:—toko-tokon 山々 < tokon 山。

類似:—a^{şa}-^{şaŋ} 玩具の舟 < a^{şaŋ} 舟。

道具:—inu-inun-an 水壺 < minum 飲む。 pa-patok 槌 < patok 叩く。

數量:—l^a-l^{uwa} 二人 < l^{uwa} 二, ta-t^{lu} 三人 < t^{lu} 三。

2. 全部反覆,少数の例あり。

mi-ta-taṅ-taṅ 叩く <taṅ mi-ku-kum-kum 握る。

7. 終音節の反覆の特殊の例あり。

paṅa-pa 壺一杯の分量 <paṅa 壺, 比較 pa-paṅa 土器類。

IV. 品 詞

1. 冠詞

普通冠詞	主 格 (は) u	比較, Batan	u
	屬 格 (の) nu		nu
	處 格 (に,へ) du		du
	其他の格 su		su
人稱冠詞	主 格 si	比較, Batan	si
	屬 格 ni		ni
	處 格 dʒi		di
	其他の格 si		si

2. 冠詞の用法に不一致なる例あり。

(j)abu u kujiṣ 山羊は無し, abu nu mamaṣiṅ ṣu kanin 饗宴をせず, abu ṣu kanin 食物を欠く, (a)mijan は或は u, 或は ṣu, 或は nu の冠詞をとる。

3. 處格冠詞 du は接頭辭 i と結合し, dʒi- となる, i-tanaṣai 火燒島, dʒi-tanaṣai 火燒嶋へ。

4. 代名詞

		單 數	複 數	
			除對話者	含對話者
一人稱	主 格	jako, jakin	kami, jamin	jatin
	屬 格	ko	namin	ta, ta-kamu
	處 格	dʒakin	dʒamin	dʒatin
	其他の格	jako, jakin	kami, jamin	jatin
二人稱	主 格	imu	kamu, injo	
	屬 格	mu	njo	
	處 格	dʒimu	dʒinjo	
	其他の格	imu	kamu, injo	

		單 數	複 數
三人稱	主 格	sja ^{(sjawawau 彼等八人 sja) (を複数に用ふる例もあり)}	ṣiṣa
	屬 格	na	da
	處 格	dʒija	dʒiṣa
	其他の格	sja	ṣiṣa

5. 二人稱單數 ka は命令法疑問文にのみ用ふ。

mai ka dʒija! 汝此處に來れ, ano maṅa maṅai ka? 何時汝は行くか。

6. 時相, 嚴格なる意味に於て IN. 動詞は名詞にして, 動詞的名詞の明瞭なる時相は ni- を以て示さる。「過去完了形のみなり。

語根 √gap 取る。

maṅ- maṅap 取る者, 取る, 現在, 未來。

ni- niṅmaṅap 取りし者, 取れり, 過去。

-in aḡapin 取る者, 取る, 通時(現在, 未來, 過去)。

ni-an niṅpaṅapan 取りし處, 取りし物, 過去。

maṅap ko ṣu panai 我は茶碗を取る。 niṅmaṅap ko ṣu panai 我は茶碗を取れり。 aḡapin ko u panai 茶碗は我に取らる。

語根 √tʃita 見る

ma- matsita 見る人, 見る。 現在, 未來。

ni- niṅmatsita 見し人, 見たり。 過去。

-in tʃitaḡin 見らるもの。 通時。

反覆形 matsitatsita 探す(人) 繼續。

語根 √inom 飲む

minom 飲む人 現在, 未來。

niṅminom 飲みし人 過去。

inomin 飲まるもの, 飲用水, 飲まる, 通時。

niṅnomin 飲まれし飲料, 飲まれたり 過去。

語根 √kan 食す。

-um- koman 食す人, 食す。 現在, 未來。

niṅkoman / niḡakan 食せしもの, 食せり。 過去。

kanin 食物, 食せらる。 通時。

7. 命令法, 語根或は -in 形を用ふ。

inom 飲み, akan 食へ,
agapin 取れ, tsitagin 見よ,

8. 結辭

1. a 形容詞と被修飾語とを結合す。

例, laku a paŋa 大なる壺, malaŋaŋ a poŋso 白嶋,
 niasin a aŋiŋi 鹽肉, manakaū a tau 蝨人,
a の代りに冠詞 nu を用ふ例あり、彼等の説明に依れば良き用法にあらずと
(a)pija nu kanin 良き食物, maŋalaŋ nu aŋau 熱き太陽,
kaŋuwan nu iŋiŋi 外の村々, ikapitu n aŋau 七日目,

2. ka 數詞と共に數量を示す。

aŋa ka tau 人一人, aŋa ka amuŋ 魚一尾,

9. 助辭

1. am 主題となる語或は句と述語或は述語的句との中間に來り兩者を結合す。ある表現の次にそれに關聯する表現ある時は頻繁に用ひ句と句と結合する「而して」の輕き意味に用ふることあり。

u nitomunton am βunitan u nijakan da / mikaŋakaŋa ŋiŋa (a)m makatsita ŋu aŋiŋi
a ŋuŋi 原文 779 頁 1 行、次は百合が彼等の食物となり、彼等は探すと小さな水芋を見出す。

2. ta 接續詞的助辭にして理由を示す。

ta maŋap ku ŋu kaŋuŋiŋ 私は山羊を取る故に。

3. [ana 副詞的助辭にして動詞と共に用ひられ「完了」を示す。

niŋakaŋala [ana 上陸せり(過去冠了), amijan [ana ŋu tokon 山に在り(現在完了)。

1. ヤミ方言
(jami)

1. イモルツド社傳承洪水神話

- 4 umjut u (w)awa maŋtsi / niŋmutau
退潮になる(冠) 海水は 潮干になる 海岸へ行った
- 5 mamiŋi ŋu kanin / maŋai ŋu iŋawuŋ /
(3) 孕女は 行く(冠) 神へ
- 6 paŋikuŋin u gagan / tumamuno u (w)a-
顯覆(冠) 白石は 出る(冠) 海水
- 7 wa / mipa[aku u (w)awa? / maŋai [ana
は 増大する(冠) 海水は 来る(冠) すでに
- 8 ŋu ŋiŋiŋiŋi nu iŋi? / to mipignip [ana
(冠) 端に(冠) 村の 此處 充てる(冠) すでに
- 9 maŋai ŋu kagaŋan / maŋai [ana ŋu
行く(冠) 森へ 行く(冠) すでに(冠)
- 10 tiŋato / mipa[aku u (w)awa / tu rana gnip
山頂へ 増大する(冠) 海水は 此處(冠) すでに 被ふ
- 11 ŋu tokotokon / aŋu [ana no mavijai u
(冠) 山々に於て 無(冠) すでに(冠) 生きる(冠)
- 12 kuŋis kanu kaguŋiŋ kanu manuk kano
豚 及び 山羊 及び 雞 及び
- 13 kaŋam [uŋ-soŋ [ana marakat / abu no
鼠 總て(冠) すでに 死ぬ(冠) 無(冠)
- 14 kanin no tau? [uŋ-soŋ marakat [ana u
食物(冠) 人の 總て(冠) 死ぬ(冠) すでに(冠)

1. イモルツド社傳承洪水神話

潮が退いて潮干になった。孕女が
海岸へ行った。沖へ行つて、白石を顯
覆すると、潮が湧き出た。潮は増して
來て、村の端まで來てしまつた。[潮は]
充ちて山に來てしまつた。山頂に來
てしまつた。潮は増して來る。山々
は[潮に]被はれてゐる。豚も山羊も雞
も鼠も生きてゐない皆死んでしまつ
た。人類には食物が無い、皆死んでし
まつた。一年過ぎたがまだ潮干にな
らない。二年目が過ぎた。三年目が

採録期：昭和三年八月採集

口授者：imuŋud 社 saman-dzaga[it (當時推定年齢50)

説明者：當時紅頭嶼警察駐在所勤務後藤武雄氏(バイワン族出身)。

日常語には巧なるも未だ語彙不完全にして傳説の通譯には少なからず困難を感じたる模様なり、日本語術完全、口授者は好意と忍耐心を缺き口授の反覆を肯ず、止を得ず多くの部分に於て説明の復誦により筆録せり、筆録後口授者に讀み聞かせ發音語句を訂正せしめ、口授者の原口授に近からしめたり。

昭和六年九月再調 原口授者 saman-dzaga[it 及び其他數名の土人につき後藤武雄氏の通譯を以て發音語句の再訂正意義の再調査をなせり。土人以外の者の説明を其儘信するは危険なれば後藤氏の説明は出來得る限り Batan 語との校合により確認する方法を執り以て正確な期せり。されど am, ta, a の結合辭缺如し多少「復誦」の臭を殘留する處あり。後藤氏は結合辭 a の代りに nu を用ひる辭あり、但しこの用法は誤にあらざれば訂正せず。

4. umjut 干潮, maŋtsi 海、河の水干上る。

niŋmutau 現在, mutau 比較, Batan tao 海。

5. mamiŋi ŋu kanin 「食物を運ぶ者」即ち「惡限せる者」

iŋawuŋ i+[auŋ] 比較, Mal. laut 海 i-參照, 文法 III. 1. 6. 山手に對する海手, 沖, 海の向, 外國, 北 (kai]-auŋan) 比較 Batan ilaud 北。

6. gagan 白色の珊瑚礁類。

tumamuno tu mamuno 或は t-um-amuno 疑存。

7. mipa-[aku mi-pa-[aku <[aku 犬。

8. to mipignip to < uito それ、そこ? 「其處に充つ」場合に依りては「斯くして」と譯すべき程輕き意味となり一種の接續詞的用法となる。to の次に a) mi-, ma- の能動詞形 (to mi[on[onŋon]), b) 語根 (to ŋai), c) da, [ana, (to da muŋot, to [ana mitsararakat) の介存する三種の形態あり。

10. tiŋato 比較, Batan ato 上 ti- 位置を示す。

tu rana gnip 參照, 註 8. to gnip < mipignip (水の) 充滿, 滿潮。

11. tokotokon < tokon 山。

- ¹ tau / tompag makasa kawan abu pa nu
人は 過ぎる 一 年 無 未だ (冠)
- ² mantši / tumpag ðu ikaðuwa na kawan /
満干 過ぎる (冠) 二番目 其の 年
- ³ tumpag ðu ikatulu na kawan / tumpag
過ぐ (冠) 三番目 其の 年に於て 過ぐ
- ⁴ ðu ikapat na kawan / [a]uwa [ana u tau
(冠) 四番目 其の 年に於て 二人 すでに(冠)人は
- ⁵ ðu maka[an no tokon dzipigapin / kanu
(冠) 高い (冠) 山に於て (地名) 而して
- ⁶ dzitsaku[man / [a]uwa [ana u tau / ma-
(地名) 二人 すでに(冠)人は
- ⁷ kapat [ana kawan abu pa nu mantši /
四 すでに 年 無 未だ (冠) 満干
- ⁸ ika[ima na kawan / kanu ikanim na
五番目 其の 年 而して 六番目 其の
- ⁹ kawan / ikapitu na kawan / ikawau na
年 七番目 其の 年 八番目 其の
- ¹⁰ kawan / a[u [ana nu kunu kanu karab^o
年 多 すでに (冠) 神硯貝 及び 夜光貝
- ¹¹ ðu kagašan / ikasijam na kawan / nipa-
(冠) 森に於て 九番目 其の 年 投ざら
- ¹² šalap ðu wawa u ka[am / umujut [ana
れたもの(冠) 海に (冠) 鼠は 退潮する すでに
- ¹³ a mantši u wawa² / maka[atip šu (w'a-
(冠) 干上る (冠) 沙は 十回す (冠)
- ¹⁴ wawan / amijan [ana nu kawuvijan /
年年な 有 すでに (冠) 山芋島
- ¹⁵ pitujajan nu (w)awan / asa kawan nu
十 (冠) 年 一 年 (冠)
- ¹⁶ pitujajan nu (w)awan / amijan [ana no
十 (冠) 年 有 すでに (冠)
- ¹⁷ kakitanan / ikaðuwa na kawan nu pitu-
里芋島 二番目 其の 年 (冠)
- ¹⁸ jajan nu (w)awan / ikatu[lu na kawan nu
十 (冠) 年 三番目 其の 年 (冠)

1. makasa 一回 <asa 一「一年」 makasa kawan, asa ka kawan, asa kawan の三種の言方あり。
2. ikaðuwa na kawan ika- 順序数詞を示す接頭辭。参照 ikatu[lu 三番目, ikapat 四番目, na はこの場合結合辭の如き働をなすが本質として三人稱單數の代名詞と見るべきであらう。
3. ikatu[lu <atu[lu/at[lu 三。
4. ikapat <apat 四。
[a]uwa <[uwa 二, 二人, 二匹, 人, 動物の數を示す。類例: 一 tatu[lu 三人 papat 四人 [a]ima 五人, 語根の部分的反覆をなし母音は a に變ず。
[a]uwa [ana u tau …… 「二人の人が高い山のデビ

過ぎた。二人の人が高い山のデビガ
グン及びデチャクマンに居た。二
人だけだつた。四年過ぎたがまだ潮
干にならない。五年目、六年目、七年目、
八年目、神硯貝と夜光貝が山の森に澤
山あるやうになつた。九年目に、鼠が
海に投げられた。すると潮は退き干
上つてしまつた。十年目には山芋島
があるやうになり、十一年目には里芋
島があるやうになり、十二年目、十三年
目には竹があるやうになつた。十四
年目に、磯が現れて來た。山に木が澤
山あるやうになつた。

ガグン及びデチャクマンに居た」 dzipigagun に居りし人は男, dzitsakulman に居りし人は女にして彼等は夫婦になり, その子孫は後に「竹部」「石部」の子孫と雜婚せりと。
12. umjut [ana a mantši u wawa mijan/amijan 存在す。 tapi/atapi 板 の例に見る如く發聲の a- あり。其と結合辭 a とを判別すること困難なる場合あり。この場合は結合辭と解せり。
14. kawuvijan ka-uvi-an <uvi 山芋 ka-an 「場所」を示す。
17. kakitanan ka-kitan-an <kitan 里芋。

- ¹ pitujajan nu (w)awan / amijan [ana no
十 (冠) 年 有 すでに (冠)
- ² kawalan / ikapat na kawan nu pitujajan
竹 四番目 其の 年 (冠) 十
- ³ nu wawan amijan [ana nu pututin [ana
(冠) 年 有 すでに (冠) 現れた(?)すでに
- ⁴ ðu kisaka'n na / a[u [ana no kaju no
(冠) 磯に於て その 多 すでに (冠) 木 (冠)
- ⁵ kagašan /
森
- ⁶ tšixibana no tau-ðu-to ðu karatajan /
彼は見る (冠) 神 (冠) 平地へ
- ⁷ tšimman no pošo no jami kuwana /
良い (冠) 鳩 (冠) ヤミの 目く
- ⁸ maŋkaš šu [ã'ku no vatu dzipaptok /
落す (冠) 火 (冠) 石を (地名) へ
- ⁹ migtak u vatu / mijanak šu tau u vatu /
割れる (冠) 石は 生む (冠) 人を (冠) 石は
- ¹⁰ kanin (na) nu tau u paptok / abu šu
食物 彼の (冠) 人の (冠) (草の名) 無 (冠)
- ¹¹ kanin / umušok ðu i[awuð / umixiða u
食物 下る (冠) 海の方向へ 芽生する (冠)
- ¹² kawalan ðu i[awuð / migtak u kawalan
竹 (冠) 森の方向に於て 割れる (冠) 竹
- ¹³ mijanak šu tau u kawalan / umušok ðu
生む (冠) 人を (冠) 竹は 下る (冠)
- ¹⁴ ka[atajan u anak no vatu / tumanag u
平地へ (冠) 子は (冠) 石の 登る (冠)
- ¹⁵ wanak nu kawalan umlaci / mišinmu
子は (冠) 竹の 泣く 出會ふ
- ¹⁶ šija akanu anak no vatu ðu vutšid / šinu
彼等 及び 子 (冠) 石の (冠) 芽に於て 誰
- ¹⁷ pa[an ta kuwana / tau ta kuwana / um-
名 我々の 目く 人 我々 目く 巡
- ¹⁸ šivun / nimapai ðu i[atai u nimigtak ðu
廻す 行けり (冠) (地名) へ (冠) 割れ出でし者 (冠)
- ¹⁹ vatu² / nimapai ðu dzicašinu u nimigtak
石に於ける 行けり (冠) (地名) へ (冠) 割れ出でし者は

神が平地を見て、「善きヤミの島よ」
と申された。デバブトクへ巨石を落
された。石が割れ、石は人を生んだ。
食料は無く、其人はバブトク草を食物
とした。海手へ下りた。海手に於て
竹が芽生した。竹が割れて竹は人を
生んだ。「石の子」は平地へ下り、「竹の
子」は登つて泣いてゐた。茅原で「石の
子」と出會つた。「我々の名は何と云ふ
か」と問うた。「我々は人だ」と答へた。
廻り歩き、石より割れ出た者はイラタ
イへ來た。竹より割れ出た者はイバ
リスへ來た。カサビルガンに居た時、
「竹の子」は銀(貨)を獲た。イラタイへ

3. pututin 觀明者の譯「磯の石が見えるやうになる」「元の通りになる」原意不詳。
6. tšixibana = tšixiban na 比較. Batan tiban 觀る。-š- の入りし理由不明。
tau-ðu-to 「天の人」 to 天 比較 tigato 上 Batan ato 上, 天界に種々の神達の住むことを彼等は信ず。神々は下界の人を天界より監視し、若し下界の人徳を爲せば罰を與へ、若し死 山に於て墜死 海上に於て墜

船の現象となり現はると彼等は信ず。
karatajan ka-ratajan <[atai 不なる。
9. mijanak mi-anak anak 子「生む」他動詞の用法。参照 mijanak 「生る」自動詞 754頁 12行, 13行。
14. tumanag (山を)登る。比較. kumarat (木を)登る。
18. nimapai ni-mapai 過去, 行けり magai 現在行く。nimigtak ni-migtak 過去, 割れたり, 割れたるもの現在 migtak 割れる。

- ¹ *ɖu kawalan / nimijan ɖu kaʃatɪlʊɡan /*
(冠) 竹に於ける (冠) 有(過) (冠) (地名)に於て
- ² *maɣap ʃu tamitamik u (w)anak nu ka-*
取る (冠) 銀貨を (冠) 子は (冠)
- ³ *walan / nimaɣai ɖu ilatai nimijan dzima-*
竹の 行つた (冠) (地名)へ存(過) (地名)
- ⁴ *ʃapau maɣap ʃo vagalan u (w)anak nu*
獲る (冠) 鐵を (冠) 子は (冠)
- ⁵ *vatu / maɣai lana ʃila ɖu vagai ɖa*
石の 行く すでに 彼等は (冠) 家へ 彼等の
- ⁶ *dzikaʃutsiɖan taɣtaɣin u matsiɡuʃan a*
(地名) 叩かれる (冠) 堅い (冠)
- ⁷ *vagalan / taɣtaɣin u tamtamik / migmig-*
鐵 叩かれる (冠) 銀 柔い
- ⁸ *ma a tamitamik /*
(冠) 銀
- ⁹ *anaʃu a gutai nu ʃaluwa / ʃamaʃa-*
長い (冠) 陽物 (冠) 二人の 交合せら
- ¹⁰ *magin ɖu tuɖ na? / marabtik? u tuɖ?*
れたもの (冠) 膝頭にて 彼の 大きくなる (冠) 膝頭は
- ¹¹ *na makati / u nimigtak ɖu kawalan a*
彼の 痒い (冠) 割れたもの (冠) 竹に於ける (冠)
- ¹² *tau / mijanak nu wanan na no toɖ na*
人 生れる者 (冠) 右より 其の (冠) 膝頭の 彼の
- ¹³ *gagakai / mijanak no uri na no toɖ na*
男 生れる者 (冠) 左より 其の (冠) 膝頭の 彼の
- ¹⁴ *vavakis / u nimigtak ɖu watu a tau /*
女 (冠) 割れたもの (冠) 石に於る (冠) 人
- ¹⁵ *mijanak nu wawan na no toɖ na*
生れる者 (冠) 右より 其の (冠) 膝頭の 彼の
- ¹⁶ *gagakai / mijanak no uri na no toɖ na*
男 生れる者 (冠) 左より 其の (冠) 膝頭の 彼の
- ¹⁷ *vavakis / mijaʃuʃon ʃila mikti miʃama*
女 結婚する 彼等 兄弟姉妹 和合する
- ¹⁸ *ʃila mikti mijanak mavuta / pipaʃitin u*
彼等 兄弟姉妹 生れる 盲目者 交換されたもの (冠)
- ¹⁹ *kusuɣ na / u kusuɣ na no anak nu*
妻は 彼の (冠) 妻の 彼の (冠) 子の (冠)

1. nimijan ni-mijan 現在 (a)mijan 存在す。
2. maɣap <maɣ-aɣap 比較 agapin 取られるもの。
Batan maɣap 取る ag は ɣ に完全同化せらる。
tamitamik 廣義には「財寶」狭義には「銀」同義語：
pijaʃkuʃit. ヤミ人は銀を最上の寶とす。銀 pilak 銀
貨 nirpi.
6. taɣtaɣin taɣtaɣ-in 比較 mitaɣtaɣ 叩く者。鐵治屋。
9. anaʃu anaʃu 長き anaʃu 非常に長き。形容詞の強

行きデマサバウに滞在した時に「石の
子は鐵を得た。彼等はデカブチゲン
の彼等の家へ歸つた。堅い鐵を叩い
た。柔い銀貨を叩いた。

二人の陽物は長い。自分の膝頭と
交つた。膝頭は太くなり痒くなつた。
竹から割れ出た人の右の膝頭から男
が生れ、左の膝頭から女が生れた。石
から割れ出た人の右の膝頭から男が
生れ、左の膝頭から女が生れた。兄と
妹が結婚して和合すると盲目の子が
生れた。妻を交換した。石から割れ
出た者の子の妻は竹から割れ出た者
の子に妻された。竹から割れ出た者
の子の妻は、石から割れ出た者の子に

形の後より第二の音節は長音になり高音になる或
は更に反置せらることあり。類例：[aku 大 [a:ku
甚だ大 [a:ʃa:ku 極めて大
[amaʃamagin <miʃama 和合す。
13. gagakai / magakai
14. vavakis / mavakis
17. mijaʃuʃon <*uʃon 比較 kuʃon 夫或は妻。連合。
18. pipaʃitin <mamaʃit 交換す * / paʃit

- ¹ *nimigtak ɖu watu / pikusuɣin ɖu (w)anak*
割れ出た者の (冠) 妻はせられたもの (冠) 子に
- ² *nu nimigtak ɖu kawalan / u ausuɣ no*
(冠) 割れ出た者の (冠) 竹に於ける (冠) 妻 (冠)
- ³ *(w)anak no nimigtak no kawalan / piku-*
子の (冠) 割れ出た者の (冠) 竹の 妻はせ
- ⁴ *suɣin ɖu anak no nimigtak ɖu watu /*
たもの (冠) 子に (冠) 割れ出た者の (冠)
- ⁵ *mijanak ʃila mipaʃu lana atulu lana ʃila*
子を生む 彼等は 増加する すでに 三 すでに 彼等
- ⁶ *tapilan /*
重ねたもの
- ⁷ *mitatala lana ʃila / ipanuɣn ʃu kaju /*
造船する すでに 彼等は 切る (冠) 木を
- ⁸ *masajisaji u tamitamik ɖu kaju? / pi-*
屈曲する (冠) 銀は (冠) 木に於て
- ⁹ *tupilɪsuɣn ta agapɔn mu u tamtamik*
交換したもの 我々の 取らるものは 汝の (冠) 銀
- ¹⁰ *agapin ku u vagalan /*
取らるものは 私の (冠) 鐵
- ¹¹ *itsakura ku u vuɣawan /*
欲するもの 私の (冠) 銀
- ¹² *abu jakuma ʃu vagalan aija /*
無 の如き (冠) 鐵 此?
- ¹³ *ipanijatsijaɣ ta ʃu kagasan /*
切るもの 我々の (冠) 森のある山
- ¹⁴ *ibalatok ʃu wapoapug? nu kaju /*
切り倒す (冠) 太い (冠) 木
- ¹⁵ *mapabusbuʃ / tika ʃana u tatala /*
造船祭の祝宴をする 終了するまでに (冠) 舟は
- ¹⁶ *taʃunuʃin ʃana pauskin ʃana / manijaɣib*
進水するもの すでに 下されるもの すでに 横木を附す
- ¹⁷ *ɖu ʃikuɖ no tatala no nimigtak ɖu*
(冠) 舟の外側に (冠) 舟の (冠) 割れ出た者の (冠)
- ¹⁸ *kawalan / manijaɣib ɖu sagaɖ nu tatala*
竹に於ける 横木を附す (冠) 舟の内側に (冠) 舟の

妻された。彼等は子を生み増加し既
でに三代となつた。

舟を造つた。木を切ると、銀は木に
當つて曲つた。「互に交換しませう君
は銀を取りたまへ、私は鐵を取ります」。

白金は我ののぞみぞ
黒金の無きぞ悲しき
山行けば木々をうち伐り
太き樹は伐られ倒れむ
造船祭の祝宴をした。舟は出来上
つた。舟おろしをした。竹部の舟の
外側に横木を附けた。石部の舟の内
側に横木を附けた。竹部の舟はバラ

1. pikusuɣin pi-kuʃon-in.
6. tapilan tapil-an <*tapil, 比較 pi-tapil 重ね, t-om-
apil 併列す。
7. mitatala tatala 一人乗或は二人乗の小形ボート。詳しく
言へば一人乗は pikatagijaɣ 二人乗は pikavaɣeɣ.
tsinakuʃan 十人乗の大形ボート。avan, sakajan (イ
ゾリヌ方言) 舟船其他一般の舟。比較 Batan tataya,
chingereran, abanɣ, sakayan.
11. 歌謡(特に祭に關係ある古典的のもの)には歌のみに用
ひらる語或は意義不明の語あり。中には歌全體の意味
すら不明の歌あり。彼等の歌謡と稱するものはバタン

語に近くヤミ語の古形ならん。歌謡 itsakura = 現代
語 ikakura 比較 Batan ichakeɣ 釘愛。
vuɣawan は「銀」を意味する歌謡 Batan vuxawan
「金」に比較し得。Batan vugawan 金 > ヤミ歌謡
vugawan 銀, Batan pulak 銀 > ヤミ日常歌 pilak 銀。
12. aija 比較 uija これ Batan aya これ。
16. taʃunuʃin <mataʃunuʃ (舟)水面を滑り進む。
pauskin <um-uʃok 降る pa-uʃk-in.
manijaɣib <jagib / iagib 舟の内側の横木 maɣ-iaɣib
> manijaɣib i 母音前の maɣ- は maɣ に變ず。比較
Batan maɣ-iguang 戸を開く。

- 1 nu nimigtak du watu / mivuwak u tatala
(冠) 割れ出た者の(冠) 石に浮る ばらばらになる(冠) 舟は
- 2 nu nimigtak du kawalan / nimakava?
(冠) 割れ出た者の(冠) 竹 破壊した
- 3 matalunuş u tatala nu nimigtak du
滑る (冠) 舟は (冠) 割れ出た者の(冠)
- 4 watu? mapai du wawa / magatagatau du
石に浮る 行く (冠) 海へ 浮ぶ (冠)
- 5 wawa? / miginip^o u kipak / maqagit^o
海に於て 充滿する (冠) 漆は 悪しき
- 6 kuwana / mapap su palok nu kulaş
日の 取る (冠) 綿を (冠) [草の名]
- 7 siksikan u tatala su valok nu kulaş /
詰めてもの (冠) 舟は (冠) 綿にて (冠) (草の名)
- 8 tsimman lana kuwana / isiða na u kaju
良好 すてに 彼曰く 見えたもの彼の(冠) 木
- 9 a palok /
(結)の綿は
- 10 lima tapilan du jipato^o u mipalan su
五 重ねしもの (冠) 上に於る (冠) 名とする者(冠)
- 11 tau / umusok takamu dziminavujid^o /
人 下る 我々は (地名)へ
- 12 mijanak du ilawud dziminaşujid^o şujit u
子を生む (冠) 海の方に於て (地名) 青鳩 (冠)
- 13 kaktib na tau u kkaktib na / umişişun
半分は 彼の 人 半分 彼の 巡回する
- 14 du guşuk u nimigtak du watu / matsita
(冠) 海岸へ (冠) 割れ出た者は (冠) 石に浮る 見る
- 15 su mikuşkuş a kujis / ikoppo palu mu
(冠) 鼻で土を掘る (結) 豚を 何 (助) (汝)
- 16 akai / agapin mu pala ipatsita mu dzija-
祖父 取るもの 汝の (助) 見せるもの 汝の 私に
- 17 kin kuwana no (w)akai na / agapin u
曰く (冠) 祖父 彼の 取るもの(冠)
- 18 (w)anak na nu kojiş / uito (w)akai aku
子は 彼の (冠) 豚の 此 祖父よ 私は
- 19 nişakib kuwana nu apu na / tsitagin no
捕へたもの 曰 (冠) 孫 彼の 見るもの(冠)

- 2. nimakava 現在, makava 組立てしものを破壊(家, 椅子等), maşpi 堅きものを破壊(石, 硝子等).
- 3. magatagatau ma-gata-gatau? 比較 magatau 鳩, < Batan tao 海?
- 8. işiva mişiva のぞき見る >i-şişa のぞき見るもの
- は「道具」の外に受身の意味を有す, 寫眞を撮ることを misvia と云ふ, 撮影の際にレント板のぞくことより生じたる意義變化.
- 10. mipalan mi-palan <galan 名.

バラになり,破壊した。石部の舟は滑つて海へ行き,海に浮んだ。然し漆が一杯になつた。「駄目だ」と云つた。草綿を取り草綿で舟を詰めた。「素的だ」と云つた。木綿を見つけた。

人といふ名を持つものは上に於て(即ち石の子孫五代になつた。「ヂミナブ」に降りよう)。海手のヂミナブで半分は青鳩半分は人間の子を生んだ。石部は海岸をめぐり歩いた。鼻で土を掘る豚を見た。「お祖父さん, 何ですか。」「取つて私に見せなさい」と祖父は云つた。豚の仔を取つた。「お祖父さん,此は私の捕へたものです」と彼の孫が云つた。祖父さんは見

- 15. mu akai 呼掛には mu (汝) を附すことあり, 類例: mu ama 父さん! mu ina お母さん!
- pa[u] 疑問文に用ひる助辭,「それぢや」「では」位に譯すべきか, 比較, Batan paru 疑問文に用ひ疑問の輕き勢を附ける助辭,
- 16. pala 命令に用ひる助辭 kanin mu pala 食せよ pa (尙)+ [a (すてに)より發生せよものか?
- 19. tsitagin <matsita 見る(人)

- 1 (w)akai na / kuiş mo apu ku kuwana no
祖父により彼の 豚 汝 孫よ 私の 曰彼 (冠)
- 2 (w)akai na / aşişajajin ta abu no kujis
祖父 彼の 育てられるもの 我々の 無 (冠) 豚
- 3 ta / kuwana no (w)akai na / mapai pa
我々の 曰 (冠) 祖父 彼 行く 續け
- 4 şila du guşuk matsita su manok / muşi
彼等 (冠) 海岸へ 見る (冠) 雞を 歸る
- 5 lana du şagai ikoppu palu mu akai aku
すてに (冠) 家へ 何 (助) 汝 祖父 私の
- 6 nimatsita jok-jok kuwana nu apu na /
見たもの (鳴聲) 曰 (冠) 孫 彼の
- 7 mapai kamu pala agapin tsitagin ku
行け 汝 (助) 取るもの 見るもの 私の
- 8 kuwana no (w)akai na / mapai agapin nu
曰 (冠) 祖父 彼の 行く 取るもの(冠)
- 9 (w)apu na / muşi lana şila / ujito (w)akai
孫により彼の 歸る すてに 彼等は 此 祖父よ
- 10 aku nişakib^o tsitagin mu kuwana no apu
私の 捕へたもの 見るもの 汝の 曰 (冠) 孫
- 11 na / tsitagin no (w)akai na manok ija
彼の 見るもの (冠) 祖父の 彼の 雞 此は
- 12 mu apu ku pipaşuwun ta kuwana no
汝 孫 私の 増加せるもの 我々の 曰 (冠)
- 13 (w)akai / mapai şila dzimalamai / maka-
祖父 行く 彼等は (地名) 見出
- 14 tsita su kaguliş / ikoppu palu (j)aku ni-
す (冠) 山羊を 何 (助) 私の
- 15 matsita kuwana nu apu na / agapin mu
見たもの 曰 の 孫 彼の 取るもの 汝の
- 16 pala tsitagin ku kuwana no (w)akai na /
(助) 見るもの 私の 曰 (冠) 祖父 彼の
- 17 mapai agpin no apu na / ujito akai tsita-
行く 取るもの(冠) 孫の 彼の 此 祖父よ 見る
- 18 gin mu kuwana no apu na / tsitagin no
もの 汝の 曰 (冠) 孫 彼の 見るもの(冠)
- 19 akai na / kaguliş ja mu apu ku / pipaşu-
祖父の彼の 山羊 此 汝 孫よ 私の 増加せら
- 20 wun ta u kaguliş kuwana nu akai na /
たるもの(冠) 山羊は 曰 (冠) 祖父の 彼の

た。「私の孫よ,豚だ」と祖父は云つた。「我々には豚が無いから育てませう」と祖父は云つた。彼等は海岸へ續進して雞を見た。家へ歸り、「私の見たヨクヨクと鳴くものは何でせう。」「取つて来て私に見せなさい」と祖父は云つた。孫は取りに行つた。歸つた。「お祖父さん,私の捕へたのは此です,御覽下さい」と孫は云つた。祖父は見た「私の孫よ,此は雞だ,殖やすことにしよう」と祖父は云つた。彼等はヂマラマイへ行つた。山羊を見た。「私の見たものは何ですか」と孫は問うた。「取つて私に見せなさい」と祖父は答へた。孫は取りに行つた。「お祖父さん,此です,御覽下さい」と孫は云つた。祖父は見「私の孫よ,此は山羊だ。山羊を殖やすことにしよう」と祖父は云つた。飛魚漁期が来たヂマラマイで飛魚を取つた。

- 2. avijavijain avi-javijai-in <vivjai 生命ある, 比較 şin-ijai 生物, 接尾辭 -ia は前行の i 音のため前母音化し >in.
- 3. pa 尙, 未だ, 引續き等の「繼續」を示す助辭.

- 12. pipaşuwun 増加せらるもの pi-pa[u]-un <pa'-a[u] <a[u] 多. -in は前行の u 音のため後母音化し >-un
- 19. ja <ija 此.

- ¹ milijun siła maḡap lana siła šu ašibapḡap
飛魚漁期来る 彼等の取る すでに 彼等 (冠) 飛魚を
- ² ezimalamai /
〔地名〕
- ³ palai dzipaptok a tšinagitakan nu
此處 (地名) 割れし處 の
- ⁴ tau /
人
- ⁵ minušok ḡu kanatajan ḡu iḡaud /
下れり 平地へ に 海
- ⁶ minapaiḡanua sja dzimalamai /
飛魚漁開始祭をする (地名)
- ⁷ ujaku niragpit dzitsakawalan /
私 上つた (地名)
- ⁸ šušugūḡin a minauguḡap⁹ nu rijar /
松明に點火する 魚 火
- ⁹ lima tapilan musok lana siła ḡu
五 重ね 下る すでに 彼等 冠
- ¹⁰ ilawuḡ / miḡanak ḡu ilawuḡ / u maḡḡu
海の方へ 子を生む (冠) 海手に於て (冠) 孕む
- ¹¹ a tau / lima siła tapilan nmusok ḡu
(冠) 人 五 彼等は 重ね 下る (冠)
- ¹² katiḡ-tiḡan kanu dzilaḡui na / maḡai siła
(地名) 及び (地名) 共の 行く 彼等は
- ¹³ ḡu maḡagim nu (w)aju² dzilaḡibuḡ /
(冠) 深い (冠) 水へ (地名)
- ¹⁴ makaḡala u la'ku nu aḡaḡ nu iḡana nu
上陸する (冠) 大の (冠) 舟は (冠) 見知らぬ(冠)
- ¹⁵ tau ḡu ilawuḡ² / maḡunug ḡu (w)aju² /
人の (冠) 沖に於ける 渉る (冠) 水な
- ¹⁶ maḡai uamin dzinu² kuwana / bikin ku-
行く 我々 汝等の處へ 日 勿れ

1. mi-sijun 飛魚漁期来る mi-sijun < sijun 飛魚漁期 普通の魚介の漁期は任意なるも、彼等の最も珍重し且つ漁獲量の多き飛魚 (ašibapḡap) の漁期には厳格なる成律存す、panonib (太陽暦の四-五月間)の月の期之夜 (imuḡud) 或は望の夜 (imuḡud) 社以外)に開始し、pikaukaud, papatau, pipilapila の月の間即ち四ヶ月間飛魚漁を行ふ、飛魚漁に關し參照「民俗學」II-1 東京昭和五年一月淺井：紅頭嶼民俗資料(3)。
3. palai 此處、歌語、日常語 dzija 此處、tšinagitakan 割れし處、k-in-agitak-an 比較、migitak < 割れる。
6. minapaiḡanua m-in-apai-vanua < mi-vanua 飛魚漁開始の際の「魚呼び」の儀式。
8. šušugūḡin 松明に點火す、šu-sugu-ḡin < sugu 松明、rijar apui 「火」の歌語、simaḡaon (imuḡud) 社) 日授に依れば、

石の人ヂバブトクより、
綿津海へ山を下りて、
大原のヂマラマイに
漁の始を祭る
〔竹崎に舟をつけ
簞たき飛魚を漁る
五代(經て)海手へ下つた。腹の細い
人間が生れた。五代(經て)カトドトグ
ン及びヂラグイへ下りた。深い河の
あるヂリブンへ行つた。
不詳の海外の大きな舟が到着した。
水を涉つた。「我々はあなた方の處へ
行きます」と(彼等は)云つた。「来ては

paḡai dzipapok a tšinagitakan /
minušok ḡu kaḡatajan ḡu iḡawuḡ /
minapivanua sja dzimalamai /
ukati-tiḡan kaḡuvatu vataḡadzipitupui šu šavilak /
šu jaku niragpit dzitsakawalan /
šosoguna minawuḡap no rijar /
aḡiḡuš a maḡai wajuḡ šujat /
「石の人」バブトクを出て
平地に下り チマラマイにて
魚呼びの 祭をなせり
石多き 磯より舟にて
「竹の地」に すなごりに出づ
松明は 魚を點ます
大魚は 力強く引く
14. makaḡala 上陸す ma-ka-ḡala < ḡala 陸地。

- ¹ wana / manuḡud siła miḡawuḡ siła /
日 歌ふ 彼等は 歌ふ 彼等
- ² aša ka mijalapalaḡ makojukojun /
一 見晴産 集合
- ³ dzijaminaiḡana dzimailanijug /
? ?
- ⁴ tabunaitšañibuk taminalamaḡ lana /
? ? すでに
- ⁵ šitša maimamuluḡ ainagaḡururuḡan /
? ? ?
- ⁶ abu maji kamu ta manakaui kamu
無 来る 汝等 (接) 故に 盗む 汝等は
- ⁷ kuwana no jami ḡalakan no tau no
日 (冠) やみ人 嘯鳴られる (冠) 人に (冠)
- ⁸ iḡana / abu lana no umalam / niḡaḡai
見知らぬ 無 すでに (冠) 歩く 行つた
- ⁹ siła ḡu tokan / niḡikararakat lana siła
彼等は(冠) 山へ 死んだ すでに 彼等
- ¹⁰ ta abo kanin ḡa / [a]ḡaku a kadaji
(結) 故に 無 食物 彼等の 巨大 (結) 粟
- ¹¹ kakumai gaḡu u ḡijaš no kadaji / ḡalakan
類似 林投の實(冠) 穂 (冠) 粟の 嘯鳴られる
- ¹² lana no tau no iḡana to mipaḡik(oi) u
すでに (冠) 人によ (冠) 見知らぬ 死の響にして(冠) 小 (冠)
- ¹³ ḡijaš no kadaji lana /
穂 (冠) 粟の すでに
- ¹⁴ animagaḡalana siła u niḡigtak ḡu kawa-
六十(人) 彼等(冠) 割れ出た者 (冠) 竹に於
- ¹⁵ lan / maḡḡita siła šo [a]ḡaku no (w)amuḡ /
ける 見る 彼等は(冠) 大へん大きい(冠) 魚を
- ¹⁶ maḡap siła šo ananaḡu² a wuḡid / magna
取る 彼等は(冠) 大へん長い(結) 綱を 釣る
- ¹⁷ lana siła šo laku a amon / kanin ḡa u
すでに 彼等(冠) 大 (結) 魚を 食ふもの (冠)

いけないと[我々は]云つた。彼等は歌
つた。
歌意不明
「お前達は泥坊をするから来ちやい
けない」とヤミが云ふと、外国人は嘯鳴
つた。[歩かずに]彼等は山へ行つた。
食物が無く死んでしまった。[昔は]巨
大な粟であつて粟の穂は木の實の様
だつたが、外国人が嘯鳴つたために粟
の穂は段々小さくなつてしまった。
「竹部」は六十人居た。彼等は大き
な魚を見た。長い綱で漁つた。彼等
は大きな魚を釣つた。大きな魚を食
べた。大きな釣竿を上げた。大きな

1. 歌語及び其の旋律には種類あり：anuḡud (動詞、
manuḡud) 祭典及び日常に用ふ、男のみ mikarijak
男女合唱一定の時期に夜間歌ふ、maganam 舞踏歌、
女のみ、miḡawuḡ 古典的歌語、祭事に用ふ、男のみ、
< iḡaud 外國 ?
2. 此歌は海外人の歌を真似しものにして意味知らずと彼
等は云ふ、恐らく古き時代の歌の傳承せられたものな
らん、Batan 語を以て解し得べきも後日の研究に俟
つ。
6. manakaui 盗む maḡ- *takaui > manakaui 比較、Batan
takao 泥坊、接頭辭 maḡ- 1. 鼻音 ŋ は語根の頭音と
同化し同種の鼻音に變ず音韻變化あり、mamatok 穂

にて叩く < *patok, papatok 穂、manawuḡ 編む、
< sawuḡ 網、manama 交合す < *ama, mi-ḡama
交合す。但し i 以外の母音の時は ŋ は飛る (i の場
合、參照註) 而して k の場合は k は脱落す、ma-
ḡošoš 鏝にて穴を開く < ošoš 鏝、maḡai 掘る < *
kaai, mikaai 掘る kakahi 土掘棒
9. niḡikararakat 死せり、ni-mi-ka-ra-rakat < *rakat
比較、maḡakat, rakatin
10. [a]ḡaku 甚だ大なる [aku 「大」の強形。
11. kakumai 類似 k(a)-akumai < akumai 類似せる。
12. mipaḡik(oi) 小さくなる mi-p(a)-aḡik(oi) < aḡikoi 小
16. ananaḡu 甚だ長き anaḡu の強形。

- ¹ laku nu amon / pagurin u laku nu ka-
大 (冠)の魚は 上-舉^{on}(冠)大の (冠) 竹
- ² walan / agapin dja u laku nu amon /
釣竿は 取るもの 彼等の(冠)大の (冠)の 魚は
- ³ ikungu ja mu akai kuwana / tsilat ija
何 此は 汝 祖父よ 日 (魚の名) 此は
- ⁴ mu maŋapu ku? maŋai pa siŋa maŋna /
汝 孫達よ 私の 行く 向 彼等 釣に
- ⁵ makamun siŋa su paŋaju? ikuŋu ja mu
漁す 彼等は (冠) (魚の名)を 何 此は 汝
- ⁶ (w)akai kuwana no apu na / paŋaju ja
祖父よ 日 (冠) 孫の 彼の (魚の名) 此は
- ⁷ mu apu ku kuwana no akai na / maŋai
汝 孫よ 私の 日 (冠) 祖父の 彼の 行く
- ⁸ pa siŋa maŋna makamun so ŋura? / ikuŋ-
向 彼等 釣る 漁す (冠) (魚の名)を 何
- ⁹ ŋu ja mu (w)akai kuwana no apu na /
此は 汝 祖父よ 日 (冠) 孫の 彼の
- ¹⁰ ŋura ja? mu apu ku kuwana no (w)akai
(魚の名) 此は 汝 孫よ 私の 日 (冠) 祖父の
- ¹¹ na / maŋai pa maŋna makamun siŋa su
彼の 行く 向 釣る 漁する 彼等は (冠)
- ¹² aŋaju / ikungu ja mu (w)akai kuwana nu
(魚の名)を 何 此は 汝 祖父よ 日 (冠)
- ¹³ apu na / aŋaju ja mu apu ku kuwana nu
孫の 彼の (魚の名) 此は 汝 孫よ 私の 日 (冠)
- ¹⁴ (w)akai na / paminiminikan paŋana so
祖父 彼の 命令せられる 其の名 (冠)
- ¹⁵ kaju-kaju / gaŋu ja / paŋinu ja / gaŋu ja /
樹木に ^{ツツキ}此の ^{ツツキ} ^{ツツキ}
- ¹⁶ paŋutid ja / saŋilug-no-manuk ja / kuwaŋi
ケキノコヅチ
- ¹⁷ ja / guŋu ja / kaŋaŋapi ja / saŋapid ja /
竹の一種 ^{ササノハ}
- ¹⁸ balapagan ja / apatsi ja / kasijai ja / ka-
巖
- ¹⁹ lanbut ja / laji ja / pagaŋi ja / pipija-tamik
^{ミツ}
- ²⁰ ija / pagtak ija / mabaŋasinujat ja / tajiŋaŋ

4. maŋapu 孫達よ maŋ-apu 類例, maŋ-anak maŋ-は「多数を示す」といふ説明者の説明, 難信. 比較. Batan maŋ-anak むすこ, むすめ(単複共に)
5. makamun 漁す, mak(a)-amon < amon 魚.
6. Batan apu 祖父 < ヤミ apu 孫. Batan inapu 孫. > ヤミ inapu 祖先, 全く逆の意義, 變遷あり.

魚を漁つた。「お祖父さん, 此は何ですか」と問ねた。「孫達よ, 此はチラ, トだ」と答へた。彼等は引續き釣に行つた。彼等はバウユを取つた。「お祖父さん, 此は何ですか」と孫は問うた。「孫よ, 此はバウユだ」と祖父は答へた。彼等は相變らず釣に行きブラを漁つた。「お祖父さん, 此は何ですか」と孫は問ねた。「孫よ, 此はブラだ」と祖父は答へた。彼等は相變らず釣に行きアラユを漁つた。「お祖父さん, 此は何ですか」と孫は問ねた。「孫よ, 此はアラユだ」と祖父は答へた。祖父は種々の樹木に名前を附けた。此は林投, 此はグンバイヒルガホ, 此はトキハススキ, 此は[グチッ], 此はケキノコヅチ, 此は[クツシ], 此は[グル], 此は[カララギ], 此はオホデント, 此は巖, 此は[アバチ], 此は[カシヤイ], 此は[カラッブツ], 此はヘクツカヅラ, 此は[バガリ], 此は[ビビヤタムク], 此は[バ

14. paminiminikan 命令せられる. pa-mini-minik-an < maminiik 命令す.
paŋana 其の名 paŋan na
15. 植物の和名(かなかき)は臺灣總督府中央研究所佐々木舜一氏の示教に依る.

- ¹ ja / anuki ja / pappogin ja / minasuvai ja /
- ² ipi ja / tapiŋo ja / agaŋaŋ ja / valitsivit ja /
- ³ ligai ja / savau ja / akumaji-kadaji ja /
カタバミ
- ⁴ minatakurus ja / minabut-no-manuk ja /
- ⁵ aŋsiŋsum-no-kurakuran ja / aŋsiŋsum ja /
コトウシウ
カイダウ
- ⁶ manakawui ja / kaliliknun ja / kamana-
オホバハマ
- ⁷ nawa ja / pagutak ja / paŋaŋapagin ja /
アサガホ
- ⁸ [unus ja / kagpaŋ ja / kaŋiŋdiŋ ja / gaŋ-
コトウシウ
イゼシシ
- ⁹ ŋid ja / [awun ja / gaipaŋ ja / kaŋpuŋ
- ¹⁰ ja / magaga-ŋo-aŋamai ja / kakapun ja /
- ¹¹ vananai ja / vararavar ja / lipawu ja /
コトウシウ
キツ
- ¹² tavalai ja / paŋsik ja / aptus ja / makoto-
桑
- ¹³ rŋovuwoŋ ja / raŋarag ja / avuwa ja /
ヒヨケヘゴ 檳榔
- ¹⁴ gawud ja / tuvalan-avuwa ja / tagtagraŋ
葛の一種 檳榔の一種 マルバオ
- ¹⁵ ja / minaiŋiŋus ja / ugui ja / upi-nu-vijau ja /
水芋の一種
- ¹⁶ maviririŋga-a-upi ja / annjui ja / talibatŋib
椰子
- ¹⁷ ja / aumananjui ja / tamik-no-kavijawan
- ¹⁸ ja / tamik-no-kaju ja / vagiŋ ja / avaka
胡蝶蘭
- ¹⁹ ja / njaga ja / vinuvi ja / minaiwatan ja /
芭蕉 芭蕉の一種
- ²⁰ aninipala ja / minaiŋoko ja / jipusaŋ ja /
芭蕉の一種 芭蕉の一種 芭蕉の一種
- ²¹ gujud ja / kitan ja / miniililau-a-kitan ja /
里芋 里芋の一種
- ²² miŋaka ŋuŋi ja / ma(va)vawin-a-kuitan ja /
水芋の一種 里芋の一種
- ²³ ŋin-ŋin ja / maŋaŋagiŋ-a-kuitan ja / maŋ-
水芋の一種 里芋の一種 水芋の
- ²⁴ bara ja / uvan ja / ŋoŋi ja / kanato-a-ŋoŋi
一種 水芋の一種 水芋 水芋の一種

タ), 此は[マバラシスヤッ], 此は[タイラ], 此は[アスク], 此は[バゴグ], 此は[ミナスウヰ], 此は[イブ], 此は[タギロ], 此は[アガラ], 此は[ヴリチピット], 此は[リガイ], 此はカタバミ, 此は[アクマイカダ], 此は[ミナタクルス], 此は[ミナウブ], ノマス, 此は[アグスス], ノクラクラ, ス, 此はコウトウシウカイダウ, 此は[マナカウ], 此は[カリリ, ス], 此はオホバハマアサガホ, 此は[バグタ], 此は[バササバグ], 此はコウトウスキゼンジナ, 此は[カッバウ], 此は[カデムデ], 此は[ガセ], 此は[ラウ], 此は[ガイバ], 此は[カーブ], 此は[マガガノアラマイ], 此は[カカブ], 此はコウトウゲツキツ, 此は[プララヴ], 此は[リバウ], 此は[タグライ], 此は桑, 此は[アプト], 此は[マコト], ソブウ, 此はヒヨケヘゴ, 此は檳榔, 此は葛, 此は檳榔, 此はマルバオニウツギ, 此は[ミナイル], 此は[ウグ], 此は[ウビスグ], ヤウ, 水芋ノ一種, 此は[マブルブルガアウビ], 此は椰子, 此は[タリバチ], 此は[アウマナニユ], 此は[タム], ノカグヤツ, 此は胡蝶蘭, 此は[ヴ

- ¹ ja / paton ja / kalaju ja / minapajat ja /
水芋の一變種 水芋の一變種
- ² lunos ja / [ui]ui ja / šavilug ja / tsipogo²
ケサヤバナ モモタマナ バンの木
- ³ ja / (a)tsaji ja / paki ja / nato ja / kanigin
タイトウユウ カナフ タイトウウルシ
- ⁴ ja / jipaš ja / anugu ja / jilak ja / minogau
ヒメユヅリハ
- ⁵ ja / paraka ja / wawanan ja / vanigajui
- ⁶ ja / milakamugid ja / mavagung-a-kaju ja /
カキバイヌサクラ
- ⁷ aninipra² ja / anam ja / išiš ja / urjaš ja /
- ⁸ agagatin ja / mararawa ja / vatšiglau ja /
ゾウゲボク
- ⁹ vasagu ja / avugui ja / malabdu ja /
クワシヤウマキ
- ¹⁰ vinuwa ja / wanatsi ja / vasagu ja / vaniša
アカテツ
- ¹¹ ja / mavilad ja / kamatidvui ja / mara-
コウトウヤツデ
- ¹² buwa ja / ašijuk ja / tapa ja / kamala ja /
ハマガウ ケガキ
- ¹³ papašišu ja / avugui ja / vanaji ja / va-
黒結
- ¹⁴ natpil ja / pagowun ja / šapijin ja / uvak
クロフツ
- ¹⁵ ja / apnuwanam ja / galtagit ja / nušo ja /
- ¹⁶ labnu*u* ja / pija-šo-palan ja / morupi ja /
黄楊
- ¹⁷ kamašasoju ja / toba ja / apatut ja /
コバシメアシ ヤトヤマアキ
- ¹⁸ pašiđa ja / alijuau² ja / tabanju ja / aga-
コウトウユウ カシラフ
- ¹⁹ gapnitan ja / ašipašalau ja / tajutu ja /
- ²⁰ tagtaglan-no-anito² ja / lagajin ja / tigii
アカギ
- ²¹ ja / pulau ja / apnugau² ja / malašag ja /
マルバチシヤノキ ヤナギヤブ
- ²² aninibrawun ja / valuk ja / vavagitin-no-
- ²³ jaju ja / anajup ja / manavarok ja /
セシメキササグ
- ²⁴ maratsigi ja / varatsinuk ja / kaširu² ja /
蜜柑 ヒラミレモン

- ¹ ragalap ja / kamanaširipan ja / arunok
朱槿 マクバグミ
 - ² ja / jitap ja / vašiši ja / tabuđi ja / uriš
ハビロドキ 榕樹 榕樹
 - ³ ja / gagugagu-no-kurag ja / marađag ja /
タカサゴシラマ
 - ⁴ tir-tir ja / paropu ja / ganut ja / ananaru-
タイワン イゾゴビ ヤアヤ フコウ
 - ⁵ jug ja / laptak ja / pa[pa]lgun ja / alamai
イヌ, 此はクロツグ, 此はアブスワナム,
 - ⁶ ja / avjuš ja / talagau ja / nunuk ja /
フカノキ
 - ⁷ šigubag ja / varit ja / monaš ja / liwaš
シマトログル
 - ⁸ ja / kavanu ja / u nimigtak đu kawalan
割れた者は(冠) 竹に於ける
 - ⁹ am / nimagai đzi[anumiruk đu raku a
(結) 行つた (地名) (冠) 大 (結)
 - ¹⁰ pašalan / kapipau [ana šija /
■中に返り字へ 増加 すでに 彼等は
- 此は[カマテ, ヲグイ], 此は[マラブワ], 此
は[アリユ], 此はハマガウ, 此は毛柿, 此
は[バガリス], 此は黒柿, 此は[ワナイ], 此
は[グナチ], 此は[バゴウ], 此は[サギ
イ], 此はクロツグ, 此は[アブスワナム],
此は[ガムタギ], 此は[スツ], 此は[ラブ
スイ] 此は黄楊, 此は[モルギ], 此は[カマラ
ソユ], 此はゴバンノアシ, 此はヤヘヤマ
アラキ, 此は[バリダ], 此はコウトウギョ
クシンクワ, 此は[タバニユ], 此は[アガガ
ニタ], 此は[アリバサラ], 此は[タ
ユト], 此は[タッタランノアニト], 此は
[ラガイ], 此はアカギ, 此は[ブラウ], 此
はマルバチシヤノキ, 此はヤナギヤブ
マヲ, 此は[アニニブラウン], 此は[ウル],
此は[ワグテ, ヌノヤユ], 此は[ヤヌ],
此はセンゲンキササゲ, 此は[アラチギ],
此は蜜柑, 此はヒラミレモン, 此は朱槿,
此は[カマナシリガ], 此はマクバグミ,
此はハビロドキ, 此は榕樹, 此は榕樹, 此
は[ウリ], 此は[ガググノクラ], 此は
タカサゴシマタマ, 此はタイワンイチ

10. kapipa[u] 増加 ka-pi-pa[u] <pa[u] 多, 接頭辞 ka- 形
は「状態」を示す名詞なるも、述語として用ひらる場合
は動詞の如き役目をなす。 類例, kagi ko 「私の行く
こと」, 即ち「私は行く」。

ゴ,此はミヅガンビ,此はヤマアサ[又は
フヨウ],此は[アナナルユン],此は[ラ
タ],此は[バルバルグ],此は[アラマイ],
此は[アウユ],此はフカノキ,此は[ス
],此は[スグバ],此はシマトウヅル,
此は[モナス],此は[リソ],此は[カズ].
「竹部」は海岸に近い広い平地のイラ
スミルクへ行つた。彼等は増加した。

「石部」は「我々はデトングに行かう
ちやないか」と云つた。其處で木に附
着してゐた水芋を取つた。斯くして
水芋が創つた。

歌意不明

- 9. nimigtak du vatv a tao mapai takamu
割れ出た者 (冠) 石に附く(結) 人 行く 吾々
- 10. dzitopa kuwana / uli nipapapan su suxi
(地名) 日 吾々に 取つた處 (冠) 水芋な
- 11. nimijan du kaju / uli nipupajanan su
有つた (冠) 木に 吾々に 有るやうにした處 (冠)
- 12. suxi /
水芋な
- 13. anu pamitsukuna su kawui
時 釣り上げる (冠)にて 竹
- 14. akumaji malaraq nu karamana
同じ ? 常に行く
- 15. akumaji vandzan nu malalanjau
同じ 竹の節 ?
- 16. vinatovato lalawan [a sinavog /
? 魚の手場 子供
- 17. dzimaka[okat jamatsiloko /
魚が来ない(?) ?
- 18. kasanivan nu mapawud nu pinala-
? 漕ぐ
- 19. dziwan /
?
- 20. nimirakat [ana u ama nu nimigtak du
死んだ すでに(冠)父は (冠) 割れ出た(冠)
- 21. vatu dzitopa / a kapai [ana dsiwaokunon /
石に於て(地名)(結) 行く すでに (地名)

9. takamu ta (一人稱複数含對語者形) + kamu (二人稱
複数) なる代名詞複合形, ta のみにてすでに含對語者
形なるもかく重複したる形式もあり。
10. nipapapan 取りし處, ni-p-apap-an <mapap 取る。
11. nimijan 存せり(過) <[a:mijan 有(現在),
nipupajanan 有るやうにせし處, <amijan 有? 比較

topajan 住む處。
13. pamitsukuna (釣り)上り(歌語)現代日常語 vagurin
16. vinatovato ? v-in-ato-vato <vato 石?
sinavog/sisinavog (歌語) 日常語は sisivugun 祖より
り子孫まで代々。
21. kapai 行くこと <mapai 行く。

- 1. mijanak sija vawoknuq u kaktib na /
生む 彼等 (魚の名) (冠) 半分 其
- 2. tau u kaktib-na / nimigtak du kaju nu
人 (冠) 半分共 割れ出る (冠) 木より (冠)
- 3. tigii u tau dzimuwasik / mapai takamu
(木の名)(冠) 人 (地名) 行く 我々
- 4. dziqa no tau dzipilatajan kuwana / tu-
彼等へ (冠) (人) (地名) 日
- 5. malilis takamu amapai dziqapitan kuwa-
下る 我々は 行く (地名) 日
- 6. na / mijanak sija mipalan su sirmagpit /
生む 彼等 名附く (冠) (人名)
- 7. mapai takam du tilagim / mijanak am
行く 我々は (冠) 下の地へ 生む (結)
- 8. mipalan su sipaligig / kaluwan takamu
名附く (冠) (人名) 出る處 我々の
- 9. mapai ta dzimaliwud wud / mapai takamu
行く 我々 (地名) 行く 我々
- 10. du (w)aju a tau dzimasik / majanak am
(冠) 多く (結) 人へ (地名) 生む (結)
- 11. siminalsoquvai /
(人名)
- 12. nimakas dzijakumai-moqon u tarak /
落下した (地名) (冠) 神は
- 13. niagap da no tau dzimasik u tarak /
取つた者 彼等の(冠) 人 (地名) (冠) 神は
- 14. niagap da no tau dsivatan u tarak /
取つた者 彼等の(冠) 人 バタン (冠) 神は
- 15. mijanak siminalsoquvai papat nu anak /
生む (人名) 四人 (冠) 子
- 16. siminamawawa u [aki / mijanak u [aki
(人名) (冠) 總領 生む (冠) 總領
- 17. siminamatod / matsivusui sija / nirakat
(人名) 互に殺す 彼等は 死んだ

等は半分はワオクノンといふ魚であ
り,半分は人間である子を生んだ。デ
ムアシワクに於てトグイの木から人
が生れ出た。「デビラタヤンに住む人
達の處へ我々は行かうちやないか」と
云つた。「我々は山を下つてデラグビ
タンへ行かうちやないか」と云つた。
彼等は子供を生んだシルマグビット
と名付けた。「下の地へ行かうちやな
いか」子供が出来たシガリググと名付
けた。「我々は此處を出てデマリウド
ウドへ行かうちやないか」。「我々は多
くの人の居るデマシクへ行かうちや
ないか」。シミナルソグバイを生んだ。
タラク神がデクマイモロンへ落
下した。神はデマシクの人に捕へら
れた。その神はバタン人が来て連れ
て行つた。
シミナルソグワイは四人の子を生
んだ。その總領がシミナマワツであ
る。シミナマワツは子を生みその總

3. tigii の totem (?) は saman-manajat の家系なりと云
ふ。
16. tarak 神 tau-ju-to 「天の人」の異名?或は一部族。
17. niagap 取りし者 ni-agap (取る)。

21. matsivusui 互に殺す, 戦ふ, matsi-vusui 比較, Batan
busui 敵, 接頭辭 matsi- 「相互に」, matsi-pina-
gina 交易す。

- ¹ [ana šiminamawawan / miławud no pa-
すでに (人名) 歌 (説) 彼の
- ² uşonina /
同居人の
- ³ maŋai [ana pavujug dū malanu /
行く すでに 投入する (説)に 海中
- ⁴ iŋajuwanu ku pasa[awa]aku /
惜しい 私 (註)
- ⁵ [umu]umu]u luiik da malalamau
[木の名] 幸にある 其 行方不明
- ⁶ ravurak /
[人名]
- ¹² miro]o si]a šu uvai / pi]a [ana nu
興ふ 彼等 (説) 耳飾を 良い すでに(冠の)
- ¹³ nakinakim ta / mama]in ta šu kanin /
心 我々の 作る (説)を 食物
- ¹⁴ mi]vagai ta kuwana / tika [ana nu mi]vagai
造屋する 我々 日 終了 すでに 造屋する
- ¹⁵ mama]in [ana šu kanin / mapatujun ta
作る すでに 食物 招待する 我々
- ¹⁶ [ana šu ripuš ta milijun ta [ana ta
すでに (説) 親戚を 故に 招き 我々 すでに 故
- ¹⁷ i]jun [ana / marakat [ana u (w)ama na
飛魚漁 すでに 死ぬ すでに (説) 父は 彼の
- ¹⁸ šimina]suguvai / šiminamawawan / akanu
[人名] [人名] 及び

- 2. pauşonina 彼の同居人 pa-uşon-in na <*uşon 比較
kuşon 夫又は妻. kuşon <*uşon? kuşon は「但に住
む者」といふ原義か?
- 4. malanu 海 (歌語) 日常語 awa
- 7. ravurak は simina]suguvai.
- 13. nakinakim 心 <nakim 思考. 憶出す.
- 14. mi]vagai 造屋す <vagai 家.
- 18. šimina]suguvai の子 šiminawawan と siminawawan
の子 šiminamatod は不和になり遂に決闘まで進む.
其結果 siminawawan は非業の最後を遂げ、父なる
simina]suguvai は子の死を悲み自殺せんと思ひ己の
uvai (瓢形の頭或は貝製の装身具の總稱. 拱義には耳

領はシミナマツドであつた。親子
二人が戦ふ事になり、親のシミナツツ
は死んだ。彼の同居人は歌つて曰く。

海に捨てよと言はれしも
珍のウヅイは惜しければ
岩目に挟み歸りけり
捨てしウヅイを探れども
いづち失せけむ行方なし
岩に生えたる木を抜けば
不思議やあはれ木の下に
輝き渡り現れぬ。

彼等は[シミナツツウヅイとシミナ
マツド]ウヅイを交換した。「伸直り
が出来た。饗宴を催し家を造りませ
う」と云つた。家が出来上り饗宴を催
した。「我々の親戚を招びませう、既に
飛魚漁期が来たから飛魚漁祭をしま
せう」父なるシミナツツウヅイが死ん

飾) を捨てんことを彼の同居人に依頼せり。同居人は
惜しく捨て得ず岩の上に置き歸れり。simina]suguvai
と šiminamatod は和解することとなりその和解の
印として uvai を互に交換することになれり。然るに
simina]suguvai は uvai を所持せず困却せり。彼の
同居人は其の捨てずに岩の上に載せ置きしを告げし
故に同居人と共に探しに行けり。uvai の置きし處に
木生じ uvai の姿なし。如何せんと思ひしが木を抜き
しに木の下より uvai 現れたり。と云ふ故事を歌ひし
ものと云ふ。
simina]suguvai ši-mina- は故人の人名冠詞。

- ¹ šiminatod / šiminapunumaŋitsu / šimina-
[人名] [人名]
- ² punumanaga]d anak na /
[人名] 子 彼の
- ⁴ nimai u tau dū i]lau]d nimatsi]nanaganu
来れり (説) 人 (説) 海向の 知己になつた
- ⁵ šu tau dū jami / nimaga]i dū i]lau]d u
(説) 人と (説) ヤミに於ける 行けり (説) 沖へ (説)
- ⁶ kaŋanaganu a tau dū i]lau]d nimai u
知己の (結) 人 (説) 沖に於ける 来た (説)
- ⁷ amata]uka tau dū i]lau]d / a mipigitakin
外の 人 (説) 沖に於ける (結) 鼓を有つ
- ⁸ ma]a]lagut a dī]daw / ni]lakat da u ka-
悪しき (結) 外國人 死んだ 彼 (説)
- ⁹ ŋanaganu a jami / akaŋai [ana nu ma]a-
知己の (結) やみ人 行く すでに 悪い
- ¹⁰]agut a dī]da]u dū i]lau]d / mai [ana u
(結) 外國人 (説) 沖に於ける 来る すでに (説)
- ¹¹ kaŋanaganu a tau dū i]lau]d / adzindza u
知己の (結) 人 (説) 沖に於ける 何處へ (説)
- ¹² kaŋanaganu ku a jami kuwana no tau
知己の 私の (説) やみ人 日 (説) 人
- ¹³ dū i]lau]d / jaba [ana ta ni]pigitakin [ana
(説) 沖に於ける 無 すでに 故に 射られた すでに
- ¹⁴ nu tau dū i]lau]d kuwana no jami / maŋai
(説) 人に (説) 沖に於ける 日 (説) ヤミ人 行く
- ¹⁵ ku dū i]lawu]d maxi]sima]n namin kuwana
私 (説) 沖へ 喧嘩する 我々 云ふ
- ¹⁶ no kaŋanaganu a tau dū i]lawu]d / ka-
(説) 知己の (結) 人 (説) 沖に於ける
- ¹⁷ pi]si]sima]n da nu tau dū i]lawu]d /
喧嘩する 彼等 (説) 人 (説) 沖に於ける
- ¹⁸ mā]i no ivatan dzimwasii]k mitsakajun
来る (説) バタン人 [地名] 求婚する
- ¹⁹ šo koşon a vavakis inapowan ni]japunma-
(説) 連合を (結) 女 先祖 [人名]
- ²⁰ nagad / maŋai [ana si]a dū i]lawu]d /
行く すでに 彼等 (説) 沖へ

だ。彼の子シミナマツク、シミナトツ
ド、シミナブヌマニチ、シミナブヌマナ
ガツドである。

外國人が来てヤミ人と知己になつ
た。其知己になつた外國人は歸つた。
他の外國人がやつて来た。鼓砲を持
つてゐる悪い外國人だつた。知己の
ヤミ人は[殺され]死んだ。悪い外國人
は歸つた。知己の外國人が来た。「私
の友人のヤミの人は何處へ行つたか」
と外國人は問ねた。「外國人に撃たれ
て既に居ない」とヤミの人々が云つた。
「私は海の向うへ行き其人と喧嘩し
ませう」と知己の外國人が云つた。外
國人達が喧嘩した。

バタン人がデムアシクへ来て祖先
の女であるシヤブンマナガツドに求
婚した。彼等は海向へ行つた。バタ

- 4. nimatsi]naga 知己になれり ni-matsi-naga-naga
- 6. kaŋanaga 知己 ka-gana-gana
- 7. mipigitakin 鼓砲を有す <pi]gittakin 鼓 [同義語].
paobun 鼓砲.
- 8. dī]daw / dī]lig 外國人. 他國の. (ヤミ以外の) 比較 i]lau]d
主としてフィリッピン方面の人. i]latan バタン人.
iman]ja マニラ人. フィリッピン人主としてタガログ
人及び一般の西洋人. paicag 本嶋人. itanasai 火燒嶋

- 住人.
- 11. adzindza 何處へ dzinu (何處)+dzija (此處)? 又「何
れ」といふ場合に用ひらる.
- 13. jaba / abu
- 17. kapi]si]sima]n 喧嘩. 比較. maxi]sima]n 喧嘩す <*si-
man Batan mai]sima]n 喧嘩す. Batan mai- > pi]si-
ma-

- 1 mijanak dū ivatan / [a]lūwa u wanak dā /
生む (冠) 二人 (冠) 子は 彼の
- 2 maktsij šila abtsil / mamirin dā šitorijaū
空腹 彼等は 食料缺乏 聞く 彼等 (神の名)
- 3 dū to / maṣai takamu dzitorijaū ta
(冠) 天に於ける 行く 我々 「シトリヤウ」へ故に
- 4 mabusui kuwana / maṣai šila mansiksi
食料豊富 日 行く 彼等 水平線の處
- 5 kiḍ / tomokaḡu u analasaḡ dā am akiti-
へ行く 引掛る (冠) 帆柱は 彼等の 切られ
- 6 ban / jipilima dā aktiban / masaṣnaḍ dā
たもの 五回 彼等 切られたもの 到着する 彼等は
- 7 dū ponṣo no jivovos / šinu matsikišijan
(冠) 嶋に (冠) 「イボボス」の 誰 同村人
- 8 dšitūljaū / kuwana no ivatan / jakin u
シトリヤウの 誰 日 (冠) バタン人 私は (冠)
- 9 matsikišijan dzitōljaū kuwana no tau
同村人 「シトリヤウ」の 日 人
- 10 dū ivovos / maṣai namən kuwana no
(冠) (地名)に於ける 行く 我々は 云ふ (冠)
- 11 ivatan / ano kamaṣai aḡap kamu uja aša
バタン人 若し 行く 取る 汝等 此 一
- 12 ka [apa] anu kanin dā inju nu gulu /
(結) 芋の葉を 煮若し 食ふもの 彼等の 汝等 (冠) 豚
- 13 itoḡo mu (u)ja tšinapaḡ ta ikakura ka-
興ふ 汝等 此の 芋の葉を 故に 好愛
- 14 palalajun amaṣai /
走る 行く
- 17 dzimu (w)avaḡ dā minipanananaḍ /
汝等に於る 舟 其 進行した
- 18 akumakajjaupup nanaḍan
軽く滑る 通過する處
- 19 [aga]au atšinamaḡ no aḡuju /
雨のため上下する 破壊す 大浪うねり
- 20 kadšitsana[asa]a amanarasar dū
確かに 崩壊する

2. šitorijaū 六界の諸神の内の最高の女神。
3. dzitorijaū šitorijaū の所格。
4. mansiksiḍ 水平線の處へ行く <šikiḍ 天涯、天と海と接する處、maṣ- の ṣ は完全同化なせず逆の同化をして >n
7. matsikišijan 同村人、matsi-k(a)-iši-(j)an <iši 村。

ン島に於て、二人の子を生んだ。食料
 缺乏して彼等は飢えた。天界のシト
 リヤウ神のことを聞いた。「食物が深
 山あるからシトリヤウの處へ行きま
 せう」と云つた。空と海と接する處へ
 至ると、帆柱が引掛つたから切つた。
 五回彼等は切つた。彼等はイボボス
 の嶋に到着した。「シトリヤウの同村
 人は誰か」とバタン人は問ねた。「私は
 シトリヤウの同村人です」とイボボス
 人が答へた。「私達は行きます」とバタ
 ン人は云つた。「もし行くなら一本の
 芋の葉と莖を持つて行きなさいもし
 豚があなた達を食べようとした時に、
 豚の好物だから芋の葉を興へて走つ
 て行きなさい」とイボボス人は云つた。

船は輕げに滑り行く
 或は高く又低く
 振れつゝ進む其時に
 大浪來り船傷み

12. gulu は šitorijaū を守護する怪獣にして侵入者あれば喰ひ殺す。
14. kapalalajun 走ること、ka-pa-la-laju-(i)n <ma-laju 走る。
17. minipanananaḍ 進行せり、m-in-i-pa-nanaḍ <nanaḍ 通過す、比較 nanaḍ-an 通過する處。

- panuniṣan /
海底
- mupatsitanab dū wawaḡ agarawagaū /
同じ高さ 海 深い
- 4 kapaḡ [ana dū ipato dū tau dū tuḡ /
行く すでに (冠) 上へ (冠) 人へ (冠) 天に於ける
- 4 kainum [ana šu inuinuman niṭulijaū /
飲む すでに (冠) 水入を シトリヤウの
- 5 kaušī [ana u anak na / rakatinamən
歸る すでに (冠) 子は 彼の 我々の殺す者
- 6 kuwana nu anak na niturijaū / tauša ta
日 (冠) 子 彼の シトリヤウの 勿れ 故に
- 7 nininum [ana šu inuinuman ko kuwano
飲入た者 すでに (冠) 水入を 私の 日
- 8 niturijaū / kapatsijauṣoḡ [ana / makasa
シトリヤウの 同居する すでに 一
- 9 ḡuḡan / makaduwa ḡuḡan šila / makateḡu
月 二 月 彼等 三
- 10 ḡuḡan šila / makapat a ḡuḡan šila / ma-
月 彼等 四 (結) 月 彼等
- 11 kalima ḡuḡan šila / makanim a ḡuḡan
五 月 彼等 六 (結) 月 彼等
- 12 šila / makapitu a ḡuḡan šila / makawaū
彼等 七 月 彼等 八
- 13 a ḡuḡan šila / makasijam a ḡuḡan šila /
(結) 月 彼等 九 (結) 月 彼等
- 14 makasa kawan [ana / makaḍuwa kawan /
一 年 すでに 三 年
- 15 makateḡu a kawan / makapat a kawan /
三 (結) 年 四 (結) 年
- 16 makasima kawan / maṣai šila šumibu /
五 年 行く 彼等は 山へ行く
- 17 dū taki u tau dū ivatan akanu apu na
(冠) 島へ (冠) 人は (冠) バタン 及び 孫は 彼の
- 18 niturijaū / matsita šu kaguliḡ / jujauna
シトリヤウの 見る (冠) 山羊を 彼の追ふもの
- 19 nu apu na / matsita u tau dū ipatu dū
(冠) 孫に 彼の 見る (冠) 人は (冠) 上に居る (冠)
- 20 ikaḍ[un] / ikopṣo aḡapan mu kuwana /
(地名) 何 取るものは 汝の 日
- 21 jakin nu kaḡušin kuwana / abu aḡapin
私 (冠) 山羊 日 無 取るもの

嶋は崩れて水底に
 船端までも水充てり
 天界の『天の人』の處に行つて、シトリ
 ヤウ神の水壺から水を飲んだ。彼の
 子が歸つて來た。「殺すぞ」とシトリヤ
 ウの子が云つた。「私の水壺から飲ん
 だから殺しちやいけない」とシトリヤ
 ウ神は云つた。一緒に住んだ。一ケ
 月間、二ケ月間、三ケ月間、四ケ月間、五ケ
 月間、六ケ月間、七ケ月間、八ケ月間、九ケ
 月間、一ケ年間、二ケ年間、三ケ年間、四ケ
 年間、五ケ年間、バタン人とシトリヤウ
 の孫が山の耕作地へ行つた。山羊を
 見て、彼の孫は追ひかけた。天界のイ
 カルドン人は見た。「何を取りますか」
 と尋ねた。「私の山羊を」と答へた。「取
 らずに私達と一緒に上へ行きますせう。
 私の踵を見せてあげませう」と云つた。
 晩になつて彼等は踊つた。イカルド
 ンの踵が始つた。

4. kainum 飲むこと ka-inum <*inum, minum 飲む。
inuinuman 水入(冠) inu-inum-an <*inum
niturijaū šitorijaū の生格。
5. rakatinamən rakatin namən

同じ水を飲みし者を殺すことは tabu なり。
16. šumibu 山へ行く、š-um-ibu <šibu 山。
18. jujauna 彼の追ふ者、jujaun na

- ¹ mu ta maŋai ta ɖu iŋato² / tʃitagin mu
汝(結)放 行く 我々(冠) 上へ 見るもの 汝の
- ² maŋanam ku / maŋib [ana maŋanam [ana
踊 私の 晩 すでに 踊る すでに
- ³ ŋiŋa / itbok [ana u ɠanam nu ikarɖoŋ /
彼等 (語源の) 居るすでに(冠) 踊は (冠) (地名)
dzija katʃimui ta ɠajuɠajuɠun ana
不 降雨 (結) 枯れる
imo /
汝のもの
tarokok ɖu iŋato maisakon ŋu
[鳥の名] (冠)於る 上 (差を)被る
lapanai /
茶椀
- ⁴ ipantsi ɖa [ana / maŋai takamu tʃitagin
話す 彼等のすでに 行く 我々 見られる
- ⁵ u maŋanam ɖu iŋato kuwana nu ivatan /
(冠) 踊は (冠) 上に居ける 日 (冠) バタン人
- ⁶ ŋamsaman takamu ŋiŋa / aɠapin takamu
盗まる者 我々の 彼等(のもの) 取るもの 我々の
- ⁷ u ikaɖima na vinaga / amijan ku ɖu
(冠) 第五の (共) 壺 居る 私 (冠)
- ⁸ vaŋai / amijan ka ɖu (a)ʃupaniɖ / amijan
家に 居る 汝 (冠) 家の第二の入口に 居る
- ⁹ ka ɖu ŋiŋidpan / amijan ka ɖu pantaũ /
汝 (冠) 家の第一の入口に 居る 汝 (冠) 外に
- ¹⁰ amijan ka ɖu rarakɖaŋan / amijan ka ɖu
居る 汝 (冠) 石垣の階段に 居る 汝 (冠)
- ¹¹ ɖu aũluɖ / apitotoɖaŋan takamu / malaju
石垣の上の 休憩場に 手渡される 我々 走る
- ¹² takamu [ana / miʃogoʃogo takamu kuwa-
我々 すでに (點火して)探す 我々 日
- ¹³ na nu ikarɖoŋ / tʃitagin ta u tamtamik
(冠) イカルドン人 見るもの 我々(冠) 寶物は
- ¹⁴ ta niŋamsaman ɖa jatin jabu ikaɖima na
我々 盗まれたもの 彼等の 我々の 無 第五の 共
- ¹⁵ vinaga / jujaun takamo ŋiŋa ta puɠuʃun
壺 追跡するもの 我々の 彼等は 故 取返されるもの

4. katʃimui 降雨, ka-tʃimui <tʃimui 雨.
ɠajuɠajuɠun 枯れるもの ɠaju-ɠaju-ɠun <ma-ɠaju
枯る。
6. 天に[tarokok]と稱する鳥ありて、その鳥現れば晴天と
なる。
maisakon 被る mai-sakon >sakon 笠、歌に接頭辭
mai- が發留す。
7. lapanai 茶椀, =panai 茶椀。
11. vinaga 大形の素燒壺にして裝身具貴金屬を收藏す。
12. ʃupaniɖ ヤミの家屋の構造は大略玄関の間と奥の間

雨なくて草木枯れ凋む
天ツ鳥椀を被れよ

「他の人に話してから天界の踊を御
一緒に見に行くことにいたします」と
バタン人は答へた。「彼等のものを盗
まうぢやないか。第五番の壺を取ら
うぢやないか。私は家に入る。お前
は家の第二の戸口に居れ、お前は第一
の戸口に居れ、お前は石垣の段の處に
居れ。お前は石垣の上の憩場に居れ。
私達は手渡しをするんだぞ。私達は
走るんだぞ。[とバタン人は仲間に
命令した]。「火を點して探さうぢや
ないか」とイカルドンは云つた。「我々

に別れ、玄関の間の戸口を ŋiŋidpan と名け、玄関の
間と奥の間との間の戸口を ʃupaniɖ と名く。
14. rarakɖaŋan ヤミの家屋は石垣を以て周圍を圍み、石
垣の上は家と家との交通路にして、石垣上の比較的密
き處(aũluɖ)は遊場、休憩場にして、家より石垣の上
に出るには階段(rarakɖaŋan)を上る。
16. miʃogoʃogo 松明に點火す、點火して探す、<ʃogo 松
明。
17. ikaɖiŋu には海を見ることは tabu なり。

- ¹ ta / jujaun ɖa ŋiŋa malalaju ŋiŋa ɖu
我々の 追跡するもの 彼等の 彼等は 走る 彼等は (冠)
- ² iɠawuɖ³ u tau ɖu ivatan / matsita ŋu
沖へ (冠) 人 (冠) 沖へに居ける 見る(人) (冠)
- ³ wawa u tau nu ikaɖiŋu / marakat ŋiŋa /
海な (冠) 人は (冠) イカルドン 死す 彼等は
- ⁴ u nimakatʃita ŋu wawa / u tawn nu
(冠) 見た人 (冠) 海な (冠) 人 (冠)
- ⁵ ikaɖiŋu abu [ana nu aɠapin u tamitamik
(地名) 無 すでに (冠) 見るもの(冠) 寶物は
- ⁶ ɖa paŋavajan takamu kuwana / makanim
彼等の 呪詛 我々 日 六
- ⁷ a kawan ŋiŋa / makapito a kawan ŋiŋa /
(結) 年 彼等 七 (結) 年 彼等
- ⁸ makawau a kawan ŋiŋa / anu ujuɖ kamu
八 (結) 年 彼等 若し 眞實に 汝
- ⁹ anak nu minakim / avijaŋan mu u:bun
子 (冠) 富人 掃除する處 汝の 内は
- ¹⁰ nu aɖiɖin / ta (a)mijan ɖaŋ atigi nu tam-
(冠) 倉の (結)故に 有 多分 根元 (冠) 寶
- ¹¹ tamik namon kuwana / piŋiŋiŋuɠun nu
物の 我々の 日 撫て廻はれるもの (冠)
- ¹² guɠu / tu mikavuguvuɠu u piŋaŋuɠuɠit /
竹(冠) 此處 出現する (冠) 寶は
- ¹³ vurnutin nju kuwana / tu manuɠiŋuɠi?
真直に引抜く 汝等の 日 此處 引抜く
- ¹⁴ ŋiminaɠuwan / makorotoɖ u vonon na
(人名) 切れる (冠) 分前 彼の
- ¹⁵ niminaikaŋalapan / makortoɖ u ikaɖiŋu
(人名)の 切れる (冠) 第二回の
- ¹⁶ na nu vonon na niminavuwan / ikaŋijam
共 (冠) 分前 彼の (人名)の 第九
- ¹⁷ na kawan / maŋai ta [ana ta jaku ikapaũ
共 年 行く 我々(結)故 私は 懐かし
- ¹⁸ ŋiŋa ɖu ponso no jami / mamiliŋ ŋitorijau
彼等(冠) 鳴に於ける(冠) ヤミの 聞く (神の名)
- ¹⁹ anu maŋai [ana miluɠuɠuŋon takamu ipan-
もし 行く すでに 總て 我々 與へ
- ²⁰ ta takamu ŋu kanin / anu maŋiɠubɠubtin
る 我々 (冠) 食物を 時 集めたもの

の寶物を見よう我々のものは盗まれ
た。第五の壺が無い。取返しに奴等
を追跡しよう！[イカルドンの言葉]イ
カルドン人はバタン人を追跡した。
バタン人は海の方へ走つた。イカ
ルドン人は海を見た。海を見た者共は
死んだ。イカルドン人は彼等の寶を
取られなかつたから我々は詛ふと云
つた。第六年目、第七年目、第八年、目も
し誠に富裕の子であれば、倉の内を掃
除すれば、多分最高の寶が現はれるだ
らう」とイカルドン人が教へた。竹で
はたくと、寶が出現した。「真直に引抜
きなさい」とイカルドンが云つた。シ
ミナブワンは引抜いた。シミナイカ
サラカンの分前は切れた。シミナブ
ワンの二回の分前は切れた。第九年
目、私には紅頭嶼の人達が懐しいから
私達は行かうぢやありませんか[紅
頭嶼生のイバタンの女が云つた]。シ

6. paŋavajan 呪詛 呪術を以て人を病氣又は死せしむ
ること、呪術の方法は赤石、糖、草を乾かせる芽を
結へ墓場の端に置き呪文を唱へ海を漕り歸す。他の
法は piŋaŋuɠuɠit (裝身具)は鷄の齒と頭の中央の額髪
を一本取り結へ海中に捨つ。
9. avijaŋan 掃除する處 (a)vijaŋ-an <*vijaŋ, vivijaŋ 掃、
掃草 mivijaŋ 掃く。

12. guɠu guɠu no kawalan 極めて巨大なる蔗叢的の竹。
比較 guɠu 怪豚。
13. manuɠiŋuɠi 引抜く, maŋ-ŋuɠi-ŋuɠi 水平を抜くが如
く引抜く? <ŋuɠi 永平?
19. miɠuɠuɠuŋon 總て mi-ɠuɠuɠuŋon <ɠuɠuŋon すべて、
南方支那語體總 (ɠuɠuŋon) と相通すれど偶然の暗合、
ヤミ語には本嶼語の移入語無し。

- 1 dā / gunagunajin takamu vaqai no manok
彼等 獲るもの 我々の 家は (冠) 雞の
- 2 ta dzisijapan šu pinigatajan nu manak
故 此を食べない (冠) 通つた跡を (冠) 雞の
- 3 kuwana no ivatan / dzikamuwapan puč-
日 (冠) バタン人 汝等食ふ勿れ 觸れた
- 4 puč atšitsij u pinigatajan nu manuk /
もの(?) 不潔 (冠) 通つた跡は (冠) 雞の
- 5 (a)dzikamawapan šija / a kuman kamu
汝等食ふ勿れ 此 (結) 食ふ 汝等は
- 6 kuwano no ivovos / nun kuwana no iva-
日 イボボス人 然り 日 (冠) バタ
- 7 tan anu kuman kamu apin nju ta vaiwaū
ン人 もし 食す 汝等は 獲るもの 汝等の 故 惜しき
- 8 kuwana no ivovos / nun kuwana no iva-
日 (冠) イボボス人 然り 日 (冠) バ
- 9 tan lup-šop agapin dā no ivatan / kagap
タン人 皆 取るもの 彼等の(冠) バタン人 取る
- 10 [ana šija maḡai [ana šila / pakagigipin
すでに 此を 行く すでに 彼等 夜にせられる
- 11 takamu / agapin takamu u ininoman
我々の 取るもの 我々の (冠) 水入は
- 12 nituljaū kuwana no ivatan / kaḡai [ana
シトリヤウの 日 (冠) バタン人 行く すでに
- 13 maḡap sja dū maḡip / kajukaī kamu
取る 此を (冠) 夜に於ける 起きよ 汝等
- 14 maḡanako ta / aḡa nijagap u ininuman
私の子 故 恐らく 獲れたもの(冠) 水入は
- 15 ku nu ivatan / maḡai takamu jujawun
私の (冠) バタン人に 行く 我々は 追はれる者
- 16 šimanin takamu šila u maḡagit / mi
殺される者 我々の 彼等 (冠) 惡漢 行く
- 17 takamu [ana / maḡai takamu dū jami ta
我々 すでに 行く 我々 (冠) ヤミへ 故
- 18 aḡu kanikanin kuwana no vavakis nu
多 食物 日 (冠) 女 (冠)
- 19 jami /
ヤミの

2. dzisijapan 此を食す勿れ dzikamuwapan 汝等食す勿れ。 <dzi-šija-(ma)ḡ-(k)an? <dzi-kamu-(ma)ḡ-(k)an? / *kan 食。比較 k-um-an 食す, kan-in 食物, kan と關係あらん, dzi は「否定」を示す。

トリヤウ神は聞いて「もし行くんでし
たら我々みんなで食物を上げませう」
「彼等が集めた時我々は鶏小屋を搦
り動かさうぢやないか。雞が通れば
食べないから」とバタン人は云つた。
「雞に觸れたものは食べちやいけな
い雞の通つた食物は不潔だ。此を食
べちやいけない。あなた達(=バタン
人は食べますか)とイボボス人が云つ
た。「はい」とバタン人は答へた。「もし
食べるなら惜しいからあなた達は取
りなさい」とイボボス人は云つた。「は
い」とバタン人は云つてバタン人は總
てを取つた。「夜になつたら我々はシ
トリヤウの水壺を取つてやらう」とバ
タン人は云つた。夜此を取りに行つ
た。「私の子等よ、起きなさい。私の水
壺がバタン人に取られたやうだ、あの
惡漢共を追かけて殺したやらうよ」と
シトリヤウ神が云つた。「さあ行かう。
食物が多いから紅頭嶼へ私達は行き
ませう」とヤミの女が云つた。

7. apin <agapin
10. pakagigipin 夜にせらる。夜になる pa-ka-gi-gip-in
<ma-gip 夜。
18. kanikanin 種々、食物 <kan-in 食物。

- 1 mašari dā šu (w)āša ka maḡatau /
發見する 彼等 (冠) 一の (結) 嶋を
- 2 gumtšin takamu kuwana / manutun ta-
上陸する 我々 日 炊事す
- 3 kamu kuwana / tučuginip no maḡataū /
我々 日 満潮になる 嶋
- 4 maḡagit kuwana rumagupit šila dū tata-
悪い 日 乗る 彼等 (冠) 舟に
- 5 la / kaḡai dā [ana / mašari dā šu āša
行く 彼等は すでに 發見する 彼等 (冠) 一
- 6 ka maḡatau / gumtšin takamu kuwana /
(結) 嶋を 降下する 我々 日
- 7 umaričapčap tupinič dū ikaruwa na ma-
熱き (海水に)洗む (冠) 第二 共
- 8 gataū maḡai takamu kuwana / rumagipit
嶋に於て 行く 我々 日 乗る
- 9 dū tatala / maḡai takamu [ana dū iḡala /
(冠) 舟に 行く 我々 すでに (冠) 陸へ
- 10 amijan šila dzikbalat / aḡu mananaū dū
有 彼等は (嶋の名)に 多く ナナウを取る人(冠)
- 11 kišakan u tau / maḡai namən džiḡu
海岸に於て (冠) 人 行く 我々は 汝等の處へ
- 12 kuwana no ikbalat dzikamuḡai kuwana
日 (冠) イボボス人 汝等来てはならぬ 日
- 13 no ivatan / ta džitamumakaḡawa mama-
(冠) バタン人 故 我々は出来ない 清々
- 14 kop / tšaga ta makaḡawa namən kuwana /
構はない故 可能 我々 日
- 15 mai [ana šila dū jami / mašasunad šila
来る すでに 彼等 (冠) ヤミに 到着する 彼等は
- 16 dziktib / maḡannjaū kamu kuwana / ma-
(地名) 初漁せよ 汝等 日
- 17 kamuḡ šu iḡik kanu tovo-tovo / maḡai
漁す (冠) [魚の名]及び [魚の名] 行け
- 18 kamu pala dziakai mu džiḡaḡalai kuwana /
汝等 (助) 祖父へ 汝等の イララに於て 日
- 19 maḡai šila dziakai / ikoḡpo annjaū nju
行く 汝等は 祖父の處へ 何 初漁 汝等の
- 20 kuwana / tovo-tovo kanu iḡik kuwana /
日 [魚の名] 及び [魚の名] 日

彼等是一個の嶋を發見した。「上陸
しませう」と云つた。「飯を炊きませう」
と云つた。潮が満ちて嶋は隠れた。
「駄目だ」と云つて舟に乗つた。彼等
は行き、一個の嶋を發見した。「上陸し
ませう」と云つた。第二の嶋は熱いか
ら海水へ入つた。「行きませう」と云つ
た。舟に乗つた。「上陸しようぢやな
いか。彼等はイクバラット嶋に到着
した。海岸で澤山の人がナナウを取
つてゐた。「我々は君達の處へ行く」と
イクバラット人は云つた。清げるな
ら構はないんだが清げないから君達
は同乗しちやいけない」とバタン人が
云つた。
彼等はヤミ族へ来た。彼等はデク
タブへ到着した。「皆さん初漁をなさ
い」とヤミ生れのバタンの女が云つた。
イルクとトボトボを漁した。「イララ
ライのあなたの御祖父さんととこへ
行きなさい」と云つた。「お前達の初漁

3. tučuginip 満潮になる。満潮 mi-ginip to dā ginip
の筆録説か？
10. mananaū ナナウを取る人, nanaū 一種の食料具。
12. dzikamuḡai 汝等来る勿れ, dzi-kamu-ḡai <maḡai 同

例: dzi-takamu-makaḡawa 我々は出来る。
17. maḡannjaū (小供を) 始めて生む, 始めて漁す, (袋共
他の器具を) 始めて使用する。

- ¹ dzikamugai / asixinin njo siła maJan nju
汝等来てはならぬ 押し除ける者 我等の 彼等 叔父は 我等の
- ² kuwana / abu [a]aun na jatIn niJakai
日 無 許可せられる 彼に 我々は 祖父に
- ³ kuwana / mapai takamu [ana mapanak
日 行く 我々は すでに 子
- ⁴ ko kuwana / mapai takamu maplut su
私の 日 行く 我々 抜取る (冠)
- ⁵ gumut dzikanjuau kuwana / mapawud
若布な (地名) 日 漕ぐ
- ⁶ vavakis / dzinu ja kuwana / dzimavunut
女は 何處 (助) 日 (地名)
- ⁷ kuwana / ijawawaxi uvigivik kuwana /
日 思出される 砂濱は 日
- ⁸ mapaxipakit mapawud pa ninagoton /
交代する 漕ぐ 向 (人名)
- ⁹ ijawawaxi ko uvigivik kuwana / dzinu
思出される 私に 砂濱は 日 何處
- ¹⁰ ja kuwana / dzika[agim kuwana / iJawa-
(助) 日 (地名) 日 思出
- ¹¹ wawaxi ko uvigivik kuwana / gumtsin siła
さる 私に 砂濱は 日 降る 彼等
- ¹² du kisakan / maplut siła so gumut /
(冠) 海岸に 抜取る 彼等 (冠) 若布な
- ¹³ kanu pušipit / mi[un]u[un]son siła agapin
及び (海草の一種)を すべて 彼等 取られた
- ¹⁴ kanu katsitsimos / asa inapan u katsitsi-
及び 貝類は 一 舟の仕切 (冠) 貝類は
- ¹⁵ muš du avay da / asa inapan u gumut /
(冠) 舟にて 我等の 一 仕切 (冠) 若布は
- ¹⁶ mi takamu [ana / mapai siła du [ak]a-
行く 我々 すでに 行く 彼等 (冠) 石段へ
- ¹⁷ pan / taüşia ta mapai takamu dukuwan /
不要 我々 行く 我々 向へ
- ¹⁸ mapai takamu dšišomarap / mapai siła
行く 我々は (地名) 行く 彼等は
- ¹⁹ dšišomarap / a[un] no manupit taüşia ta
(地名) 多 (冠) 熱い 不要 我々
- ²⁰ ka[owan takamu / mapai takamu dziva.xi-
他の處 我々 行く 我々 (地名)
- ²¹ nu² / to [ana pijan siła u [ako a vanuwa
其處 すでに 住する地 彼等の (冠) 大 (結) 平地

1. asixinin 押し除ける者 <masixin 例へば他人を押し除けその場所を占める、他人を妨害する、他人の権利を侵害する。
majan 兩親の兄弟のみならず、妻の父、母が再婚した

は何か」と[祖父が]云つた。「トボトボとイルクです」と[孫達が]云つた。「お前達は来ちやいけない。お前達の叔父さん達の生活を苦しめるから」と[祖父が]云つた。「お祖父さんは私達を許してくれませんか」と云つた。「私の子供よさあ行きませう」と云つた。女も漕いだ。「何處だらうね」と云つた。「ヂャブスト」と云つた。「此の砂濱を憶出します」と[ヤミ生れのバタン]の女が云つた。「シナゴトンが交代して漕いだ。「私は此砂濱を憶出す」と云つた。「何處ですか」と問ねた。「ヂカラグン」と答へた。「私は此砂濱を憶出す」と云つた。彼等は海岸へ降りた。彼等は若布とブシグトを抜取つた。彼等はみんなで貝類も採つた。貝は彼等の舟の一仕切あつた。若布は一仕切あつた。「皆さん一緒に出掛けませう」。彼等は石垣の階段へ行つた。「此處へ来ちやいけない向うへ行きませう。ヂソマラ

場合の新しき父。
15. inapan 船の内側は横木(jagib)を以て兩側板を保持せしむ。横木と横木の間仕切を云ふ。

- ¹ dziva.xinu / to [ana [ijan siła mivagai /
(地名) 其處 すでに 住する地 彼等は 家を作る
- ² mipa[u] [ana siła / mivagai [ana siła
増加する すでに 彼等は 家を作る すでに 彼等
- ³ dzivalinu /
(地名)
- ⁸ mijanak nu inapu namən šapun-[atu-
生まる (冠)より先祖 我々の (人名)
- ⁹ nan / manijaui nu vušui / anak [ana
恐しい 殺人 子 すでに
- ¹⁰ šiapun-managat niapun-[atonan / mianak
(人名) (人名) 生まる
- ¹¹ niapun-manapat anak na šiminativu aka-
(人名)より 子 彼の (人名) 及び
- ¹² nu šigajun / [a]uwa siła nu anak na /
(人名) 二人 彼等 子 彼の
- ¹³ mijanak niiminagajon asa ka anak na
生まる (人名)より 一 子 彼
- ¹⁴ šikiņas / mijanak nikiņas tato[o] nu (w)a-
(人名) 生れる (人名)より三人 (冠) 彼の
- ¹⁵ nak na / u ikatato[o] na anak nikiņas
子 彼の 第三番目の 彼の 子 (人名)
- ¹⁶ mijanak šo [a]šima / inapo na njapon-
生む (冠) 五人を 祖先 彼の (人名)
- ¹⁷ muakal u asa ka tau / inapu niaman-ma-
(冠) 一 (結) 人 先祖 (人名)
- ¹⁸ gato u ika[a]uwa na / inapo njamanribu
(冠) 第二番目 彼の 先祖 (人名)
- ¹⁹ u ikatato[o] na / inapo na njamandzagalit
第三番目 彼の 先祖 彼の (人名)
- ²⁰ u ikapat na / šiminavilivilitin u ikalašima
第四番目 彼の (人名) (冠) 第五番目
- ²¹ na / abu nu mijanak šiminavilivilitin /
彼の 無 (冠) 子を生む (人名)
- ²² mijanak no inapu namən šjaman iša[au]² /
生まれる (冠) 祖父より我々 父 亡

1. to[an]anjan to [ana pijan と切るべきものか pijan.
<amijan 居る?。
8. ヤミの命名法は「子稱」或は「孫稱」にして saman-

ップへ行きませう。彼等はヂソマラップへ行つた。「大變熱い此處は良くないから他處へ行きませう。イヴリスへ行きませう。彼等はイヴリスの廣い平地に住んだ。其處に住んでて家を作つた。彼等は増加した。彼等はイヴリスで家を作つた。
我々の祖先から恐しい人殺のシャブンラトナンが生れ、シャブンラトナンの子はシャブンマナガットであつた。シャブンマナガットはシミナリブとシガユンの二人の子を生んだ。シミナガヨンは一人の子シキガスを生んだ。シキガスは三人の子を生んだ。シキガスの第三番の子は五人の子を生んだ。其一人はブンムアカルの先祖であり、第二番目の子はシャマシマガットの先祖であり、第三番目の子はシャマンリブの先祖である。第五番目の子はシミナにブルブルトウンの先祖です。シミナブルブルトウンには子が無かつた。亡き父[シャマン

dzaga[it は「ši-dzaga[itの父」 saman <si-ama-nu, šapun-[atunan は「ši-[atunanの祖父」 šapun <si-apu-nu.

- ¹ [a]uwa nu gagakai papat no vavakis
二人 (冠) 男 四人 女
- ² nanim si]a miktikti / mianak sjaman
六人 彼等 同胞 生む 父
- ³ itsa]anũ papat namøn a gagakai / nima-
亡 四人 我々の (結) 男 死んだ
- ⁴ rakat asa kakti namøn / tato]u namøn
一 同胞 我々の 三人 我々の
- ⁵ [ana maviaji a gagakai / papat no kakti
すでに 生きる (結) 男 四人 (結) 同胞
- ⁶ namøn a vavakis nima]akat na u tato]o
我々の (結) 女 死んだ すでに (冠) 三人は
- ⁷ asa [ana u mavijai a vavakis / u kakti
一 すでに (冠) 生く (結) 女 (冠) 同胞
- ⁸ ko a gagakai mapai si]a dzitaiwan / ni-
私 (結) 男 行く 彼等 小紅頭嶼
- ⁹ mapapag akasinaũ na ni]a nu pagpag
強風が吹いた 漂流する すでに 彼等 (冠) 強風によ
- ¹⁰ nimapai [ana]u ilawu] / abu [ana no
行つた すでに (冠) へ 沖 無 すでに (冠)
- ¹¹ nimaji]u dzija]u pup]u namøn /
歸來した (冠) 此處へ (冠) 鳴へ 我々の
- ¹² nimijan [ana si]a]u ilawu] / mai u
居た すでに 彼等 (冠) へ 沖 来る (冠)
- ¹³ pairap si]dzinsij u]ana / nipantsi dzakin
本嶋人 (人名) (冠) 彼の名 話した 私に
- ¹⁴ amijan u kakti mu]u ilawu] / ta
在す (冠) 同胞 汝 (冠) 海外に (結)
- ¹⁵ nimijanak [ana tsitsakuwaja [a]uwa u
生んだ すでに 今 二人 (冠)
- ¹⁶ (w)anak na no [ak]aki / tatolo u anak-na
子 彼の (冠) 兄 三人 (冠) 子彼の
- ¹⁷ nu ananak /
(冠) 弟

2. u a]au
太陽

- ²⁰ mavivi u a]au / ikasi na u anak na
低き (冠) 太陽は 彼の (冠) 子は 彼の
- ²¹ mava]ap]u a]au / tu]gin na u (w)a]au
照らされて (冠) 太陽に 交々新島の 彼の (冠) 太陽は

- 2. miktikti 同胞全部 mi-kti-kti <mi-kti.
- 11.]u dzija 此處へ dzija にてすでに處格なるも、位置を示す冠詞]u を重用することあり。

ヂャカガリットの祖父は子を生んだ。
男二人女四人六人の同胞であつた。
亡き父(シャマンヂャカリットの父)は
四人の男を生んだ。兄弟の一人は死
んだ。三人の男は生きてゐる。同胞
に四人の女がある。三人は死に一人
の女は生きてゐる。私の兄弟は小紅
頭嶼へ行つた。強風に吹き流されて
海のかなたへ行つてしまつた。此の
我々の嶋へ戻つて来ません。彼等は
既に外國へ行つた。ジンシンといふ
名の本嶋人が来て「お前の兄弟は外國
に居る兄は二人の子を弟は三人の子
を生んだ。」と私に話した。

2. 太陽傳説

太陽が低い[ため]子供は太陽に照さ
れて可哀いそうだ。彼の母は太陽を

20. mavivi / mavigvig 後者の形良きか? i の後の g は
屢々開洩することあり。

- nu ina na / marakat u a]au mipapa]it u
(冠) 彼の 死す (冠) 太陽は 交代する (冠)
- ² (w)agib² akanu (w)a]au / iru na u gapit²
夜 と 晝は 彼の (冠) 天は
- ³ nu [aku nu tau / maka]ap [ana u gapit /
(冠) 大きな (冠) 人により 高い すでに (冠) 天は

3. イララライ社傳承洪水神話

- ⁶ nimika]a su namisij u mami]i su ka-
探した (冠) 食糧を (冠) 選ぶ(者)は (冠) 食
- ⁷ nin / mapai]u ilawu] / ni]a]iki] na u
物な 行く (冠) 沖へ 行くものは (冠)
- ⁸ gagan / to]a manu]ot [aku no wawa /
白色の珊瑚石 其處 すでに 中から出る 多くの (冠) 海水
- ⁹ nimaka]a]a [ana / malalaju amapai]u
上陸した すでに 走り 到る (冠)
- ¹⁰ ilala / to]ai [ana u wawa]u pamu]ana /
陸に 其處 来る すでに (冠) 海水は (冠) 海岸の砂地に
- ¹¹ mu]i si]a]u i]i / agapin]a u prapra-
歸る 彼等は (冠) 村へ 取るもの 彼等の (冠) 荷物は
- ¹² tan / a kapai [ana]u tokon / to mipa]a-
(結) 行く すでに (冠) 山へ 此處 増加する
- ¹³ ku [ana u wawa / mapai [ana]u tokon
すでに (冠) 海水は 行く すでに (冠) 山へ
- ¹⁴ u wawa / nimapap su (w)asin / amijan
(冠) 海水は 取つた (冠) 鹽を 居る
- ¹⁵ [ana]u tokon / abu su kanin am / asinin
すでに (冠) 山に 缺く (冠) 食物 (結) 鹽をつくら
- ¹⁶ [ana u paputok / a kakan [ana si]a / to
すでに (冠) [草の名]は (結) 食ふ(に) すでに 彼等は 此處

突き刺した。太陽は死に夜と晝が交
代するやうになつた。巨人が天を押
上げたから天は高くなつた。

3. イララライ社傳承洪水神話

ナミシルを探した。孕んだ女が沖
へ行つた。珊瑚をひつくりかへした。
海水が澤山出た。走つて陸へ行つた。
海水は濱まで来た。彼等は蕃社へ歸
つた。荷物を取つた。山へ行つた。
海水は増加した。海水は山へ行つた。
鹽をもつて行つた。山に居た。食物
が無かつたから、バブトクに鹽をつけ
て、彼等は食べてゐた。ジビガグンに
多数の人が集つた。食物が無くて彼
等は飢ゑたために、残つた者は十人で

2. gapit 天 比較 Batan xanit 天 IN. lapit 天, i の前
の g は Batan に於て n (n 或は p) に變ず, ヤミに
於て gapit なるも Batan と同じく gapit と發音す
る人もあり。

採録期: 昭和六年九月。
口授者: i]a]alai 社 si]anui (男, 當時35歳)。
説明者: 後藤武雄氏。
原文3及び4は口授者より直接筆録す, [o], [u], [u]は[u]
音の變異に過ぎざるも聞きしよ、書き別けたり。

- 紅頭嶼地名
- dzipigapin イラヨミル社社の南方の高地。
- dzitsaku]man ヤニ社附近の山。
- dzimasapau イラタイ社の西北の地。
- dzikavntsidan dzipaptok の下方。
- dzi]ibug 南嘴角。
- dzi]agui dzi]ibug の附近。
- dzimuwasik イモルッ社東南の平地。

- dziktib イララライ社の附近。
- dzika]agin イララライ社とヤニ社の中間。
- [ak]apan イラヨミル社とイワギマ社の間
- dzisamarap イワギマ社の西南。

原文に出づる其他の地名は現在不詳のものあり又實地踏
査せざれば説明し難きものもあるに依り除けり、現在ヤミ
族は七社に聚落す: imu]ud (イモルッ社、地圖にはイマ
ウルと表す), i]atai (イラタイ社), ivatas 社(イワギマ社)
jaju (ヤニ社), i]a]alai 社(イララライ社), i]amumi]ik 社
(イラヨミル社), i]asinu (イワギマ社)。

- 7. niva]iki] 願望せしめられしもの (nivasiki] 正しき
か?) <vasiki] 完了, 受動の名動詞 比較 vasiki]in
(行) 受動の名動詞なるも時は不定なり、即ち過去に
も現在にも未來にも用ふ。
- 10. ilala 陸に i]ala i- 場所を示す接頭辭、比較 ni-ma-
ka-]ala 上陸せり (行) V* [ala Batan ka-i-rana
海岸>ヤミ i]ala. Batan rana 血>ヤミ [ala.
to]ai to<uito と解し to]ai と分けたり。